

平成26年(2014年)度
インターンシップ報告書

茨城大学人文学部

目 次

● 2014 年度インターンシップを終えて	1
● 2014 年度大学院人文科学研究科・人文学部におけるインターンシップ.....	3
● インターンシップレポート集 (第一部)インターンシップ水戸近郊 派遣者一覧	
◆ 水戸市役所	小沼 礼佳..... 15 和田沙也加..... 17 宮本 沙輝..... 19
◆ 日立市役所	石川 智博..... 21 鈴木優美子..... 23 清野七色華..... 25 市毛江理渚..... 27 神賀 翔太..... 29 星野 玲奈..... 31 小林 英貴..... 33 伊藤 翼..... 35 高塩 将紀..... 37
◆ 高萩市役所	作間友梨子..... 39 鳥羽田浩史..... 41
◆ 常陸太田市役所	井上 紗希..... 43
◆ ひたちなか市役所	栗田 佳奈..... 45 小池 加菜..... 47 松尾 直俊..... 49
◆ 那珂市役所	鈴木 達也..... 51 瀧澤 美空..... 53 松本紗生子..... 55 南 陽子..... 57
◆ 東海村役場	渡邊 麻奈..... 59
◆ 笠間市役所	青柳 芽衣..... 61 福島 健太..... 63
◆ 石岡市役所	白田 龍弥..... 65
◆ 鉾田市役所	小野瀬雅輝..... 67
◆ 鹿嶋市役所	君和田耕平..... 69 出頭 優也..... 71
◆ かすみがうら市役所	小野真結香..... 73
◆ 桜川市役所	鈴木 美佳..... 75
◆ 筑西市役所	青木 悠香..... 77
◆ 小美玉市役所	三浦 麻央..... 79
◆ 土浦市役所	上村 和也..... 81 西村 啓汰..... 83
◆ 牛久市役所	福島 香織..... 85
◆ 小山市役所	初谷わかな..... 87

◆常陽藝文センター	川崎 洋美	89
◆茨城町社会福祉協議会	川原井千聖	91
◆アクアワールド茨城県大洗水族館	鈴木智香子	93
◆阿さ川製菓	住谷 美樹	95
	征矢 朋子	97
◆(株)イガラシ綜業	久保田侑希	99
◆(株)アクアクララ水戸	伊坂 志帆	101
	水出 風花	103
◆(株)ケースホールディング	西尾 考広	105
◆(株)フットボールクラブ水戸ホーリーホック		
	江尻 康毅	107
	渡邊 麻奈	109
◆(有)紅茶館	佐川奈津季	111
◆木内酒造合資会社	小岩 優花	113
◆茨城県庁 知事公室 女性青少年課	佐藤 麻里	115
生活環境部 生活文化課(県民運動推進室)		
	石塚 裕晃	117
	(安全なまちづくり推進室)	
	高橋 諒	119
商工労働部 労働政策課	立原 菜摘	121
県警本部 警務課	坂場 静佳	123
保健福祉部 子ども家庭課(少子化対策室)		
	中山 裕貴	125
◆KNT KOREA, INC.	船山 真実	127
	豊原 美海	129
(第二部)インターンシップ広域		
派遣者一覧		
◆茨城新聞社	友部咲季奈	133
	比気 葵	135
	荒木 拓美	137
	菅谷 大河	139
◆茨城放送	貝塚 美加	141
	後藤 美咲	143
◆朝日新聞社水戸総局	大山紗登美	145
◆産経新聞水戸支局	甲 真莉子	147
	埴田 翔仁	149
◆毎日新聞水戸支局	昆 沙織	151
	金子 裕佳	153
◆木楽舎	越智 温子	155
◆ヘレナ・メディア・リサーチ	塚本 功治	157
◆日本放送出版協会(NHK出版)	大山紗登美	159
	小林 裕美	161
◆JICE(日本国際協力センター)	星野由季菜	163
◆JICA筑波	相馬すみれ	165
◆川崎市役所	星 梨花	167

◆水戸プラザホテル	佐藤 早紀	169
◆水戸市国際交流センター	佐々木美加	171
◆BS 放送局 J-スポーツ	埴田 翔仁	173
◆テレビ朝日映像	木幡沙綾子	175
	倉原 隆輔	177
	村松 栞	179
	李 珏	181
◆主婦の友社	今野 有香	183
◆東京サウンドプロダクション	三好由莉子	185
◆A T P タキオンジャパン	荒 大	187
◆静岡市役所	菅 祐希菜	189
◆新朝プレス	松本奈津美	191
◆福島県三春町役場	山口 未来	193
◆テレビ岩手	若狭 茉樹	195
◆(株)京都放送	和田 翔太	197
◆栃木県庁	高須 瞭汰	199
●インターンシップアンケート結果について		201
1) インターンシップ水戸近郊		202
2) インターンシップ広域		208
●インターンシップを通じた人材育成の成果について		213
●派遣先一覧		218
●関係書類		225
●編集後記		

2014年度 インターンシップを終えて

佐川 泰弘 (人文学部長)



2014年度も人文学部および人文科学研究科共通科目「インターンシップ」を無事実施することができた。当学部では2000年度に当授業を開始し、15年目を迎えたことになる。この間、多くの企業、自治体、団体のご協力をいただき、受入先は茨城県内外、さらに海外へ広がり、履修学生も増えてきた。特に今年度は、県内外の地方自治体の受入先が一気に広まったこともあり、93名が履修した。まずは、快く学生を受け入れていただいた関係機関各位に心より御礼を申し上げたい。

人文学部で開講しているインターンシップは、学部共通プログラムの一つ「根力育成プログラム」を構成する授業科目の一つである。2週間で2単位の「インターンシップA」と1週間で1単位の「インターンシップB」からなる。受講生は派遣期間終了後に当報告書に掲載されたレポートを作成するが、派遣先には終了時に評価表の作成もお願いしており、この評価表に記載されたコメントも本報告書に掲載している。これにより、履修の結果身についた能力等の学習成果が、幾分かでも可視化されると思われる。

大学の授業は変化を遂げつつある。座学にとどまらず、社会の現場に出て行き、具体的な課題をアクティブに考えるタイプの授業が増えつつあるが、インターンシップはその最たるものである。教員が通常の授業では教えることがなかなか難しい、各企業や行政機関の果たしている社会的意義、組織内での社員・職員の役割分担と協力関係、

コミュニケーションの重要性等が、1～2週間の体験を通じて学生の中で意識化される場合がほとんどである。このことを後掲した実際の学生の声から抜粋してみよう。

- インターンシップに参加することで「働く」とはどういうことなのか深く向き合うきっかけを作り、その職業のメリット、デメリットを実際に体験することでより現実的に自分の目指すべき道を考えられるようになります。
- 大学で勉強しては決して知ることのない、現場で働いているからこそわかることを聞くことができ本当に良かったと思いました。
- インターンシップでは、学生生活では味わうことのできない集中力や緊張感、さらには社会人としての自覚を持つことや仕事に対する責任感をもつことなど、社会に出るうえで必要なことを学ぶことができます。また、年代の違う方々と関わることで視野も広がり、新たな発見に気づくこともできます。
- 目標の設定や現状の把握、目的達成のために何が必要かなど企画立案に大切なことは日常生活の中でも生かすことができ、日々問題意識を持つことで自身の生活をよりよくしていけることができるのだと教わり、ぜひとも今後の自分の人生に生かしていきたいと感じました。
- わからないことや不安なことは積極的に聞くこと、仕事が円滑に進むために自分が力になれることを考えて自ら行動に移すことは、社会の中

で働く際にとっても重要なことだと思いました。

- 自分が何を考えているのか伝えることの重要性も学びました。このインターンシップ中、周囲を観察し、話をしっかり聞くということを意識していたため、自分の状況や考えを周囲の方々に伝える、というのは私にはない視点でした。
- 進路について2年ほどぼんやり悩んでいましたが、インターンシップの10日間でその2年間よりも確実に前に進みました。それほど、知る・体験するという事は大きな効果が得られると思います。
- 支配人が接客というのは常に対人である。そのため状況を楽しみ、笑顔を忘れないこと、何事にも興味をもつこと、仕事に対して前向きに積極的にしていれば仕事が楽しくてしょうがない、とおっしゃっていました。この言葉はこれからの人生様々な場面に当てはめることができると思いました。
- 自分と同じ目標を持つ学生たちとともに学び、切磋琢磨することで「いまの自分には何が足りないのか」、逆に「自信を持って伸ばしていける部分は何か」ということを客観的に見ることができました。
- 会社全体が「〇〇を多く売る」ということを意識して仕事を行っており、各部署が「個」として働きながらも一本の信念で繋がっているのだということを感じることができました。

ここに挙げたのはほんの一例であるが、学生が当授業の履修を通じて、一定の就業力（社会的職業的な自立を図るために必要な能力）を短期間のうちに一気に身につけていることがわかる。インターンシップを担当する教職員の負担も決して小さくないが、本学部としては教育効果の高い当授業を一人でも多くの学生が履修できるように、今後も努力を続けていきたい。

また、履修生の皆さんには、受入先の協力があったの授業であったことを忘れず、本授業で見て、話して得たことを、これからの学修や人生に大いに生かしていただくよう期待している。



平成26年（2014）4月23日
インターンシップ合同説明会



平成26年（2014）5月28日
インターンシップ（水戸近郊）プレガイダンス



平成26年（2014）12月17日
インターンシップ（広域）報告会

2014年度大学院人文科学研究科・ 人文学部におけるインターンシップ

伏見厚次郎（茨城大学教授）

1. 大学院修士課程人文科学研究科におけるインターンシップ

1.1. 新カリキュラムにおけるインターンシップ

平成21年度から大学院修士課程人文科学研究科は改組され、それまでの4専攻から2専攻（文化科学専攻と地域政策専攻）（地域政策専攻は平成26年度からは社会科学専攻に名称変更）になり、従来コミュニケーション学専攻（平成12年度設置）でのみ履修が可能であったインターンシップは、新カリキュラムのもとでは、キャリア支援系科目の一つとして開講され、両専攻の院生が原則として履修可能になった。院生受入可能な派遣先機関や企業の開拓など、未解決の問題が依然として山積しているが、平成24年度は文化科学専攻の院生2名、平成25年度は地域政策専攻の院生1名、平成26年度は文化科学専攻の院生1名がインターンシップを行った。また平成21年度からの新カリキュラムでは、前述の従来型のインターンシップとは別に、コミュニティーマネージャー養成プログラムと関連した「コミュニティー・インターンシップⅠ（地域連携調査法）」と「コミュニティー・インターンシップⅡ（地域連携調査実習）」が開講され、平成24年度の履修者は2名（「人文社会系サステイナビリティ学系」のプログラムの「国際実践教育演習」の読み替えとして）であった。なお、「コミュニティー・インターンシップⅠ」と「コミュニティー・インターンシップⅡ」は平成25年度からはコミュニティー・インターンシップに統一されたが、これに関しては紙面を別にして報告されることになるであろう。

2. 人文学部におけるインターンシップ

2.1. 新カリキュラムにおけるインターンシップ

平成12年に人文学科（平成13年度からは社会科学科と合同）が、そして平成13年度からはコミュニケーション学科が開始したインターンシップは、平成18年年度からの新カリキュラム導入に応じて、その実施形態を一部変えることになった。すなわち、平成19年度から、人文学部でのインターンシップは、旧カリキュラムが適用される3年次生に対しては、カリキュラムの上では、従来同様、旧人文学科・社会科学科主催のインターンシップと旧コミュニケーション学科主催のインターンシップの二つから成り立ち、シラバスも別々に作成された。しかし、新カリキュラムが適用される2年次生に対しては、2学科共通の授業科目「インターンシップ」が設定され、シラバスも一つにした。しかし、従来のインターンシップはその派遣先地域が異なっていることを考慮して、実施にあたって、インターンシップ「水戸近郊」（従来の人文学科・社会科学科主催のものに相当）とインターンシップ「広域」（従来のコミュニケーション学科主催のものに相当）の二つに分けて実施した。この方式は現在においても踏襲されている。なお、平成12年度から26年度までのインターンシップ参加者総数については表1と表2を参照されたい。

2.2. インターンシップ実施に際して「水戸近郊」と「広域」に分けた理由

インターンシップ「広域」は、その派遣先は全て旧コミュニケーション学科所属教員が開拓したところであり、その大部分が遅くとも5月中に派

表1. 人人+人社主催インターンシップ及びインターンシップ（水戸近郊）参加者数一覧

所属学科	学年	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	総計
		人文学科	人人+人社	人人+人社	人人+人社	人人+人社	人人+人社	人人+人社	水戸近郊	水戸近郊	水戸近郊	水戸近郊	水戸近郊	水戸近郊	水戸近郊	水戸近郊	
人文学科	2年次生	11	2	5	4	4	6	10	2 (人コミ)	9 (人コミ)	6 (人コミ)	3 (人コミ)	6 (人コミ)	0 (人コミ)	5 (人コミ)	6 (人コミ)	152
	3年次生							12	2	3 (人コミ)	5 (人コミ)	5 (人コミ)	8+1 (人コミ)	20 (人コミ)	8 (人コミ)	9 (人コミ)	
社会科学科	2年次生		11	11	19	19	21	10	15	14	11	1+8	10	1	13	14	366
	3年次生							30	24	13	10	22	18	24	18	29	
大学院		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2 (地域政策)	1 (文化科学)	0	0	3
合計		11	13	16	23	23	27	62	43	39	32	39	45	46 ¹⁾	44 ²⁾	58 ³⁾	521

1) 海外インターンシップ2名を含む
 2) 海外インターンシップ1名を含む
 3) 海外インターンシップ2名を含む
 注) 人コミ (=人文コミュニケーション学科)

表2. コミュニケーション学科主催インターンシップ及びインターンシップ（広域）参加者数一覧

学年	所属学科	平成12年度	平成13年度	平成14年度		平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	総計
		学科主催	学科主催	学科主催	その他	学科主催	学科主催	学科主催	学科主催	広域	広域	広域	広域	広域	広域	広域	広域	
2年次生	コミュニケーション学科	0	9	13		17	15	13	16	8 (人コミ)	8 (人コミ)	6 (人コミ)	7 (人コミ)	5 (人コミ)	3 (人コミ)	6 (人コミ)	8 (人コミ)	134
	他学科	0	0	1		0	0	0	0	7 (人 社)	1 (人 社)	2 (人 社)	1 (人 社)	0 (人 社)	4 (人 社)	7 (人 社)	7 (人 社)	30
3年次生	コミュニケーション学科	0	3	7	4	7	7	7	12	9	14 (人コミ)	7 (人コミ)	8 (人コミ)	6 (人コミ)	8 (人コミ) ⁴⁾	10 (人コミ)	14 (人コミ)	123
	他学科	0	1	0		0	0	0	1	0	2 (人 社)	3 (人 社)	2 (人 社)	4 (人 社)	4 (人 社)	6 (人 社)	5 (人 社)	28
大学院	コミュニケーション学専攻	1	2	3		0	1	0	0	2	1	1 (文化科学)	0	2 (文化科学、地域政策各1名)	1 (文化科学)	1 (地域政策)	1 (文化科学)	16
他学部																1 (教育3年)		1
合計		1	15	24	4	24	23	20	29	26	26	19 ¹⁾	18 ²⁾	17 ³⁾	20 ⁵⁾	31 ⁶⁾	35 ⁷⁾	332

1) この他に併外として2名 (人コミ3年1名、人コミ4年1名) 派遣
 2) この他に併外として2名 (人コミ3年2名) 派遣
 3) この他に併外として2名 (人コミ2年1名、人コミ3年1名) 派遣
 4) 交換留学生1名を含む
 5) この他に併外として1名 (人コミ2年1名) 派遣
 6) このうち3名 (人社2年1名、人社3年2名) は自主開拓の派遣先
 7) このうち6名 (人コミ2年1名、人コミ3年1名、人社2年3名、人社3年1名) は自主開拓の派遣先

遣学生の決定を希望している。他方、派遣先の多くを県の経営者協会からのインターンシップ受入企業リスト及び県庁に依存しているインターンシップ「水戸近郊」では、経営者協会並びに県庁からのインターンシップ受入に関する通知が、早くても5月下旬、遅い場合は6月に入ってからである。従って、上記のように2つのグループに分けてインターンシップを実施するのが一番効率的であると思われる。

2.3. 派遣先決定の基準

平成20年度から、平成18年11月15日（水）開催の人文学部教授会で承認された「インターンシップガイドライン」（資料1）に則り、派遣先を

「実施期間を2週間(実質10日間)程度」のインターンシップが実施可能な所に限定した。その結果、特に経営者協会ルートでのインターンシップは大部分この条件を満たしていないことになり、その結果、インターンシップ「水戸近郊」の派遣可能企業数が大幅に減少した。

2.4. 教務上の位置づけ

人文学部の選択科目として、8月～9月に2週間(実質10日間)程度、夏期集中として実施（「水戸近郊」に関しては一部10月並びに1月に実施）し、単位数は2単位である。人文学部所属の2～3年生を対象とする。事前のオリエンテーションを含む各種講義への出席、インターンシップ終了後に受

け入れ先から提出されるインターンシップ評価表、インターンシップ終了後学生が提出するレポート、インターンシップ報告会での発表の内容等を総合的に判断して単位認定を行う。なお、平成24年度からの新カリキュラム導入（学年進行）に合わせて、平成25年度の2年次生からは、1週間程度のインターンシップを提供する機関・企業でのインターンシップでの履修も考慮して、実施期間が「2週間（実質10日間）程度」で2単位の従来型の「インターンシップA」以外に、実施期間が「1週間（実質5日間）程度」の「インターンシップB」も開講した。しかし、インターンシップガイドラインに明示してあるように、あくまでも「2週間（実質10日間）程度」のインターンシップが基本である。

2.5. 実施体制

平成26年度も、インターンシップ委員会が中心になって実施にあたった。すなわち、インターンシップ（水戸近郊）は井澤、高井、馬渡の計3名と、事務担当の人文学部学務係職員（大曾根）で実施した。インターンシップ（広域）は伏見と村上が中心になって実施の任に当たった。

2.6. インターンシップレポートの新フォーマットについて

平成18年度までは、人文学部で2種類のインターンシップ（旧人人+人社主催のインターンシップと旧コミュニケーション学科主催のインターンシップ）が行われ、各々が別々の様式の報告書を作成してきた。しかし、平成18年度からの新カリキュラム導入で、インターンシップも一本化されるに伴い、報告書を合本にし、そのフォーマットも統一する必要がでてきた。このため平成19年度人文コミュニケーション学科と社会科学科の若手教員3名（高野、菅谷、小原）に、これまでの2種類の報告書の様式を参考に、新たなフォーマットの作成を依頼し、その提案を受けて平成19年7月中旬に従来のコミュニケーション学科の報告書の様式を基本的に踏襲することに決定し、平成19年度の報告書からこの様式を使用している。

2.7. インターンシップ評価表（資料5、230ページ参照）

旧コミュニケーション学科主催のインターンシップ並びにその後継であるインターンシップ（広域）ではインターンシップ終了時に、派遣先にインターンシップ評価表の提出を依頼していた。従来は成績評価の際の資料の一つに利用していた。しかし、昨年度の報告書からは、各派遣先から提出された評価表に記載されたコメントの主なものを掲載する。これら派遣先からの生の声を掲載することによって、インターンシップを履修した学生は、インターンシップを通じて如何に成長したと判断されているか、あるいは今後の勉学や就職活動にどのような点に注意を払うべきかを知ることが出来る。

インターンシップ評価表のコメントを報告書に掲載するに至った理由は次の通りである。

平成24年6月5日に文科省から公表された「大学改革実行プラン」に基づき、全国の国立大学法人を対象にして、各専門分野の強みや特色、社会的な役割の把握のため、各専門分野、すなわち各学部の「ミッションの再定義」が行われることになり、平成24年度の「教員養成」、「工学」、「医学」の3分野が、そして平成25年度にはそれ以外の分野について、「ミッションの再定義」が実施されることになった。茨城大学人文学部でも、平成25年度に「ミッションの再定義」が行われることになり、各専門分野の強みや特色を「エビデンス」に基づき提示することが求められた。インターンシップに関しても、実施開始の平成12年度から毎年報告書を作成しているが、そこには専ら派遣学生の一方向的な報告のみで、派遣先からの「生の声」は掲載されておらず、派遣先から学生がどのように評価され、どのような教育的効果が得られたのかという「エビデンス」が欠落していた。そのギャップを埋めるために、昨年度に引き続き、今回も、インターンシップ評価表に記載されている派遣先からのコメントの一部を掲載することにした。

3. インターンシップの実施

3.1. インターンシップ受け入れ実施要領

インターンシップの実施に先立ち、事前に「インターンシップ受け入れ実施要領」の提出を受け入れ先企業・機関にお願いした。参考のために巻末に「インターンシップ受け入れ実施要領」の見本（資料2、227ページ参照）を添付した。具体的には昨年同様以下の内容を含むものである：

- 1) 受け入れ可能人数
- 2) 受け入れ期間
- 3) 勤務時間
- 4) 実習内容（担当窓口、指導者、指導事項）
- 5) 費用負担（手当てなど一切の報酬を支給しないことや、食費は自己負担等を明記）
- 6) 事故・災害の取扱いについて（「インターンシップ・教職資格活動等賠償保険」への強制加入を明記）
- 7) 業務上の守秘義務

3.2. 説明会

3.2.1. インターンシップ合同説明会（平成26年4月23日（水））

新カリキュラム導入によりインターンシップが一本化されたのに伴い、インターンシップ（水戸近郊）とインターンシップ（広域）が各々の説明会を開催するのに先立ち、今年度も、4月末にまずインターンシップ履修希望者を集めての合同説明会を開催することにした。4月23日に開催された合同説明会ではとりわけ以下のことを説明した：

- 1) カリキュラムにおけるインターンシップの位置付け
- 2) 実施時期、実施期間の概要（前年度までの経験を踏まえて、2週間（実質10日間）程度の期間のインターンシップに対してのみ2単位が出される点を強調。）
- 3) 授業計画の概要
- 4) 履修上の注意
- 5) 評価方法
- 6) 条件（無報酬、守秘義務、「インターンシップ・教職資格活動等賠償保険」への加入など）また希望者には昨年度のインターンシップ報告

書を配付した。今年度は人文10番教室で、しかも昼休み時間に行ったこともあり、合同説明会への参加者は、過去最高の299名（2年次生103名、3年次生196名）であった。ちなみに、平成20年度の合同説明会参加者は67名、平成21年度は149名、平成22年度は124名、平成23年度は52名、平成24年度は約200名であった。

これ以降の説明会やガイダンスはインターンシップ（水戸近郊）とインターンシップ（広域）で別々の日程で行われた。以下に簡単にその日程、経緯等を記す。

3.2.2. インターンシップ（水戸近郊）

3.2.2.1. プレガイダンス（平成26年5月28日（水））

本年度近郊ではプログラムを大幅に変更したため、それを説明するためのプレ説明会を実施した。まず配布資料に基づき、募集リストを掲示して派遣希望者を募り、派遣者は提出された書類によって教員が選考・決定すること、報告会は担当者による少数の「ゼミ形式」で行うことなどを説明した。続けて前年度のインターンシップに参加した学生2名に自らの体験を報告してもらった後、木内酒造の中村さま、笠間市役所の石川さまから、インターンシップを受け入れてくださっている立場からの有益なお話を頂いた。そして最後に学生就職支援センターの菊池美也子さまから、インターンシップに参加する際のマナーや注意すべき点についてお話しいただいた。参加した学生138名からは「インターンシップに参加するための心構えや体験者の話が聞けて良かった」との評価を受けた。

3.2.2.2. 派遣者決定ガイダンス（平成26年7月30日（水））

6月から7月にかけて、一般企業、市役所、茨城県庁の順に派遣希望者を募った上で、提出された書類をもとに担当教員による書類選考を数次行った。

受け入れ先との調整を行った後、派遣が決定した学生を集めてガイダンスを行った。その際、派遣期間中の注意点、業務日誌・レポートの書式やレポート添削に関する事、担当者別に行われる報告会などを説明し、「インターンシップ・教職資格活動等賠償保険」への加入の確認を行った。ま

たプレガイドランスと同様、学生就職支援センターの菊池美也子さまを招いて、マナーや気をつけるべき点についてのお話を頂いた。

3.2.3. インターンシップ（広域）

3.2.3.1. 第1回説明会（平成26年5月14日（水））

第1回説明会では、インターンシップ（広域）についての概略（受入先、受入人数、実施時期、実施内容、評価方法、受入条件等）を説明した。その際特に強調したのは、事前に「インターンシップ・教職資格活動等賠償保険」に加入しない限り派遣しないという点であった。また報告会ではパワーポイントを用いた発表を行うことも付け加えた。なお、派遣希望先が特定の機関・企業に偏らないようにするため、5月19日（月）までに派遣先希望アンケートを提出させた。参加者は123名（2年次生84名、3年次生39名）であった。平成20年度は71名、平成21年度は38名、平成22年度は61名、平成23年度は44名、平成24年度は93名、平成25年度は84名であったので、今年度は昨年度より大幅に増加した。

3.2.3.2. 第2回説明会（平成26年5月28日（水））

第2回説明会では、インターンシップ（広域）の確定済の受入先一覧を提示し、派遣候補者決定に至るプロセスについて説明した。さらにインターンシップ（広域）履修志望届けを配付し、履修希望者は6月2日（月）迄に提出するように求めた。また、6月6日（金）迄に派遣候補者を決定する旨を伝えた。参加者は65名（2年次生42名、3年次生22名、大学院生1名）で、過去7年間で最多の人数であった。ちなみに、平成20年度34名、平成21年度29名、平成22年度30名、平成23年度20名、そして平成24年度は29名、そして平成25年度は40名であった。

3.2.3.3. 第1回事前研修会（平成26年6月18日（水））

6月6日（金）までに決定した派遣候補者20名（この時点でまだ幾つかの派遣先に関しては派遣候補者が決まっていなかった。またこの内1名（留学生）は後日履修を取り止めた。）を対象にした第1回事前研修会では、特に、派遣先に提出する書類（履歴書、志望動機）と「インターンシップ・教職

資格活動等賠償保険」の掛金払込証のコピーを所定の封筒に入れて6月24日（火）迄に提出するように求めた。出席者は29名（2年次生14名、3年次生14名、大学院生1名）であった。（これ以外に、インターンシップ水戸近郊の履修希望者8名が間違っってこの事前研修会に参加していた。）

なお、この時点でまだ幾つかの派遣先に関しては希望者がいなかったり募集人数に達していなかったため、6月16日（月）に追加募集の掲示を出し、6月27日（金）を締め切りとした。

3.2.3.4. 第2回事前研修会（平成26年7月23日（水））

第2回事前研修会では、派遣期間中の連絡先（宿泊先を含む）の事前連絡、レポートの提出、報告会への出席などを説明した。さらにメディア文化コースの村上教員に、インターンシップを受けるに際しての心構えや注意事項についてレクチャーしていただいた。なお、レポートのフォーマットとアンケートファイルは7月末にメールで送付すること、これ以降の連絡は主としてメールで行うことを説明した。出席者はこの時点での派遣候補確定者28名（2カ所派遣者2名、派遣先自主開拓者2名を含む）の内24名（2年次生10名、3年次生13名、大学院生1名）（延べ人数だと26名）および派遣先自主開拓者でこの時点でまだ未届者3名（2年次2名、3年次1名）の計27名（延べ人数だと29名）であった。

なお、今年度は最終的に6名が派遣先（静岡市役所、新朝プレス社、福島県三春町役場、テレビ岩手、京都放送、栃木県庁）を自ら見つけてきた。さらに、メディア文化コースの村上教員が、新たに毎日新聞水戸支局等の派遣先を開拓した。

4. インターンシップの実施（平成24年8月初旬～10月初旬）

今年度は、インターンシップ（水戸近郊）で58名（海外でのインターンシップ2名を含む）（人文コミュニケーション学科2年次生6名、3年次生9名、社会科学科2年次生14名、3年次生29名）、インターンシップ（広域）で35名（人文コミュニケーション学科2年次生8名、3年次生14名、社

会科学科2年次生7名、3年次生5名、大学院生1名)の計93名(延人数:3名の学生が2カ所でインターンシップを実施)(平成25年度は75名、平成24年度は67名、平成23年度は64名、平成22年度59名、平成21年度51名、平成20年度は65名、平成19年度は69名)が、それぞれの派遣先でインターンシップを行った。インターンシップ終了後、学生達からはインターンシップのレポートが提出され、派遣先からは「インターンシップ評価表」(資料5)が届けられた。

5. インターンシップ報告会

インターンシップ報告会は、2種類のインターンシップの履修者総数が延べ133名であることを考慮して、今年度も、報告会を別々に行うことにした。

5.1. インターンシップ(水戸近郊)

11月から12月にかけて、担当教員ごとにゼミ形式の報告会が複数回開かれ、参加学生全員が本報告会で自らの体験を披露した。派遣先と仕事内容の紹介、感想および反省を公表し、それに対して担当教員や参加学生から質問をするという形式で行われたが、各人のインターンシップ経験を十分理解できる大変有意義な報告会となった。発表会后、参加者全員レポート最終稿を期日通りに無事提出した。

5.2. インターンシップ(広域)(平成26年12月17日(水)午後4時半~8時半)

インターンシップ(広域)に参加した学生35名(延べ人数)のうち31名(延べ人数)がこの報告会で、以下の要領で自らの体験を披露した:

- 1) 派遣先ごとにグループで発表を行う
- 2) 発表はパワーポイントを使って行う
- 3) 発表時間は派遣先一か所につき、単独の場合は7分、複数人で発表の場合は10分を目処にする。
- 4) 発表に際しては以下の内容を必ず盛り込む
 - ・派遣先の紹介
 - ・仕事等の内容
 - ・感想および反省点

・次年度へのアドバイス

報告会開始前に、報告書掲載用に、発表者の顔写真を撮影した。発表会は長時間に渡ったが、一昨年、昨年の報告会と同様、ほとんどの学生が、最後まで発表を聞いていた。なお、欠席者には事前にパワーポイントファイルを提出するよう伝えた。また発表者からは報告会終了後パワーポイントファイルを提出するように求め、昨年度と同様に今年度も全て提出された。

6. インターンシップ履修と単位

派遣先からのインターンシップ評価表と参加学生から提出されたレポートやインターンシップ日誌などをもとにして、参加学生の成績を最終的に決定した。なお、一昨年度は、インターンシップ(広域)で1名がレポートを提出せず、報告会も無断欠席した。昨年度は、最終的には全員がレポートを提出したが、インターンシップ(水戸近郊)では2名が、インターンシップ(広域)では5名(2名は12月中旬、2名は年末、1名は1月中旬)が提出期限を大幅に遅れて提出した。今年度はインターンシップ(広域)で1名がレポートを提出しなかった。インターンシップ(広域)では延べ6名(実数では4名)が提出期限を大幅に遅れて12月中旬になってようやく提出した。

7. 平成26年度インターンシップの改善点・反省点

来年度以降もインターンシップを継続するために、以下に於いて、これまでの改善された点、及びこれから改善を要する点を記す。まず、以下の点で昨年度までになされた改善が維持された:

1) 報告書作成費について

報告書作成費などインターンシップに関して必要な予算は、予算状況が厳しいにもかかわらず、6月18開催の平成26年度第4回教授会で、報告書作成費として昨年度実績額を、その他の要求(インターンシップ先企業開拓費および資料整理・データ収集等のアルバイト代など)に関しては、昨年同様、ほぼ満額認めていただいた。従って今年度も予算上の問題はなかった。しか

し、来年度以降は、厳しい予算状況は継続するので、紙媒体の報告書を引き続き出すのか、あるいは、紙媒体をやめてPDFファイル化したものをDVD化するのか、あるいは紙媒体は少数の部数に限定して、基本はPDFファイル化したものを元にDVD化するのかの検討が求められると思われる。インターンシップの報告書のみならず、一般的に報告書それ自体を紙媒体で作成するのかの再検討が求められている。

2) インターンシップ担当教員の負担の軽減について

インターンシップ担当教員は、一方において、インターンシップは「授業科目」であるから教務上の負担を負っている。他方、学科共通科目として、その実施体制上、一種の委員会制を採っているため、委員会としての負担もある。このような二重の負担に対して、平成22年度から、インターンシップ担当教員の負担は委員会担当の負担の一部として扱われるようになった。

今年度は以下の点で改善された：

1) 派遣先の多様化について

履修者からのアンケートにもあるように、以前から派遣先の多様化を求める声があった。これにこたえるべく、一昨年度は日本の旅行社の海外支店でのインターンシップが実現され、多様化への第一歩が踏み出された。また今年度はインターンシップ（水戸近郊）では、本学学生就職支援センターのインターンシップコーディネーター及び担当教員の尽力により、地方自治体の派遣先が増加した。しかし、さらなる多様化には学部の教員の更なる実質的協力が不可欠である。昨年度から水戸地区にインターンシップ・コーディネーターが採用されたが、そのさらなる有効活用は今後の課題となろう。

他方、以下のような点で今後更なる検討や改善が不可欠であると思われる：

1) 合同説明会出席者数の近年の大幅増とインターンシップ履修者数の漸増

ここ数年インターンシップ履修者の数の減少

に歯止めがかかっているようである。平成19年度69名（水戸近郊43名、広域26名）、平成20年度65名（水戸近郊39名、広域26名）、平成21年度51名（水戸近郊32名、広域19名）と、水戸近郊、広域共に減少気味であった。しかし、平成22年度は59名（水戸近郊39名、広域20名）、平成23年度は64名（水戸近郊45名、広域19名）、平成24年度は68名（水戸近郊47名、広域21名）、平成25年度は75名（水戸近郊44名、広域31名）、平成26年度は93名（水戸近郊58名、広域35名）で、水戸近郊、広域とも、過去最多の参加人数となった。一方、4月の合同説明会には、平成20年度は67名、平成21年度は149名、平成22年度は124名、平成23年度は52名、昨年度150名以上、今年度は299名と上昇傾向にある。

2) 2単位のインターンシップ以外に1単位のインターンシップの導入について

現行のカリキュラムで開講されている「インターンシップ」は、平成18年11月15日制定の人文学部のインターンシップガイドラインに基づき、就職活動を始める前に、就職に対する心構えや自分が考えている業種に対してのマッチングの有無の確認のための2週間（実質10日間程度）の「教育の一貫としてのインターンシップ」である。（つまり、自分が就職を希望している特定の会社への就活の一環としての事前研修ではない。）ガイドラインの導入以来、本学部でのインターンシップは、原則2週間（実質10日間程度）のインターンシップのみを取り扱っている。しかし、ここ1、2年、当初2週間の予定でのインターンシップが、受け入れ先の事情で1週間に変更されることがあった。このような場合にも履修学生に単位を保証するため、平成24度から学年進行で導入された根力（ねぢから）養成プログラムを含む新カリキュラムでは、実施期間が1週間で1単位のインターンシップも導入する方向で検討してき。そして、平成25年度の2年次生からは、実施期間が「2週間（実質10日間）程度」で2単位の従来型の「インター

ンシップA」以外に、実施期間が「1週間（実質5日間）程度」の「インターンシップB」も開講した。しかし、インターンシップガイドラインに明示してあるように、あくまでも「2週間（実質10日間）程度」のインターンシップが基本である。従って、今年度も、学生の不利益にならないようにするため、1単位のインターンシップを行ったものの、2週間（実質10日間程度）を原則にした。

3) 辞退者頻出の防止とレポート未提出者に対する対応策

一昨年度はインターンシップ開始前の怪我が原因で、インターンシップ（水戸近郊）で3名、インターンシップ（広域）で1名の計4名が、インターンシップを辞退することになった。受入が決まってからの辞退であるので、事前説明会でインターンシップ開始前の自己管理についてより一層指導する必要があるだろう。昨年度は一昨年度とは異なりレポート未提出の学生はいなかったが、既に上で述べたように、インターンシップ（水戸近郊）では2名が、インターンシップ（広域）では5名（2名は12月中旬、2名は年末、1名は1月中旬）が提出期限を大幅に遅れて提出した。特にインターンシップ（広域）では、昨年度は単位に関係ないリピーター（一昨年度に既にインターンシップの単位を取得済みの学生）2名のうち1名は12月中旬に、もう1名は1月中旬になってからの提出であった。今年度はインターンシップ（広域）でレポート未提出者が1名出た。またレポート提出の大幅遅れ（12月中旬）がインターンシップ（広域）の派遣者から4名出た。このうち2名は今年度、単位取得に関係のないリピーターで、昨年度に引き続き同様の事態が発生した。今後はリピーターの取り扱いには注意を要する。次年度のインターンシップ派遣のことを考えると、辞退者防止と同様、事前説明会でのより一層の指導が不可欠となる。

8. 終わりにあたって

平成18年度から、人文学部は3学科体制（人文学科、社会科学科、コミュニケーション学科）から2学科体制（人文コミュニケーション学科、社会科学科）に組織が変更になり、それに伴い、平成19年度から、旧コミュニケーション学科独自のインターンシップと旧人文・人社両学科共同で実施のインターンシップの二つが合併し、学部共通科目「インターンシップ」として開講された。すなわち、従来の二つのインターンシップの長所を生かすべく、「インターンシップ（広域）」（旧コミュニケーション学科のインターンシップ）と「インターンシップ（水戸近郊）」（旧人文学科・社会科学科のインターンシップ）の二つに再編して、人文学部の2年次の学生ならいずれかのインターンシップも履修が可能となった。さらに平成20年度からは、人文学部の2・3年次の学生ならいずれかのインターンシップも履修が可能となった。さらに、平成25年度の2年次生からは、実施期間が「2週間（実質10日間）程度」で2単位の従来型の「インターンシップA」以外に、実施期間が「1週間（実質5日間）程度」の「インターンシップB」も開講した。

このような状況にあって、今年度もインターンシップ委員会を中心としてインターンシップをなんとか実施することが出来た。しかし、インターン実施に当たっては各方面からの協力無くしては不可能であった。まず、我々の無理な注文にもかかわらず早く学生の受入に御協力いただいた多くの公的機関、各種企業に感謝したい。さらに、受入先機関・企業の開拓に尽力していただいた先生方ならびに事務的なサポートをしていただいた人文学部学務係に感謝したい。報告書作成費に関しては人文学部予算委員会並びに学部執行部の配慮に負うところが極めて大きい。インターンシップ（広域）の報告会の写真撮影には人文コミュニケーション学科2年の小野瀬華歩さんと澁谷菜摘さんが協力していただいた。またインターンシップアンケート結果の整理にも小野瀬さんと澁谷さんに協力していただいた。これらの内どれか一つでも

欠ければインターンシップはスムーズに行われなかったにちがいない。この場をかりて心から感謝する次第である。この報告書でのインターンシップ参加学生達の生き生きとした報告は、今年度のインターンシップが如何に実り多きものであったかを示している。

インターンシップ関係の学会や情報サイト等は以下のホームページを参照されたい：

- 日本インターンシップ学会 (The Japan Society of Internship)
<http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsi/>

- 日本インターンシップ推進協会 (JIPC) (旧称：関東地区インターンシップ推進協議会 (KIPC))
<http://www.jipc.or.jp>
(平成23年4月1日現在の加盟大学は29大学だが、このうち国公立大学では、静岡大学と山梨大学の2校のみが加盟している。)
- Hyper-Campus(ハイパーキャンパス)(インターンシップ推進支援事務局)
<http://www.internship-ssc.org>
- 一般社団法人茨城県経営者協会 (特にインターンシップの項目参照)
<http://www.ikk.or.jp>

インターンシップ・レポート集
(第1部)
インターンシップ水戸近郊

平成26(2014)年度 人文学部主催 インターンシップ水戸近郊派遣者一覧

実施先		氏名	学籍番号	学科	学年	実施期間	
水戸市役所	市長公室男女平等参画課	小沼 礼佳	12L2049F	人 社	3	9/17～27	
	保健福祉部介護保険課	和田沙也加	12L2245H	人 社	3	9/5～19	
	産業経済部観光課	宮本 沙輝	12L1156S	人コミ	3	8/25～31	
日立市役所	教育委員会視聴覚センター	石川 智博	12L2017T	人 社	3	8/18～29	
		鈴木優美子	13L2110N	人 社	2	8/18～29	
		清野七色華	13L1104H	人コミ	2	8/18～29	
	総務部人事課	市毛江理渚	12L2024G	人 社	3	8/18～29	
		神賀 翔太	12L2064T	人 社	3	8/18～29	
	総務部総務課	星野 玲奈	12L2216F	人 社	3	8/18～29	
	都市建設部新交通推進課	小林 英貴	13L2077X	人 社	2	8/18～29	
産業経済部観光物産課	伊藤 翼	13L2019N	人 社	2	8/18～29		
高萩市役所	生涯学習課(高萩市立図書館)	高塩 将紀	13L2117R	人 社	2	8/18～29	
	経営戦略部まちづくり観光課	作間友梨子	13L1080Y	人コミ	2	9/2～15	
常陸太田市役所	経済部観光振興課	鳥羽田浩史	12L2170A	人 社	3	9/8～20	
	総務部総務課	井上 紗希	12L2025Y	人 社	3	9/22,24,25	
ひたちなか市役所	経済部観光振興課	栗田 佳奈	12L1054S	人コミ	3	8/22～26	
	教育委員会青少年課	小池 加菜	13L2070T	人 社	2	8/18～23	
	市民生活部スポーツ振興課	松尾 直俊	12L2219H	人 社	3	8/25～29	
那珂市役所	産業部商工観光課	鈴木 達也	12L2131G	人 社	3	8/19～30	
		瀧澤 美空	12L2151N	人 社	3	8/19～30	
	産業部農政課	松本紗生子	12L1154G	人コミ	3	8/18～29	
東海村役場	保健福祉部社会福祉課	南 陽子	13L2198L	人 社	2	8/11～22	
	村民生活部防災原子力安全課	渡邊 麻奈	12L1170R	人コミ	3	8/4～15	
笠間市役所	都市建設部まちづくり推進課	青柳 芽衣	13L1001R	人コミ	2	9/8～19	
		福島 健太	12L2210T	人 社	3	8/25～9/5	
石岡市役所	総務部総務課	白田 龍弥	13L2160S	人 社	2	8/11～13,18～23,25,26	
鉾田市役所	産業経済部産業経済課	小野瀬雅輝	12L2052S	人 社	3	8/18～29	
鹿嶋市役所	企画部企画課	君和田耕平	12L2075F	人 社	3	8/25～29	
	市民協働部まちづくり推進課	出頭 優也	12L2118A	人 社	3	8/25～29	
かすみがうら市役所	総務部ほか複数部署	小野真結香	12L2051Y	人 社	3	9/1～13	
桜川市役所	保健福祉部社会福祉課	鈴木 美佳	13L2107Y	人 社	2	8/18～29	
筑西市役所	福祉部社会福祉課	青木 悠香	13L2002T	人 社	2	8/25～29	
小美玉市役所	企画財政部ほか複数部署	三浦 麻央	13L2196Y	人 社	2	8/25～9/5	
土浦市役所	都市整備部都市計画課	上村 和也	12L2030Y	人 社	3	8/18～29	
	総務部総務課	西村 啓汰	12L2192T	人 社	3	8/18～29	
牛久市役所	保健福祉部社会福祉課	福島 香織	13L1150R	人コミ	2	9/16～30	
小山市役所	教育委員会学校教育課	初谷わかな	12L1129Y	人コミ	3	9/1～5	
常陽市	文 化 セ ン タ ー	川崎 洋美	12L1045T	人コミ	3	8/26～9/2	
茨城町	社会福祉協議会	川原井千聖	13L2054L	人 社	2	8/25～9/5	
アクアワールド茨城県大洗水族館		鈴木智香子	13L1100L	人コミ	2	9/11～15	
阿 さ 川 製 菓		住谷 美樹	12L2135F	人 社	3	9/1～6	
		征矢 朋子	13L2115F	人 社	2	9/8～13	
イ ガ ラ シ 綜 業		久保田侑希	12L2080F	人 社	3	8/19～29	
		伊坂 志帆	13L2013F	人 社	2	9/5～19	
(株) ア ク ア ク ラ ラ 水 戸		水出 風花	12L2222X	人 社	3	8/25～9/5	
		西尾 考広	13L2153G	人 社	2	9/1～14	
(株) フ ッ ト ボ ー ル ク ラ ブ 水 戸 ホ ー リ ー ホ ッ ク		江尻 康毅	12L2033F	人 社	3	8/8～24のうちの5日間	
		渡邊 麻奈	12L1170R	人コミ	3	9/4～23のうちの5日間	
(有) 紅 茶 館		佐川奈津季	12L1067N	人コミ	3	9/8～14	
木 内 酒 造 合 資 会 社		小岩 優花	12L2090T	人 社	3	8/18～22	
		佐藤 麻里	12L2108L	人 社	3	8/18～29	
茨 城 県 庁	知事公室	女性青少年課	佐藤 裕晃	12L2020H	人 社	3	9/16～26
	生活環境部	生活文化課(県民運動推進室)	高橋 諒	12L2148Y	人 社	3	9/8～19
	生活環境部	生活文化課(安全なまちづくり推進室)	立原 菜摘	12L2155L	人 社	3	8/25～9/5
	商工労働部	労働政策課	坂場 静佳	12L2098R	人 社	3	9/9～12
	県警本部	警務部警務課	中山 裕貴	12L2184R	人 社	3	8/25～29
K N T K O R E A		船山 真実	12L1141L	人コミ	3	9/14～28	
		豊原 美海	13L1136S	人コミ	2	9/14～28	

※人コミ(=人文コミュニケーション学科)、人社(=社会科学科)

責任ある行動と、人とのつながり

水戸市役所 市長公室 男女平等参画課

小沼 礼佳（3年）



1. 参加の動機

私がインターンシップに参加した理由は、主に2つあります。1つ目は、興味のある公務員の仕事を間近で見たいから。そして2つ目に、就活に向けて社会勉強を積んでおきたいからということです。私は将来の仕事として公務員を意識していますが、仕事内容が漠然としていたので、公務員の日常を知りたいと思いました。そして、地元である水戸市での就職を考えているため、水戸市役所を志望しました。また、来年には就活があるので、自分にできることやできないことを見つけたり、社会において必要なこと、身に付けておかなければならないことなどを学んだりしていきたいと思っていました。さまざまな経験の中で、社会人としての振る舞いを学びたいという思いと、インターンシップは自分を見つめなおす絶好の機会である事により、今回参加することを決めました。

2. 派遣先の概要

水戸市役所には18の部署があり、その中の市長公室という部署の組織内に男女平等参画課があります。ここでは、男女が性別を気にせず、あらゆる分野でやりたいことに取り組み、力を発揮していくことができる（男女平等参画）社会を目指して活動しています。仕事内容は、男女平等参画推進の企画及び調整、男女平等参画に関する事業の推進、男女平等参画意識の啓発などを行って

ます。実習期間であった9月は水戸市男女平等参画推進月間で、男女平等参画に関する標語の募集や写真コンテストの実施、男女平等参画の取り組みで功績のある個人や団体の表彰、講座や講演会の開催など、さまざまな企画を行っていました。

3. 活動内容

主に11月の講座のチラシ作りと、講演会やシンポジウムのサポートを行いました。他にも、男女平等参画課が発行している情報誌「びよんど」や他の資料を読んで、男女平等参画とは何かを勉強したり、職員の方々の打ち合わせの様子を見学させてもらったりしました。

チラシ作りは、まずデザイン案をノートに下書きして、次にパソコンでワードに打ち込みをしました。過去のチラシを参考に下書きをするうちに、どんどんイメージがふくらみ、逆に困ってしまいましたが、印象に残りやすいデザインや強調すべきポイントなどを意識して作るようにしました。

実習1週目の土曜日に行われた講演会では、会場設営のお手伝いをしました。男女平等参画の社会を目指す取り組みをしている団体の講演会で、講演の前にはその団体の方々と昼食をご一緒させていただきました。女性史の歴史やこれからのことを語る上でとても熟知している方々のお話を聞き、有意義な時間を過ごせました。

実習期間の最終日には、有名な著者の朝井まか

てさんが基調講演講師として招かれる、シンポジウムに参加しました。これが最後の大きな仕事となり、このイベントのために備品のペンキ塗りをしたり、打ち合わせを重ねたりして準備をし、特にシンポジウムの初めに行われる表彰式の際には、市長のサポートをする役割がありました。

4. エピソード

シンポジウムの講演の前に予行練習をしました。一度全体を通して流れを確認し、その後に表彰式のところだけ細かい動きを確認するという予定でした。しかし時間の関係上、表彰者の方への流れの説明のみで終わってしまいました。まだ、表彰式のところで自分の動作のタイミングで疑問に思うことがあったので、予定外のことに焦りましたが、落ち着いてやれば大丈夫だと思い、疑問点を近くの方に聞いて確認してから本番を迎えました。そのため、特に失敗することはありませんことができ、本当に良かったと思います。

また、気遣いが欠けていたと感じる失敗談もあります。職員の方が重い荷物を持って車に近づいたのにもかかわらず、私はすばやく車のドアを開けることができませんでした。普段から周りへの配慮や気遣いを忘れず行うことができているならば、自然とフォローができたと思います。学生生活における言動が、社会人になってからの振る舞いにつながると改めて思い、今から身に付けられることは備えておこうと心に決めました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップは、さまざまな体験の中で学ぶものだと思っていたのですが、自分の作業よりも職員や関わってきた方々を観察している中で、重要な発見をすることが多かったと思います。

実際に社会人が仕事をしている様子を間近で見て、学ぶことや刺激されることが多く、社会で働くことの大変さを痛感しました。初めて職場を訪れた時から、職員の方々はユーモアと暖かい雰囲気ですぐに私を優しく迎えてくれました。同じ空間にいて気づいたことは、そ

れぞれが自分の意見を持っており、意見の共有を図ったり、わからないことや知りたいことをはっきり伝えたりしていたということ。それだけではなく、他の部署や協力団体の方ともとても親しく、一緒に仕事をしていて楽しいというような、良い付き合いをしていると思いました。また、たくさんの人と関わるお仕事なので、密度だけではなく、つながりの広さも感じました。このような付き合いができるのは、社会人として自分の立場をわきまえ、やるべきことをしっかりと行い、周りへの配慮を常に怠らないためであり、責任を持って仕事をしているからこそ、そのつながりが無くならないのだと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

学生のうちに社会経験できるというのは、本当に良い機会です。社会人に囲まれて1日中仕事することに、もちろん不安はあると思います。しかし、派遣先ではインターンシップの学生を受け入れるための準備をしてくれていますし、忙しい中でもしっかりと優しく学生の対応をしてくれます。それなので、私たちは積極的に学ぼうとする姿勢と、最低限のマナーや派遣先の知識を準備しておけば大丈夫です。マナーや知識は、知っている方や経験者から教えてもらうか、ネットで調べればたいい分かります。知らないことばかりと思っても、それほど構えなくてもいいので安心してください。それらも踏まえて学ぶための機会です。ぜひ積極的に参加してみてください。

最後にこの場をお借りして、男女平等参画課の皆様にお礼申し上げます。あっという間でしたが、とても充実した8日間を過ごすことができました。丁寧なご指導ありがとうございました。



作業室にて
チラシのデザイン
を作成中

未熟な自分

水戸市役所 保険福祉部 介護保険課

和田沙也加（3年）



1. 参加の動機

私は就職において、水戸市役所に関心を持つようになりました。しかし私は市役所の業務のことを漠然としか分かっておらず、憧れだけで目指してしまっていていいのかとずっと悩んでいました。また、市役所では多くの女性の方が働いていると知り、職場での女性の働き方について知りたいと思っていました。そして、市役所で働くために必要なのは当然勉強だけではない、では何が必要なのか、今の自分には何が足りないのかを知りたいと思いインターンシップへの参加を希望しました。

2. 派遣先の概要

私が派遣された水戸市役所保健福祉部介護保険課は、それぞれ給付係・保険係・認定係に分かれています。まず給付係は、介護サービスの保険給付に関する業務を行っています。そして保険係は介護保険料の算定・徴収に関する業務を、認定係は要介護及び要支援認定に関する業務を行っています。私はこの3つの係の中で主に給付係にお世話になりました。

3. 活動内容

まず1日目の最初に、介護保険についてと介護保険課の業務について説明して頂きました。そして、10日間のインターンシップにおいて、私は大きく2つの仕事をさせていただきました。1つ目は郵便の仕事です。介護保険課宛に届く郵便を3

つの係にそれぞれ届け、逆に介護保険課から出す郵便を集計し出すといった仕事をさせていただきました。

2つ目は、高額介護サービス費（自己負担が高額になった場合の払戻金）支給のための申請書の作成・郵送・審査を行いました。

インターンシップ後半には実際に介護の現場に連れて行ってくださいました。介護の現場を直接見ることができただけでなく、現場に携わる人のお話を聞くことができ、とても有意義な経験となりました。

4. エピソード

インターンシップ開始時に、係長から「ゆっくりでいいから確実に1つ1つの仕事をしてね」と言われ、最初は1つ1つ先輩方に聞きながら仕事をしていました。しかし数日経つと慣れのせいか、注意力が散漫になり、抜けていることが多くなってしまいました。自分の日頃の姿が出てしまった結果だと思いました。

また、郵便の仕事の際、集計時の計算を間違えてしまい、そのまま郵便を出してしまったことが数度ありました。「大丈夫なはずだ」という油断があったのだと思います。たとえ急いでいるときでも確認を怠らないことが大切だし、そもそもぎりぎりでも急がなくてもいいように余裕をもって行動することが求められるのだと学ぶことができました。

介護の現場に連れて行ってくださった際、最初に介護の現場の方々とは挨拶をしましたが、私はそうした際の社会人としてのマナーが分からず、自己紹介も係長に促されるまですることができませんでした。そして、立ち居振る舞いとお話を聞くことに集中しすぎるあまり、貴重なお話にも関わらずお話の内容をまったくメモしませんでした。訪問が終わり、係長から指摘されるまでまったくそのことに気づくこともできませんでした。

いかに社会人としてのマナーが身につけていないかということに気づかされました。現場においてあたふたしていた自分がとても恥ずかしかったです。

私は介護についての予備知識が全くない状態でインターンシップに臨んでしまいました。指導してくださった職員方はそんな私でも理解できるよう分かりやすく教えてくださいましたが、最低限の知識は頭に入れて臨むべきだったと反省しています。

5. わかったこと、学んだこと

私が派遣された介護保険課には、妊娠している方、小さい子供をもつ方、子供が自立した方といった本当に様々な女性が働いていました。それぞれ多様な働き方をされていたので、これまで私が市役所に対して持っていた、定時に始まり定時間で終わるというイメージが大きく変わりました。

また、お昼休みやちょっとした移動時間に職員方にお話を聞くことができました。直接話さなければ分からないリアルな体験談から、市役所を志望するうえでのアドバイスまで、様々なことを教えてくださいました。私の第一志望が水戸市役所だと言うと、私が志望する部署のことまで親身に相談に乗ってくださり、異動のことなども詳しく教えてくださいました。貴重なお話をたくさん聞くことができました。水戸市役所のことを知れば知るほど、「ここで働きたい」という思いが強くなりました。思いが明確になったことで、これからの試験勉強も頑張れます。

インターンシップを通して、これまで気付か

かった短所や自分の常識のなさを痛感することができました。大学生の今そのことに気付くことができても本当に良かったと思っています。これからの生活の中で少しずつでも変えていきたいです。

そして入庁することができた折には、今よりも成長した姿をお世話になった方々に見せることができるよう日々努力していきます。

6. 後輩へのアドバイス

私は昨年も学部インターンシップに応募しましたが、参加することができませんでした。年々インターンシップの重要性が叫ばれるようになり、志望者も増えています。「まだいいや」と言わず、早くから行動をしたほうがいいでしょう。もし分からないことがあれば積極的に就職支援センターを活用してみましょう。インターンシップの派遣が決定した後でも、服装や髪形など不安なことがあれば相談に行けばいつでも親身になって相談に乗っていただけます。

インターンシップに応募する際は、志望動機をはっきりさせておくことをお勧めします。審査で落とされてしまうからというのがありますが、志望動機をはっきりさせておけば派遣先の人に聞かれても堂々と答えられるからです。

私が昨年応募した時、志望動機はとても漠然としたものでした。もしあのまま運よく派遣が決まっても、派遣先で恥ずかしい思いをしたと思います。まだ自分の進みたい道を決めていない人も、自分がこのインターンシップを通して何を学びたいのか、何を経験して今後の大学生活・就職活動に活かしたいのかをはっきり言えるようにしておくことが大切だと思います。



介護現場訪問にて

インターンシップで得たもの —一人のご縁と気遣いの大切さ—

水戸市役所 産業経済部 観光課

宮本 沙輝（3年）



1. 参加の動機

今回私がインターンシップに参加したのは、市役所職員の仕事の実態を知りたいと思ったからです。私はゼミナールで自分の生まれ育った水戸市の観光、特に特産物のアレンジやアピールについて研究しており、将来的にもそれらに関わった仕事をしたいと考えています。そして故郷である水戸市になにか貢献したいという気持ちから市役所職員を目指すようになりました。そこでこのインターンシップを通して、現在水戸市役所の観光課ではどういった業務をされているのか、またこれから将来の目標を達成するために自分が何をすべきなのかを見つけるためにインターンシップに参加しました。

2. 派遣先の概要

水戸市役所産業経済部観光課は企画物産係と事業係に分かれており、企画物産係では観光振興施策の企画や実施、観光資源の活用、観光土産品の推奨や開発などを行っています。事業係では、観光イベントの実施や水戸観光協会との共同事業、観光の広告宣伝などを行っています。今回私は、どちらの係の仕事も携わらせていただきました。

3. 活動内容

6日間のインターンシップで任された仕事は、デスクワークから外に出る活動までさまざまなものでした。9月に開催される萩まつりのメール

マガジンの作成とPRスライドショーづくりやみとちゃんが参加するイベントにも補助員として参加させていただき、ブログ記事も作成しました。また、9月末に行われる「水戸まちなかフェスティバル」のイベント部会の会議にも出席し、会議の議事録も作成しました。他には、あじさいまつり写真コンテストの展示準備から表彰式までお手伝いさせていただいたり、水戸駅北口近くの東照宮で行われたクラフトビールまつりにもスタッフとして参加しました。

4. エピソード

インターンシップ5日目、イベントに出かける前に少し時間があり、何か手伝えることはありませんか、と職員さんに尋ねたところ、もしできたらということで仕事をひとつ頼まれました。その仕事はWordファイルにExcelの情報を取り込んで資料を作るというものでした。最初から人に聞くのではなく、やり方を調べてまずは取り組んでみようと思気込んで作業を進めていましたが、途中からなかなか作業が進まないの他の職員さんにも方法を聞いて作業を進めていきました。しかし時間も限られていて結局この仕事を終わらせることができませんでした。このことからもっとWordとExcelの使い方を勉強して熟知しておかなくてはと痛感し、私だったらできるかと思って頼んでくださった職員さんのお手伝いができず申し訳なく思いました。

5. わかったこと、学んだこと

私はインターンシップ中、心がけていて良かったと思うことが3つあります。1つは、「誰にでも笑顔であいさつすること」です。このことを意識していたおかげか、他の職員さんもすぐに名前と顔を覚えてくださり、産業経済部の部長や同じ産業経済部の商工課の方々にもたくさん話しかけていただきました。また市役所の外での活動でも気さくに話してくれる方が多くいらっしゃいました。このことは自分を受け入れてもらい、人間関係を円滑にするために重要なことだと学びました。2つ目は、「何か困ったことや疑問があったときは相談をすること」です。一人でトラブルを抱えて事を大きくしてしまうのが一番問題だと思い、このことは常に意識していました。また、せっかくインターンシップに来ているのでこの機会を無駄にはしたくないという思いから、疑問に思ったことはできるだけ聞いてみようという姿勢でいました。実際、インターンシップ中、特にトラブルはなく過ごすことができ、またこの意識をもっていただかげで職員の方々に質問ができて、たくさんのアドバイスをいただくことができました。また3つ目は「視野を広くして気を遣うこと」です。自分の仕事が終わり、時間ができたときは、自分から積極的に職員さんに声をかけ、何かお手伝いできませんか、と気を遣うことを心がけました。よりたくさんの仕事ができ、吸収できることが増えました。6日間を通して、この3つのことはどんな仕事についても大切なことだと分かりました。

前述のとおり、今回私がインターンシップをさせていただいたのは将来目標としている職場のひとつでした。実際の業務内容を知り、今の自分に何が必要で、これからどんな勉強をしていけばいいのかを直接職員さんに聞くことができ、さらに、「再来年市役所で待っています。」という大変光栄なお言葉も観光課の方々からいただくことができました。「いま自分の目標とする職場で、人脈をつくることができた」ということはこのインターンシップで得られた一番大きな収穫だと思います。

6. 後輩へのアドバイス

実は私が今回お世話になった水戸市観光課は元々学務にはインターンシップの募集がきていない課でした。ですが、だめもとで担当の先生・学務の方に「水戸市役所の観光関係の課に行きたい」とお願いしてみたところ、インターンシップができるよう快く手配をしてくださりました。もし私のように自分の興味のある募集先がなければ、まずは担当の先生・学務の方に相談してみることをおすすめします。あきらめる前に、ちょっとしたことでいいので行動することが大切だと思います。

また、私はある程度将来やりたいことが見えている段階でインターンシップに参加することができ、仕事の実態を見たり、観光課の方々を知り合うことができました。この経験を通して漠然としていたイメージが以前より明瞭になり、これからやるべきことがはっきりとしてきました。ですので、興味のある分野の仕事を見つけた方、ある程度自分のやりたいことが見えてきた方にはインターンシップを強くおすすめします。「実際に経験してみる」ということが何よりも大切だと思うからです。実際、インターンシップに参加してみて、「これは経験してみないと分からなかった」と思うことがたくさんありました。その経験を通して、自分に合う合わないを判断し、将来について考えるひとつの手段にするのもいいのではと思います。

最後になりますが、観光課の皆様、本当にお世話になりました。お忙しいにも関わらず、気さくに声をかけてくださり、質問にも快く答えてくださって本当に嬉しかったです。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



クラフトビール祭り インターンシップの担当をしてくださった上原係長と

「公務員」という職種

日立市教育委員会 視聴覚センター

石川 智博（3年）



1. 参加の動機

自分の将来を考えたときに、私は漠然と公務員になりたいと思っていました。しかし、公務員の業務の内容に関しては、「事務的な業務やデスクワーク」という認識しかなく、不明瞭な部分が多々ありました。職種に対する知識もなく、自分の性格や能力に適している職種かどうかもわからないまま公務員を目指すのはどうなのだろうと考え、参加を決意しました。

また、これから社会に出て働いていく上で、自分自身に足りないもの、身につけなくてはいけないことを明瞭にするためにもインターンシップの体験が必要だと思い参加を希望しました。

2. 派遣先の概要

鈴木優美子さんと同様です。詳細はそちらをご覧ください。

3. 活動内容

まず最初に日立市役所に配属されたインターンシップ生全員で日立市の概要説明、日立市役所の組織の説明を受けました。視聴覚センターに配属されてからの業務で1番時間を費やしたのが、視聴覚資料の点検、動作確認、複製などの雑務です。この業務が1番根気を要しました。視聴覚資料の貸出、返却といった窓口業務、施設内での「ひたちシネマ」という映画会の上映、映画の前説もさせていただきました。また、著作権に関する講義

を受け「テレビ学習室」という中学生向けの番組収録にも携わることができました。久慈川日立南交流センターでの映画会の準備、FMひたちの収録見学など館外での業務、体験もさせていただきました。最終日には自分たちで収録した映像を編集していただきDVDをつくってもらいました。10日間の活動で幅広い業務、見学に携わることができました。

4. エピソード

インターンシップでは職員の方から様々なお話を伺うことができました。公務員の業務が多岐にわたることや、公務員試験のアドバイス、公務員の長所短所、体験談など包み隠さず教えてもらうことができました。特に印象に残った話が2つあります。

1つ目は「公務員という職種は常に周囲の人たちに見られる職種である」という話です。この話を聞き、自分の大学の名を背負って行動する際やバイトの勤務中の際に周囲の目に気を配らなくてはならないと改めて感じました。

2つ目は「人とのつながりを大切にする」という話です。様々な人と関わりを持つことは、知識、見識を広げることができ、新たな可能性を与えてくれるのだと思いました。

また、職員の方の窓口での対応も印象的でした。マニュアル通りではなく、お客様によって話し方、説明の仕方などを変える臨機応変な対応は

自分には出来ないことだと思いました。同時にコミュニケーション能力の大切さを痛感しました。

インターンシップ期間中で失敗したと感じたことは、積極性を欠いていたという点です。インターンシップに行く前は、職員の方に様々なことを聞くつもりでいたのに、いざ話してみると受け身に回ってしまうことが多々ありました。その点は、担当の職員の方からも指摘していただいたので、これからの生活では意識して積極性を磨いていこうと思います。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップを通して、公務員という職種に対するイメージが大きく変わりました。自分が配属された部署で体験した業務内容はデスクワークがほとんどなく自分がイメージしていた市役所業務とはかけ離れていました。最終日にほかの部署に配属されたインターンシップ生と報告会を行いました。そこで聞く他の部署の業務内容も多岐にわたっていて驚きました。自分が目指していた職種の業務内容をつかむことができよかったと思います。

最終日に行った映像の編集では、同じ映像なのにBGMやテロップのフォントを変えるだけで視聴者に与える印象は大きく変わるということを学びました。この体験をしたことで、ニュース報道に対する視点が変化し、報道者が視聴者にどういった印象を抱かせたいか、という点を考察するようになりました。普段、人と会話をするときでも表情、言葉遣いで印象は大きく変わってきます。自分の発言、行動が相手にどういった印象を抱かせるのかを考えるきっかけとなりました。今回のインターンシップでは番組の収録、映画会の上映、映像編集などメディア、映像関連の業務を多く行いました。インターンシップに行く前まではさほど興味もなく、その方向への就職も考えていませんでしたが、体験を通し興味を持つことができ、勉強する意欲も湧き、職業選択の幅を広げることができ、自分の新たな可能性を見つけることができました。

6. 後輩へのアドバイス

少しでも興味がある職種がある人、明確に自分の志望する職種が決まっている人も、なりたい職種が思い浮かばない人もインターンシップに参加することをお勧めします。インターンシップは受け入れ先機関の業務内容を体験するだけの場では決してないと思うからです。「職場」というものの雰囲気味わうこともできますし、マナー、言葉遣いなどを確認することもできます。自分のようにいままであまり興味のなかったことに興味を持つことができるかもしれません。何より、多くの人と出会うことができる場でもあります。知り合った方々から伺える体験談は社会に出ていく上で大きな財産になると思います。

インターンシップに参加する際には何よりも積極性が大事だと思います。2週間という期間はとても短く、受動的に過ごしているとあっという間に終わってしまいます。限られた期間を有意義に使い、充実した時間とするためには業務をする際にも職員の方から話を伺う際にも積極性を持つ必要があると思いました。

最後に、この場を借りて、視聴覚センターの皆様にお礼を申し上げます。お忙しい中時間を割いていただきありがとうございました。大学生活の中では体験できないような貴重な体験をさせていただきました。インターンシップで学んだことをこれからの大学生活に活かし、体験が無駄にならないよう努力していきたいと思っています。



「テレビ学習室」の収録

「公務員」として働くこと

日立市教育委員会 視聴覚センター

鈴木優美子（2年）



1. 参加の動機

よく「公務員はイメージする業務内容と実際の業務に差がある」という言葉を耳にします。私は将来公務員を志望する身として、予めインターシップを通して実際の業務内容や職場の雰囲気などの普段なかなか見ることの出来ない部分を体験し、将来の職業選択に役立てたいと考え参加を決めました。

また、視聴覚センターは市役所の職員というよりも司書に近い業務を担当されていることを知り、普段どのような業務をしているのか、司書とは違う公務員ならではの特殊な業務もあるのではないかと興味を抱き、希望させていただきました。

2. 派遣先の概要

私がお世話になった視聴覚センターは教育委員会の下で視聴覚教育の推進を図るために設置されている機関です。主な事業としてはセンター内や市内各所で映画会を開催する映像文化振興事業、郷土関連の映像資料を作成する郷土映像制作事業、映像作品発表の場を提供し市内の映像文化の発展を図るひたち映像祭の開催、教材や機材の利用などに関する研修・講習会等開催事業、指導課と共同で市内の小中学生向けに教材を作成する教育教材制作事業などを行っています。

3. 活動内容

主にセンター内での業務が多く、平日は市民の方や市内の交流センターなどの団体の方に貸出を行なっているビデオやDVDといった教材、機材

の動作確認やそれを並べる棚の整頓、貸出や返却、予約といったカウンター業務を行いました。また、毎週土曜日と日曜日にセンター内で定期的で開催している「ひたちシネマ」という映画会においては上映前の諸注意や映画の見所などを来場者の方に伝える「前説」というお仕事を経験させていただき、J-WAYという市内のケーブルテレビ局で放送されている小中学生向けの「テレビ学習室」という番組制作では音声の収録や説明に使用する図の制作などの撮影補助をさせていただきました。

その他にも地域の交流センターで開かれた映画会の機材搬入と設置を行ったり、来月開催される予定の「ひたちシネマ」のチラシを配布するために市役所の本庁や近隣の交流センターにお邪魔させていただいたり、市内のラジオで宣伝させていただいたり外部での活動も行いました。

4. エピソード

「ひたちシネマ」では自分が生まれる前に制作され公開された「ガス灯」という洋画の説明をすることになり、最初は予備知識が殆どない私が来場者の方に興味を持ってもらえるような説明ができるだろうかという不安と大勢の人の前で話す緊張で胸が一杯でしたが、職員の方々に「背伸びをせず若い人の視点に立った説明で大丈夫」とのお言葉をいただき、自分なりに作品の魅力をお客様に説明することができたかなと思います。

「テレビ学習室」での番組制作では本格的な撮影

が行われ、私は撮影補助として集音用の長いマイクを初めて持ったのですが、想像していた以上に重くこれを何時間と持ち続けるプロの方々は大変苦勞しているのだらうなと感じました。また数学の番組の撮影だったため、説明用の動画を撮るために角の二等分線や垂直二等分線などの作図を行いました。その際にコンパスの使い方や線の引き方など細かいところまで「手元を見せる」ことに拘る必要があり、紙をずらしてしまったり線がずれてしまったりして撮り直しをしなければならぬことが何回もあり自分の不器用さを痛感しました。それと同時に子供を対象とする非営利の番組ながら教育委員会の方、教員の方、職員の方が一丸となって学生が数学をより理解しやすくするためにはどうしたらよいのかという考えを随時抱きながら撮影に真摯に向き合っていることも学び取ることができました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップに参加する以前の私は、公務員はデスクワークが多く課毎に決められた一定の仕事があり、個人毎に黙々と作業をするのだらうと思っていました。しかしながら他の課や機関と連携しながら業務を行っていること、イベントの予告や機材設置のために外部での活動も頻繁に行っていること、業務内容は多岐にわたり映像にまつわることであれば震災、郷土史、教育などさまざまな映像制作を担当することもあることをインターンシップによって知ることが出来ました。また職員の方々はとても優しく、不明なことやお客様から質問を受けて困ったことがある時には何度も助けていただき、失敗をしてしまった時には励ましてくださいました。仕事を円滑に進める上でこのような助け合いも重要な役割を担っているとも感じました。

そして、業務のあいだを縫って職員の方が以前働いていた課の話や公務員の大変さ、やりがいなどのためになるお話や映像制作に関する裏話などをお聞きし、実際に映像制作を体験させていただきました。職員の方々の普段なかなか聞くことのできない貴重な体験談を聞いて就業意欲が高まる

とともに、映像制作と著作権には深い関係があるというお話を聞いて自分の身近なところで様々な権利関係が発生していることを再認識し、これからより詳しく著作権法や知識財産法を学びたいと強く感じるようになりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに興味はあるものの就職活動はまだまだ先のことで参加を迷っている、将来どんな職業に就きたいかぼんやりとしか決まっていなかったが興味があるという方がいらっしゃいましたら参加を強くお勧めします。現に私がそうだったのですが、インターンシップに参加することで「働く」とはどういうことなのか深く向き合うきっかけを作り、その職業のメリット、デメリットを実際に体験することでより現実的に自分の目指すべき道を考えられるようになります。また、アルバイトをしている方であれば正社員として働くこととアルバイトの学生として働くこととの違いも身をもって体感することができるかと思います。

長々と書いて参りましたが正直ここに書ききれない程自分が見て聞いてえたものは多かったように思います。大学の夏休みという期間を利用し、このような素晴らしい経験ができたことは自分の中で大きな糧になるのではないかと考えています。是非一人でも多くの方にインターンシップに参加していただき、参加する以前と以降での自身の変化を体験していただきたいです。

最後になりましたが視聴覚センターの皆様にはお忙しいなか貴重な体験をさせていただき、心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。



テレビ学習室での作図の様子

窓口業務はほんの一部分に過ぎない

日立市教育委員会 視聴覚センター

清野七色華（2年）



1. 参加の動機

以前から私は大学卒業後地元福島県に戻り、公務員になることを希望していました。その中でも特に、子どもたちの生活環境改善に携われそうな教育・児童福祉関係の課、もしくは震災復興を管轄する課で働きたいと考えていました。しかし、実際にどんな業務をしているのか、自分がしたいことはどの課が担当しているのかといったことについて何一つ無知な状態でした。そんなときに偶然シラバスでインターンシップの存在を知り、参加を決定しました。数ある候補地の中私は、地元いわき市と同じく震災で罹災した都市であり、教育に関わる業務を行っている教育視聴覚センターでのインターンシップを希望しました。

2. 派遣先の概要

派遣先概要は、同じく視聴覚センターへ行った鈴木さんのものを参考にしてください。

3. 活動内容

1日目は日立市役所に派遣された人全員でガイダンスを行い、午後から実際に現地で実習を開始しました。活動内容は一般的なものと特殊なものがあります。

一般的なものでは、前述の派遣先概要からも想像しやすいように、機材やDVD等の貸し出しを行う窓口業務、返却された機材の点検、DVDとVHSの動作点検と、掃除を行いました。他にも、

市内の小中学校に配布するDVDのコピー作業を行ったりもしました。

特殊なものでは、土日に行う映画上映会の準備と映画の前説を行ったり、教育番組の収録を体験させて頂いたり、撮影した動画を編集する作業の見学、ラジオでの宣伝の見学などもさせて頂きました。

4. エピソード

1つ目は土日に行われた『日立シネマ』での一幕です。この時は職員の方とインターンシップ生3人でチラシの配布をしていました。その時に、『日立シネマ』に映画を見に来た市民の方から、そんなに人数はいらないだろう、強めの口調で指摘されてしまいました。この指摘をされたのち情けないことに私は落ち込んでしまいました。その後の業務には支障をきたさなかったものの、この程度で落ち込む自身のメンタルの弱さを痛感しました。

2つ目は、窓口でのお客様からの問い合わせについてです。これは自分が体験した話ではなく、職員の方が対応していた様子を見ていたものです。機会の貸し出しを行う際に、視聴覚センターではいくつかの規則を設けて貸し出しを行っています。その規則についてかなり細かい指摘をなさる方がいらっしゃいました。この時、ここの補佐である渡辺さんが質問一つ一つに対して、著作権、条例、その他複数の規則や法律を持ち出し、

論理的にすべての質問に答えていらっしやいました。最終的にはお客様も納得して帰られました。あれ程細かい質問に全て回答できる渡辺さんの知識の多さには、非常に驚きました。

以上の事例から私は公務員になるためには、こうした指摘に負けない精神力と、どのような掘り下げた話にも対応できるような幅広い知識が必要なのだと深く思いました。また最後に蛇足ですが、インターンシップの5日目頃私は電車で眠ってしまい危うく乗り過ごしそうになりました。幸い電車が日立駅で5分ほど停車しており、遅刻は免れました。皆さんはこういったことがないように、きちんと睡眠をとった上でインターンシップに臨むようにしてください。

5. わかったこと、学んだこと

土日休みは当たり前、クリエイティブなことはせずマニュアルに沿った仕事をするだけ、窓口業務と書類の整理ばかりしている、何となくお堅い雰囲気がある。市役所の仕事と聞くと、以上のようなイメージを持つ方が大多数だと思われます。実際、インターンシップに行くまでは私もそういった印象ばかり持っていました。もちろん、窓口業務や書類の整理も行います。しかし、そればかりが市役所の仕事ではありません。むしろ、視聴覚センターはそういったイメージをすべて覆すようなところでした。

まず、視聴覚センターでは他の課と異なり、親しみやすさを重視していました。そのため、服装も特に女性は非常にラフで、職場全体の雰囲気も非常に親しみやすい所でした。そのため私は、初日からあまり緊張せずにインターンシップを行えました。

次に意外とクリエイティブであるという点です。視聴覚センターでは、ある教育番組の企画・制作・編集を全て自分たちで行っています。その他にも、市に依頼された映像を作成したり、シビックセンター最上階にある天球劇場で流れる映像を制作したりもしています。公務員に対してこのような業務を行うイメージがなかったため、非

常に驚かされました。

この業務のほかにも、何度か著作権に関する講座も聞かせていただきました。その話を聞くと、普段何気なく著作物を扱う際にしている行動が、実は法律違反であることが多く、注意を払う必要があると思いました。

以上のような業務内で学んだことの他にも、作業中などにお聞きした市役所での体験談もたくさんうかがうことができました。昔の市役所試験がどのようなものか、公務員は決して楽な仕事ではないということ、実際に公務員となる人から感じる印象がどんなものかなど、非常に興味深い内容ばかりでした。実際業務を体験したり、本や記事では聞くことのできない生きた話を聞いたりすることで、より自分が将来公務員になり、アクティブに働く自分の姿を描くことができました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに興味があるが、参加を躊躇している皆さん、自分の将来のためにも、頑張ってインターンシップに参加してみてください。

また、私が行った視聴覚センターでは、映画について詳しい方が多かったり、実際に映像作品の制作を行ったりもしています。そのため将来公務員志望ではなくても、現在メディア関係の学科にいる方、映画が好きな方は広域でのインターンの他に、視聴覚センターでインターンシップを視野に入れることもおすすめします。最後に、今回インターンシップに協力して下さった教育視聴覚センターの皆様と、日立市役所の職員の皆様、この度は貴重な経験をさせていただきまして本当にありがとうございました。今回の経験を糧に公務員試験の勉強を頑張っていきます。



番組作成中の様子

職員を支えるお仕事

日立市役所 総務部 人事課

市毛江理渚（3年）



1. 参加の動機

私は、昨年に引き続き2年目の参加でした。昨年は、公務員志望のためインターンシップに参加しましたが、今年は他の企業も調べていくうちに職業選択に迷いが出てしまい、今回参加することで改めて公務員か民間企業かはっきり決断しようと思い、参加しました。また、私自身日立市出身ということで愛着があり、自分の住んでいる街がどのように運営されているのか知りたいと思い、日立市役所を選ばせていただきました。さまざまな業務を体験し、公務員という職業について深く理解することで、公務員になりたいという思いが以前より強くなりました。

2. 派遣先の概要

今回私がお世話になった総務部人事課には3つの係があります。職員に対しての研修や会場の設営を行う研修係と、職員の福利厚生に関する業務を行う厚生係、そして職員の人事や給与についての業務を行う人事係です。人事課は、市役所で働く職員を支えている課です。

3. 活動内容

期間中は、研修係・厚生係・人事係の3つの係の業務を体験させていただきました。研修係では、会場の設営や実際に市政セミナーに参加させていただき、市役所の組織や内部の細かい部分まで知ることができました。

厚生係では、食堂の利用者が減少しているということで、利用促進について考え、自分が実際に利用し感じたことを意見しました。具体的には食堂の雰囲気や価格、メニューの内容や種類について意見し、改善点としてコストの削減やPR方法、ターゲットを絞ったメニュー、目安箱の設置などを挙げました。メニュー表のレイアウトについては自分で作成し、それを元に提案させていただきました。自分の考えを積極的に発言することができた上に、職員の方からフィードバックも受け、実際に社会人として働いているような体験ができ、とても良い経験になりました。

人事係では、来年度の職員採用案内のパンフレット作りや退職者の書類整理、データ入力など幅広い業務をさせていただきました。デスクワークがほとんどではありましたが、その中でも自分で一から考えてものを作っていくという作業をさせていただき、とても勉強になりました。

4. エピソード

私が一番印象に残っているのは、職員採用案内パンフレットに「先輩職員の声」を載せるため、新採用職員の方にインタビューさせていただいたことです。詳しい業務内容や1日のスケジュール、職場の雰囲気や仕事のやりがいなど、日立市役所に就職するうえで知っておきたいこと、気になることを学生目線でインタビューさせていただき、とてもためになるお話を伺うことができました。

また、民間企業から転職した方のお話を伺うこともでき、公務員か民間企業か迷っている私には、職業選択の参考になりました。

5. わかったこと、学んだこと

私が去年お世話になった課は商工振興課という、町へ出歩き市民と関わる人が多い課だったのですが、今年は人事課ということで主にデスクワークが多く、ほぼ真逆といっていいほどの業務でした。その2つの課を体験し、さまざまな種類の業務があることを知ることで、公務員という職業に対しての理解を深めることができました。

私が人事課でインターンシップをする以前まで思い描いていた公務員という仕事は、市民の方と関わるのがほとんどだと思っていました。しかし、人事課は市民の方と関わる機会はあまりなく、イメージとは少し違っていました。私は、接客関係のアルバイトをしていて、人と関わることに楽しさややりがいを感じていましたが、直接市民の方と関わるのではなく、市民の方と関わっている職員を支えているというお話を聞き、いわば縁の下の力持ちという、なくてはならない存在であることを知りました。陰で動いている人がいるからこそ、職員の方が気持ちよく働くことができ、市民の方と円滑な関係が築ける、職員の方が安心して生活できる、ということを改めて実感し、とてもやりがいのあるお仕事だと感じました。

また、市役所内の異動には、幅広い業務を体験できるという楽しさだけでなく、一から新しいこ

とを始めるという意味では、知識や経験を増やすことができるので、自分自身を成長させることができるのではないかと思います。

6. 後輩へのアドバイス

迷いや不安もあると思いますが、とにかくインターンシップに参加してみることをお勧めします。インターンシップでは、学生生活では味わうことのできない集中力や緊張感、さらには社会人としての自覚を持つことや仕事に対する責任感をもつことなど、社会に出るうえで必要なことを学ぶことができます。また、年代の違う方々と関わることで視野も広がり、新たな発見に気づくことも出来ます。同時に、自分の未熟さを痛感し、自分自身を見つめ直す良い機会となるので、さらなる向上心にもつながります。実際に経験してみることで、「働く」ということに具体的なイメージが湧き、職業選択にも幅が広がります。職場の雰囲気や、働いている方の仕事への思いなどを実際に肌で感じるができるのは、とても貴重な経験だと思います。早いうちから行動し、多くの経験を積むことで、自信にも繋がります。将来自分のやりたいことが決まっている人はもちろん、決まっていない人も良い経験だと思って積極的に参加してみることをお勧めします。

最後になりましたが、今回お忙しい中ご丁寧なご指導をくださった職員の方々には、改めて感謝申し上げます。2週間本当にありがとうございました。



新採用職員の方にインタビュー



職場の方々と記念撮影

陰で支える

日立市役所 総務部 人事課

神賀 翔太（3年）



1. 参加の動機

大学3年になり、就職について否が応でも考えなければならない時期になりました。私は、以前から「なんとなく」公務員を志望していました。しかし、職業選択という人生においても1、2を争う重要な選択を、こんなにも簡単に決めてはいけない、もっと思案する必要があると思い立ち、参加を決めました。また、これから社会に出ていく上で必要になってくる、自分の強みと足りないスキルについて認識する良い機会になると思ったことも参加の動機の一つです。

2. 派遣先の概要

同じく日立市役所総務部人事課に派遣された、市毛江理渚さんの報告書を参照してください。

3. 活動内容

主な活動内容として、2週間を通して行ったのが職員採用パンフレット作りです。採用パンフレットは、採用試験の受験者を増加させるために、何もないゼロの状態から作り上げました。その過程の中で、平成26年度入所の新任職員の方にインタビューをする機会がありました。このような機会は、インターンシップに参加しなければ経験できないことなので、貴重な時間だったと感じています。その他の活動は、パンフレット作りの合間に、退職者名簿の整理などの事務作業や職員の研修会場の準備、食堂の利用促進方法の検討を

行いました。

4. エピソード

インターンシップに参加すると意気揚々に決めたまではよかったのですが、いざ初日が近づいてくると不安や緊張からか、億劫な気持ちになっていました。しかし、人事課の方々をはじめとする市役所職員の方々が、とても優しく接していただき、徐々に打ち解けていくことができました。充実したインターンシップを送ることができた一方で、苦勞したこともあります。私は、印象に残る自己紹介やオチのある話といったものが苦手だったのですが、今回のインターンシップでは、初日の自己紹介は当然として、朝礼時の一言や暑気払いの席での自己紹介など、苦手分野をさらけ出さなければならない状況が多々ありました。私の拙い話でも笑ってくれたのは人事課の方々の優しさからだと思います。このようになんとか乗り切ったものの、今後のために、ちょっとした特技やすべらない話の一つや二つは持っておくべきだなと感じました。また、夏休みに入って弛んだ生活を送っていた影響で、インターンシップの序盤は毎朝起きるのに苦勞しました。数日前から生活リズムを見つめ直し、体を慣らしておけばと激しく後悔しました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップを通して、市役所の仕事につ

いて大まかではありますが知ることができ、参加の目的は達成できたと思います。私は、昨年度のインターンシップ報告書などを読み、公務員の仕事はお堅い事務作業だけでなく多岐にわたるということは事前から知っていました。今回人事課で行った仕事にも、データ入力などの事務作業だけでなく、パンフレット作成というクリエイティブな仕事もありました。以前の私は、「恐らく自分に事務作業は向いていないだろう。ずっとデスクに向かっていたらおかしくなってしまうはずだ。」といった評価を自分に下していました。しかし実際に仕事をしてみると、驚いたことに事務作業はそれほど苦ではありませんでした。いままで知りえなかった自分の一面を知ることができ、良い機会になったと思います。

また、公務員に限らず、社会人として働く上で必要なことを学ぶことができました。学んだことは数多くありますが、臨機応変に仕事をするということ、仕事に対するモチベーションの保ち方の二つが特に印象深いです。人事課の職員の方々の仕事の様子を見てみると、他の部署から電話がかかってきた際に、いままで行っていた作業を中断して別の作業に移るといったことが多々ありました。組織として動いている以上、常に自分のペースで仕事ができるとは限りません。1つの課でも様々な仕事があり、柔軟な対応が求められているのだと感じました。2つ目の仕事に対するモチベーションの保ち方は、その仕事が誰の利益につながるか意識して仕事をするということです。市役所の仕事は勿論市民のために行われますが、人事課の仕事は職員に対して行うものばかりで、一見市民に利益をもたらしていないのではないかと思います。ですが、直接市民に利益をもたらす職員を陰で支えていると考えることもできます。まさに縁の下の力持ちです。人事課の仕事は、間接的に市民の利益につながっているのです。このように、自分の仕事为谁の役に立っているか意識して仕事を行うことが、モチベーションを保つ1つの方法であると学ぶことができました。

6. 後輩へのアドバイス

時間のある人は、インターンシップに参加することを強くお勧めします。それは、普段の学校生活やアルバイトでは味わえないことを経験できますし、社会人の方と接することができる貴重な機会だからです。確かに、貴重な夏休みが減ってしまうこと、レポートや報告会の存在等、面倒くさく感じてしまうかもしれませんが、それを考慮しても参加するだけの価値があると思いますし、実際にありました。次に、インターンシップ参加を決めた方に対してのアドバイスとして、二点述べたいと思います。1点目は、インターンシップ中は積極的に質問するということです。些細なことでも職員の方々は質問に対して親身になって答えてくださいます。仕事内容についてだけでなく、邪魔にならない範囲で進路について相談してみるのもいいと思います。2点目は、インターンシップの経験を風化させないということです。これは個人の主観ですが、インターンシップに参加すると就職に対するモチベーションが高まります。これが冷めないうちに、試験勉強に励んだり、自分に足りないと感じたスキルを得るための努力を始めることで、インターンシップの効果を最大化できると思います。

最後になりますが、お忙しい中インターンシップを受け入れてくださった日立市役所の皆様へ心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



インタビュー後に記念撮影

社会で働く上で大切なこと

日立市役所 総務部 総務課

星野 玲奈（3年）



1. 参加の動機

私は現在3年生となり今後の進路について考え始めました。そこで、公務員と民間企業のどちらに就職したいかという迷いが出てきました。インターンシップを通してその迷いが解決できればいいなと思い今回参加しました。また、日立市は私が20年間ずっと住んでいる街ですが、市役所の仕事が分かりませんでした。そのため、具体的な業務を実際に体験して知りたいと思い、日立市役所を希望しました。

2. 派遣先の概要

小林英貴さんの報告書を参照。

3. 活動内容

今回、私は主に庶務統計系の業務を行いました。様々な伝票の整理やパソコンでの入力作業、選挙人名簿の綴り込みなどの事務作業を体験させていただきました。市役所の仕事は「文書に始まり、文書に終わる」と言われています。物品の購入・支払いや問題の処理方法など様々な伝票や文書を整理する業務を通して、その意味を感じることができ、日常業務には常にさまざまな文書の作成がついてまわることが分かりました。

さらに、教育プラザという公共施設で統計図表展の準備・撤去をしたり、選挙の投票所確認のため日立市内の交流センターに訪れたりなど、市役所の外に出る業務も経験させていただきました。

その中で私は、統計図表展の準備・撤去の業務が心に残っています。統計図表展とは、小中学生が作成した統計グラフの優秀作品の展示会です。私は、出品している作品の名簿を作成し、会場準備を行いました。これらの全ては小中学校の先生と連携しながら行う必要がありました。名簿の作品名や学年に間違いはないか、一つ一つ確認しながら作業しなければなりません。どの職場でも他の人や部と連携して仕事をすることは多いと思いますが、改めて社会において連携することの大切さがわかりました。また、今回はそれが地域との連携でもあるので、公務員ならではの仕事だと感じました。

4. エピソード

今回のインターンシップでは、市役所の総合案内所の業務を体験させていただきましたが、この業務は本来、総務課が統括しているだけであって総務課の職員の仕事ではないため貴重な体験でした。そのおかげで市民の方と直接関わることができました。その中で、少し足の不自由な高齢者の方が「市民課の窓口の場所はどこですか」とタクシーで総合案内所に訪れてきて、私が庁舎の地図を利用して口頭で場所を説明するという場面がありました。私は場所をただ説明するだけで終わってしまったのですが、案内所の職員の方はサッと公用車を手配していました。総合案内所から市民課の窓口までは、距離があり、急な坂道となって

いたため、その高齢者の方にとっては歩くのが困難な道のりでした。私は場所を案内することに精一杯でそのことに気づけず、ただ案内するだけではなく、市民の方の状況や気持ちを汲み取ることが大切なのだと感じました。また、社会に出る際には「幅広い視野と目配り・気配り」が基本であり、どの職種であっても1番大事なことだと教えていただきました。私も幅広い視野が持てるように、普段の生活から意識してみたいと思います。

5. わかったこと、学んだこと

私はこれまで、公務員の仕事はデスクワークの事務作業しかないというイメージでした。しかし、この10日間という短い間でも選挙投票所確認や展示会の準備・撤去、南部支所での会議など市役所の外に出る機会が多くありました。庁舎内のポスターの貼り替えなど、体力を使う業務もありました。職員の方に作業着は必須のアイテムだということを知り驚きました。このような公務員の業務の新しい一面は、今回のインターンシップで初めて知ることができました。今までのイメージとは良い意味でギャップがありました。

また、日立市役所では定期的に人事異動があるとの話をお聞きしました。2、3年に1回は他の課や部に異動があり、それまでとは全く業務の異なる課への移動も多くあるとのことでした。私は、同じ所で長く勤務した方が、その仕事の熟練となり作業効率も上がるためメリットがあると思いました。ところが、職員の方は長く同じ業務では市役所全体を捉えることができないと異動の理由を話してくれました。全ての部署が上手く連携し、市役所という一つの組織が成り立っていることがわかりました。また、異動する度に新しいことを一から勉強しなければならないと聞いて大変だと感じました。しかし、大変ではあるけれど同じ組織の中で様々な幅広い業務をできること、様々な知識が身につくことが仕事の楽しみの一つでもあると思い、魅力のある仕事だと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは、仕事の具体的な内容を知れると共に、「自分の未熟さ」や「職場の雰囲気」も知ることができます。

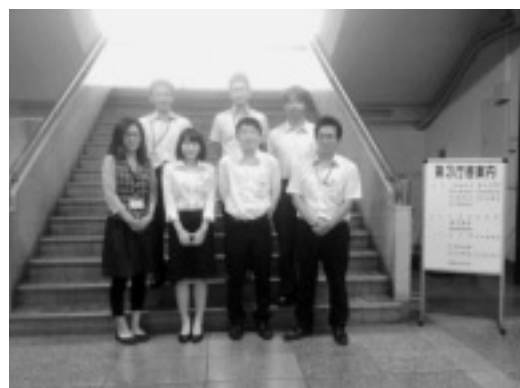
私より1つ年上の方が居ましたが、私より遥かに大人でしっかりしていました。そこで自分の未熟さや欠点を感じました。しかし、現段階で気づけたので就職活動の前に克服していくことが可能となりました。また、職員の方は明るい方が多く、職場も明るい雰囲気でした。その環境で実際に働いている方から公務員試験についてなどの貴重な生の声を聞くことができ、今後に役立つものが多くありました。

インターンシップは自分を成長させることができる機会だと思うので、積極的に参加してみてください。

最後になりましたが、日立市役所の職員の皆様には大変お世話になりました。お忙しい中、丁寧なご指導をいただき心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



総合案内所での業務の様子



総務課の皆様と

働く「現場」を知る

日立市役所 総務部 総務課

小林 英貴（2年）



1. 参加の動機

私は将来、漠然とではありますが公務員になりたいと考えています。特に私は地元である日立市役所を志望しており、将来自分が働きたい職場のことを知る良い機会だと思い参加しました。また、普段接することができない公務員の業務内容や職場の雰囲気などを、実際に体験したかったというのも理由の1つです。

2. 派遣先の概要

私が今回お世話になりました日立市役所総務部総務課は、庶務統計係・文書法制係・車両係の三つの係に分かれています。まず庶務統計係では、主に選挙・統計・庁舎管理について業務を行っています。また文書法制係では、文書・条例の審査や、日立市議会で使用される議案の調整・提出などを行っています。そして車両係では、主に日立市役所の公用車の管理を行っています。

3. 活動内容

私は三つの係の中で、主に庶務統計系の業務を体験させていただきました。業務内容としては、各書類の整理や確認・訂正などのデスクワークを多く行わせていただきました。具体的には、市内の事業所の情報が記載されている書類の確認・訂正や、選挙関連の書類の仕分け、備品購入の際の伝票の作成などを行いました。デスクワークでは、個人情報を含むさまざまな情報を見ながら作

業することが多く、仕事をするということの責任の重さを強く感じました。

デスクワークのほかには、インターンシップ期間中に実施された「統計図表展」の準備・後片づけを、日立市教育プラザで市内各小中学校の教員の方々と協力して作業しました。また、選挙に関することで市内の小学校や支所・交流センターへ同行させていただき、実際にそこで行われた話し合いにも参加させていただきました。私はインターンシップ前までは、デスクワークが総務課の業務だというイメージしか持っていませんでしたが、実際に現場に行き作業をしたことで、他の機関と協働して事業を行うことも多いのだと感じました。

そのほかにも、案内所での来庁者の方への対応や、庁舎管理に関するさまざまな雑務を行わせていただきました。庁舎管理に関する雑務には、ポスターの貼り替えや、庁舎で何か問題が起こった時にその場所に行き対応することがあり、総務課の業務は多岐に亘るという印象を受けました。

4. エピソード

インターンシップでは具体的な業務だけでなく、職員の方たちからさまざまなお話をうかがうことができました。そのなかでも特に私の心に残ったことがあります。

1つ目は、なぜ職員の方が日立市役所で働いているのかというと、「日立が好きだ」という思いが

強いからであるという話です。自分の好きなまちだからこそ、少しでも良くしたいという気持ちが生まれ、長く働き続けられているとお聞きして、市役所職員になるためには、まずそのまちを知り好きになることが大切だと感じました。私は地元の日立市のことをある程度知っているつもりでしたが、案内所や支所の方たちから日立市について初めてお聞きすることが大変多く、地元でありながら日立市について全然知らなかったのだと気づきました。

2つ目は、自助・互助・共助でできないことを公助＝市役所が行うという「補完性の原理」の必要性についてのお話です。私はこれまで市民の方を全体的にサポートすることが市役所の仕事だと思っていました。しかしながら「補完性の原理」のもとでは、限られた予算と時間の中で全体的にサポートするのではなく、本当に困っている人たちを集中的にサポートすることが必要であり、そのような働く現場の考え方をうかがうことができたことは私にとって大きな収穫となりました。

そのほかにも、総務課は市役所の縁の下の力持ちのような役割があり、課と課を繋ぐ総務課が機能すれば市役所全体も機能するという話など、さまざまなお話をうかがうことができました。

5. わかったこと、学んだこと

私はいままで公務員というと、デスクワークが中心という漠然とした印象しか持っていませんでした。しかし今回のインターンシップを終えて、市役所の業務は課所や係によって大きく異なっており、とても一言で言い表せないとわかりました。

また、他の機関でも知りえた情報に関して守秘義務がありますが、特に市役所において情報管理は非常に重要だとわかりました。他人に知られたくない個人情報や事業所情報がかかれている書類を扱うことが多いため、その情報の扱い方には慎重さが求められているということを実感しました。

今回インターンシップで私はさまざまな書類のチェックを行わせていただいたのですが、私は一つ一つの作業に時間がかかりすぎてしまいまし

た。私はこれまで作業を丁寧に行うことが大切だと思っていましたが、限られた時間の中で作業をできるだけ効率良く行うことも必要なのだと強く感じました。

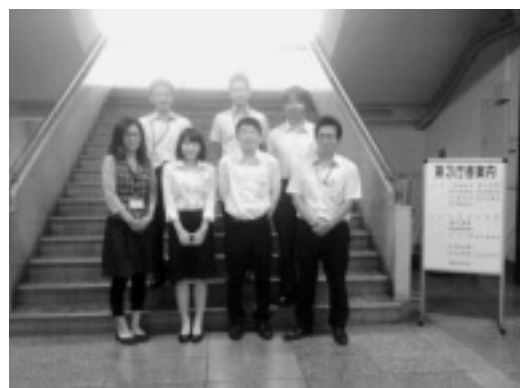
インターンシップでは業務のことだけでなく、公務員試験に関することや、普段から私が市役所に疑問を感じていたことについて職員の方からお話をうかがう機会があり、私にとって貴重な経験となりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップでは、派遣された職場の業務内容の一部を体験できるだけでなく、その職場の雰囲気やそこで働いている職員の方々からお話をうかがうことができる良い機会だと思います。職員の方々がどのような考え方を持っているのか、業務を行う上での苦悩など、普段接する機会がない仕事の裏側を知ることができます。

インターンシップに少しでも興味があるならば、是非参加したほうが良いと思います。私自身、インターンシップに参加するまでは少し不安を感じていましたが、終わってみるとあっという間で充実した日々でした。まずは気軽に、インターンシップのガイダンスに出てみることから始めてみてはいかがでしょうか。

最後になりましたが、日立市役所総務課の皆様を含め、インターンシップ中お世話になった方たちに心より御礼申し上げます。実際に働く現場を体験したことは、大変貴重な経験となりました。ご多忙の中、本当にありがとうございました。



総務課・庶務統計係の皆さんと

「市民を巻き込む」まちづくり

日立市役所 都市建設部 新交通推進課

伊藤 翼（2年）



1. 参加の動機

私は高校時代から、まちづくりや都市計画など行政の都市政策分野に興味があり、茨城の行政について深く学び、公務員として地域を担いたいという思いを持っていました。その中で、茨城大学ではインターンシップ制度で実際の市役所の業務を体験できるという事を知り、自分の気になる分野のことや市役所の内部などを実際に見たいと思い、参加することにしました。

2. 派遣先の概要

私の配属された新交通推進課は今年4月に新設された新しい課です。主な業務として「ひたちBRT事業について」「大甕駅周辺地区整備事業について」の2つがあります。前者は、旧日立電鉄線をバス専用路として復活させ、定時性と利便性に優れた「バス高速輸送システム (Bus Rapid Transit)」を運用させるための整備事業やまちづくり計画を行うものです。後者はJR大甕駅に西口を新設するため、それに合わせて周辺地区の再整備を行って、にぎわいを取り戻そうとするものです。どちらも都市の基盤づくりとして重要であり、なおかつ私たちが直接的に利用するものであります。それらを設計・監督・完成へと導くのが主な概要です。

3. 活動内容

私が行った時期は、会議や検査などの事務作業が多数ある時期だったようです。

初日と2日目は、社会資本総合交付金（通称：

社総交）の完了検査が5日目に実施されることになっていたので、この準備を主に行いました。この検査は、補助金の使用用途が適切かを国が検査する前に、事前に漏れがないかを県が検査するものでした。見積書や入札札、契約書や各種届け出書など、膨大な数の書類に漏れがないかを確認する作業は大変でした。1つでも漏れがあれば、補助金の不正使用になる恐れがあるからです。しかし、国から交付金と言う形で税金をもらって事業をしているという責任の重さを感じることでできる作業でもありました。実際の検査では、自分の作ったリストなどが使われ、責任の一端を担う事ができたのだという達成感を得られました。

また、3日目には実際にひたちBRTに体験乗車させていただき、これから整備していく区間の視察も行いました。体験乗車した区間では、地域のお年寄りが何人も乗車しており、地域の公共交通として確実に根付いていることを確認できました。また、これから整備していく区間では、どの場所に停留所を設け、どの道をどのように改良して既存道路と共存させていくかなどを説明して頂きました。また、事業用地の取得の難しさを感じることができました。

4日目以降は、実際の現場で見聞きしたことをもとに、課のホームページ作成を行いました。どの立場の人にも分かりやすく、なおかつ正確な情報を書くことの難しさや、自分の思っている通りに操作できないもどかしさを痛感しました。

5日目の午前中は完了検査にも同席させて頂きました。会場の空気は緊張に包まれており、重さをひしひしと感じられました。

7日目の午前中は、実際の工事現場に同行させて頂きました。ちょうどその日が着工日で、最終確認から着工までを見学させて頂きました。現場で急に起こった事態にも素早く対応していた職員の方の姿を見て、このような綿密かつ迅速な対応があるからこそ、事業が成功するのだと感じました。

9日目に同席した「まちづくり計画策定委員会」の幹事会では、市民の方々と市役所職員が意見交換や交流を行っていました。「これからの行政は、一方的に事業を行うのではなく、市民を巻き込んでいくことが大切なんだよ」との説明を受け、市民と協力して事業を行っていくのは大変ではあるけれど、実際の利用者の声を聞くことのできる機会を設けることは、事業の円滑な達成のためにも重要なことなのだと考えさせられました。

最終日には、BRT沿線の草刈りを体験しました。業者に全て任せるのではなく、出来ることは自分たちで対応していくことで、経費を削減できるだけでなく、よりよい街づくりのための課題点などを見つけることができるのだと思いました。

4. エピソード

私は当初、隣の「都市計画課」を希望しました。理由は、新交通推進課はもともとインターンシップ受け入れ先ではなく、リストにも載っていなかったからです。抽選の結果、都市計画課は落ちてしまったのですが、志望理由書を読んだ課長の計らいで、新交通推進課でのインターンを引き受けてくださいました。

また、歓迎会や送別会、毎日の昼食など職員の方が暖かく迎えてくださったことが印象的でした。市役所の職員は寡黙な方が多そうだと内心、不安に思っていたのですが、まったくそんなことはなかったので安心してインターンに参加できました。

また、事務仕事だけでなく体力勝負の作業も多々あったため、体力も大事だと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンで学んだことは、「役所主導の公共事業ではなく、市民を巻き込んで行う事業の重要性」です。一般的に自治体の事業は、税金を用いて市民のために整備・実施していくことが基本です。だから、無駄な事業や不要な事業だと市民が感じ、声を上げるときもあります。それなら、いっそ市民も計画段階から巻き込んでしまおうというものです。市民の声を直接拾い、どうすれば市の発展と住みよい環境になるかを一緒に考える事で、よりよい公共事業が行えます。

また、自分が興味を持っていたBRT事業が、ただ廃線後にバスを走らせて街づくりを行うだけでなく、高齢者の中心部回帰や団地の構成層の入れ替え、道路整備や商業地の誘致など、日立市を大きく変えるような事業だという事が分かりました。

6. 後輩へのアドバイス

まずは、志望理由書をきちんと書くことをお勧めします。書くためには事前のリサーチや自分の興味分野の洗い出し、更には最近のニュースなどあらゆる情報を基に書けば、相手先の担当者にやる気や熱意を伝えることができます。もし、私が志望理由書を適当に書いていたら、今こうしてアドバイスできる立場にはいなかったと思います。

このような貴重な経験を、2年次に出来たことは大変ありがたいことだと思います。進路や就活などで大いに役立つし、何より普段見ることのできない世界を垣間見ることができるからです。皆さんもぜひ、挑戦してみてください。

末筆になりますが、都市建設部の方々に深く感謝いたします。2週間ありがとうございました。



9日目の「まちづくり策定委員会」時の写真

経験を日々の生活に生かすこと

日立市役所 産業経済部 観光物産課

高塩 将紀 (2年)



1. 参加の動機

私は将来の就職先について公務員になるか民間企業に就職するかをまだ決めかねています。そこで人文学部のインターンシップは2年生でも参加することが可能だと知り、バイトでは体験することのできない公務員の仕事をこの機会に一度体験してみようと思い立ち市役所でのインターンシップを希望しました。派遣先として日立市を希望した理由は、住み慣れた水戸市ではなく自分があまり馴染みのない土地で仕事をすることによって、その地域の外の人間としての見方と自治体側の人間の見方の両方からの視点で地域を見ることができのではないかという考えを持ったからです。

2. 派遣先の概要

今回お世話になった産業経済部観光物産課では日立市の観光を振興するために市内の観光施設の管理やイベントの企画・運営などが主な仕事です。また、観光パンフレットの作成やHPの更新などより多くの市外の人に日立市に来てもらうことを目的として日々の業務を行っています。

3. 活動内容

私がインターンシップをさせていただいた時期は日立市の海水浴場の開設期間がちょうど終了した時期だったため、その物品の片づけや集客数などのデータの打ち込みを行いました。海水浴場も観光施設ということで観光物産課が管理・運営し

ていることを今回初めて知り、驚きと同時に自分の中での「観光」というものを改めて考えるいい機会となりました。

さらに、それらの業務の合間に市内の観光施設の視察や設備投資の打ち合わせなどにも同席させていただき、地方自治体という立場からでしか見えない観光施設の実態や悩みといったものを聞かせていただいたことはとても貴重な体験となりました。

そして、私個人に対しての2週間通しての課題として日立市観光物産協会が運営する日立駅前の情報交流施設「ぷらっとひたち」を利用したイベント案の検討をしました。実際に一からイベントの企画を行うことで、企画の大変さや考えるべき点がたくさんあることなどを学びました。

4. エピソード

駅前施設を利用したイベント案として、最初はたくさん候補を挙げてみるといいと言われ5つほど挙げてみたのですが、そこで「観光」という面での企画には何が必要かということを教えていただきました。ただ単に人を呼んで楽しむだけでは企画は成り立たず、参加者や協力団体へのメリット、準備日程の逆算、その場で終わらないリピーターをつくる工夫など「観光」という意味での企画を行う際には考えなくてはならないことがたくさんあるのだということを、自分で実際に企画してみることで実感しました。

また、イベント案の検討に行き詰っていた際に産業経済部の部長さんが息抜きにとかみね動物園への視察に連れて行ってくださいました。動物園内を回りながら動物園の経営状況や今度計画しているイベントのお話を園長さんからうかがいました。それから市役所に帰って自分の席に着いてみると動物園に行く前のパソコンや資料と向き合っていたころより幾分か気持ちが軽くなっていることに気付きました。作業にひたすら熱中すると疲れたり考え方が狭くなったりするので、たまには業務から離れた息抜きも必要だとこのとき改めて感じることができました。

5. わかったこと、学んだこと

イベント案を添削してもらった際に、目標の設定や現状の把握、目的達成のために何が必要かなど企画立案に大切なことは日常生活の中でも生かすことができ、日々問題意識を持つことで自身の生活をより良くしていくことができるのだと教わり、ぜひとも今後の自分の人生に生かしていきたいと感じました。

他にも、海水浴場の物品を倉庫に片付ける際にこの物品は春にまた使うから最後にしまおうとか、これはセットで使うからまとめておいて置くなど、片づけ一つをとっても先々のことを考えながら作業することが大切なのだということを学び、こういったことも仕事という面だけでなく自身の日常生活に応用していくことが大切だと教わりました。

そして、今回のインターンシップを通して公務員の業務を体験したことで自分が将来やりたいことというものが少し見えてきました。公務員の仕事を体験してみて、地方自治体というものはその地域の公共の福祉のために従事しているのだと改めて実感し、その上で自分はそのようないろんな方面の利害を考えるよりも特定の相手の利益を考える仕事に将来就きたいという考えが生まれました。おそらく民間企業でのインターンシップであれば、こういうことを将来もやりたいなという大雑把な考えしか生まれなかったと思います。し

かし今回公務員の仕事を体験してみたことで、自分は公務員とは違ったことがやりたいのだと気づくことができ、市役所でのインターンシップに参加して良かったと思っています。

6. 後輩へのアドバイス

今回私は公務員と民間企業との違いや互いの面白みのようなものを見つけたいという気持ちでインターンシップに臨んだのですが、実際に市役所での仕事を行う中で先を考えながら行動することの重要性、日々の生活で問題意識を持つことの大切さ、人との会話の中からアイデアや課題が発見できることなど、公務員の業務ということではなく自分自身の日々の暮らしや今後の研究に役立つ知識もたくさん得ることができました。インターンシップは単なる職業体験だと思っている人が多いかもしれませんが、それ以上に自分の実生活につながるような知識もたくさん身につけることができます。

私はこのような貴重な体験を2年生のうちに体験できたことにとても感謝しています。就職のことは3年生から考えればいかなどと思っている人も、インターンシップには職業という面だけではなく自身の日常生活に役立つ知識もたくさん学ぶことができます。だからこそ迷っている人にはぜひともインターンシップを一度体験してみることをおすすめします。

最後になりますが、インターンシップを受け入れてくださり期間中も様々なことを教えてくださった日立市役所のみなさま、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



観光物産課職員の方との打ち合わせの様子

社会人としての気配り

—利用者へも職員へも—

高萩市役所 生涯学習課（高萩市立図書館）

作間友梨子（2年）



1. 参加の動機

私は幼い頃から図書館が好きで、将来は図書館で働きたいと考えています。大学1年生のときにアメリカの図書館を紹介している本を読んで、図書館で多様なサービスがおこなわれていることを知りました。同時に自分が日本の図書館ではどのようなサービスがおこなわれているのか、図書館の職員はどのような仕事をしているのか、よく知らないことに気づきました。そこで、インターンシップに参加して図書館の仕事を実際に体験させていただくことで、図書館についての知識を深め、自分の将来について見つめ直したいと考えました。

また、社会性を身につけることも目的の1つでした。インターンシップで社会に出る経験をすることで、社会人になるにあたって自分に足りないものを知り、これからの大学生活に活かして成長につなげたいと思いました。

2. 派遣先の概要

昭和58（1983）年に完成した高萩市立図書館には、現在では10万冊を超える蔵書があり、歴史民俗資料館を併設しています。職員の方々が交代で貸出・返却手続き、複写、相互貸借、リクエスト本の手配、本の修理、統計などの業務をおこなわれています。また、月ごとの行事や年に一度の「図書館まつり」（お子様図書館員やクイズ、古本・古雑誌市などがおこなわれる）など、多くのイベントが開催されています。

3. 活動内容

インターンシップでは、図書館の主な業務を一通り体験させていただき、体験が難しいものについてはお話をうかがいました。体験させていただいた業務は、カウンターでの貸出・返却手続き、返却された本の書架戻し、未返却本の確認、本の修理、新刊本の装備・受入、相互貸借などです。相互貸借とは、図書館に蔵書がない本を他図書館から借りることができるサービスです。茨城県内の図書館は皆繋がっており、無料で本の貸借ができます。大切な資料をやりとりするため、傷や汚れの位置を記録する必要があるなど、厳重な注意が必要です。郷土資料や選書、レファレンス、統計についてはお話をうかがい、一部体験させていただきました。

4. エピソード

今回のインターンシップで最も印象に残っているのは、職員の方々の気配りです。図書館のカウンター内は利用者の方に対応する前方と、本の修理や相互貸借の手続きなどをする後方に分かれており、利用者の方からは後方が見えないように仕切られています。普段は前方と後方にそれぞれ2人ずつ職員の方がいらっしゃるのですが、カウンターが混み合うなど前方の人手が足りなくなることがしばしばありました。そのような時、後方の職員の方が素早く気づいて助けにいらっしやっで、何度も救われました。

また、ある利用者の方が、貸出制限冊数である

10冊の本を返却したあと、すぐに次の本を選んで貸出手続きにいらっしやったことがありました。返却された本は1冊ずつ修理が必要なところはないかなどを調べた後に返却処理をかけます。その時私はまだ返却処理の前で、中身をチェックしていました。つまりその利用者の方は制限ぎりぎりまで本が貸出されている状態のままなので、まだ新たに本を貸出しできませんでした。そういった場合は本の中身の確認より返却処理を優先しなければならないのですが、私はなかなか状況が飲み込めず、利用者の方をお待たせしてしまいました。すると職員の方々は利用者の方に対応し、素早く私に状況と対応を教え、本の返却処理も手伝って下さりました。他にもカウンターでの作業は、図書館での決まりを理解した上で柔軟に、なおかつ迅速に対応しなければならないことがあります。そういったときに周囲をよく見て気を配ることが必要になると感じました。

インターンシップ期間中は「図書館まつり」の前だったこともあって、職員の方々は準備などでお忙しい様子でした。そんな中で利用者の方に丁寧に対応し、私に親切に指導して下さい、空いた時間と場所を見つけて業務をこなす姿に憧れを感じました。前述した例のように私は目の前の作業で頭がいっぱいになって、周囲に気を配れないことが多々あるので、見習いたいと思います。

5. わかったこと、学んだこと

今まで私は図書館を利用者としての立場から見たことしかありませんでした。本を読んで外国の図書館サービスのことは知っていましたが、実際に職員の方が何をしているのか知ることはできていませんでした。ですので、図書館の業務はカウンターでの利用者の方への対応が主だと考えていました。しかし今回のインターンシップで実際に業務を体験させていただき、利用者の方への対応だけでなくさまざまな業務があることを知りました。例えば朝はその日の新聞から高萩市の記事を探し、見つけたらコピーして切り取ります。選書作業では、限られた予算の中で利用者の方が求める本を買うか、内容が良い本を買うか選ばなくて

はなりません。また利用者の方々も貸出・返却にいらっしやる方だけでなく、複写サービスを利用する方や毎日勉強に来られる方、子供連れの方など、さまざまな目的で図書館を利用する方がいました。図書館まつりのイベントへ参加を申し込む電話も多く、図書館がたくさんの方に親しまれていることを感じました。

6. 後輩へのアドバイス

今回インターンシップに参加して社会人の働く様子を間近に見たことで、自分の大学卒業後という将来がより近く感じられるようになりました。それと同時に就職活動に向けて自分を成長させる必要を強く感じました。このようにインターンシップで社会人を経験することで、自分自身のことや自分に足りないものを知ることができます。それを今後の大学生活に活かせば、より大きく成長できると思います。そういう点で、インターンシップに参加することは大きな意義を持っています。インターンシップへの参加を考えている方は、2年生でも早すぎるということはありません。ぜひ参加を前向きに検討してみてください。

最後になりましたが、高萩市立図書館の皆様にはご多忙にもかかわらずインターンシップを受け入れ、親切なご指導をいただきました。本当にありがとうございました。



新刊受入作業の様子



寄贈本へのコーティング作業の様子

現場から学んだコミュニケーションの大切さ

高萩市役所 経営戦略部 まちづくり観光課

鳥羽田浩史（3年）



1. 参加の動機

今回、私が高萩市役所へのインターンシップを希望した動機は、私自身が公務員への就職を考えているからです。そのために、実際にどのような業務を行うのか、また現場の空気はどのようなものなのかを知り、公務員という仕事へのイメージを固める必要があると考えインターンシップへの参加を検討し始めました。また、母の実家が高萩市であったため、馴染みのある土地の高萩市役所を選びました。これらの理由から、将来公務員を目指した時、勉強になることを知る機会であるインターンシップに応募しました。

2. 派遣先の概要

私の配属されたまちづくり観光課は、経営戦略部に属する課の1つです。まちづくり観光課は観光・ブランドグループとまちづくり・商工グループの二つのグループに分かれています。観光・ブランドグループでは観光施設の管理・整備、たかほぎブランド推奨品のような高萩市のブランド品の作製やPRなどを行っています。まちづくり・商工グループでは各種イベントの企画や準備、他都市との交流、消費生活センター、地元商店街との連携など多岐にわたる業務を行っています。

3. 活動内容

9月8日から9月12日までの間、私はまちづくり観光課の観光・ブランドグループで勤務すること

になりました。ここで行った活動は、主に自然公園の維持管理に関することです。遊歩道の草刈り、放射線測定、側溝にたまった土砂の処理、設備の破損状況の確認などを行いました。ここで行った作業は私の抱いていた市役所のイメージとは大きく違っていて、現場に直接行って作業を行うことが中心でした。

9月16日から9月20日までの間はまちづくり・商工グループにて活動しました。ここでは、毎月第3土曜日に行っている「高萩うまるしえ」という青空市の準備と書類整理、賞状へのはんこ押し等の事務作業の他に、市議会の傍聴や消費生活センターの活動についてセンター長から説明を受けました。うまるしえの準備として、子供向けのイベントの準備、宣伝、開場準備をさせていただき、最終日には実際にイベントに参加して会場の手伝いや片づけを行いました。

4. エピソード

2日目に行った遊歩道の草刈りの際のことで、私は遊歩道に飛び出している枝や笹などを刈り取っていました。観光客が歩いているときにけがをしないようにするためです。自分ではしっかりと刈り取ったつもりだったのですが、一緒に来た職員の方にもっと刈るように言われました。言われてみて気が付いたのですが、確かに枝が遊歩道に飛び出ている箇所がいくつかありました。この時自分の仕事が雑であったことに気が付きました。

雑な仕事をしてしまうとほかの人に迷惑をかけてしまう上に、自分自身もその仕事をやり直さなければならないという非常に手間のかかることになっていきます。そのため、今回の経験から仕事をする際には自分の判断のみで作業をするのではなく、きちんと他の人の意見を聞いた上で作業を進めていくことが大切であり、そのことは結果として自分自身の作業時間を増やすことに繋がっていくことを学びました。

5. わかったこと、学んだこと

私が今回のインターンシップで学んだことは「自分の判断のみで作業をしない」ということです。先に述べたエピソードのように、自分の判断のみでは仕事にミスが出るが多々あります。そのようなことを防ぐためにも、積極的に職場の方々判断を仰ぐ必要があると感じました。実際に職場の方々の仕事ぶりを見ていても、ひとりで黙々と作業をしている人は少なく、他の人とやり取りをしながら作業をしていました。そのようなことから、他の人と協力して仕事をこなすことや、コミュニケーションの大切さを学ぶことができました。

また、実際に市役所職員の方々と働いたことで、社会人としてのマナーも知ることができました。電話での対応の仕方や、お客様への対応の仕方を見ていると非常に丁寧である事がよくわかりました。私自身もこれから社会人として働くことになったとき、これらのマナーを習得する必要があると知ることができたのはよい経験であったと思います。

インターンシップで学んだこれらのことを無駄にしないためにも普段から意識して行動していこうと思います。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップで貴重な経験ができるのは確かです。その貴重な経験を無駄にしないためにも、ある程度積極的な姿勢を見せることが大切です。そうすることでより多くの方とコミュニケー

ションをとることができ、多くのためになる話を聞くことができるでしょう。

また、インターンシップを通して実際に働いてみることで、多くの発見をすることができると思います。職場の人から話を聞かせていただき職場の雰囲気を感じること、その仕事に関してそれまで知らなかったことや、自分に足りないものなどをより明確にさせることができるなど、新たな発見を数多く経験することができます。それらのことから仕事に対してより具体的なイメージを持てるようになるでしょう。あらかじめ仕事に対して具体的なイメージを持っていれば、就職活動の時にも何かと参考になると思います。

もしインターンシップに興味があり、時間的にも余裕があるのであれば参加を検討してみてください。よい経験が得られると思います。

最後に、インターンシップでお世話になりました高萩市役所のまちづくり観光課の皆さんにこの場を借りて感謝申し上げます。お忙しい中、本当にありがとうございました。



鎌で枝を落とす作業



側溝にたまった土砂を取り除く作業

まずはやってみること

常陸太田市役所 総務部 総務課

井上 紗希（3年）



1. 参加の動機

私は将来就く職として公務員を考えています。しかし、実際公務員がどういう仕事をしているのかというのは漠然としたイメージしかなく、公務員か民間かまだ迷いもありました。3年生になり、そろそろ自分の就きたい職をはっきりさせてそのための準備をしなければならないと焦りを感じ、そのきっかけとなればいいと思い、今回インターンシップに参加することにしました。また、常陸太田市役所を希望したのは、常陸太田市が私の地元であり、生まれ育ってきた常陸太田市の市役所がどのような職場であるか知りたいと思ったからです。

2. 派遣先の概要

今回のインターンシップでは常陸太田市役所の3つの課でお仕事させていただきました。1日目は総務部の総務課でお世話になりました。総務課では議会や条例に関することや文書の管理に関することなど市役所の運営の中で欠かせない仕事を行っています。2日目は、政策企画部の少子化・人口減少対策課でお世話になりました。少子化・人口減少対策課は今年から新しくできたもので、現在常陸太田市役所で最も力を入れているところのひとつでもあります。そして3日目は教育委員会の文化課でお世話になりました。市役所本庁とは別の場所にあり、市内の文化財の管理や地域にあるお宝（自然や伝統など）を見つけるエコミュー

ジアムの活動などを行っています。

3. 活動内容

1日目の総務課では、条例を公布するための書類を作成する作業と、条例を公布するための書類に番号をつけてコピーをする作業を行いました。また、午後からは若手の職員の方と市役所の仕事のことや市役所職員になった経緯などのお話をする時間を設けていただき、市役所職員になって良かったこと・大変だったこと、公務員試験受験の際のアドバイスなどをお聞きしました。

2日目の少子化・人口対策課では、「子育て上手常陸太田」という政策をPRするために生まれた「じょうづるさん」というゆるキャラが茨城県のゆるキャラたちが集まるサッカー大会に参加することでゆるキャラのサッカー大会に同行しました。また、「子育て上手常陸太田」のPR動画の撮影もあったのですがそのお手伝いもしました。

3日目の文化課では、午前中は「歴史を活かしたまちづくり」の勉強会に職員の方と一緒に参加し、午後は資料室に保管しておく資料に番号をつけて表を作って整理する作業と、現在改修工事をしている郷土資料館が開館したときに使用する備品の採寸作業などを行いました。

4. エピソード

3日間のインターンシップのうち、最も印象に残ったのは2日目の少子化・人口減少対策課の方

と同行したゆるキャラのサッカー大会でした。これはいばキラTVの番組の企画に1つで、この日は水戸のケーズデンキスタジアムに茨城県の各地からゆるキャラたちが集まっています、他の役所の職員の方も大勢いらっしやいました。ゆるキャラのサッカー自体は見ていて非常に面白かったのですが、着ぐるみの中に入っている方々はとても大変そうで、ここでしか見ることが出来ない裏側の世界を見ることができました。また、PR動画の撮影では、当日と一緒に出演することが伝えられ台本を渡されて、私なんか出演してしまっているのだからと不安でしたが、待ち時間に常陸太田市役所の職員の方と一緒に練習をしてなんとか良いPR動画が出来たと思います。インターンシップでこのような経験をするというのは予想外だったのですが、普段はなかなかできない貴重な経験をさせていただきました。



ゆるキャラサッカー大会の様子

5. わかったこと、学んだこと

今回、インターンシップに参加して分かったことは、市役所は窓口業務や事務作業ばかりをしているイメージがあったのですが、決してそのようなお仕事ばかりではないということです。所属する部署によって大きく差はあるかと思いますが、今回のインターンシップでは、庁舎の中での作業だけでなく外に出て行ってのお仕事も多くありました。このことは普段市民として市役所に行くというだけでは分からないことだと思います。また、市役所の職員の方々のお話を聞いていると、市役所の職員の方々は、市が抱える課題を常に意識し、「より良い市を創っていくにはどうしたらいいのか」ということをしっかり考えながら仕事

をしているということが分かりました。公務員として働くということは市民からの税金からお給料をいただいて仕事をするということであり、公務員として働くにはそのことをしっかり自覚して、問題意識やそれを解決したいという意識、解決していくためにはどうすれば良いのか考えていく力が必要であるということ学びました。私はこのインターンシップを通して、以前よりも公務員として働きたいという意識が強くなり、そのために頑張ってみようと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

もしインターンシップに参加しようかどうか迷っているのなら、あまり後ろ向きなことは考えずに「まずはやってみよう」という挑戦意識を持ちながらぜひ参加してみてください。やってみることでそれまで見えていなかったことが見えてきたり、経験しないと分からないことを知ることが出来ます。また、仕事のことだけでなくその職場の雰囲気やそこで働く人の生き様までみることが出来るということもインターンシップに参加することのメリットだと思います。

また、これはインターンシップ期間中のことなのですが、朝出勤した時に庁舎の中ですれ違う職員の方々に挨拶をすべきかどうか分からないということがありました。挨拶されて嫌な気持ちになる人はいないと思うので、そこでの慣習が分からなくてもすれ違った人にはこちらから元気よく挨拶をすればよかったと反省しました。これからインターンシップに参加する人にはぜひ自分から積極的に元気に挨拶をして、実りある良いインターンシップを経験してほしいと思います。



1日目 総務課での作業の様子

臆せず関わる積極性の大切さ

ひたちなか市役所 経済部 観光振興課

栗田 佳奈（3年）



1. 参加の動機

私がひたちなか市役所を志望した理由は、就職活動に向けて自分の目標を明確に定めるためです。民間企業と公務員のどちらを目指すか全く考えが定まっていませんでした。そこで、公務員の仕事や「働くこと」について体験しながら具体的に学びたいと考えて参加を決めました。また、自分が生まれ育ったひたちなか市役所はどのような職場なのか、その雰囲気を感じたいと思いました。観光振興課を志望した理由は、将来地元に関わりながら「まちづくり」や「町おこし」をする仕事をしたいと考えたためです。ひたちなか市は「まちづくり」をどのような方法で行っているのか今回のインターンシップで知りたいと思い参加を希望しました。

2. 派遣先の概要

ひたちなか市役所の観光振興課は、観光産業の育成や指導、観光振興計画の推進、観光関係イベントのサポートなどが主な業務内容であり、ひたちなか市の魅力を発信することを目的としている部署です。デスクワークではなく実際に町に出て市民の方々と関わる時間が非常に多いアクティブな課です。

3. 活動内容

私の5日間の活動内容は主に2つに分けられます。1つ目は、観光ガイドブックの誤字脱字の見

直しや観光ドライブコースの立案などのデスクワーク、そして2つ目は実際にイベントへの参加です。まずデスクワークでは、実際にひたちなか市を訪れる観光客のためのドライブコースを考案しました。考えたドライブコースをインターネットに載せるために企業の方と打ち合わせをしましたが非常に緊張したことを覚えています。また、自分が考えた案がインターネット上に載るかもしれないということで非常に責任が重いと感じました。

また、観光振興課はひたちなか市を盛り上げるために様々なイベントを企画実行しています。例えば、「ひたちなかサウンドシップ」という活動ではひたちなか市を音楽で盛り上げようとアマチュアバンドを集めて市内で活動しています。そこで、市内でのお祭りでアマチュアバンドが演奏するためのステージ設営やアーティストの方のサポート、那珂湊焼きそば大学院学園祭や阿字ヶ浦ランタンナイトというイベントの運営に参加させて頂きました。

4. エピソード

お手伝いさせて頂いた「阿字ヶ浦ランタンナイト」は、浜辺に無数のランタンを並べて夜の海を楽しむというものでした。私が参加した日は、ランタンを灯した浜辺でビーチバレーを開催しましたが観光振興課もチームとして参加しました。私も試合に参加させて頂きましたが、非常に楽しい

時間でした。高校生の時以来バレーボールをしてとても盛り上がり楽しかったです。私は今まで「仕事は苦勞、大変なものだ、楽しむものではない」と働くことについて勝手なイメージを持っていましたがそうではないのだなと思いました。職員の方の「まずは自分たちが楽しまなきゃ！」という一言が印象に残っています。

5. わかったこと、学んだこと

今回インターンシップに参加して、市役所の仕事に対するイメージが変わりました。公務員の仕事は、1日中机に座って働くデスクワークが多い職種と思っていましたが、観光振興課の仕事はそれとは全く逆でむしろ外に出る仕事の方が多いことが分かりました。公務員の仕事には様々な職種があることを知り、どの部署も市民の方々と関わりながら仕事が出来るといってお話を聞きとても魅力的な仕事だと感じました。

また、今回のインターンシップで「積極性」の重要性を改めて実感しました。自分では初日から積極的に職員の方とコミュニケーションをとろうという気持ちで臨みましたが、やはり緊張してしまい自分からさらに積極的に関わることは出来なかったかもしれないと反省しています。私が働いた観光振興課は、デスクワークではなくイベントの運営などが多いです。そこで最も重要なのは積極性です。周りで困っていて自分がサポートすべき場面はお手伝いしたイベントの中でいくつもありました。それを感じ取れるように常に意識したつもりではありましたが、時折遠慮してしまったりする場面もありました。受け身のスタイルで指示を待つか、自分で出来ることを探して積極的に関わっていくかの違いは非常に大きいことを今回学びました。緊張して躊躇するのではなく、失敗を恐れずにまずは行動に移すという気持ちを今後忘れずにいようと思います。

6. 後輩へのアドバイス

後輩の皆さんには、「積極性を大事に」というアドバイスを送りたいです。不安に思うのではなく

興味を持ったらどんどんインターンシップに応募する積極性、そして実際に職場に入った際にはボーっとするのではなく、周りを見て補助すべき場があれば臆せず自主的にサポートをする積極性の姿勢を持つことが非常に重要だと思います。インターンシップ中は、学校生活を送る日常では決して体験することの出来ない時間になります。普段の学校生活では、アルバイトを除けば多くの社会人の先輩方と関わる機会は滅多に無いと思います。就職について、職場について疑問に思っていることや自分が知りたいことについて質問する絶好のチャンスです。積極的にコミュニケーションをとって質問すると良いと思います。

また、漠然とインターンシップ先を決めて臨むのではなく、参加する前に自分の将来の目標をある程度明確にしておくが良いと思います。単純に「将来ここに就職したい」という目標ではなく、将来職に就いたときに「どんな仕事をしたいか」ということです。それを事前に考えておくことでインターンシップを終えたあとに改めて自分の目標について考え直し、本当にその仕事がしたいのかを問い直すことが出来るからです。

最後になりましたが、観光振興課の皆様には大変お世話になりました。お忙しい中親切に接して頂き、様々なことを教えて頂きました。実際にイベントにも参加させて頂き大変貴重な経験になり、充実した5日間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。



ランタンナイト バレーボール大会の様子

人と人との繋がりの中で

ひたちなか市教育委員会 青少年課

小池 加菜（2年）



1. 参加の動機

自分は将来何の仕事に就いてどういう風に働いていくのか、そう考えた時、自分は「働く」ことに対して漠然としたイメージしか抱いていないことに気が付きました。だから、このインターンシップを通して社会で人々が「働く」現状を見聞きし、それに対する自分のイメージや知識を具体化させたいと考えました。

また、自分が公務員に興味を抱いていたこともあり、公務員とはどのような仕事をする職業なのかを自分の目で確かめて学びたいということも動機の1つでした。

2. 派遣先の概要

派遣先である青少年課は、教育委員会の中に位置づけられており、青少年の健全な育成の推進や青少年を取り巻く環境の整備などを目的とした業務をされています。主な業務として、学童クラブのサポートや青少年の体験活動の補助などが挙げられます。また、その中でも私たちに密接に関係している行事としては、成人式を運営する成人の集いや、市内の小学生が参加する洋上学習などがあります。

子どもが健やかに、そして楽しく交流し成長するための場を支えているのが青少年課です。

3. 活動内容

青少年課の主要業務の中に、毎年夏に行われる

「自然体験キャンプ」があります。常陸太田市にある里見野外活動センターで行われ、ひたちなか市内の小学5、6年生男女を対象に、毎年120人程度の子どもたちが参加しています。今回、このキャンプに参加することが私のインターンシップでの主な内容でした。

初日は、市役所の組織や役割、まちづくりの方針についてお話いただき、その後ひたちなか市役所本庁と那珂湊支所を見学させていただきました。また、キャンプの準備としてキャンプ参加者の名札を作成しました。2日目は、キャンプ前日準備のため、実際に里見野外活動センターへ行きました。そこでは、本部テントの設置やキャンプ道具の搬入が行われました。私は、子どもと指導員が泊まるテントにそれぞれ指定された番号札を付けたり、食器を入れる籠に番号札をテープで貼ったりしました。

そして3日目から5日目は、キャンプが始まり子どもたちと触れ合いながらの活動でした。キャンプ中の私の主な役割は、食材や食器を管理する炊事係と、キャンプの様子を投稿するブログの更新です。炊事ではなるべく早めに取り掛かること、ブログではできる限り子どもたちの様子が分かるよう、写真を貼ること、コメントを書くことを心掛けました。

この他にも、薪割りの手伝いやナイトハイキングでの脅かし役・誘導役など、さまざまな体験をさせていただきました。

4. エピソード

3日間のキャンプの中で私が最も心に残ったことは、子どもたちがキャンプを通して大きく成長していたことです。初めは嫌そうにして周りの子と話さずにいたけれど、最終日には積極的に友達に話しかけたり調理用具を片付けたりしていた子がいました。同じ班の子が怪我をした時に、「大丈夫？先生呼んでくるからね」と本気で心配していた子がいました。その子たちは皆、キャンプを通じて人との繋がり大切さや今までにない新たな自分を見つけたのだらうと思うと、キャンプは大変意味深い大切な行事だと感じました。

また、炊事場で調味料などを配分している時、一緒に手伝ってくれたり、「頑張っ」と声をかけてくれたりしたことも印象的で、自分にとっても人との繋がり大切さに気づかされた貴重な経験となりました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップで学んだことは、「今自分にできることは何かを常に考え、自発的・積極的に行動に移す」ということです。わからないことや不安なことは積極的に聞くこと、仕事が円滑に進むために自分が力になれることを考えて自ら行動に移すことは、社会の中で働く際にとても重要なことだと思いました。

また、青少年課で働く方々は皆いつも笑顔で、周りへの配慮を怠らないということも実感しました。私はキャンプの初日、「子どもたちが楽しむためには、まずサポートする側が楽しむことが大切」だと教えていただきました。子どもが心を開き、心からの笑顔で楽しむためには、まずこちら側が心を開き、笑顔で楽しむ必要があります。子どもたちの成長は、この方々あってこそものなのだと思い、自分も日頃から笑顔と周りへの配慮を心掛け、常に周りの状況を考えながら行動しようと感じました。

そして最後に、インターンシップを終えてからも市役所の方々と繋がりを持てるということがインターンシップの強みでもあることを知りまし

た。派遣中には知りえなかった市役所の事情を知れたり、市役所の方々と会ってお話する機会を得ることができたりと、このインターンシップは今後の自分にとって非常に有意義なものとなりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップを受けるかどうか迷っているなら、受けてみるべきです。「自分はあるこの企業に就きたい」と思っている、実際にその場で学ぶのと学ばないのでは全く違います。実際に体験してみて初めて、気が付くことや新たに知ることがたくさんあります。インターンシップを通して、「働く」とはどういうことなのかを目で見て耳で聞いて、自ら経験してみることが大切です。

また、インターンシップに参加する際に心掛けておかなければならないのは、「自分に求められていることは何なのか、自分が今ここですべきことは何なのか」を常に意識して行動することです。与えられた業務をただこなすだけでなく、些細なことでも自分にできそうなことがあればそれに取り組む、また取り組もうとする姿勢が大切です。

そしてインターンシップを通して、社会の中で「働く」ために、自分にはいったい何が足りていないのか、それを補うために大学で何をやる必要があるかを学び、今後の大学生活をより充実したものにさせてください。

最後になりますが、青少年課職員の皆様、貴重な経験を本当にありがとうございました。今回学んだことを糧に、これからも邁進してまいります。



キャンプに参加した子どもたち

公務員の仕事を肌で感じて

ひたちなか市役所 市民生活部
スポーツ振興課

松尾 直俊（3年）



1. 参加の動機

私は今、公務員を目指すか、民間企業に就職するか悩んでいます。どちらにしても、働くということを実感できるインターンシップに参加することは、自分にプラスになると考えました。あくまでも公務員が第一志望なので、公務員の仕事内容や雰囲気を肌で感じたいと思い、今回市役所でのインターンシップを志望しました。また、私たちの学年から就職活動の開始時期が12月から3月になるため、余裕のある夏休みを有意義に活用し、今後の学生生活や就職活動に生かしていこうと思ったのも参加した動機です。

2. 派遣先の概要

ひたちなか市役所は本庁と那珂湊支所から成り、私がお世話になったスポーツ振興課は那珂湊支所にありますが、来年からは本庁の方に移される予定です。スポーツ振興課は、主に勝田全国マラソン大会に関する業務、また三浜駅伝競走大会に関する業務やグラウンド、スポーツ施設の管理などを行っています。

3. 活動内容

5日間のインターンシップでは、勝田全国マラソン大会や三浜駅伝競走大会に関する業務の補助を行いました。勝田全国マラソン大会関係では、マナーを呼びかける資料の作成やコースの下見・距離測定を行いました。一方、三浜駅伝競走大会

関係では、ポスター作成とコースの中継ポイントの確認の補助をさせていただきました。

2日目には市役所の下部に属する、公営財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社にお世話になり、ひたちなか市総合運動公園の管理を手伝わせていただきました。

また、本庁の見学や管理しているグラウンドやスポーツ施設を案内していただきました。市民からの「状態が悪い」という連絡があったグラウンドでは、状態の確認の後、石拾いなどの整備を行いました。

4. エピソード

公益財団法人ひたちなか市生活・文化・スポーツ公社では、ひたちなか市総合運動公園の施設案内をしていただき、管理方法についてのお話をうかがうことができました。最初、管理は公社が外部に整備や修理などを委託して行っていると思っていましたが、実際は、自分たちで整備や修理など出来ることは行い、自分たちでは出来ないことを外部に委託して管理していることが意外でした。

最初は野球場の芝刈りやグラウンド整備を手伝わせていただく予定でしたが、その日は雨が降ってしまったため、予定していた業務が出来ませんでした。代わりに、トイレの扉の修理や、簡単な片付けなどを手伝わせていただきましたが、予定していた業務が出来なかったので、休憩している時

間がかなり長くなってしまいました。今思うと仕事が無い場合は、職員の方に「何か手伝えることはありませんか」という一言をいうべきだったと反省しております。やはり、受け身でいても仕事は回ってこないのもっと積極的に行動するべきでした。

5. わかったこと、学んだこと

私は、堅苦しいイメージを市役所に持っていました。それは、市役所はお役所仕事と言われるように型にはまった仕事をするイメージを持っていたからです。しかし、私がお世話になったスポーツ振興課は、主に勝田全国マラソン大会に関する業務を行っており「イベンター」といった印象が強く、和やかな雰囲気での私の想像していたものとは全く異なっていました。市役所といっても業務の内容は多岐に渡っており、課によって雰囲気も仕事内容も異なって一律ではありませんでした。

パソコンを使っての作業ではWord、POP FACTORYを使用しました。Wordは普段の生活でも使用しているのである程度使えると思っていましたが、資料作成に時間がかかってしまい、技能不足を改めて実感しました。POP FACTORYは初めて使用したので使い方が分からず職員の方から教わりながらやることになってしまいました。社会人になればパソコンを扱う機会が増えると思うので、WordやExcelといった、使用頻度の高いソフトは技能を磨いておく必要があると思います。

休憩時には、職員の方から公務員試験や就職などについてのお話をうかがうことができました。実体験を詳しく聞ける機会はなかなか無いので、とても貴重な体験となり、これからの進路を考える上での参考になりました。

今回のインターンシップに参加して一番の収穫は、自分の現状を知ることができ、働くということの大変さや楽しさを知ることができたことです。これからの学生生活や就職活動に今回の体験を生かしていきたいです。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに参加するか悩んでいるなら、ぜひ参加してください。私も不安がありインターンシップに参加するか悩みました。ですが、今は有意義な時間を過ごすことができたので参加してよかったと思っています。実際の業務を体験することで、働くことのやりがいや辛さなどを味わうことができるため、社会人になるに当たっての意識を持つことができました。また、受入先の方から職場の生の声も聞けるので、大変貴重な体験になりました。私が皆さんにアドバイスすることは、「積極的に行動してください」ということです。私は積極的に行動しようと思っていましたが、あまりできませんでした。積極的に行動するのと与えられた仕事をこなすのでは得られるものが変わってきます。積極的に行動して少しでも自分のプラスになるようにしてください。

不安があると思いますが、参加することで得られるものは多いです。長期休暇を有効活用し、今後の学生生活や就職活動に役立ててください。

今回、スポーツ振興課の皆様には大変お世話になりました。お仕事がお忙しい中、ありがとうございました。



勝田全国マラソン大会距離測定の様子



スポーツ振興課の皆さんと

フェスティバルを裏から支える

那珂市役所 産業部 商工観光課

鈴木 達也（3年）



1. 参加の動機

私はこれまで自分の将来について公務員と一般企業のどちらにするか悩んでいました。3年生となり、就職活動が近づく中、公務員の業務内容がどのようなものなのか漠然としたイメージしかありませんでした。そこで、インターンシップで公務員の仕事を体験して実際の社会に出ることがどういうことなのかを肌で感じ、自分のもつ職業のイメージと実際の業務の差を明確にすることで、これからの就職活動や大学生活に活かせると考え、参加することを決めました。特に、那珂市は地元であり、体験を通して地域の活性化に少しでも寄与できればと思い、那珂市役所を希望しました。

2. 派遣先の概要

瀧澤美空さんが書いてくれたので、詳細についてはそちらを参照してください。

3. 活動内容

10日間の活動では主に「なかひまわりフェスティバル」という那珂市のお祭りに向けて裏方の作業を手伝わせていただきました。そのため、外での作業が多くありました。フェスティバル当日までは、ひまわり畑に入って迷路の行き止まりの作成や迷路内の除草作業、葉落としを行いました。迷路完成後はフェスティバル当日に向けてごみ箱や誘導灯、懐中電灯など当日使用する物の準備

や会場およびその周辺で会場までの案内看板やのぼり旗の設置といった会場作成を那珂市の商工会の方々と一緒に行いました。また、当日までにフェスティバル会場で茨城放送などからの取材があり、それに対して職員の方が出演してフェスティバルの内容・日程等のPR活動を行う様子も同行して見学させていただきました。何度かあったPR活動のうち、見学だけの予定が急遽出演ということになり、極度の緊張の中で職員の方と一緒にイベントのPR活動をさせていただきました。最終日はひまわりフェスティバル当日で、スタッフとして最後まで参加させていただきました。フェスティバル終了後まで残り、花火終了後の安全確認作業や後片付けを行いました。

4. エピソード

今回、ひまわりフェスティバルに向けて様々な準備をしつつ、当日スタッフとして参加させていただきました。思いのほか観光客や来場者の方からイベント会場への行き方やひまわり迷路について尋ねられる場面が数多くありました。うまく答えられることもあり、答えられずに言葉に詰まることもあり、近くの職員の方がそれに気づいて助けてくださったということもありました。自分自身のコミュニケーション能力が不足していることを実感すると同時に、仕事に関わる情報をきちんと整理し、それでもわからなければすぐに職員の方に聞きに行くべきだったと反省しました。ま

た、フェスティバル当日、那珂市のゆるキャラ「ナカマロちゃん」を必要以上に叩いたり引っ張ったりしないように注意する介添えという仕事を体験しましたが、写真を一緒に撮ろうとする方がゆるキャラの周りに集まる中で、相手や周囲にいる人を不快にさせないようにうまく注意できませんでした。何事もなく終わったのでよかったです、お互いの安全のためにはもう少し気をつけるべきだったと思いました。一方で、急遽ゆるキャラの中に入ることになり、多くの来場者の方々と触れ合いました。着ぐるみを着るという経験がなく、思った以上に人も集まってしまったため、予定よりも長い時間着ることになって大変でしたが、来場者の方々に喜んでもらったので嬉しかったです。フェスティバルの最後を飾る花火は、これまでは見るだけで楽しく終わっていたのですが、今回は関係者として、懐中電灯と誘導灯を持って花火の残骸や黒玉と呼ばれる不発に終わった花火がないように会場内を探索するというところまで行きました。これまでのインターンシップでの体験も含めて、多くの人を楽しませるためには裏方での仕事は非常に大変で重要なものだと思います。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップを通して、市役所の業務や公務員に対してデスクワークが多いというイメージを持っていたましたが大きく変わり、非常に多彩な業務があることがわかりました。

外で行った畑仕事や会場準備では力仕事など体力的に大変な作業でした。このほかにもPR活動など、これまでの自分からすれば市役所の業務とは思えないものばかりでした。しかし、数多くの貴重な体験ができるので、やりがいのある仕事だと思います。その中で、1つのイベントを成功させるためには準備段階から非常に多くの方が関わることになり、人間関係やコミュニケーションはとても重要であるということを感じました。同時に、多くの人と関わることは、コミュニケーション能力が必要不可欠であり、言葉遣いにも気を付けなければならないことも実感しました。2

週間、裏方として作業する中で、普段のイベントを楽しむ側からは見えない、人を楽しませる側の裏方としての苦労や大変さもわかりました。また、多くの人と関わり、一緒に作業する中で、働くということには責任が伴うのだと思いました。数多くの業務や貴重な体験をすることで公務員や市役所での仕事にこれまで以上の興味を持ち、固定観念に囚われていたものから視野を広げることもできました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに興味があるなら参加してほしいと思います。なぜなら、インターンシップに参加することで、普段の大学生活ではできない貴重な体験が実際の社会の中でできるだけでなく、自分の持つ仕事へのイメージと実際の仕事内容との差を、身を以て感じることで自分の視野を広げることにもつながるからです。就職活動やこれから社会に出ていくにあたって、自分に不足している能力や課題を見つけるきっかけにもなります。また、実際にインターンシップに参加してみて、得るものも多かった反面、反省として受け入れ先について情報を把握しておくことや、基本的なマナーや言葉遣いを整理しておくことが事前の準備として大事なことだと思います。インターンシップでの経験は自分を成長させ、その後の大学生活や就職活動など、将来について考えるきっかけにもなるので、このチャンスをぜひ活かしてほしいと思います。



いばキラTVの取材を受けて（写真左）



イベント実施の大変さ

那珂市役所 産業部 商工観光課

瀧澤 美空（3年）



1. 参加の動機

就活が来年の3月に迫り、焦りがある一方で自分がどのような仕事に就きたいのか、ということが漠然としたままでした。明確だったのは、1つは地域の住民と距離が近く、直接関わり合いを持てるような仕事に就きたいということ、二つ目は観光の分野の仕事に興味を持っている、ということでした。この二つの条件に適している仕事は、と考えたところ、市役所の商工観光課ではないか、と考え市役所でのインターンシップを希望しました。那珂市役所を希望したのは、私は長野県出身ですが、母の実家が那珂市であったため、幼いころから頻繁に那珂市を訪れていたこともあって、身近に感じていたためです。

また、実際に研修という形で働かせていただいて社会を経験し、就活に対する意識を高める良い機会だと思い、インターンシップに参加することを決意しました。

2. 派遣先の概要

私がお世話になった那珂市役所商工観光課は、①観光イベントによる地域活性化②観光資源の発掘と活用③観光情報の発信の三つをメインとし、地域資源を生かした観光の振興を図る業務を行っています。那珂市役所産業部のもと商工観光課があり、その中で商工と観光に分かれています。今回のインターンシップでは観光イベントの補助が主であったため観光関連の仕事がメインでした

が、商工の仕事も体験させていただきました。

3. 活動内容

インターンシップの10日間は、8月30日に行われる「なかひまわりフェスティバル」に向けての準備の補助が主な業務内容でした。このフェスティバルは今年で19回目を迎えた那珂市最大級の観光イベントであり、県内外から約5万人の来場者が訪れます。

具体的な活動内容はひまわり迷路の作成、なかひまわりフェスティバルのPR（テレビやラジオの取材同行、出演）、会場準備、当日のイベント補助やこのフェスティバルに関する作業などでした。また商工関連では、このフェスティバルの最後に行われる花火大会の警備に関する会議に同行したり、カミスガワーホリツアーズという那珂市商工会と一般社団法人カミスガプロジェクトが企画した職業体験ツアーの取材に同行したりしました。

4. エピソード

10日間のインターンシップで、まず1つ目に印象に残っているのは、ひまわり迷路の作成です。汗だくになりながら、時には雨天での作業もあり、泥だらけになりながら作成しました。非常に大変でしたが、迷路の完成後、沢山の人が訪れ、迷路に苦戦している様子を見ることができ達成感を味わうことが出来ました。

2つ目はイベントPRの一環としての様々な取材

に同行させていただいたことです。茨城放送のラジオ収録では中継車内で収録しているラジオを生で聞いたり、いばキラTVの撮影では出演もさせていただいたり、普段の生活ではなかなか経験できないことをさせていただくことができました。炎天下の中、ひまわり畑で着ぐるみの撮影に参加したことはとても印象深い思い出です。

このように商工観光課の業務を多岐にわたって経験させていただきました。

5. わかったこと、学んだこと

市役所のイメージが大きく変わった、ということが挙げられます。当初は市役所に対して少し堅いイメージを持っていましたが、商工観光課は他の企業との関わりや、観光PRなどの業務が主になるので外回りが多く、外作業も多いためラフな服装の方がほとんどで、課内の雰囲気も和やかでした。

また、インターン中は外回りに同行させていただくことが多く、商工会の方や商店を営む方々とお話することが出来ました。商工観光課は地域の方々と距離が近いということ、身を持って体験することができ、貴重なお話を聞くことが出来ました。

実習を通して、商工観光課の職員の方々は那珂市にある観光資源を生かしてどのように集客しリピーターとしてまた那珂市を訪れていただくか、ということを中心に考え試行錯誤されているということがひしひしと伝わってきました。

6. 後輩へのアドバイス

イベント前という1年で一番忙しく、慌ただしい時期にインターンシップをさせていただいた、ということもあり私たち学生には出来ない仕事も沢山あったため、空き時間が思いのほか生まれてしまいました。何度か「お手伝いできることはありますか？」と職員の方に伺いましたが、「大丈夫です。」と言われること多く、仕事の邪魔になってしまうのではないかと考えてしまい、その後空き時間はインターンの日誌を書いたり、いただい

た資料を見返したりする時間にしてしまいました。今となっては考えてみると、もっと積極的になればよかったな、と思います。職員の方の行動を観察して自分たちが手伝っても問題なさそうであれば、細かいことでも積極的に手伝いを申し出ると良いと思います。

また、作業中に出てきた疑問点は積極的に質問すべきだと思います。直接お話を聞ける良い機会だと思いますし、インターンシップをより有意義にするために大切なことだと思います。私はゼミでの調査内容と少し被る点があったので質問点はメモに書き留めて、時間がある時にまとめて伺いました。インターンシップは社会で働くことを経験できる、非常に貴重な機会です。ぜひ参加してみてください。



見晴らし台から見たひまわり畑



いばキラTV撮影風景
(ナカマロちゃんとアナウンサーさん)

市民のニーズを引き出す コミュニケーション

那珂市役所 産業部 農政課

松本紗生子（3年）



1. 参加の動機

私が今回インターンシップに参加しようと考えた理由は、市役所で働くということがどのようなことか、実際に体験してみたいと思ったからです。私は将来、公務員を希望しており、特に住民と密接に関わることができる市役所に勤めたいと考えています。しかし、市役所は人々の暮らしを支える役割を担っているという漠然としたイメージしか持っておらず、具体的に市役所が何をしているのかは分かりませんでした。実際に業務の一部を体験し、職場の雰囲気を知りたいと思い、今回参加を決めました。農政課を希望した理由は、農業に興味があり、行政が町の農業にどのように関わっているかを知りたいと思ったからです。

2. 派遣先の概要

那珂市役所は本庁と瓜連支所うりづらに分かれていて、農政課は本庁にあります。農政課は農業振興グループと農村整備グループの二つに分かれており、それぞれ農畜林業の振興、農業基盤やため池の整備・管理をおこなっています。私は両方のグループの業務を体験させていただきました。

3. 活動内容

2週間のうちおよそ半分の時間は、市役所の外での活動でした。内容を大別すると、話し合いへの参加・市内施設の見学・直売所での研修・デスクワークの四つに分けられます。

話し合いは、旧余暇有効活用施設（しどりの湯）の再利用法検討会と、畑地帯総合整備事業（畑の

区画整備）の二つを見学させていただきました。両日とも、一般の方や農家の方がメインに意見を出し、市や県の職員が質問に答えたり、意見をまとめたりしていました。内容が非常に専門的で、流れについていくのが精一杯でした。

市内施設の見学ではおもに集落排水処理施設、ダム、ため池など水資源に関わりの深い施設に行きました。農業というと、つい作物が実る田畑に目が行ってしまいがちですが、この日は、市内の水づくりが果たす役割を学びました。



御前山ダム内部の見学

直売所研修では、芳野直売所と「とんがりはつと」で1日スタッフとして働くという体験をさせていただきました。レジでの袋詰め作業の手伝いやバーコードの作成をおこない、手が空いた時は農家の方やお客様と話したり、店内の観察をしたりしました。

デスクワークは、旧余暇有効活用施設の再利用方法検討会のテープ起こしと名簿作成をおこないました。この他にも、市民農園のトラクターのガ

ソリンを補充したり、常陸太田市で開かれた講演会に参加したりしました。

また、インターンシップ前の希望調査で農政課以外に防災課を希望していたということもあり、備蓄庫を見学したり、防災課の方にお話を伺ったりする機会を設けてくださいました。

4. エピソード

農政課で研修をしてはじめて感じたことは、デスクワークと同じくらい外に出ることが多いということです。市内の水田や畑、農業関連施設の現地調査に行ったり、公民館で行われる農家の方との話し合いに参加したり、時にはため池の整備のためにチェーンソーで木を切ったりすることもあるそうです。想像以上に市役所の外での業務が多く、驚きました。

また、外に出る機会が多いということで、市役所職員以外の方とお会いする機会が多々ありました。検討会では、出席者の方々の、市の現状を踏まえた厳しい意見と、那珂市をよりよくしたいという情熱にただ圧倒されるばかりでした。帰り際、出席者の方に「若い人の新鮮な意見をもっとたくさん取り入れられたらいいんだけどね。那珂の将来を背負うのはあなたたちだから。頑張ってね！」と声をかけていただいたことが非常に印象的でした。直売所では、農作物の陳列に来た農家の方やお客様は、私の顔を見るとすぐに「今日から新人さんが来たんだね。」と声をかけてくださり、直売所が地元根深く根付いている存在であることを実感しました。

5. わかったこと、学んだこと

私が2週間で最も強く感じたことは、コミュニケーションがいかに大切かということです。インターンシップ期間中、本当に多くの方とお会いする機会がありました。市役所の方をはじめ、農家の方、県の行政の方、直売所に買い物に来たお客様、直売所のスタッフの方…さまざまな立場からの意見を聞かせていただくことで、1つのものごとを多面的にとらえることができました。また、行政の方が一般市民の方と目線の高さを同じにして、時折冗談を交えながら対等に話をしている姿

が非常に印象的でした。市民のニーズや本音を引き出すには、普段からの信頼関係が重要だと学びました。コミュニケーション能力の大切さを知ったと同時に、自分にまだまだ足りていない部分であると痛感しました。

6. 後輩へのアドバイス

私からのアドバイスは、普段の大学の講義をしっかりと聞くということです。今回のインターンシップの中で、まちづくりについて考える機会があり、人文地理学で学んだことが大いに役立ったと同時に、もっとここを詳しく勉強しておけばよかったと思うところもありました。市役所では、数年に一度のペースで課の異動があり、将来さまざまな分野で働くこととなります。自分が今勉強していることが、何年後、何十年後必要になってくるかもしれません。また、慣れないデスクワークは意外と体力的にきつく、集中力が最後まで持たないことがありました。市役所は午前と午後が約4時間ずつなので、1時間半の講義に比べてかなり長く感じました。集中力に自信がない人は、まず普段の講義をしっかりと聞くことから始めることをお勧めします。

インターンシップ期間中のアドバイスとしては、体調管理にいつも以上に気を配るということです。わたしはインターンシップ中盤に体調を崩し、派遣先の方々にご迷惑・ご心配をおかけしてしまいました。限られた期間を十分に活用するためにも、普段以上に体調管理を徹底してください。

最後になりますが、農政課の皆様をはじめ、インターンシップ中にお世話になったすべての方に御礼申し上げます。大変お忙しい中、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。



芳野直売所でインタビュー（右が筆者）

市役所職員と信頼関係

那珂市役所 保健福祉部 社会福祉課

南 陽子（2年）



1. 参加の動機

大学2年生になり、将来について真剣に考え始めた今日この頃。私は、高校生の頃から漠然とではありますが、市役所職員になりたいと考えていました。しかし、実際にどのような仕事をしているのかは良く分かっていませんでした。今回このような機会をいただきましたので、本やインターネットでは得られない情報を得たり、学校では出来ない経験をしたりして、それらを将来の職業選択の時に活かしていきたいと思い、参加を決意しました。また、私は“働く”ということは、文字通り“人のために動く”ことだと考えています。その点で市役所職員は、地域のため、市民のために尽くしているので、とても尊敬しています。そのような方々に直接、働くことの意義ややりがいを感じるチャンスはなかなかありません。

社会人になるにあたって、今の自分に足りないもの・必要なものを知るためにも良い機会だと思います、参加させていただきました。

2. 派遣先の概要

私がお世話になった那珂市役所社会福祉課は、生活福祉グループと障がい者支援グループの2つに分かれています。業務内容は様々ですが、前者は主に生活保護の決定及び実施、保護費の支給、民生委員・児童委員及び同協議会に関すること、後者は障がい者全般に関する業務となっています。

3. 活動内容

臨時福祉給付金に関する業務が中心でした。臨時福祉給付金とは、平成26年4月からの消費税率引き上げに際し、所得の低い方々への負担の影響に鑑み、暫定的・臨時的な措置として支給されるものです。これは書類に必要事項の記入と身分証のコピーが必要なのですが、全体の約3分の1に不備があり、再送しなくてはなりませんでした。私はその再送先の住所をパソコンで入力し、それをシールにしたものを封筒に貼りつけたりしました。住所入力は大量だったので、1日では終わりませんでした。また、市民から送られてきた封筒を開けるだけでも、時間がかかってしまいました。その臨時福祉給付金に関する同意書を、番地順に並べる作業もしました。

他にも、総務課からのメールをパソコンに打ち込んだり、日本赤十字社の寄付金集めに同行したりしました。

4. エピソード

2週間のインターンシップのほとんどは市役所内の作業でしたが、1日だけ市役所外の仕事に同行しました。その内容は、日本赤十字社の方と一緒に寄付金を集めに行くというものでした。実際に法人や個人に寄付をお願いするときに、当たり前ですが、スムーズに行く場合とそうではない場合があります。人にはいろいろな考え方や事情があります。それを最初から否定するのではな

く、理解しようとする、受け入れようとする姿勢が大切だと思いました。

また、市役所の者です、と名乗るだけで、ご苦労様です、などと労いの言葉をかけてもらえるのも、長年築き上げた‘信頼関係’の証だと思いました。市民との距離が近いからこそ、職員の頑張りを見てくれている人、知ってくれている人が多いのではないのでしょうか。臨時福祉給付金の封筒を開封していたときにもそれを実感しました。封筒の中に、書類と一緒に手紙が入っていることが多々ありました。その手紙には、感謝の言葉が綴られていました。そういった手紙は、市役所職員にとってとても励みになると思いました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップでわかったこと、学んだことは大きく分けて3つあります。

1つ目は、市役所ではどこの課に配属されるのが採用後にわかるので、大学で学んだことを実際に活かせる可能性は低いということです。私は、逆にそのほうが一からスタート出来るので良いと思いました。また、課によって仕事内容が全く異なることも学びました。頻繁に外出する課もあれば、ほとんど市役所内での作業の課もあります。課の移動は数年ごとにあるそうです。

2つ目は、私自身のパソコン操作技術の未熟さです。これは企業にもいえることですが、市役所ではパソコンを使っただけの作業が主なので、パソコンにもっと詳しくなっておく必要があると感じました。また、社会人になって恥ずかしくないように、今のうちから正しい日本語・敬語を身につけておきたいです。そのためにも、大学内はもちろん、大学外の繋がりも大切にし、様々な年代の人との交流を積極的に行っていきたいです。

3つ目は、コミュニケーションについてです。接客の際には、市民の方にご理解・納得してもらえるような話し方をする必要がありますと思いました。出来ないことをただ出来ないと言うのではなく、理由や経緯を丁寧に分かりやすく説明することで、市民の方に納得していただけることが分かり

ました。それは、自分に心の余裕がないとできないことだと思えます。

また、職員同士のコミュニケーションも大切です。職員同士が‘信頼関係’を持ち、お互いをフォローし合っているからこそ、効率良く仕事ができるのだと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

今まで市役所職員の仕事についてぼんやりとしたイメージしかありませんでしたが、今回のインターンシップを経験して、仕事内容はもちろん、将来自分が職員として働いている姿を、少し想像することができました。私は、2年生でインターンシップに行くことが出来て良かったと思います。実際に現場を見る、仕事を体験してみることは早いに越したことはありません。

今回のインターンシップで、那珂市役所社会福祉課の皆様は、ご多忙中にもかかわらず、大変親切なご指導をしてくださいました。本当にありがとうございました。

このように、企業や市役所の方々はお忙しい中、インターンシップをする学生を受け入れてくださっています。常に感謝の気持ちを忘れないでください。インターンシップをする前は、不安や緊張でいっぱいだと思いますが、一生懸命に頑張ればきっと良い経験になると思えます。是非、勇気を持って参加してみてください。応援しています。



↑パソコンでの打ち込み作業の様子

安心、安全を守るという責任

—防災情報システムモニター画面改訂作業を通じて—

東海村役場 村民生活部 防災原子力安全課

渡邊 麻奈（3年）



1. 参加の動機

インターンシップに参加させていただいた理由は大きく分けて2つあります。1つは、以前から公務員に興味を持っていたものの明確なイメージが持てずにいたからです。更には企業への就職と迷っており、公務員試験を受けるべきかどうかを考える為にもインターンシップへの参加を決めました。

もう1つは、1999年のJCO臨界事故を村民として実際に経験したことです。当時小学1年生だった私には詳しいことは解りませんでした。数か月後担任の先生が「教員の集まりで『東海村から来た』と言っただけで周りに嫌な顔をされた」と言っていた記憶は今でも鮮明に覚えています。この様な科学的根拠のない、感情から生じた被害は現在でも有り得ることです。そうした被害から守り、村民の方に安心して頂く為にデータを採取する放射線測定に興味を持ち、志望しました。

2. 派遣先の概要

東海村役場防災原子力安全課は、防災防犯・交通安全から原子力安全対策まで幅広く対応し、自然災害や原子力災害など複合災害に対応した業務を行っています。原子力安全担当部門は、原子力災害発生時に村民が県南地域に避難する「広域避難計画」を策定したり、除染計画エリアに指定されている村内の公園等の空間放射線量の測定をしたりなど、原子力発電所の立地自治体で暮らしている村民に安心して生活して頂く為の業務を行っ

ています。また防災防犯・交通安全部門では、村内のパトロールや防犯・交通安全指導員による講習会の開催などを行い、安全・安心のまちづくりを目指しています。

3. 活動内容

私は原子力安全対策部門では、日本原子力研究開発機構那珂総合研究所にて抜き打ちで行う通報訓練の立ち会い、JCOの雑排水のサンプリング採取、真崎古墳群の空間放射線量測定、食品の放射線測定作業などを行いました。通報訓練では訓練終了後の模擬記者会見にも出席させていただくなど、普段では立ち入ることすらできない場所で貴重な体験をすることができました。

更には事務作業も経験させていただき、広域避難計画説明会で住民から寄せられた意見票に目を通し、意見の内容ごとに分類して表計算ソフトに入力したり、実際に原子力災害が起こった際に、自治体ごとのバスの乗り場が住民にひとめで伝わる地図を作製したりしました。

防災防犯・交通安全担当部門では、村民に無料で貸し出している防災ラジオや消防団が使用する無線機の組み立て、各コミュニティセンターに配置した災害時救援自販機の確認を行いました。

4. エピソード

私は原子力安全対策部門で主に活動していましたが、最も責任のある仕事だったのは、防災防犯・交通安全担当部門での防災情報システムモニターの画面の全面改訂作業です。防災情報システムモ

ニターとは、東海駅や各コミュニティセンター等
主要施設や基幹避難所に置かれているもので、災
害発生などの非常時に必要な情報を表示して村民
の生命や財産を守る為の役割を担っています。

今回の作業の中で、一番悩んだのは大津波警報
発生時の画面でした。基幹避難所に設置されてい
る為、決して引き返さない様にとという文言にしま
したが、「もし避難所の方が自宅より海拔が高
かったら」、「敬体では危機感に欠けるのではない
か」、そして「これで本当に村民の命が守れるの
か」ということが頭に浮かび、村民の命や財産を
守る一言の重みや責任が感じられました。しかし
責任が大きい分だけやりがいを感じ、成し遂げた
ときには大きな達成感が得られました。

この2週間、特に大きな失敗はなく実習を終え
ることができましたが、唯一失敗したと感じたの
は屋外での空間放射線測定の前日に言われたこと
を忘れてしまったことです。「蚊の量が凄いから
虫よけ対策はしておいた方が良いでしょう」と担当者
の方が仰っていたのですが、当日その言葉を忘れて
しまい、65箇所も蚊に刺されてしまいました。

今回は担当者の方も当日改めて注意を促すこと
を忘れていたほどで、「蚊に刺される」という小さ
な事象でしたが、注意を受けた内容・ケースによ
っては大きな事故にもつながるので、作業をす
る上で自分の身に危険が及ぶ可能性があるという
忠告があるときはしっかりと覚えておくことが大
事だと思いました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップに参加させていただいて分
かったことは、どんなに単純で単調な作業であ
っても尊く、そして誰かの為になることなのだ
ということです。

2週間の実習の中には、市民団体の訪問の対応
をしたり、東京電力の方の事業説明を聞いたりな
ど、人と直接繋がる仕事をした一方で、1人でひ
たすらパソコンに向かってデータ入力をしたり、
機器の組み立てをしたりと単純な仕事も多くあ
りました。

一見地味であり、一人で完結してしまう様にも

思われますが、例えば広域避難計画に寄せられた
意見を集約することによって、更に実効性のある
計画になります。また、防災ラジオを組み立てる
ことによって、借りに来た住民の方へ大事な放送
がはっきりと伝わるようになります。どちらにし
ても、単純作業が誰かの助けになったり、命を
救ったりするのです。

これまで東海村でJCO臨界事故や東日本大震災
を経験してきましたが、この様な災害時に助けに
なったものの背景には単純で単調にも思える作業
があることなど想像もつかず、今回の実習でそう
した作業の尊さを知ることができました。

6. 後輩へのアドバイス

先述したように、私はインターンシップに参加
させていただく前は公務員について、更には将来
について明確なイメージを持てずに「何となく」
過ごしていました。しかし、実習の中で社会人と
して大きな責任ややりがいを感じたり、職員の方
や事業所の方との交流をしたりする中で、「こん
な職場で働いてみたい」、「こんな仕事をしたい」
と思うことが多々あり、この2週間で将来に対
するイメージが明確に持つことができ、意識改革
がなされました。

当然のことながら、このインターンシップはバ
イトではありません。社会人として実習させて
いただくだけに、大きな責任が伴います。しかし
その分、インターンシップでしか得られないもの
も多いと思います。参加するか迷っている、もし
くは将来に対してイメージを持っていない方はぜひ
参加してみることをお勧めします。きっと何か変
わるはずです。



放射線測定作業

積極的に行動することの必要性

笠間市役所 都市建設部 まちづくり推進課

青柳 芽衣（2年）



1. 参加の動機

今回私がインターンシップに参加した理由は二つあります。1つ目は、自らの将来について考えようと思ったからです。私は将来就きたい職業が明確ではありません。そのため、インターンシップを経験することによって、仕事に就くということと、自らの将来についてしっかり考えようと思いました。2つ目は、大学生の時にしかできないことをしようと考えたからです。

また、市役所を選択したのは、現在、地域活性化や観光に興味を持っていたからです。地域をよくするために市がどのような活動を行っているのかをインターンシップの中で知ることができたと考えていました。

2. 派遣先の概要

笠間市役所まちづくり推進課は、「まちづくりグループ」と「企業誘致推進室」の二つに分かれて業務を行っています。業務内容は、地域づくり・地域振興・定住化促進はもちろん、企業誘致などさまざまな分野にわたって活動しています。そのため、市民の方々はもとより、各種地域に関連したイベントや企業との関わりが多く、市役所内での作業はもちろんのこと、市役所外での業務も多くおこなっています。

3. 活動内容

会議に関係する資料の作成や、空き店舗調査の結果データの整理といった事務作業といった市役所内での業務に加えて、笠間市内にある空き店舗

の調査、空き家バンクの視察、企業推進室の業務である企業訪問などといった、市役所の外で行う活動にも数多く同行させていただきました。そのほかにも、市議会の傍聴、笠間市内を紹介する小冊子の校正に参加させていただきました。また、このような活動の合間にも、市職員の皆さんに笠間市内の主要な観光地や商店街を案内していただき、笠間市内の現状や魅力を教えていただきました。

4. エピソード

公務員の仕事というと、事務作業の多いイメージがありました。しかし、実際にインターンシップに行ってみると、市役所内ではもちろんですが、市役所外でも、様々な方と関わる業務が多くありました。笠間市内の空き店舗や空き家調査では、地図を持って自らの足を使って調査を行いました。笠間市内は広いため大変でしたが、実際に歩いてまわることで、空き店舗かどうかだけではなく、店舗の状態も知ることができました。

また、私はまちづくりの中でも観光関係について興味を持っていました。そのため、笠間市内を案内していただいたことはもちろん、笠間市内を紹介する小冊子の校正の段階を見させていただいたことは貴重な経験になりました。発刊されるまでに、たくさんの方にアドバイスを受け、多くの時間や労力をかけて1つの冊子が作られていることを直に感じることができました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップを通し、市役所の仕事は事務作業だけではなく、地域のために多くの方と関わる仕事であるということがわかりました。空き家調査では、ただ空き家を調べるだけではなく、地域の方とコミュニケーションをとりつつ、空き家を調査していました。さらに、笠間市内にあるお店や企業とも密接にコミュニケーションをとっていることが印象的でした。また、ひとえに「まちづくり」といっても、さまざまな業務が含まれていることを知りました。市が所有する建造物である「笠間の家」の説明や、工業団地への企業誘致が入ることは知りませんでした。特に、工業団地へ企業を誘致することが、市にとってどのようなプラスの影響を与えるかということは、教えていただかなければわからないままであったと思います。

また、インターンシップを通じて、日常生活面で、自らに未熟な面が多くあることを実感しました。たとえば、コミュニケーションを円滑に図るための敬語の使い方や言葉の選び方、社会人として仕事をしていく上での立ち振る舞いなどまだまだ至らない点が多いことに気づき改善すべきだと思いました。それに加えて、疑問に思ったことをすぐに質問することの重要性を改めて実感しました。インターンシップ先では、わからないこと、はじめての経験が多くありました。疑問を疑問のままにして、自己完結してしまうと、業務に支障が出てきてしまいます。そのため、少しでも疑問に思うことがあれば、積極的に質問するように心がけました。

9日間というインターンシップの期間を通して、まちづくり推進課の仕事は、業務の種類の多様さはもちろん、人と関わる機会も多いため、苦勞の多い仕事ではありますが、結果を身近に感じることができ、とてもやりがいのある仕事であると感じました。また、仕事に向き合う真摯な態度も学ぶことができました。このような発見ができたのは、緊張していた私を、やさしく受け入れてくださったまちづくり推進課の職員の方々のおかげ

です。本当にありがとうございました。改めてお礼申し上げます。

6. 後輩へのアドバイス

私はインターンシップに興味があるのであれば、参加してみるべきだと思います。インターンシップはお金も時間もそれなりにかかります。加えて、知らない場所に飛び込むために、緊張や不安もあるでしょう。しかし、インターンシップに参加したことで、職員の皆さんからお話を伺ったり、どのような仕事をしているのかを実際に知ることができたり、今まで持っていたイメージとは違う新たな発見をする良い機会を得ることができました。

また、将来就きたい職業のはっきりしていない人でもインターンシップに参加してみるべきだと思います。行ってみることで、興味のある職業がはっきりしたり、それまで考え付かなかった自分になりたい職業を発見できたりすると思います。私は就きたい職業がはっきりしていませんでしたが、インターンシップに参加したことで将来が見えてきました。

積極的に行動することで、得るものが多いのがインターンシップだと思います。不安に負けず、積極的にチャレンジしてみてください。



空き家調査の様子



事務作業の様子

まちづくりという仕事と 感じた熱意

笠間市役所 都市建設部 まちづくり推進課

福島 健太（3年）



1. 参加の動機

就職先について公務員と民間企業のどちらを目指すか明確に決まっておらず、インターンシップの経験がひとつの目安になればと思い、参加を希望しました。また、大学生活も3年目に入り、就職活動の時期も近くなったことで、インターンシップをきっかけに就職活動に意識を向け、これまでの自身の生活を見つめ直すきっかけにしたいと考えました。

2. 派遣先の概要

笠間市役所のまちづくり推進課はまちづくりグループと企業誘致推進室のふたつに分かれます。その業務内容は、住民の定住化や商店街の活性化、観光業の促進や企業の誘致など多岐にわたります。特産品の認知を広めるためのワークショップなども行い、地元住民と直接コミュニケーションを取る機会も多く、市役所外での業務が多いことも特徴です。

3. 活動内容

デスクワークが中心で、文章の作成や名簿の作成、自身の行った業務のデータ整理などをおこないました。また、職員さんと一緒に市内の主要な観光地、商店街を見て回り現状の把握をおこないました。また、空き店舗調査や企業誘致推進室の業務である、企業訪問などの市役所外での作業にも数多く同行させていただきました。また、市議

会を傍聴や「笠間の家」（世界的に有名建築家である伊藤豊雄さんが設計した文化的価値の高い建築物）の指定者管理のヒアリングなど、行政運営の重要な場に参加させていただくことができました。

4. エピソード

実際には公務員、市役所勤めといっても、その業務は多岐にわたることは理解していましたが、インターンシップに参加するまでは、イメージばかりが先行し、公務員というと事務作業やデスクワークが中心でお堅い仕事であると思っていました。実際はそんなことはないインターンシップに参加した友人の話聞いても、自身で経験するまでは、イメージができませんでした。しかし、私が派遣されたまちづくり推進課は少し特別で、派遣された2週間の中で同行した業務だけでも市役所外部の仕事は想像以上に多かったです。

また、職員さんの生の声を聞く機会は大変貴重でした。話を聞いてみると、笠間というまちをもっといいところになりたい。定住化を推進し、活気のあるまちにしたいと熱意を持っている方が多く、素晴らしい職場だと感じました。

また、現地に足を運び、自身の目で直接地方の衰退の現状を見ることが出来ました。今回のインターンシップで、笠間市における岩間地区と友部地区の空き店舗調査に同行させていただきましたが、空き店舗が想像以上に多く驚きました。こう

した、調査結果を踏まえて、住民や商店街の方々とコミュニケーションを取り、まちづくりを進めていくという話を聞き、事務作業以外の業務をイメージするいい経験になりました。

笠間の家という、笠間市の貴重な建築物の指定管理者を決めるヒアリングに関しては、市民活動を実践する数団体の生の声を聞くことで、地域活性化、まちづくりの現場の熱意を感じ、まちづくりに興味を持つきっかけになる、貴重な経験でした。

5. わかったこと、学んだこと

今回の2週間のインターンシップを通じて、住民の方と接する機会が多く、コミュニケーションを円滑にするための正しい言葉遣い、社会人として仕事をしていく上での立ち振る舞いなど未熟な面が多いことに気づきました。学生として、講義を受けているだけでは気づくことが出来ない点であるため、自身の生活を見直す、いいきっかけとなりました。

実際の業務面では、住民の声を聞く機会が多く、結果が自身の元へ届きやすいため、やりがいを感じる素晴らしい仕事だと感じました。それと同時に、住民との距離が近いため、上部の指示と住民の希望との間で板挟みになることも多く、苦勞の絶えない仕事でもあると、実際に仕事をさせていただくなかで肌で感じました。

また、平日は定時で仕事が終わらないことも多く、休日も市内のイベントに精力的に参加します。与えられた業務外の活動を主体的に行う。それは、まちを元気にしたい。もっと、活気のあるまちにしたいという職員さんの熱意が根幹にあります。そうした活動を続けていくことが地域に根付くということだと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

自分自身の進路を考えていく中で、実際に経験したことは選択を決める大きな要素になると思います。自分の目を見て、肌で感じたものほど信用できるものではありません。進路が決定している人

はもちろんのこと、進路が決まっていない人もインターンシップに参加することを勧めます。大学生には自ら自発的に行動しない限り、社会人の方と接する機会はまずありません。インターンシップはそのきっかけを与えてくれます。

また、これは小さなことですが朝早く起きて、夕方まで仕事するという生活を2週間することは、実際に社会に出て、働くということをイメージするいい経験になります。また、自身の時間の使い方、生活習慣を見直すことにつながるのではないのでしょうか。

それに加えて、社会人の方の話を直接聞くことはとても貴重な経験です。それだけでも価値があるように思います。

インターンシップで得た知識や経験が、すぐに自分の実にならないこともあるかもしれません。しかし、いずれどこかで参加して得た知識や経験は必ず役立ちます。参加して良かったと私は言い切れます。少しでも興味があるのなら、参加してみましよう。とにかく、経験することが全てです。



空き店舗調査の様子



事務作業中の様子

社会人には見えて、 自分には見えないもの

石岡市役所 総務部 総務課

白田 龍弥（2年）



1. 参加の動機

私は、公務員として働くことを将来の選択肢の一つとして考えています。そのため、卒業後の進路について自分なりに考え、学内の就職ガイダンスへの参加、資格勉強など将来の就職に向けて努力しています。しかし、公務員の職務については漠然としたイメージしかなかったので、ミスマッチを回避するためにインターンシップを通して、自分の職業適性、職場の雰囲気、職務内容について知り、現在の大学生活に対する姿勢を見つめ直す機会にしたいと考え、参加を決意しました。

2. 派遣先の概要

石岡市役所は、本庁と八郷総合支所に分かれており、私がお世話になった総務部総務課は本庁に置かれています。総務部は総務課のほか、防災対策課、契約検査課、情報政策課の四つの課で構成されています。総務課は議会や市の行政一般、職員に関する事務をおこなっている部署です。

3. 活動内容

私のインターンシップ11日間での活動内容は主に三つあります。

1つ目は、石岡市暴力団排除条例施行3周年記念としておこなわれた「石岡市安全・安心まちづくり市民大会」の準備です。具体的には、参加者用に配布する参加品（手ぬぐい、うちわ、ボールペン、クリアファイル）と大会パンフレットの準備作業、大会宣言の横断幕作成、大会中に使用する楽器の搬入をしました。参加品の準備作業では、

約1,000人分を用意しなければならず大変でしたが、総務課の皆様のご指導を受けながら、丁寧かつ迅速にこなすために集中して作業しました。大会当日は主に裏方として、大会進行に沿ってステージ上で使用するものの用意をおこないました。

2つ目は、平成26年第3回石岡市議会定例会用の資料の準備です。提出議案は法改正にともなう条例の制定・改正や補正予算などに関するものでした。私がおこなったのは、議案の体裁と誤字・脱字の確認、議案ごとのホチキス留めでした。市で扱う公文書類は市の公文規程で定められており、市議会議員の方や市役所職員の方も使用するのでとても緊張する作業でした。議会開会日には議会の様子をモニター越しに傍聴させていただくという貴重な体験をすることができました。

3つ目は、文書の引継ぎ作業です。文書の管理もまた市の規程に定められています。引継ぎとは、各課で保管されていた文書を書庫での保存に移すことであり、のちに情報公開などで請求されたときに備えて文書の所在を明確にしておく必要不可欠な作業で、総務課の重要な職務の1つです。今回、引継ぎをした文書ファイルは子ども福祉課のものでした。引継ぎ作業をする際には、文書ファイルに抜けや名称のミスがあった時のために今まで保管していた課の職員の方とおこないます。引継いだ文書ファイルの量は段ボール箱約20箱分に及びました。

4. エピソード

最初の4日間ほどは緊張していましたが、職員の方々は私に対して、懇切丁寧に業務の内容や手順を教えて下さり、わからないことがあって質問をした時にも優しく対応していただいたので、残りの期間中は適度な緊張感を持って業務に臨むことができました。職員の方の中には茨城大学出身の先輩方もいらっしゃったので、公務員の仕事が身近に感じられ、自分が公務員として働くという実感を持つことができました。

実習期間中、職員の方に褒めていただく機会がありました。いくつかの失敗もありました。市役所宛ての郵便物は一度総務課に届けられ、総務課で仕分けて各部署に配達されます。特に書留郵便が届いた際には、それらがどの部署宛てであるかをパソコンに打ち込み、各部署に届けて受領印をいただかなくてはなりません。その作業で、私は自分の思い込みと確認不足により、本来の宛て先とは違う課に配達してしまいました。また、市役所利用者の方に、ある窓口の場所を聞かれた際には私が配置図を把握していなかったために、職員の方に頼り、利用者の方も待たせてしまうという形になってしまいました。そんな私の失敗にも優しくフォローして下さった総務課の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。

5. わかったこと、学んだこと

私は、インターンシップを通して総務課の皆様のお話や仕事に対する姿勢から多くのことを学び、新たなものの考え方を持つことができました。職員の方の中には誰ひとりとして、自分の仕事が終わったからといって休む人はおらず、お互いにフォローし合いながら次々と仕事をこなしていました。職場内では仕事に関する事務的な会話だけでなく、和気藹々とした会話も交わされていて、今まで私がイメージしていた堅苦しい雰囲気ではありませんでした。組織として正常かつ効率的に運営していくには、協力し合うことと円滑なコミュニケーションが必要なのだと感じました。また、どんな仕事にも必ず相手が存在することを考慮に入れて、常に相手のことを考える大切さ、

仕事の完成度を上げるためにも最良の方法を模索しつつ、第三者的な視点に立ち、冷静な判断をすることの大切さも学びました。市役所での仕事のやりがいをうかがった際には、県庁職員や国家公務員として働くよりも、市民の生活により近い存在である市役所で市民の「顔」を見ながら働くことができるという、市民を第一に考える姿勢にとっても感銘を受けました。

職員の方に見えている問題と私に見えている問題に隔たりがあり、もどかしさを覚えることがありましたが、そこがいま自分に足りないものなのだと痛感しました。将来、社会人として世の中に進出していく上で必要なものを、いまの自分がどれだけ備えていて、何がどれくらい備わっていないかを身をもって知ることができたので、これからの大学生活の中で改めようと考えています。

6. 後輩へのアドバイス

将来の進路が定まっている人もそうでない人も、ぜひインターンシップに参加することをお勧めします。参加をして得るものが何もないということは、まずありません。必ずあります。参加するにあたり色々と不安に感じ、躊躇する方がいるかもしれませんが、いま感じているその不安やためらいにも勝る達成感・充実感を味わうことができ、その後の大学生活に新たな刺激を与えてくれる貴重な機会になります。

インターンシップへの参加は社会人として歩んでいくための第一歩を踏み出す絶好の機会です。



市民大会参加品にスローガンステッカーを貼る作業

産業を支える仕事

銚田市役所 産業経済部 産業経済課

小野瀬雅輝（3年）



1. 参加の動機

私が今回、銚田市役所のインターンシップに参加させていただいた理由は3つあります。1つ目は、公務員の仕事はどういったものなのか、実際に体験してみたかったからです。公務員といってもさまざまな職種がありますが、その中でも私たちに一番身近な市町村単位の公務員ということで、市役所を希望しました。また、今回のインターンシップでの体験を、将来の進路の参考にしたかったからです。2つ目は、社会人として働くとはどういうことかを、肌で感じたかったからです。学生でいられる時間も残りわずかとなってきた大学3年の夏に、社会人として働くとはどういうことかを、肌で感じて、就職に向けての意識を高めていこうと思ったからです。3つ目は、銚田市は農業が盛んなのですが、市ではその地域の強みに対して、どのように取り組んでいるのか、興味を持ったからです。そこで、産業経済部の産業経済課を希望しました。

2. 派遣先の概要

銚田市役所は、本庁と旭総合支所と大洋総合支所に別れており、お世話になった産業経済課は、本庁の産業経済部にあります。産業経済部には産業経済課、商工観光課、地籍調査課の3つの課があります。さらに、産業経済課は、農政企画係、農業振興係、畜産林務係、それと農業振興センターに別れています。産業経済課の業務内容としては、農林水産業の振興、農作物や森林の病害虫

防除、家畜防疫、農業関係融資事業、土地改良事業、産地ブランドアップ、鳥獣保護及び捕獲等を行っています。

3. 活動内容

私は10日間で産業経済課の各担当分野の一部を体験させていただきました。活動内容としては大きく分けて4つ挙げられます。1つ目は、事務作業です。書類のコピーや封筒のシール貼り、パソコンを使ってのデータ入力、書類作成を行いました。2つ目は、現場作業です。主に農家さんがビニールハウスで使用したビニール等の収集をする廃プラスチック収集、造林事業の現地測量・確認、農産物の放射能検査、青年就農給付金対象者の現地確認、耕作放棄地の再生利用交付金に関する現地調査を行いました。3つ目は、現地視察です。JA旭選果施設内での光センサーによるメロン糖度検査を、現地で視察させていただきました。4つ目は、イベントへの参加です。海外食品バイヤー招聘事業と銚田地域農業改革フォーラムの2つのイベントに参加させていただきました。また、イベントの準備、受付、片付け等も行いました。

4. エピソード

私はインターンシップの期間中、現場での作業やイベントに同行させていただけることが多かったです。なかでも印象に残っているのは、海外食品バイヤー招聘事業です。これは、県産品の輸出促進へ向け、日本貿易振興機構茨城貿易情報センター（ジェトロ茨城）が8月22日に主催したもの

で、8月20、21日に都内で開催された食品展示会「アグリフードEXPO東京」に参加するため来日していた海外の食品バイヤー（欧州や東南アジアなど6カ国の食品バイヤー）を県内に招き、全国1位の産出額を誇るメロンや、伝統製法のしょうゆなどをPRしたものです。この視察には、ジェットロはもちろんのこと、県の職員やJAの担当者、加工業者、銚田市長までもがご出席されていました。銚田市としても産業経済課の方々が、会場の準備や片付け、銚田市産のメロンやブランド食品のPR等を行っていました。

私は、JA旭選果施設内での光センサーによるメロン糖度検査の現地視察に同行したあと、いこいの村沼沼でメロンや加工食品の試食会と、会場の片付けのお手伝いをさせていただきました。あとあとそこでの心残りとして思ったことが、試食会のPRのとき、海外食品バイヤーに緊張や英語が不安で積極的に話しかけられなかったことです。

この事業をとおして、市町村単位のひとつの小さな市が、このような海外輸出事業に取り組んでいることに非常に驚きました。また、この事業は今日のグローバルな時代に対応していて、とても印象に残りました。

今回のインターンシップで上記の事業も含めた様々な業務を体験してみて、銚田市の基幹産業である農業、その地域の強みに対して市が熱心に取り組んでいることがひしひしと感じられました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップに参加してみて、公務員の仕事が想像以上に多岐にわたっていることがわかりました。なんでも屋ではありませんが、そのようなくらい様々な業務を行っていました。また、学んだこととしては挨拶をしっかりと行うことです。社会人として働くということは、社会のさまざまな人と協力したり関わったりすることであり、今回のインターンシップを通してそれらのことをとても強く感じました。その上においても、挨拶をしっかりと行うことは基本中の基本でもあります。このことは、学生生活を送っているうえでは、中々気づきにくかった

点だと思います。

それから、公務員の仕事は税金を使ってさまざまなサービスや業務を行っているということですので、それは、限られた財源の中で、必要なサービスや業務を行わなくてはいけないということですので、つまり、用途先の明確化や確認、調査といったものが非常に大切になります。そのため、書類がたくさんあったり、細かなチェックをしていたりするということが、よくわかりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップ前の自分自身がイメージしていた仕事の内容というのは、ほんの一部であったということが、インターンシップを通して、とても感じられました。また、私はインターンシップをやる前は2週間は長いと思っていましたが、2週間はあっという間でした。それはつまり、非常に濃い時間であったからだと思いますし、有意義な時間を過ごせたからだと思います。アドバイスとしては、エクセルといったパソコン操作がある程度できるようにしておくといいと思います。

最後になりましたが、銚田市役所産業経済部産業経済課の皆様には、大変お世話になりました。担当業務を持ちながら、丁寧な対応をしていただいたことに、心から感謝申し上げます。温かく受け入れてくださったおかげで、貴重な経験をすることができました。本当にありがとうございました。

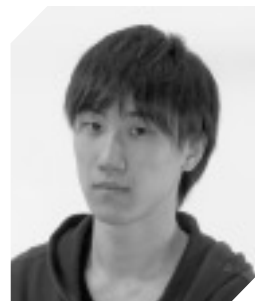


準備したブース

地域に根差して働く

鹿嶋市役所 企画部 企画課

君和田耕平（3年）



1. 参加の動機

私は、以前より将来は公務員になりたいと考えていました。しかし、公務員になりたいと漠然と考えているだけで、公務員がどういった仕事を行っているか詳しく知りませんでした。そこで、公務員の仕事がどういったものなのか、民間の企業とどういったところが違うのかを知りたいと思い、市役所へのインターンシップに参加しようと考えました。

2. 派遣先の概要

私がお世話になった企画課の業務は非常に多岐にわたっています。主なものとして、市内を走るコミュニティバスの運営や鹿島アントラーズと連携した地域の活性化に向けた取り組み、開発用地の管理などの土地管理業務、統計業務などを行っています。こういった業務以外にも様々なイベントを開催しており、鹿嶋市の活性化とともに市民の方々に住みやすいと感じていただける街づくりを行っています。

3. 活動内容

企画課は幅広い業務を担当しているため、様々な体験をさせていただきました。日常業務や会議への参加、窓口業務、市役所外での仕事などを行いました。日常業務では、市のホームページに鹿嶋に関する新聞記事を掲載する作業や統計データの入力、会議で使用する資料の作成などを行いま

した。市役所を出ての活動では、直接バス停まで行き、はがれてしまったバスの時刻表の張り替えを行ったり、サッカースタジアムの見学、草刈りなどを行いました。私は、市役所の仕事という窓口での業務を想像していましたが、イベントの企画や役所の外での仕事など様々な業務を行っていることを知り、役所の仕事の多面性を実感することができました。

4. エピソード

このインターンシップ実習を通して、自分は鹿嶋市のことをよく知らないなと感じました。鹿嶋市は地元のためある程度知識はあると思っていましたが、知らないことのほうが多かったことに驚きました。鹿嶋市の人口について詳しく知らなかったことや、市が茨城大学と提携を結んでいて公開講座を行っていることなど知らないことばかりでした。

市役所の仕事の中に、市の土地を維持・管理していくための草刈りが含まれていることも知りませんでした。鹿嶋市は臨海工業地帯を整備する際に購入した土地を多く所有していて、その土地の管理の一環として草刈りを行うことも役所の仕事だということでした。私が草刈りを行った日は、比較的涼しかったのですが、猛暑の中で行うこともあると聞き、そうした状況でもしっかりと動けるような体力をつけなくてはいけないと感じました。

市役所の業務が実際に市民と接する業務ばかりでなく、見えないところを支える裏方のような業務もあるのだなと感じました。



草刈りの様子

5. わかったこと、学んだこと

私はこれまで長時間のデスクワークというものをしたことがなかったのですが、今回のインターンシップでそれを経験し、長い時間集中力を持続させることの難しさを感じました。表計算ソフトへの統計データの入力を行った際には、細かい数字をひたすら入力し続けるという集中力が必要な作業だったにも関わらず集中を切らしてしまい、誤ったデータを入力してしまうということがたびたびありました。そういったミスのせいで作業が遅れてしまったため、うまく集中力を持続させることが大切だと感じました。

統計データの入力の仕事以外にもパソコンを使った仕事は多くあり、パソコンのスキルが重要になってくると感じました。私はパソコンが得意ではないため、職員の方にわからないことがあった場合聞きながら作業を行うことが多く迷惑をかけてしまったので、ワープロや表計算ソフトなどビジネスソフトのスキルをきちんと身につけておかないといけないと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは大学生活では学ぶことで

きない様々なことを学ぶことができます。今の時代はインターネットや本などで欲しい情報を簡単に得ることは出来ますが、そういった情報だけでは、自分にはどのような仕事が向いているのか、今の自分に足りないものはなんなのか、社会に出るといったことはどういったことなのかなどわからないことがたくさんあります。インターンシップに参加することでそういった自分のことや社会について多くのことを学ぶことができます。まだ自分がどういった職に就きたいか決まっていな人は様々な企業へインターンに行くことで自分の将来を考える良い機会になると思います。なりたい職業が決まっている人も実際に体験してみると就職活動を行う上での大きなモチベーションになったり、その職に対する理解が深まったりすると思うので、ぜひインターンシップに参加してみてください。なにもしないで夏休みを過ごすより、社会に出ることでそこでしか得られない知識と経験を獲得することは自分の将来を考えるうえで非常に大きな財産となると思います。

最後になりましたが、お忙しい中インターンシップを受け入れてくださった企画課の皆様をはじめ、鹿嶋市役所の職員の皆様、5日間という短い期間ではありましたが、貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。この場を借りてお礼を申し上げます。



パソコンでの作業をしている様子

人と人との関わりの中で 「働く」ということ

鹿嶋市役所 市民協働部 まちづくり推進課

出頭 優也（3年）



1. 参加の動機

私は、自分の将来を考えるにあたって、公務員という職業に関心を寄せていました。その中でも、より地域の方々と距離の近い場所で働くことのできる、市役所職員という職業について、詳しく知りたいと考えていました。しかし、市役所の業務や、日々の活動などについて調べていても、書籍やインターネットから得られる情報だけでは漠然としたイメージしか得ることができませんでした。そこで、夏休みの長期休暇を利用して、実際に市役所で「働く」ということがどういったものなのかを、インターンシップを通じて学ぼうと考えました。

2. 派遣先の概要

まちづくり推進課は鹿嶋市役所市民協働部に含まれる部署の1つであり、「協働のまちづくり」を掲げ、市民と手を取り合ってまちづくりを進めていくことが、主な仕事となります。具体的には、市内で行われる市民活動や、地域活性化についての取り組みの中心的役割を担っています。

3. 活動内容

全5日間の日程の中で、自分が体験した業務内容は、市内で行われる会議への参加、市内各所への訪問活動、資料作成、日常業務というように分けることができます。コピーや、資料作成などの事務的な業務はもちろんですが、市民の方々と行われる会議の準備をはじめとする多種多様な業務を経験させていただきました。なかには、ほかの

課の方々と協力して行うものもあり、ほかの部署や、課と連携することの大切さを感じました。

4. エピソード

初日はとても緊張していたのを良く覚えています。しかし、職員の方々が暖かく接してくれたこともあり、徐々に緊張もほぐれていきました。

このインターンシップ実習で一番印象に残っていることは、なんと言っても数回にわたる会議への参加です。全部で3回の会議へ参加させていただきましたが、それぞれで会議の形式や、議論される内容が全く異なるので、それに合わせて臨機応変に対応する能力が求められるということを学びました。なかには複数の会議へ出席されている市民の方や、茨城大学の先生方もいましたが、自分と同級生の学生が市民として参加していたのはとても驚きました。

事務的な業務として、韓国で行われる学生の討論会についての資料を和訳するというものがありました。これが予想以上に大変なものでした。まさか市役所で英文の和訳をする業務があるとは思ってもみなかったので、辞書などを用意しておらず、職員の方に電子辞書を借りて作業にあたりました。しかし、自分の英語力の低さのためかなりの時間を割いてしまい、日本語だけでなく、英語や韓国語など様々な言語について学ぶ必要があると感じました。

私にとって、市役所で行われる業務はどれも新鮮なものであり、意欲的に取り組むことができた

のではないかと思います。しかし、実習3日目に行った文書の封詰め作業だけは唯一、過酷だと感じてしまいました。ただ封筒に文書を詰め、糊付けをするという単純作業の繰り返しでしたが、膨大な量をさばかなくてはならず、一つ一つの丁寧さも求められます。結局1日では終わらせることができずに、2日目にもこの業務を持ち越すことになってしまいました。



5. わかったこと、学んだこと

私は当初、市役所で働く職業とはどういったものなのか、市役所ではどのような業務を行っているのかを学びたいと思いインターンシップに参加しました。しかし、振り返ってみると、私がインターンシップ中に学んだことで最も大切なことは、「働く」ということがどのようなものであるか。そして、相手にどのように接するかということの2点に集約されると考えました。

インターンシップ中、多くの市民の方々がまちづくり推進課に訪れ、様々な相談や、意見、要望、中には少し雑談をするだけという方もおりましたが、職員の方々はその一つ一つに対して真摯に向き合っていました。市民の方々が市役所を後にする際、誰一人として怒った表情や、不機嫌な様子の方は一人もいませんでした。むしろ、ほとんどの人が明るい表情で帰っていったと思います。

市役所の仕事というのは、そのほとんどが事務的なものだと私は考えていましたが、インターンシップを通じてその考えは誤りであったと考えます。むしろ、人と人との関わりの中にこそ、市役所職員という職業の本質があると思いました。「働く」というのは、様々な人が関わりあうからこそ意味をなすものであり、1つの組織では完結す

ることはありません。それは公務員であろうと、一般の企業であろうと同じことであり、どのような職業であっても、誰かのために、人のために「働く」という意識を忘れずに持ち続けることが大切だということを学びました。

6. 後輩へのアドバイス

市役所に限らず、インターンシップに参加しようと考えている学生は多いと思います。しかし、なかには失敗した時のことなど、ネガティブな考えをしてしまい、なかなか踏み出すことのできないでいる学生も多いと思います。それでも、何かを知りたい、学びたいと少しでも感じているならば思い切って飛び込んでみてください。インターンシップでは、その職業の仕事内容はもちろん、「働く」ということを肌で感じ、学ぶことができます。大学にいてだけではできない数多くの体験をする貴重な機会であり、それは必ず自分の成長に繋がります。

また、もう絶対にインターンシップに参加すると決めている学生は、できるだけ早いうちから自分はどのような分野の職業を体験したいのかある程度決めておき、その職業について集められる資料を集め、理解を深めておくことをお勧めします。そうすることで、インターンシップに参加した際に、その職業について、自分の理解と実際の業務にどのようなずれがあるのか、そこから何を学べばいいのかがより鮮明に見えてくると思います。

最後になってしまいましたが、鹿嶋市役所市民協働部まちづくり推進課の皆様をはじめとし、職員の皆様、短い期間ではありましたが、お忙しい中、貴重な体験の場を提供していただき本当にありがとうございました。



さまざまな業務を体験して

かすみがうら市役所 総務部 総務課
市民部 国保年金課
保健福祉部 子ども家庭課 社会福祉課

小野真結香（3年）



1. 参加の動機

私は、将来公務員になることを目指しており、その中でも特に市役所で働きたいと思っています。しかし、インターンシップに参加する前の私は、公務員は人のためになる仕事をしているという漠然としたイメージしかなく、市役所の職員の方が日々どのような仕事をしているのかということにはわかっていませんでした。そのため、市役所の具体的な仕事内容を知りたいと思い、今回インターンシップに参加しました。インターンシップを受け入れて下さる市役所はたくさんありましたが、かすみがうら市は私の生まれ育った街で、将来も住み続けようと考えている親しみのある街なので、かすみがうら市役所を志望しました。

2. 派遣先の概要

私は今回、総務課、子ども家庭課、国保年金課、社会福祉課の四つの課でお世話になりました。総務課は、総務係、法制係、職員係、防災安全係の四つに分かれており、幅広い業務を行っています。子ども家庭課では、児童手当や、保育、児童相談など、子どもの福祉に関するさまざまな業務を行っています。国保年金課では、国民健康保険や国民年金に関する業務を行っています。社会福祉課は、生活保護や障害福祉など、社会福祉に関する業務を行っています。

3. 活動内容

総務課では、主に事務作業を行いました。また、女性ドライバー友の会の会議にも出席させていただきました。子ども家庭課では、児童手当の書類の整理などの事務作業や、児童館の見学、保育体験を行いました。また、保育所での発達相談にも同行させていただきました。国保年金課では、高額療養費の算定や、還付通知奨励訪問や現地調査、特定健診などに同行させていただきました。社会福祉課では、かすみがうら市民生委員児童委員協議会の研修や、水戸市にある救護施設で対象者との面談や施設見学などに同行させていただきました。また、書類の整理や、パソコンでの打ち込み作業などの事務作業も行いました。

4. エピソード

インターンシップ中、職員の方々には市役所の仕事について説明していただいたり、仕事への姿勢や、自分の学生時代や就職活動についての話など、さまざまなことを話して下さいました。今まで知らなかったことや、自分にはなかった考えを知ることができ、とても参考になりました。しかし、私は緊張していたこともあり、なかなか自分から質問することはできず、受身の姿勢で聞いていたように思います。職員の方は質問に対して答えて下さるだけでなく、そこから派生してさまざまな話を聞かせて下さいました。自分からもっと質問することができていれば、他にもたくさんの

ことを学ぶことができたと思います。その点が今回のインターンシップでの反省点です。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップを通して、今まで漠然としかわかっていなかった市役所の仕事を、より具体的に知ることができました。また、1つの課だけでなく、四つの課でさまざまな業務を経験させていただけたことで、より多くの業務を知ることができました。さまざまな業務を行っていく中で、外に出て仕事を行うことが想像以上に多かったことに驚きました。もちろん事務作業もたくさんあり、市役所内での仕事と所外での仕事の両方をこなしていくことは大変だなと感じました。また、市役所の仕事では、1つの課だけでなく、他の課や機関、団体などさまざまな人と関わって仕事をする人が多いこともわかりました。例えば、特定健診では、健康長寿課や医療機関と連携して業務を行っていました。事務作業中も、書類を他の課に回したり、他の課の職員の方が来て話し合いをしていたりなど、さまざまな人と関わりながら仕事を進めていることがわかりました。

今回のインターンシップでは、自分に足りない点も発見することが出来ました。私に足りないと感じたのは、会話力です。私は、緊張もあったためか、職員の方と話している時に、考えがまとまらず、上手い受け答えができなかったことが何度ありました。市役所の職員になった際には、窓口業務や電話対応など、市民と話すことが重要な仕事になると思います。また、市役所の仕事というのは、上述した通り一人ではできない仕事も多くあり、職員同士で話し合うことが重要になってくると思います。市役所の職員に限らず、会話というのはどの場面においても大事になってくと思うので、残りの大学生活の中で身に付けていかなければならないと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに参加するかどうか迷っている方は、是非参加するべきだと思います。イン

ターンシップに参加すると、大変なこともありますが、それ以上に学ぶことがたくさんあります。どのような仕事をしているのかということはもちろんですが、職場の雰囲気など実際に経験してみないとわからないことも知ることが出来ます。また、自分の未熟な点も発見することも出来ますし、働くということについて深く考える良いきっかけにもなると思います。

インターンシップに参加する方は、事前に自分の受入先のことをある程度調べておくといいと思います。私は今回、福祉に関する業務を担当している課にお世話になることが多かったのですが、福祉に関する法律や制度を前もって調べておけば、その課の仕事をもっと深くまで知ることができたのではないかと考えています。事前に受入先ではどのような仕事を行っているのかということはもちろん、余裕があれば、その仕事に関するような法律や制度についても調べてからインターンシップに臨むと、得られるものがさらに多くなると思います。

最後になりますが、今回インターンシップを受け入れて下さった職員の皆様、お忙しい中さまざまな経験をさせていただき誠にありがとうございました。心より御礼申し上げます。



書類のコピーをしている様子

市民に寄り添う職業

桜川市役所 保健福祉部 社会福祉課

鈴木 美佳（2年）



1. 参加の動機

以前から公務員という職業に興味を持っていたものの、実際に何か自分から行動したことはありませんでした。公務員のイメージは漠然としており、実際の現場の雰囲気を知りたいと考えました。そこで、現状を変えるきっかけにしたいと思い、インターンシップに応募しました。また、派遣先は、大学での勉強を進める中で在住する市の行政に興味を持ったことから桜川市役所を志望しました。

2. 派遣先の概要

桜川市役所は岩瀬庁舎、大和庁舎、真壁庁舎の三つの庁舎に分かれています。社会福祉課は岩瀬庁舎に属し、民生委員児童委員や生活保護などを担当する社会福祉グループと障がい者福祉や福祉サービスを担当する障がい者支援グループ二つのグループに分かれています。

3. 活動内容

10日間の活動期間の中で、社会福祉グループと障がい者支援グループの二つのグループ、どちらの業務も経験させていただきました。主な業務は障がい者支援グループで経験させていただきました。

また、社会福祉グループでは、真壁地区と大和地区の民生委員児童委員の定例会や部会に出席させていただきました。真壁地区では、協議会定例

会に出席させていただき、桜川市の地域包括センターの運営について担当職員の方と桜川市真壁在宅介護支援センターの担当者の方からお話を聞かせていただきました。大和地区では、高齢福祉部会に参加し、特別養護老人ホーム「ひだまりの家」の見学をさせていただきました。また、同地区民生委員の定例会にも参加させていただきました。

障がい者支援グループでは、実際に庁舎の外に赴く業務だけではなく、さまざまな事務的業務も行いました。庁舎の外に赴く業務では、二つ経験させていただきました。1つは障がい者の方、親族の方、相談所の方、市の職員の方が集まる話し合いの場に同席させていただきました。もう1つは、「障害支援区分認定調査」に同行しました。市の職員の方と認定調査員の方、障害支援区分認定を受ける方と保護者の方が集まり、聞き取りによる調査の場に同席しました。施設での調査は、細かく設定された項目を、障がい者の方と保護者の方に質問し評価するものです。また、施設の見学もさせていただきました。事務的業務は、「障害福祉サービス等利用計画案・計画」などがまとめられた書類の整理、「精神障害者保健福祉手帳交付名簿」のパソコン打ち込み、「難病患者福祉手当の申請について」の通知発送準備や更生医療に関する資料の「整理更生医療台帳」の整理、更生医療の支払入力の確認など、幅広い業務を行いました。

4. エピソード

事務的業務を行う際、職員の方が、その業務の説明だけではなく、関係する制度や法律なども詳細に説明して下さい、公務員の仕事の経験をさせていただきただけではなく、学業の面でもご助力をいただいたことに大変感謝しています。事務的な仕事が多かったように思いますが、それと同じくらい、職員の方からお話をうかがう機会も多かったように思います。

インターンシップが始まった当初は、なかなか自分からは質問することができませんでしたが、職員の方から話しかけて下さったことがきっかけで、次第に自分から質問することができるようになっていきました。また、質問した際には、資料なども拝見させていただきながら、丁寧に答え下さいました。大学で勉強しては決して知ることのない、現場で働いているからこそわかることを聞くことができ本当に良かったと思いました。自分で抱いているイメージと実際の現場が同じとは限らないことを改めて実感しました。また、質問する際、自分の考えを簡潔に伝えることができなかったことと、ある程度まとめて質問するようにしていたのですが、どうしても質問が頻繁になってしまったことが反省点です。

民生委員児童委員の定例会や部会に参加させていただいたことで、僅かな間でしたが行政側の視点と市民側の視点で物事を見ることができ、良い経験になりました。行政の業務は増える一方であり、市民の協力は不可欠です。このような定例会や部会に参加することで、行政と市民のあいだで情報を共有することが重要なのだと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

このインターンシップを通してたくさんのことを学びました。公務員という仕事は、想像していたより市民に近い存在であり、市民とさまざまな人を繋ぐ役割を持っているのだと感じました。福祉サービスに関する書類を作成する際には市民からの聞き取りを行い、電話・窓口での対応、実際に庁舎の外に出て直接市民と接することもありま

す。扱う問題も、個人個人に合わせた対応が求められ、また問題に関する情報量も膨大で、その管理も大変なものであることがわかりました。また、職場内の雰囲気も和やかであり、互いにコミュニケーションを取りながら業務が行われていたことが印象に残っています。個人では判断が難しい問題も、市民の希望や環境を鑑みながら、時にはグループ内や課の中で話し合いが行われ、連携しながら判断が下されていました。市民に近いからこそ、市民のためを思いながら業務が行われており、大変敬服しました。

私自身に足りないものの多さを痛感しながらもそれをいま知ることができたことは大きな収穫であったと感じています。インターンシップで学んだことを活かし、足りないものを補う努力をし続けていきたいと思います。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは、大学生の内に現場の雰囲気を知ることができ、自分自身を見つめ直す機会に繋がります。インターンシップに参加する前とした後では、大学生生活の過ごし方が変わります。それだけ大きな経験になるからです。

実際の現場でしかわからないことがたくさんあります。これまで知らなかったことを知ることができれば、視野も広がり、成長できると思います。また、公務員という職業に対して漠然としたイメージを抱いているなら、それを具体的なものに変えることができるはずです。ぜひ参加してみてください。

最後になりますが、社会福祉課の皆様をはじめ、お世話になった方々に感謝申し上げます。



業務を行なっている様子

社会に出る前に学ぶべきこと

筑西市役所 福祉部 社会福祉課

青木 悠香（2年）



1. 参加の動機

私は、将来公務員になることを目指しています。そのなかでも、最も市民に近いところで行政サービスを提供する市役所への就職を希望しています。そこで、実際の業務や雰囲気を知ること、公務員、また就職について身近に考える良い機会になるのではないかと思います、インターンシップへの参加を決めました。また、大学の講義などを通じて、地域福祉にも興味を持つようになったため、市役所の中でもより地域に密着した福祉業務を行っている社会福祉課を希望しました。

2. 派遣先の概要

今回お世話になった筑西市役所福祉部に属する社会福祉課は、保護グループと地域福祉グループの2つに分かれています。保護グループは、主に生活保護の受給決定や措置に関する業務を行っています。また、地域福祉グループは、社会福祉施策の企画立案はもとより、民生委員や社会福祉法人に関することなどを担当しています。この2つのグループが、業務を分担しながらも連携を密にすることで、福祉に関する幅広い業務を行っています。

3. 活動内容

今回のインターンシップでは、2つのグループの業務を体験させていただきました。社会福祉課内では事務作業として、筑西市内の各地区へのチ

ラシの配分や、経理補助簿の確認などを行いました。

事務作業の多い社会福祉課ですが、今回の実習は、外での研修を重点的にさせていただきました。民間団体である社会福祉協議会でも1日現場実習があり、生活保護や指定相談支援事業などに関する多数の訪問に同行させていただきました。それらの訪問は、別日に社会福祉課の業務としても同行させていただき、大変貴重な体験となりました。また、新たに権限移譲された社会福祉法人検査や、団体事務を兼ねた県戦没者追悼式など、幅広い業務に携わらせていただきました。

4. エピソード

私が最も印象に残っていることは、多くの生活保護受給者の訪問に同行させていただいたことです。さまざまなお宅を拝見させていただきましたが、受給決定に至った経緯や現在の状況はそれぞれ異なっているため、一口に調査や訪問と言っても、一人ひとりの状況に合わせて進めていかなければならず、多くの時間を要すると感じました。また、その際新聞やテレビでは報じられないような実態を知ることができたのは貴重な経験になりました。これらの訪問は、社会福祉協議会での1日研修時にも同行させていただいたのですが、訪問時に話す内容や対応にも違いがあり、さまざまな団体が協力してかかわっていることがわかりました。

インターンシップにおける反省点としては、私の知識不足が挙げられます。初日に、社会福祉課の業務内容や地域福祉について研修の時間があり、担当の方から色々と教えていただきました。私は地域福祉学の授業を履修しましたが、回数はさほど多くないため、わからないことや理解が難しいこともありました。事前に地域福祉について調べてはいたものの、もっと理解を深めておくことができているならば、より有意義な研修になったのではないかと反省しました。また、今回のインターンシップでは、私が苦手とする、積極的に行動することの大切さも痛感するなど、自分に足りないものを再確認することができました。就職活動が始まる前までに少しずつでも改善していけたらと思います。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップに参加したことは、私にとって、就職や仕事に対する漠然としたイメージを、具体的にかつ身近に考える良いきっかけになりました。実際の業務を体験し、現場に行き、お話をうかがうことは、大学の授業やゼミナールでは経験できない貴重なものなので、非常に有意義な時間だったと実感しています。そしてなによりも、今回研修をさせていただいたことで、その大変な一面を知るとともに、やりがいのある仕事だと感じました。また、外に出て市民の方と交流をしたり、窓口での対応をしたりと、市役所が市民にとっての身近な行政サービスの提供主体であることも再認識しました。

また、人とのコミュニケーションについても学ぶことが多い研修でした。他の課や企業の方など、さまざまな人とかわりながら仕事することは、市役所に限らず、多くの企業で必要とされることだと思います。そして、他の人の意見を聞き、自分の意見も伝えることは信頼につながります。多くの方と仕事をしていくためには、この信頼性が不可欠であるため、同時にコミュニケーションをとっていくことも非常に大切なことなのだと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

私は2年次でインターンシップに参加しましたが、早く参加することで視野が広くなり、就職について深く考える期間も長くなります。また、得られた多くのことは、その後の生活にも大いに活かすことができるため、自らを成長させることにもつながります。もし、インターンシップに興味を持っているのであれば、早めの参加をおすすめします。

また、参加が決まった際には、研修先の業務を調べ、事前にその分野についての知識を増やしておくことも大変重要となります。研修時の説明が理解しやすくなり、インターンシップにおける不安も減らすことができます。そして、実習期間中には職員の方々にさまざまなお話を聞くと良いと思います。私の場合は市役所への就職を希望しているので、公務員試験の対策や就職活動などについて教えていただきました。具体的なお話を聞いておくと、希望する職種や就職についてより深く知ることができ、就職活動時にも役立つと思います。

最後になりましたが、社会福祉課の皆様には、お忙しいなかさまざまな経験をさせていただき、心より御礼申し上げます。今回得られたことは、今後将来を考えるうえで役立つことと思います。本当にありがとうございました。



社会福祉課内庶務業務の様子

まちづくりのあり方を再発見

小美玉市役所 企画財政部 企画調整課
市長公室 秘書広聴課 市民生活部 生活文化課
総務部 税務課

三浦 麻央（2年）



1. 参加の動機

私は将来公務員を目指していますが、具体的に仕事についてイメージができなかったため、インターンシップは公務員の仕事について理解を深める良い機会だと思い、参加することにしました。

また、小美玉市役所を選んだ理由は、茨城空港を訪れた人に市の魅力をアピールする場としてオープンした、そののえき「そ・ら・ら」や、文化ホール「みの〜れ」での活動に興味を持ち、小美玉市のまちづくりについて、市役所という視点から見てみたいと思ったからです。

2. 派遣先の概要

小美玉市役所はそれまでの美野里町、小川町、玉里村が合併したため、本庁と2つの支所があり、支所はそれぞれ教育・福祉の拠点となっています。

派遣先である企画調整課では、まちづくりの基本となる総合計画の実施や他の市町村と連携して行う広域行政、公共交通の整備などを行っています。また秘書広聴課では、市長の秘書業務や市の広報活動などを行っており、生活文化課では文化ホールの運営や管理、税務課では地方税の徴収、課税業務を行っています。

3. 活動内容

インターンシップ期間中、初日は総務課で市政紹介や茨城空港などの施設案内をしていただいたほか、以下の4つの課で実習を行いました。

● 企画調整課

全国初の公設民営のバス専用道化事業である、「かしてつバス」のポスター配布や、バス停への掲示作業、「ふるさと納税」についてのチラシ作成を行いました。

● 秘書広聴課

秘書係では敬老会関連の封筒作成や、市内の小学生在が将来の自分や友達などにあてて出した「サクラレター」の宛先入力作業を行いました。

広報広聴係ではパソコンを用いた新聞スクラップや、専用ソフトを使った市の広報誌作成を体験させていただきました。

● 生活文化課

文化ホール「みの〜れ」で文化活動を通じたまちづくりについて職員の方からお話をうかがい、「みの〜れ」で開催される文化祭のプログラム編成会議に出席しました。また後述しますが、自分で企画書を作り職員の方々の前でプレゼンを行いました。

● 税務課

税に関する各種証明書、固定資産税について説明を受け、固定資産税の評価額計算のために行う家屋調査に同行させていただきました。また、窓口対応や、軽自動車税に関するパソコン作業を行いました。

4. エピソード

期間中、様々な方とお話する機会があったのですが、尊敬語と謙譲語を間違えてしまったことが

あり、敬語の使い方をきちんと知っておく必要があると痛感しました。また受入先のご厚意に対し、どう対応すれば良いかわからず、「じゃあ」とつけて答えてしまったことをとても反省しています。受け入れていただいている側として、謙虚な言葉遣いを意識しなければならない、ということ学びました。

5. わかったこと、学んだこと

私はインターンシップ中に四つの課を体験させていただきました。実際に体験してみると、各課によって仕事内容が大きく違うということに気づきました。企画調整課では、総合計画の策定を行っているため、他の課との折衝やパソコン作業が多く、秘書広聴課では、書類のコピーや封筒作成などの事務作業に加え、市の広報誌作成のパソコン作業が大きな割合を占めていました。一方生活文化課のように、市民との関わりが深いところなどさまざま、市役所の仕事といってもこのように内容が違うことを初めて知り、とても驚きました。また、各課で覚えるべきことは沢山ありますが、特に税務課では、税金の仕組みや手続きが複雑で、それを市民の方にわかりやすく説明するには、勉強が必要だと感じました。

印象に残ったことは、生活文化課の文化ホール「みの〜れ」での実習です。「文化に関するもの」というテーマで、子供向けの段ボール迷路について企画を作成し、職員の方の前でプレゼンをさせていただきました。自分の考えた企画が「文化」

というテーマに当てはまるのか心配でしたが、プレゼンを終えた後、館長の方が「全てが文化の要素であり、地域住民を巻き込みながら触れる機会を作ることが文化ホールの役割である」というアドバイスをいただき、文化や文化ホールの役割は、自分が思っていたよりも広いものであると気づかされました。

「みの〜れ」では、住民の方と一緒にさまざまな活動を行なっていて、職員の方も企画書を作ることを知り、驚きました。また、施設について説明していただいた職員の方や、住民との会議を行う様子から、文化活動をまちづくりにつなげようするひたむきな姿が感じられ、これまでの、施設を使いたい団体に「貸す」という文化ホールに対するイメージが変わりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは、興味のある職業について理解を深める良い方法だと思います。実際に職員の方とお話を通じて、仕事内容だけではなく、職場の雰囲気や仕事に対する姿勢も感じられ、とても勉強になりました。インターンシップについて興味を持っているのであれば、ぜひ参加することをおすすめします。

最後に、お忙しい中インターンシップを受け入れていただいた職員の皆様に感謝申し上げます。インターンシップを通じて学んだことを、今後に活かしていきたいと思っています。ありがとうございました。



秘書広聴課での封筒作成の様子



「みの〜れ」でのプレゼンの様子

学問、進路選択、社会人生活。 インターンは一石三鳥

土浦市役所 都市整備部 都市計画課
まちづくり推進室

上村 和也（3年）



1. 参加の動機

私は卒論のテーマとして人口減少対策を考えています。その対策の1つに中心市街地活性化というものがあり、この策を取っている自治体を探していたら、高校時代から馴染みのある土浦市が採用しているということで、この機を逃すまいと参加を決めました。また、将来を見据えて公務員の仕事の雰囲気を知りたいというのも一因でした。

2. 派遣先の概要

土浦市は霞ヶ浦の西側に位置する県南のターミナルです。市役所は6部1室+教育委員会+消防という構成で、都市計画課はその中の都市整備部に属し、都市計画決定を主に行う計画係、公共交通や道路などを扱う都市交通係、そして私の本来の配属先であり中心市街地活性化を進めるまちづくり推進室の3セクションからなっています。

3. 活動内容

事前の配属先希望調査で、当然まちづくり推進室を第1希望にしましたが、第2・第3で迷ってしまい、ホームページにあった組織図だけを頼りに残り2つの係を書き連ねたところ先方に都市計画課にこだわりがある、という（良い）誤解を招いてしまったらしく、①3セクションすべての仕事を紹介していただき、②そのうち2セクションの仕事を実際に体験させていただきました。

まず①仕事の紹介について。仕事の紹介と言っても一方的な説明だけではなく、実際の資料を渡されて、読んで要約を作るという形式を取ること

もありました。まちづくり推進室の仕事は現状確認ができないと話が始まらないのでまず街中を案内していただき、土浦市中心部でも知らないことは案外多かったと知りました。商工会議所やまちづくりNPOを訪問して中心市街地活性化に関してお話をうかがう機会もありました。また、これは仕事とは関係ありませんが、現在進路で大いに迷っているのも、若手の職員さんを中心になぜ市役所に入ったかや大学3年生の頃何を考えていたかなども質問させていただきました。話をお聞きするという意味では偶然2日目に親睦会（暑気払い）があり、そこで課の方々（正確に言うと都市計画課の方々や隣の駅北開発事務所の方々）の顔と名前を憶え、親睦を深めることができ、楽しかったです。

次に②実際に体験した仕事についてです。まちづくり推進室の業務としては、事業に関する市民向けワークショップ用の資料を作成したり、補助金交付の手引きを推敲したりという作業でした。適宜現地へも行き、霞ヶ浦も見ました。疲れた仕事としては都市交通係の業務で、地理情報システム（PC上）を使って整備計画のできている道路の総延長を測るという作業を丸3日間通じてやるというものがありました。1日中PCに向かってデスクワークということは普段ないのでつらかったです（家に帰っても目を閉じるとPCの画面が浮かんできました）。その他には会議も一つ見学させていただき、その会議に関する資料の手直しも行い

ました（ExcelではなくWordで表を扱うという慣れない作業だったのでこちらも大変でした）。

4. エピソード

インターン期間中に使うようにと1台パソコンを借りていましたが、それが（当然のことですが）課内の共有データのうち臨時フォルダだけが見られる設定で、そのシステムの関係か、道路の総延長計測データが消えてしまうというトラブルを2日続けて起こしてしまい、時間を食われました。データはその都度名前を付けて保存するべきだと改めて痛感しました。

もう一つ。茨大では都市計画法は人文学部でも開講されていますが、他の大学では理系の学部のみで教えていることが多いようである。「大学ではどんな勉強してるの?」という質問に「行政学」と答えるとポカーンとしてしまう職員さんが多く、説明に困りました。どういう勉強をしたからこの部署に来た、というのがしっかり説明できるようにしておくべきであったと思いました。

5. わかったこと、学んだこと

行政学ゼミに所属し、行政学の講義も受けた身としては、官僚組織の動態は非常に興味のあるところでもありました。“役所”というと批判の対象になることも多いですが、カウンターのこちら側と向こう側とでは動く理屈が違うのだということが身に沁みてわかりました。例えば文書主義は官僚批判の代表的な対象ですが、市民の方がトラブル時などに事実関係を確認しに来た時に文書が残っていれば対応できるという利点があるとおっしゃっていました。また官僚組織は意思決定が遅いとも言われがちだが、それは窓口の職員の言葉が市民の方にとっては行政全体の意思に当たるので勝手なことは言えないからなのだと学びました。

もう一つ学んだことは、上記のこととも重なりますが、最前線に立つ市役所職員の責任の重さです。インターンシップに来る前は係で15人くらい、1つの島で意思決定をするものだと漠然と思っていたのですが、実際は計画係5名、都市交通係4名、まちづくり推進室3名という少人数で、し

かも1つのプロジェクトを動かすのは一人だけだったりして、決定に大きな責任が伴うことが少なくないようです。それでも都市計画課が高学歴の方も多いためか、責任感を持ってしっかりと業務をこなしていらっしゃり、社会に出るとはこういうことかと憧れに近い思いを抱きました。

これは学んだことというよりも考えたことですが、インターンということで10日間働いてみて、期間は短いですが案外自分の仕事の適性がわかりました。その意味でも、本当に勉強になりました。

6. 後輩へのアドバイス

まず重要だと思うのは、調査書を出す前に窓口がない部署でもホームページを確認するだけでなく事前に訪問しておくべきだということです。そうでないと私のように同じ課の係を三つ並べて誤解を生む、ということになりかねません。

また、インターン期間中によく聞かれたのが「将来何になりたいの?」という質問です。「何になりたい」というものが明確になくても、「こういう仕事をしたい」というだけでも簡潔に話せるようにしておくといいと思います。そして、職場のいろいろな人に社会に出るにあたってのアドバイスをもらおうといいと思います。

細かいことですが、インターン時には手帳と別にメモ帳を持って行くことを勧めます。業務について説明を受けたりする時にさっとメモを取れますし、勉強になったことのメモもできます。また、適度に休息を取る技術、そして体力も大事だと思いました。まちづくり推進室の仕事では職員さんのご配慮で気分転換を兼ねた現地視察もあってまだ持ちましたが、上述の1日PCの作業は（人事課の方は「すぐ慣れるよ」とおっしゃっていましたが）大変で、かなり体力を消耗しました。



自席から
都市計画課を
写して

防災、行政から見る

土浦市役所 総務部 総務課 危機管理室

西村 啓汰（3年）



1. 参加の動機

私は将来の職業の選択肢の一つとして公務員を考えています。そのなかでも行政学を学んでいる私にとって市役所の職員はとても魅力的な職業です。しかし肝心の業務内容に関しては「事務仕事」という認識にとどまっており、具体的な業務内容はわからない状況でした。そこで就職活動が本格的に始まる前のこの時期に市役所でインターンシップを行い、実際の業務を体験し、自分がどのような仕事をしたいのか具体的なイメージを持つためにインターンシップに参加しました。

また、東日本大震災で祖父母が被災し、住む家を失ったことにより、いかに日頃の災害への備えが重要であるかを知り、私は防災の分野に興味を持つようになりました。そこで行政の場でどのような防災が行われているのかを実際に現場で学びたいと思い、地元である土浦の土浦市役所総務課危機管理室でのインターンシップを希望しました。

2. 派遣先の概要

土浦市役所総務部総務課は総務統計係、文書法制係、人権推進係、危機管理室の4つからなります。私がお世話になった危機管理室では土浦市総合計画で定められている「災害に強い安心して暮らせるまちづくり」を目指し、防災訓練の実施や防災設備の管理、地域住民で構成される自主防災会の育成及び補助を行っています。また防災の分野だけではなく国民保護に関する業務も行ってい

ます。

3. 活動内容

私の主な業務は事務作業でした。まず始めに行ったのは災害時要援護者名簿の作成でした。災害時要援護者とは災害が起きた際に自分一人の力では避難することができない人のことを指します。この名簿は各地域の地区長と自主防災会長に配布し、実際に災害が起こった際、避難状況の確認に使用するためのものです。生命に関わる間違いの許されない仕事なので何度も確認をしながら真剣に取り組みました。また、派遣期間中の8月22日に、年に一度行われる土浦市防災会議が予定されていたため、その会議に用いる資料の準備なども手伝わせていただきました。会議当日は会場設営や受付、案内、マイク運びなどを行い、防災会議終了後は会議で見直しが決定した土浦市水防計画の訂正箇所を修正作業を行いました。作業中の空いた時間を利用して市の防災の現状や自主防災組織などについての説明をしていただいたりもしました。

また、防災行政無線や防災倉庫、耐震性貯水槽などの市の防災設備の見学をさせていただき、大変貴重な経験となりました。

4. エピソード

私の派遣期間中、8月20日に広島市で大雨による大規模な土砂災害が起きました。その翌日、市

民の方から「うちの近くは大丈夫なのか？」と問い合わせが数件ありました。危機管理室には職員さんが3名しかおらず、また防災会議前ということもあり大変忙しい中での対応であったにも関わらず、一件一件丁寧に対応される職員さんの姿がとても印象的でした。

また私はExcelをまったく使えない状態で実習に臨んでしまい、チューターさんに作業の説明の前にパソコンの操作の説明をするという手間を取らせてしまいました。事務作業でExcelを使うことは予想できていたので、実習前にある程度基本的な操作は学んでからインターンシップに臨むべきだったと後悔しました。

5. わかったこと、学んだこと

派遣期間中に起きた広島市の土砂災害でも行政の対応が問題視されましたが、ミスがなくても称賛されることはなく、なにかミスがあれば非難を浴びる「できて当たり前」と思われている市役所の仕事はとても難しいものであると感じました。しかし防災の分野においては個人の力ではどうにもならないことも多く、行政によるバックアップは非常に重要であり、またゲリラ豪雨をはじめとした異常気象や首都直下型地震がくると予想されている状況のなかでその重要度は、ますます増してくると思います。そのような大変厳しい状況の中で仕事をされている危機管理室の職員の方々を見て感じたことがあります。それは「全員で仕事をしている」ということです。確かに作業自体は1人で行うことが多いですが、作業の中で確認しあったり、相談したり、アイデアを出し合ったりいき一つの仕事をより完成度の高いものにしてもらっていました。「全員で仕事をする」という意識は公務員の仕事だけではなく、民間の仕事にも共通して必要であり、そのためには人間関係を良好に保ち、協調性を持つことが重要であると感じました。本格的な就職活動を迎える前にこのことに気付くことができ、改めてインターンシップに参加してよかったと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

私自身、インターンシップに参加することに若干の迷いがありましたが、インターンを終えた時は率直に参加してよかったなと思いました。私のように興味のある職業がある方や目標としている職業が明確な方はその職業への理解が深まり、その職業に就くためにこれからどのような準備をしていけばいいのかがわかる良い機会となりますし、まだ将来就きたい職業が決まってない方も実際に働いている社会人の方に混ざって働くことで将来へのイメージをより具体的なものにすることができると思います。参加をすれば普段の生活の中では得ることのできない大変貴重な経験をすることができると思います。

そして参加をする際は、受け入れていただいているという感謝を忘れずに積極的に仕事に取り組むことが重要です。私はスペースの関係で実習を行った危機管理室に机を置くことができず、隣の総務統計係の机をお借りして作業を行いました。危機管理室だけではなく総務課全体で私のことを受け入れてくださり、大変良くしていただきました。しかし、その優しさに甘え、作業中少し積極性を欠いた行動をしてしまったことがありました。受け入れ先の方々には通常の業務を行いながら私たちを受け入れてくださいます。その方たちに感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。2週間という期間をどう活かすかは自分自身の参加態度にかかっていると思います。

最後になりましたが、総務課の皆様には大変お忙しい中、インターンシップを受け入れてくださり、心より感謝申し上げます。真にありがとうございました。



災害時要援護者名簿作成の様子

市民を第一に考え、 行動することの大切さ

牛久市役所 保健福祉部 児童福祉課

福島 香織（2年）



1. 参加の動機

大学生活も2年目を迎え、そろそろ目の前にある授業や課題だけでなく、将来や進路について真剣に考えなければいけないと思うようになりました。一般企業に就職するか地方公務員を目指すか悩んでいますが、私は幼いころからずっと地元を離れずにおり、就職先も地元を中心に考えたいと思っています。そこで、自分が育った場所に対して貢献できる仕事は何かと考えたとき、市役所で働くことではないかと思いました。以前から公務員の仕事に興味はあったのですが、仕事内容や職場の雰囲気などは漠然としたイメージしか持っていなかったため、今回のインターンシップはそれを知るとても良い機会だと思い参加しました。

2. 派遣先の概要

今回私がお世話になった牛久市役所保健福祉部児童福祉課は、児童手当及び児童扶養手当の受給に関する業務や、子どもの遊び場や子育て広場の運営に関する子育て支援事業などを行っています。また、家庭相談員による児童相談など、家庭児童相談室に関する業務も行っていきます。場合によっては、保育園課や児童クラブ課などの他の課とも連携しながら業務を行うこともあります。

3. 活動内容

10日間のインターンシップ期間のうち5日間は子育て広場や児童クラブなどの児童施設勤務でした。0歳から小学校6年生まで幅広い年齢の子どもたちとふれあいましたが、それぞれの子ども

とどう接するべきか戸惑いました。慣れない子どもとのふれあいでしたが、自分から子どもに積極的に向かっていったり、子育てアドバイザーの方からアドバイスをもらったりして少しずつ子どもたちと楽しく遊べるようになりました。さらに、子どもとふれあいながら保護者の方にも話をうかがい、子育ての現状を身をもって知ることができました。残りの5日間は、児童手当支払い通知の封入封緘作業や、資料の推敲作業などのデスクワークを行いました。また、推敲した資料を使用し、子ども・子育て事業計画ワーキング会議にも出席させていただきました。作業は特に難しいものではありませんでしたが、常に公務員として市民のために働いているという自覚を持ちながら作業を行うよう心がけました。

4. エピソード

私がお世話になった児童福祉課は、課長が現場を大切になさる方だったので、さまざまな児童施設を見学させていただくことができました。今回私は、すすく広場、すすく出張広場、のびのび広場、子育てサロン、のぞみ園、児童クラブの計6ヶ所の児童施設を見学しました。子どもの年齢やタイプに合わせた児童施設が牛久市にはたくさんあることを初めて知り、牛久市の子育て事業に対する力の入れようを実感しました。

幅広い年齢の子どもとふれあうことは、私にとってとても大変なことでしたが、同時にとても楽しく、勉強になることでもありました。子ども

たちは素直で、元気いっぱい、明るくて、ふれあう時間が長くなるにつれて、私が子どもたちを感じていた不安や戸惑いもなくなっていました。一生懸命遊んだり、走り回ったりしている子どもを見て、自分も一生懸命頑張らなければならないと思いました。

封入封緘作業や資料の推敲作業などのデスクワークは単純な作業であったため淡々と作業を進めていましたが、同じ作業を行っていた課長が「正確な事務作業は市民のための基本です。」とおっしゃられており、作業を丁寧に行うことや見た目をきれいにするのも市民のために働くということであることに気がつきました。また、自分が封入封緘した通知が直接市民に届くのだと考えると、身が引き締まる思いがしました。どんなに単純な作業も市民のためのものであり、市役所職員の思いが込められているのだと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

今回インターンシップに参加して、自分の地元である牛久市ではどういった事業に力を入れているのか、それに対し市役所職員はどのような仕事を行っているのかを理解することができました。職員全員に共通することは、市民を第一に考えて働いているということです。児童福祉課は、特に子どものため、また子どもを育てる保護者のために働いているという印象でした。私が牛久市でのびのびと育つことができたのは、児童福祉課をはじめとする牛久市役所のさまざまな課の働きのおかげなのだ気づきました。

さらに、児童施設の見学やデスクワークなど市役所内外での仕事を通して、働くことに伴う責任の重さややりがいを感じました。児童福祉課は子どもを対象とした業務が多いため、子どもが安全にのびのびと育つためにはどうしたらよいか、何が必要かを子どもの立場で考える必要がありました。実際に窓口で子育ての相談をしに来る方もおり、子育てに関する業務の難しさやそれに伴う責任の重さを痛感しました。やりがいを感じたのは、資料の推敲を任せられ、その資料を使用した会議に出席したときでした。推敲時に見つけた資料

の間違いや疑問に対して会議中に発言し、それが認められて資料が正されていくのを目の当たりにして、自分の仕事を達成できたことに喜びを感じました。社会人として、公務員として働くということは大変であり、仕事に伴う責任も重いものですが、それだけではなく、仕事を無事に終えたときに達成感や喜びを感じることができるからこそ働く意味があるのだとわかりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは普段は働くことのできない県庁や市役所、企業などで働くことができる貴重な機会です。将来の就職先を迷っている人はぜひインターンシップに参加して、気になる職場を体験してみることをおすすめします。また、インターンシップは3年生になってから行うものだと考えている人がいるかもしれませんが、2年生で参加しても早すぎるということはありません。むしろ私は、まだ時間に余裕のある2年生のうちに参加してよかったと思っています。早いうちから社会人として働くことを体験し、考えることで、自分の将来を真剣に見つめなおすことにつながると思います。

インターンシップ参加中は、積極的に仕事に関わる姿勢を見せることが大切です。わからないことは質問し、仕事がなければ自分から仕事を探しに行くなど、自ら行動するべきだと思います。さらに社会人として働くうえで、挨拶や言葉遣いにも気をつける必要があります。

インターンシップは、社会人として働くことを通して自分の将来や進路を考える良い機会です。たくさんの人に参加してほしいと思います。



児童福祉課の皆さんと（福島は左から3番目）

学校教育の現場に立ってみて

小山市教育委員会 学校教育課

初谷わかな（3年）



1. 参加の動機

私は中学生のころから市役所勤務に興味がありました。しかし就職活動が目前に迫っていても具体的に何をしたらいいのか、誰に相談したらいいのかがわからず悩んだ末、大学の就職支援センターに行きました。そこでアドバイスをいただき、インターンシップを申し込もうと考えました。

2. 派遣先の概要

教育委員会は市役所（市長部局）とは独立した組織です。教育総務課と学校教育課から構成されています。派遣先である学校教育課学務係は、学校教育関係予算の編成、児童・生徒の就学並びに入学・転学及び退学、学校保健、教材・器具の整備、児童・生徒の就学援助、就学資金に関する業務を行います。

学校教育課には、学務係の他に食育推進係、管理係そして指導係があります。管理係と指導係は実際の教師の方が職員として業務に当たっています。

3. 活動内容

毎年10月上旬に、翌年に小学校入学を控えた子供たちを対象とした健康診断・就業時健康診断が行われます。それに関する通知を市内約1,400人の児童に郵送する作業のお手伝いをしました。

3種類の書類をそれぞれ3つ折りにし、1つの封筒に入れ、アドレスタックシールを貼り、テープで封をします。更に外国人の方に向けた通知書には、ポルトガル語、スペイン語、英語で翻訳され

た通知と問診票も同封しました。最初の3つ折り作業から最後の郵送段階まで、5日間を要しました。

また、実習4日目には、市内全小学校の養護教諭の先生方を対象とした就学時健康診断の説明会があり、会場設営並びに会場受付のお手伝いをしました。

4. エピソード

1,400人分という膨大な量の書類を相手にしたのですが、5日間ですべて終わるのか、手順や宛先を間違えていないかが不安でした。

そこで、気にかかったことがあったときはすぐに担当職員の方に報告をすることを心がけ、今のペースで間に合いそうなのか、今のところ不備はないか、随時相談をいたしました。また、書類を封入する作業、封をする作業は他の職員の方々の手をお借りして、なんとか作業を終了させることが出来ました。一人で全作業を終了させられなかった未熟さを痛感したと同時に、ご自身のお仕事を中断させてまで力をお貸しくださった皆さんに感謝の気持ちが溢れました。

主な活動が事務作業補助という事で、一日の大半を同じ姿勢で作業することが多かったのですが、職員の方々が休憩を促してくださり、お気遣いがありがたかったです。

また、実習中は小山市議会本会議の開催中でしたので、その中継映像が流れていました。それを観ていると、自分が行政の現場に立たせていただ

いていることを実感し、一層、今回の実習の貴重さを感じました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップ実習を通して、学校教育に関して、そして働くことに関しての二つの面で学ぶことができました。

まず、学校教育に関して。一番深く感じたことは、私たちの義務教育は小学校・中学校だけでなく教育委員会によっても守られていたということです。

職員の方々はひとつの物事に対して、第一に子供の教育環境、安全面、健康面を重視するとともに、保護者や教職員の立場に立っても考えておられました。さまざまな視点から見て最善を尽くすことで教育が成り立っていることを実感しました。

次に、社会人として働くことに関して。アルバイトをすれば、ある程度の社会経験を積むことができます。しかし、私がインターンシップ実習で得た社会経験はアルバイトで得ることのできるそれとは大きく異なるものでした。自身を学生としてではなく、社会人として捉え、そうした心持で業務をこなす。それだけで職場の方への言葉づかい、ふるまい、任された仕事への責任の感じ方、これらの一つ一つに新しい自分を発見することが出来ました。

また、社会組織の中に組み込まれてみて初めて、組織の仕組みと働きを学ぶことが出来ました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに参加することは、自分自身、そして自分の将来と向き合うきっかけになります。まず実習に参加しよう、という積極性が大切ではないかと考えます。

私は地元・小山市役所でのインターン実習を希望したのですが、茨城大学では小山市役所のイン

ターンシップは斡旋していないとのことでした。そこで私は先生のご協力のもと、小山市役所にお電話をして、インターンシップについての質問をしました。今までインターンシップの受入実績があるかどうか、そこで実績があった場合、なかった場合……と、質問に対する答えの想定だけでなく、電話でのマナーを先生にご指導をいただきました。インターンシップを終えた今、あの時の自分の積極さ、惜しみない協力をしてくださった先生に感謝しています。皆さんも、将来に関して何か思い立ったとき、不安に感じたときは気軽にインターンシップ担当の先生や就職支援センターの方に相談をしてみましょう。

職場では第一に笑顔、そして爽やかさ、清潔感が大切だと考えます。実習前に先生方にご指導をいただきますが、第一印象は大切です。外見でなく、動作や振る舞いに注意すべきだと感じました。また、些細なことでも担当の方に質問、相談をして指導を仰ぐことを忘れてはいけません。

最後になりますが、小山市教育委員会の職員の皆様、貴重な経験を本当にありがとうございました。



教育委員会の業務中の様子

地域の芸術や情報を伝える

常陽藝文センター

川崎 洋美（3年）



1. 参加の動機

インターンシップに参加する以前、私は将来の仕事に関してはあまり深く考えていませんでした。しかし、今回のインターンシップは、仕事について学び、考えることのできる良い機会であると思いました。そして、編集や地域に関する事業に少し興味があったため、茨城県の地域の情報誌の発行や、ギャラリー展示を行っている常陽藝文センターのインターンシップに参加してみようと思いました。

2. 派遣先の概要

常陽藝文センターは、昭和57年、常陽銀行が地域の芸術・文化を通じ、地域に貢献することを目的に出資して設立された文化財団です。茨城に関する情報機関紙『常陽藝文』の発刊、茨城にゆかりのある芸術家の作品を展示する藝文ギャラリーの運営、藝文学苑の運営、茨城の文化に関する映像の記録・保存、施設の貸し出し、常陽史料館の運営など、茨城の文化や人々に関わるさまざまな事業が行われています。

3. 活動内容

今回のインターンシップでは、1～3日目には、機関紙『常陽藝文』の編集の仕事、4～5日目には、藝文ギャラリーの事業に携わりました。

『常陽藝文』編集の仕事では、10月号の「催し物情報」原稿の校正作業と12月号の特集記事の資

料探索を行いました。今回担当した校正や資料探しの作業は、編集の仕事としては行程の一部にすぎないものでありました。しかし、作業中にさまざまな形での調査や、文章作成から校正やレイアウトを繰り返し行うことによって、誌面を完成形に近づけていくことを体感することができました。また、作業を通じて、編集は今まで思っていたよりも地道な努力が必要であることを痛感しました。

藝文ギャラリーの事業では、ギャラリーの展示替え、リーフレットの校正、ポスターの原稿作成、常陽銀行支店の美術品貸し出し業務などを行いました。ギャラリーの展示替えは、実際にギャラリーの絵の作者の方や、展示替え作業の業者の方の立会いのもとで行いました。レイアウトや展示のバランスを配慮しつつも、作者の方の希望を尊重しながら展示を行われる様子が、素晴らしいことであると思いました。

その他、今回編集の作業を行った『常陽藝文』バックナンバーの閲覧、ギャラリーの展示・ビデオの鑑賞等、常陽藝文センターが携わったものを実際に見学する機会もありました。

4. エピソード

機関紙『常陽藝文』の編集の仕事では、12月号の特集記事の資料として、各市町村の市史の中から、それにふさわしい記事を探し出すという作業を行いました。その際、市史のページ数が膨大で

あり、よい資料を見つけるのは、作業を始める前に予想していたよりも大変なものでありました。そのため、なかなかスムーズに的確な資料を見つけることができませんでした。

ギャラリー事業では、次回の展示告知ポスターの原稿の制作もさせていただきました。企画展の作品やタイトルの雰囲気合っているかつ、見やすいレイアウトを心がけてポスターを作ろうとしましたが、自分の中で思い描いたような形に仕上げるのが難しく感じられました。執筆した現段階では、ポスターが実際に使っていただけるかは明らかになっておりませんが、苦勞しながらもなんとか形にできたことを喜ばしいことと思います。

5. わかったこと、学んだこと

編集の仕事とギャラリー事業の仕事は、別の区別の部署の仕事でしたが、どちらの業務も、文章の作成や校正等、文章をつくり、人々に正しい情報を伝えることが重要なことである仕事であることを実感しました。編集の仕事では、もちろん『常陽藝文』の紙面をつくりあげるために文章を作成することがありますが、ギャラリー業務でも、新聞等のマスコミに掲載するギャラリー開催案内のニュースレター、ギャラリーに展示する作品やその作家を紹介するビデオのシナリオ作成、看板・リーフレットの作成等、文章に関わる仕事が

予想していたよりも多くありました。このことより、仕事上では、文章を作成することの多いことを知り、将来のために文章を作成する力を身につけることが必要であるということを痛感しました。

また、仕事では相手にわかるように伝えることや、わからないことをすぐ質問することが重要であり、やはりコミュニケーション能力も必要であると実感しました。

6. 後輩へのアドバイス

もし、少しでも仕事を体験してみたい、インターンシップや将来の仕事について気になることがあると思ったらためらわずにぜひ参加してみてください。実際に仕事を体験し、学ぶよい機会になると思います。

また、インターンシップに参加するなら、3年生の時より、2年生の時と、なるべく早いうちの方がよいと思います。私は、3年ではじめてインターンシップに参加をしましたが、実際に体験してみたいと思った企業が複数あったためです。特に、複数の企業や役所などに興味のある場合であるなら、2年の時と3年の時で違う企業を受けることができます。そしてその経験から企業による共通点や相違点、自分への適正をより知ることができる機会となると思います。



今回のインターンシップで校正を行った『常陽藝文』



『常陽藝文』の校正作業を行う様子

「現場」を知ることの価値

茨城町社会福祉協議会

川原井千聖（2年）



1. 参加の動機

私は、ある講義で取り扱った「社会福祉協議会」が行う活動に、非常に興味を持ちました。丁度その頃、インターンシップガイダンスで、自分で企業にアポイントメントをとり、インターンシップ受け入れを交渉する方法があることを知りました。そこで、「社会福祉協議会」が行う活動について知ると共に、自らの将来を考える機会にしたいと思い、インターンシップへの参加を決意しました。

2. 派遣先の概要

社会福祉協議会は、地域福祉の推進を図ることを目的とする、公共性の高い民間団体です。専門援助職者として、コミュニティワーカーや在宅福祉サービスに従事する職員などが配置され、地域福祉を推進する団体の中心的役割を担っています。

3. 活動内容

社会福祉協議会の上司の方の「社協の活動を幅広く知ってほしい」という計らいで、非常に充実したカリキュラムを組んでいただき、様々な経験をすることができました。ここでは、三つの活動を抜粋して紹介します。

1つ目は、在宅訪問事業への同行です。茨城町社会福祉協議会では、安否確認を兼ねた給食サービス事業を行っています。同行する中で目の当た

りにした、高齢化社会がもたらす社会的孤立の現状に衝撃を受けました。

2つ目は、デイサービスでの活動です。入浴介護や歩行訓練の補助などを行いました。利用者の方々と最も深く関わることでできた活動でした。

3つ目は、障がい者の方とボランティアの方々が合同で参加する「運動会」での活動です。準備から携わらせていただき、参加した方々の笑顔を見た時は、込み上げるものがありました。

4. エピソード

茨城町社会福祉協議会では、「日常生活自立支援」という事業を行っています。これは、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者などで、判断能力が不十分な方を対象とし、社協の専門職員又は生活指導員が福祉サービスの利用手続きや金銭管理をサポートします。

実習期間中、この事業に同行させていただく機会がありました。その中で、連絡が繋がりにくく、支援がスムーズに進まないという利用者の方の自宅を訪問しました。私達が訪問した際も、連絡を取ることができず、やむなく「不在」と判断しました。しかし、翌日、職員の方が再度訪問すると、実際は倒れており、緊急搬送されたという報告を受けました。幸い、大事には至らなかったらしいのですが、福祉が背負う責任の重さを実感しました。そして、福祉が個人にどの程度まで踏み込むべきものであるか、考えさせられました。

プライベートや個人の権利を最大限に尊重しながら、安全は、確実に確保していく必要があります。地域として、「見守る目」となることの難しさを感じました。

5. わかったこと、学んだこと

私は、社会科学科で学ぶ中で、「社会福祉」という分野に興味を持ち、社会福祉について取り扱う講義を積極的に履修すると共に、本や新聞を通して、独学でも学んできました。しかし、思い返すと、私はただ知識を増やすだけで、社会福祉についての理解を深められていると錯覚している部分があったと思います。今回のインターンシップを通して、本当の理解とは、学術的な知識だけで得られるものでは決してないことを痛感しました。

私は、社会福祉について学びながらも、心のどこかで、講義で取り上げられる問題は、深刻化した、ごく一部の問題と捉えていた部分があると思います。しかし、自ら現場を訪れることで、地域福祉の抱える問題は、今現在、私達の住むこの地域で、実際に起こっていることなのだ気付かされました。私は、実際に自らの目を見て、肌で感じ取った、あの「現場」を知ってはじめて、自らの意見を持ち、発信する資格があると思いました。インターンシップとして活動した2週間は、「現場を知ること」の価値を感じる毎日でした。

もちろん、これまで学んできた学術的な知識が、実習期間中に生かされ、考える種となることも多くありました。学術的な知識は、考える種となり、自らの強みとなるものだと思います。しかし、学術的な知識だけに頼り、自らの意見とするのは、あまりにも表面的だと感じるようになりました。私は、幅広い知識を土台としながらも、現場の現状を兼ね合わせながら、自らの意見を持ち、発信しようとする人間でありたいと思うようになりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップ期間中に、ノートを1冊用意すると良いと思います。日誌とは異なり、企業側に提出するわけではないので、より率直な感想を記録しておくことができます。私自身、インターン期間中に書いたノートが、現在の学習に役立っています。

また、インターンシップは本当の貴重な経験となります。後悔しないよう、自分が学びたいと思うことは、率直にインターンシップ先の上司の方に相談してみると良いと思います。私自身、「児童福祉」についても、是非学びたいと考えていたのですが、当初のカリキュラムには含まれていませんでした。そこで、勇気を出して社会福祉協議会の上司の方に相談してみたところ、役場の児童福祉科の職員の方とお話する機会を設けていただくことが出来ました。忙しい中、私達学生を受け入れてくださる企業、そして受け入れ先の職員の方々に感謝しながら、学生らしく、より多くのことを学び、吸収しようとする姿勢が大切だと思います。

最後になりましたが、受け入れてくださった茨城町社会福祉協議会の皆様、本当にありがとうございました。



茨城町総合福祉センターゆうゆう館

接客業におけるプロ意識とは

アクアワールド茨城県大洗水族館

鈴木智香子（2年）



1. 参加の動機

私がこのインターンシップに応募したのは、できるだけ早いうちに職業体験をしておくことで、将来自分がどんな社会人になりたいか真剣に考えておこうと思ったためです。また、自分自身がお客様として訪れて楽しいと思える水族館に裏側から携わってみることで、何か得られるものがあるのではないかと考え、この派遣先に応募させていただきました。

2. 派遣先の概要

アクアワールド大洗水族館は平成14年3月に開館した施設です。特長として挙げられるのはサメ・マンボウの飼育数日本一という点で、国内でも比較的大きな規模を誇る水族館となっています。水族館の主な業務は、生き物を守ること、それを展示すること、来場されるお客様にそれを正しくお伝えして楽しんでいただくこと、など多面的なものです。そのためアクアワールド大洗水族館では経営企画課、普及課、業務課、魚類展示課などさまざまな部署に分かれたうえで互いに連携をとりながら施設を運営しています。

3. 活動内容

今回私は5日間のインターンシップで3つの課の業務を体験させていただきました。

まず1～3日目にお伺いさせていただいたのが、経営企画課というところでした。経営企画課では主

に、アテンダントと呼ばれる女性スタッフの方々に混じって、入場口周辺の接客サービスを行いました。具体的には入場券のもぎり、ベビーカーや車椅子の貸し出し、年間パスポートの作成などが主な業務で、来館されたお客様と直接接する機会がとて多かったのが印象的だったと感じています。

インターン4日目には、業務課というところでお土産ショップの販売業務を体験させていただきました。水族館のお土産物売り場なので、お菓子やぬいぐるみ、キーホルダーを中心に、子供用のおもちゃも扱っており、とても品数が多かったです。また、この日は土日祝日と3連休の中の日だったために来館者数が夏休み期間と比べても特に多い日だったそうで、閉館時間を過ぎても売店はたくさんのお客様で混雑していました。

最終日には、普及課の業務を体験させていただきました。普及課の業務内容はとても幅広く、1日中館内全体を動き回っていたといっても過言では無かったと思います。具体的には、館内で行われるイベントの時間に合わせてお客様誘導をしたり、タッチングプールの補助をしたりしました。お客様が安全かつ快適に水族館を楽しめるよう、必要な時に必要な所へ行って求められた仕事をするのは、せわしないながらもやりがいを感じられてよかったです。

4. エピソード

インターンシップ全体を通してエピソードはた

くさんあるのですが、その中でも特に印象的だったことを1つ挙げたいと思います。

それは、4日目の閉館時間が急遽変更となり、この日体験させていただいていた業務課での労働時間が伸びたことです。前述のとおり、この日は土日祝日と3連休になっている日の中日だったこともあり、来館者数が多く館内が大変混雑していました。特に、入館口付近にあるお土産ショップは、お帰りの際にご利用になれる大勢のお客様でひしめきあっている状態でした。そのためこの日は急遽、通常の閉館時間である17:00ではなく、17:30まで館内の営業を続けることとなり、業務の時間が伸びることになったのです。私はインターンシップ生ということもあり、初めは職員の方から「規定の時間に終業していいよ」と言って頂いたのですが、延長しても最後まで業務を体験させていただきたくったことと、混雑の中で一人だけ先に仕事を終えるのが心苦しかったので、担当の方の承諾を得て17:30まで働かせていただきました。私のこの対応がインターンシップ生として正しかったかどうかはわかりませんが、最後まで残って働かなければわからないこともきっとあったと感じています。営業時間延長が決まったのは16:30を過ぎた頃だったにも関わらず、連絡を受けて即座に、そして冷静に対応なさっていた職員の方々は本当にプロだと思いました。また、混雑状況を見て可能な限りお客様に館内を楽しんでいただくとする水族館全体のホスピタリティも、私にとっては新鮮で、学ぶべき部分といえました。

5. わかったこと、学んだこと

大洗水族館でのインターンシップを通して私が一番学んだことは“お客様のためにプロ意識を持って働くこと”の大切さです。こうして言葉にしてしまうととてもありきたりなのですが、5日間の業務を通し、大勢のお客様と接したり職員の方々のお仕事ぶりを間近で拝見させていただいたりして、このことを痛感する機会は本当にたくさんありました。大洗水族館は、1日で本当に多数

のお客様が来館されます。その中には、幼稚園や老人ホームから団体でお見えになられたお客様やその引率者の方、体が不自由な方など、さまざまな事情を抱えるお客様がいらっしゃいます。大切なのは、そんなお客様全員に対応できるような知識やスキル、心構えをもって仕事に取り組むことなのではないでしょうか。どんなに特別な事情をお持ちのお客様がいらっしゃっても、たとえ館内が混雑していても、常にお客様全員、一人も漏れなく施設を安全に楽しんでいただけるよう尽力すること。このことこそが、水族館で働く方々のプロ意識なのだとは私は学びました。あらゆる接客業に共通するであろうこの学びを、これから確実に自分の蓄えにしていきたいと思っています。

6. 後輩へのアドバイス

私は将来就きたい職業などがまだ定まっていませんが、とにかく早いうちからできるだけ多くのことを体験しておきたいという思いで、このインターンシップに参加しました。大学2年でインターンというはまだ少し早いうちに捉えられがちですが、2年生のうちに経験を積んでおくことで、3年生になってからはまた別の、更に質の高い経験ができるかもしれません。日程や派遣先選びなど、迷うことは多々あるとは思いますが、しかし、やらない理由を挙げているときりがありませんし、思い切って参加してみればそこでなにかいいきっかけが掴めるのではないのでしょうか。長い夏休みのうちの5日間をインターンに費やしてよかったと、私個人はそう思っています。

最後になりましたが、お忙しい中快くインターンシップを受け入れてくださり、優しく丁寧にご指導下さったアクアワールド大洗水族館の職員の皆様、心より感謝申し上げます。貴重な体験をありがとうございました。



総合案内カウンターで再入場用スタンプを押す様子

作り手になって感じたこと

阿さ川製菓株式会社

住谷 美樹（3年）



1. 参加の動機

3年生になり、就職活動が近づくなか、「社会人として働く」ということに対し、漠然とした不安を抱くようになりました。そこで、その不安を少しでも減らし、将来に対するイメージをより明確なものにしたいと思い、インターンシップへの参加を決めました。

阿さ川製菓株式会社を選んだ理由は二つあります。一つ目は、「食べる」という、生活の上で最も重要である行為を支える食品製造の仕事に興味があったことです。二つ目は、「水戸の梅」や「偕楽の梅」といった茨城を代表する銘菓が、どのように作られ、人々の手に渡るのかを知りたかったからです。

2. 派遣先の概要

阿さ川製菓株式会社は、明治5年に創業された銘菓や和洋菓子を製造・販売する茨城の菓子製造会社です。昭和43年に、全国菓子大博覧会にて「偕楽」が名誉大臣、名誉大賞を受賞して以来、あさ川創作菓子を次々と創出し、全国菓子大博覧会において数々の賞を受賞しています。

今回、私がお世話になりました水戸市元石川町の工場では、県内外48店舗すべての商品を一括して生産しています。

3. 活動内容

活動内容は大きく2つに分けられます。まず、

洋菓子の製造補助作業です。今回のインターンシップでは、この洋菓子の製造補助作業がメインの活動でした。洋菓子の作業室で、カップケーキ用のスポンジの型抜きや、チョコレートケーキ・ゼリーの簡単な飾りつけ、ショートケーキ用のいちごのカットなどの作業を行いました。また、インターンシップを行ったのが9月の最初の週だったため、次週から発売になるという、栗やさつまいもを使った秋の新商品の飾りつけも行いました。

次に、和菓子の菓・製造責任表の封入及び箱詰め作業です。水戸の銘菓としても名高い、「水戸の梅」や「偕楽の梅」、「吉原殿中」をはじめとするさまざまな和菓子の箱詰め作業を行いました。

4. エピソード

今回のインターンシップでは、失敗してしまった点と印象に残っている点が2つずつあります。

失敗したことは、2つとも洋菓子の製造補助作業中のことでした。私がスポンジの型抜きをしていると、職員のかたが「これはだめだよ」といって、型抜きしたスポンジを捨てられました。話を聞くと、茶色く濃い焼き色がついた部分は、お客様が異物の混入と間違われることがあるため、入れてはならないとのことでした。もう1つの失敗は、ショートケーキを並べる作業をしている時でした。近くに落ちていたいちごを踏んでしまい、靴底を手で触った後に、消毒をせずに作業に戻ろうとして注意をいただきました。両方とも、衛生

面や買っていただくお客様のことを考えれば、してはならないことだったと反省しています。

印象に残っていることの1つは、職員のかたの箱詰めスピードです。あっという間にお菓子と菓・製造責任表が箱の中に詰められていきます。そのスピードに私は、おいつくのがやっとでした。また、最終日に、ウェディングケーキの注文があったとのことで、大きなケーキを作るところを間近で見られたことが印象に残っています。

5. わかったこと、学んだこと

1つのお菓子を製造するには、いくつもの工程があり、どこの工程が抜けても商品はできあがりません。一つ一つの工程を丁寧に、そして、確実に行うことで商品ができ、各店舗に配送されていきます。この一連の流れを掴むことにより、一人一人の作業がとても大切で責任あるものだということがわかりました。実際に、作業をしているみなさんの顔は真剣そのもので、社会人として働くということは、責任や信頼を背負うということでもあるのだと改めて考えさせられました。

ケーキや和菓子を、スーパーやコンビニではなく銘菓の老舗である阿さ川製菓で購入するのは、誕生日をはじめとした各種のイベントや大切な人への贈答用が多いと思います。購入してくださったお客様がそのあとにお菓子を食べながら過ごす楽しい時間やお菓子を食べた時の笑顔を想像すると、それが仕事への原動力になるのではないかと感じました。また、お客様は、この会社のものなら間違えないと思い購入しています。お客様のことを考えるということは社会で働く上ではかせないことだと感じました。

そして、自分から積極的に動くということが大切だと感じました。工場内で作業するにあたっては、初めて行く場所で何がどこにあるのか、何をすればよいのかなど、わからないことだらけでした。そんな時に、わからないことをそのままにせず、「これはどうしたらいいですか?」、「次は何をしたらいいですか?」など、自分から聞いて行動することが重要であると感じました。わからない

ことをそのままにしまったり、自分一人の思い込みで動いてしまったりすることが一番危険だと思います。自分自身の努力と周りの方々からの支えや協力により、仕事は成り立つのだと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

もしインターンシップに参加するか迷っているなら、ぜひ参加することをお勧めします。なぜなら、インターンシップを経験することで、社会人としてのマナーを学べるだけでなく、自分の将来について深く考える良い機会となるからです。将来の目標がすでに決まっている人も、そうでない人も、インターンシップに参加することで何かえるものがあると思います。よって、ぜひインターンシップに参加したほうが良いと思います。

また、インターンシップに参加する際は、聞いてみたいことや、疑問に思ったことをきちんとまとめておく方が良いと思います。些細なことでも質問すれば職員の方は丁寧に答えてくれます。いろいろなことを聞くことで職への理解が深まり、インターンシップに参加した意義が増すと思います。

今回のインターンシップでは、学校生活でもアルバイトでもなかなかできない貴重な体験が出来たと思います。

最後になりましたが、お忙しい中、丁寧なご指導をくださった、阿さ川製菓株式会社の皆様には、改めて感謝申し上げます。



お菓子作りからの発見

阿さ川製菓株式会社

征矢 朋子（2年）



1. 参加の動機

私は、将来どのような職に就きたいか決めておらず、焦りを感じていたため、インターンシップに参加することで何かヒントがあるのではないかと思います。私はアルバイトで、事務的なことと接客はしているので、まだ体験したことがない「製造」という仕事に携わってみたいと考え、阿さ川製菓株式会社様を希望しました。

2. 派遣先の概要

阿さ川製菓株式会社様は、茨城が誇る和洋菓子創造企業です。熟練した職人がすべての工程を手作りで製造する「吉原殿中」をはじめ、機械化が進んだ今日でも、ほとんど機械を使わず手作りで製造するなど、手作りにこだわっています。また、素材については、国内で生産された小豆で餡をつくる、仕込みの水は自社敷地内から汲み上げた地下水を利用するなど、地産池消にも強いこだわりを持っています。さらに、「吉原殿中」やどら焼きなどは、その場で作りその場で売る、出張販売という取り組みもされており、地元の人に愛されている企業です。

3. 活動内容

活動期間は5日間でした。私は和菓子の箱詰め作業、箱詰めされた和菓子のラッピング、袋詰めされた焼き菓子の賞味期限の印字、洋菓子の製造

補助など、多くの仕事に携わらせていただきました。和菓子の箱詰め作業では、阿さ川製菓株式会社の銘菓である「水戸の梅」、「吉原殿中」、「偕楽の梅」などを決められた数だけ箱に詰めるという作業が主な仕事でした。箱の中には同時に銘菓のしおりやフォークなどを一つずつ入れました。洋菓子の製造補助では、実際にケーキを作る工程のうちいくつかを体験させていただきました。ガナッシュというチョコレートケーキの飾りつけや、スポンジの型抜き、生クリームが浸透しやすいようにカップケーキの底のスポンジにナイフで切れ目を入れる作業などをさせていただきました。

4. エピソード

私は、「なぜこの工程が必要なのか」を疑問に感じたまま、言われたことの本当の意味を理解せずやっけてしまい失敗してしまった点が2つあります。

まず、袋詰めされた焼き菓子の賞味期限の印字の時です。初めに、「箱に入っている焼き菓子をひとつずつベルトコンベアーに流してほしい」と言われ、お手本を見せてもらったのですが、ベルトコンベアーの長さは1メートルもなく、その先には社員の方が流れてくるお菓子を待っていただけで、なぜベルトコンベアーに流すというひと手間が必要なのかわかりませんでした。ベルトコンベアーに流すことで、途中で賞味期限が印字される、ということはしばらくしてから気づきまし

た。よく分からないまま流していたので、賞味期限が適したところに印字されず、ずれてしまった印字を社員の方が消すという、余計な手間をかせさせてしまっており、申し訳なく思いました。「気にしなくていいよ」というお言葉がとてもありがたかったです。

次に、洋菓子の製造補助で、「カップケーキにナイフで縦3本横3本の切れ目を入れてほしい」と言われた時のことです。これも、なぜ切れ目を入れる必要があるのか分からないまま作業に入ってしまった、私は浅く切れ目を入れていました。「上に乗せる生クリームが浸透しやすいように深く切れ目を入れてほしい」ということはその仕事がほとんど終わるころに社員の方に注意されました。結局、私が入れた切れ目は浅かったため、深く切れ目を入れなおしたため二度手間になってしまいました。どちらも、私が分からないことを質問していれば防ぐことができた失敗だったため、反省しています。

5. わかったこと、学んだこと

私が今回インターンシップに参加して分かったことは、大きく2つあります。

1つは、従業員の皆さんが、お客さんの喜びのために真剣になるということです。そのため、1つのお菓子を作るだけでも、ただ食べているだけではおそらく気づけなかったより美味しくなるための工夫や、多くの人の時間と労力が背景にあります。私自身、インターンシップということで5日間しか働きませんでしたが、それでもお菓子1つを作る大変さを実感し、そのようにしてできたお菓子だからこそ「お客さんに美味しくいただいてほしい」と感じました。それと同時に、私は、以前はいつも何も意識せずにお菓子を買って食べていましたが、インターンシップに参加したことで、私が手に取る商品に背景を読み取るようになり、今まで生産者の気持ちを考えたことがなかったことに気づかされました。

2つ目は、働くにあたって、分からないことは素直に質問する大切さです。分からないことに直面してしまった場合は、間違える前に知っている人に確認をとるというシンプルなことなのですが、これが私には足りない点だったのだと知ることができました。実際にインターンシップによって働くという体験ができていなければ、気づくことができなかつたろうと思います。

6. 後輩へのアドバイス

私は、バイトやプロジェクト実習などで毎日忙しかったので、インターンシップを受ける余裕があるかどうか不安で、迷いましたが今回、インターンシップに参加して良かったと思います。なぜなら、自分に足りないものが何か知ることができるからです。これは、学校の授業だけでは、なかなか分からないと思います。なので、私はインターンシップに参加することをおすすめします。また、忙しい私でも、バイトのシフトを調整したり、プロジェクト実習のチームとの話し合いはネットを利用したりすることで、インターンシップに参加することができたので、「長期休業日は毎日忙しいから」という理由で参加するのを諦めるのはもったいないと思います。

最後になりましたが、阿さ川製菓株式会社の皆様には、お忙しい中貴重な体験をさせていただきましたことに心から感謝申し上げます。



「働く」ということ

イガラシ綜業株式会社

久保田侑希（3年）



1. 参加の動機

私は、いままで就職についてあまり真剣に考えてきませんでした。しかし大学3年生になって、就職活動が近づいてき、自分の将来について向き合わなくてはいけない時期になりました。早く社会に出たいと思う反面、自分がどんな仕事をしたのか、何に向いているのか分からない状態だったので、インターンシップで、実際に「働く」というのがどういうことなのか、今の自分に何ができるのかなど、色々なことを学びたいと思ったので参加することを決めました。

2. 派遣先の概要

イガラシ綜業株式会社は、茨城県日立市に本社を置き、学校やビル、住宅、工場などの電気設備工事を中心に、管工事や、風力・太陽光発電など幅広い事業を行っています。

技術者の育成や、資格取得の力を入れていて、国際認証規格であるISOを3つ取得されています。

資格を持っているため、高い技術能力を要する現場でも仕事を担うことができます。ライフラインに関わる電気や建設の工事をしたり、その事業内容を管理するなど、自社ですべて行っているため、県内の業界の実績のなかではトップであり、地域からの信頼を得られている企業です。

3. 活動内容

イガラシ綜業の本社内は、営業、工事管理、経

理の部署に分かれており、その中でも私は工事管理の仕事に携わらせていただきました。この部署では主に工事や建設に関する資料を作成、管理などを行っています。

私が行ったインターンシップでの主な活動内容は、パソコンを使ったデータの打ち込みや、施工計画書の資料作成、また、書類を管理するためのファイル作り、お茶出しなどを行いました。

パソコンでの作業は、名簿のデータを、昨年度のものから今年度の分には書き換えや、現場で使う資料の訂正箇所の入力をしました。また、施工計画書の作成は、実際に現場で使われるもので、もともとある資料をデータ化するという作業でした。そうすることで管理が容易になります。資料はエクセルですべて作成され、パソコン上に一から施工計画書作り直しました。

また、そうした資料のデータは書類でも管理されるので、それをまとめておくためのファイルを作り、テプラや、インデックスを使うことで分かりやすくしました。

事務的な作業の他にも、社長さんから研修をうけ、電気工事業に関することや、ISOの取得、中小企業の強み、地域に密着した取り組みなどのお話を伺えました。さらに、イガラシ綜業に内定をもらっている方の懇親会に急遽私も参加させていただき、就職活動へ向けて刺激を受ける機会もありました。

4. エピソード

9日間のインターンシップを通して反省したことがあります。それは積極性のなさでした。インターンシップではパソコンを使った作業が多いよ、と打ち合わせのときに聞いていて、自分のなかである程度パソコンを使うことには自信がありました。インターンシップ初日、エクセルを使った作業を任されたのですが、普段使わないような作業が多く、わからないことが多々ありました。しかし、それをなかなか他の方に尋ねることができず、ひとつの作業に時間をかけてしまったということがありました。そんな私を見て、周りの方が気づいて声をかけてくれたのですが、もっと自分から動かなくてはいけないと痛感しました。

職場の方々には本当に優しい方ばかりで、気にかけてくれたり、声をかけてくれたり、それが励みとなり9日間を有意義に過ごすことができました。

また、イガラシ綜業はISOを3つ取得されていて、最終日にはその審査が入り、厳格な雰囲気の中で仕事をしたり、とても貴重な体験をさせていただきました。その日の審査の後に講評をされていたのですが、細かいところまで資料を見比べてチェックされていることがわかりました。イガラシ綜業は、とても地元信頼を得ている会社で、地元から担っている仕事の量は多く、管理体制にはとても厳しい企業でした。私はファイルを作る

作業をしたのですが、ファイルは何年先まで保管されていくものなので、そういった作業でも気が抜けないのだと実感しました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップを通して学んだことは、「働く」ということは、一人だけの力だけでは成り立たせることはできず、いろんな方がいて協力することで成り立っているということでした。

社長さんは、社内の一人ひとりの個性を大事にしており、それがあからこそ会社ができていくのだ、とおっしゃっていました。お互いがコミュニケーションをとりあいながら、自分の能力を最大限に発揮できたときこそいい仕事ができるのだと学ぶことができました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは実際に働いてみて、自分が社会にでて何ができるのかできないかを、知ることができるチャンスだと思います。学生のうちはたくさん時間があるので、もしできないことがあれば社会に出るまでに克服しておくこともできるので、有意義な時間を過ごせるようになります。

また、自分の就きたい仕事や、企業に参加できたら、職場内の雰囲気や様子を見ておくことができるので、インターンシップに参加することをおすすめします。



職場の様子



施工資料作成中

社会人としての 「私」になるために

株式会社アクアクララ水戸

伊坂 志帆 (2年)



1. 参加の動機

社会に出て働くという経験をしたことが未だになかった私にとって、働くということがどういうことなのか、正直よくわかっていませんでした。しかし、よくわからないままにしておけば今後待ち受けている就職活動、さらには就職して実際に働くとなったときに、大きな不安を抱えることとなります。このままではいけない、少しでも就職に対する不安を除きたい、そう思っていたときにインターンシップについて知り、今回参加するに至りました。

派遣先である株式会社アクアクララ水戸(以下、アクアクララ水戸)では、インターンシップにおける職務内容の一つに法人・個人会員様訪問が挙げられていました。会員様訪問というのは、アルバイトなどでは滅多に経験することはできません。そのため、私はアクアクララ水戸を派遣先として志望しました。

2. 派遣先の概要

水出風花さんの報告書を参照して下さい。

3. 活動内容

2週間(実質10日)のインターンシップのうち、1週目にはウォーターサーバーの部品の洗浄やウォーターボトルに付着した汚れや水を拭く作業、ボトルのシールの張り替えなど、製造の補助をさせていただきました。2週目には社員の方とともに会員様訪問をし、ウォーターボトルの宅配やウォーターサーバーのメンテナンス、お試用

のウォーターサーバーの設置及び回収などを主に行いました。

4. エピソード

アクアクララ水戸は水を取り扱う企業だと思っていたため、インターンシップ前までは水の取り扱いにことさら注意しているものとばかり考えていましたが、実際は水だけではなく、水を入れるウォーターボトルやウォーターサーバーの部品一つ一つにまで気を配っていらっしゃることを知り、自分の意識の低さを痛感しました。

製造の補助をさせていただいた際、社員の方々はボトルやサーバーのチェックをすばやくかつ丁寧にされていましたが、私はすばやく行おうとすると丁寧に欠けてしまったり、反対に丁寧に行おうとするとスピードが遅くなってしまったりと、すばやささと丁寧さを両立させることがなかなかできませんでした。作業への慣れという面でその差が出てしまうことは当たり前のことなのかもしれません。しかし、それを少しでも埋めるために、どのようにすれば効率よく、そして丁寧に作業できるのか、どの部分に特に注意すべきかなど、作業中常に考えて行動できるように心がけました。

また、会員様訪問では、同行して下さった社員の方がお客様に対して大きな声で挨拶なさっているのに対し、私の挨拶の声が小さく、お客様にまで届かないということがありました。これでは、相手にとっては私が挨拶もしない人間なのだと思います。

われてもおかしくはありません。挨拶もできない人だと思われるよりは、多少恥ずかしくても、相手に聞こえるまで何度も挨拶をすれば良かったと反省しています。

さらに、社員の方がウォーターサーバーを設置されているあいだ、私はお客様と会話をするための話題がなかなか思い浮かばず、沈黙してしまっていたことがありました。お腹にお子様がいらっしゃる女性に対し、社員の方がそれに関する話題を提供なさるのを拝見し、私も相手を良く見て、話が弾むような話題で会話できるようにしなければならぬと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

ウォーターサーバーのメンテナンスとして、サーバーの部品に付着している汚れを見つけてそれを落とすという、一見して単純に思えるような作業を行っているあいだでも、頭を使って考えなければなりません。さらに難しい作業であったのなら、さらに頭を使わなければならなかったでしょう。どんなに簡単に思えるような作業をしているときでも、常に考えて行動することの大切さを学びました。常に考えて行動していれば、不測の事態にもより柔軟に対応できるのだと思います。

また、どんな状況にあっても、お客様だけではなく社員の方に対しても挨拶と笑顔を忘れてはならないということも学びました。挨拶と笑顔があるだけで、その人に対する印象はがらりと変わってしまいます。実際に、お客様の中でも笑顔で迎

えてくださった方とのほうが会話もしやすくなりましたし、私もいつのまにか笑顔になっていました。挨拶もあるとないのでは相手に対する印象が全く違いました。相手を笑顔にすることができるくらいの笑顔と挨拶こそが、相手の心をつかむ最大の要素なのだと感じました。だからこそ、私も相手を笑顔にできるくらいの笑顔で、多くの人々と接していきたいと思います。

加えて、今回のインターンシップでは、私の会話力不足が明白になりました。会話が長く続かないということは、人とお付き合いをするにあたって障害になりますし、話題を提供できないというのはそれ以前の問題です。そうならないためにも、日頃から多岐にわたるジャンルの情報収集を積極的に行っていこうと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

2年次でのインターンシップはまだ早いのではないかと思う人もいると思いますが、決してそんなことはありません。実は私もインターンシップに参加する前まではそう思っていました。実際に参加してみると、むしろちょうど良い時期なのではないかと感じました。まだ就職に対して気負う必要のないこの時期に、インターンシップを通して学べることは数多くあると思います。

最後になりましたが、この場をお借りして、お世話になりましたアクアクララ水戸の皆様、心より御礼申し上げます。夏場というお忙しい中、誠にありがとうございました。



ウォーターサーバーの部品の洗浄の様子



プラントの様子

社会人になる上で大切なこと

株式会社アクアクララ水戸

水出 風花（3年）



1. 参加の動機

3年次になり、専門ゼミナールや就職ガイダンスなどで自分が志望する企業を絞るべきだと言われるようになり、自分がどんな仕事に向いているのかわからず、友達や先輩に志望する業界を聞かれても答えられずにいました。そういった志望が固まっていないことに対して危機感を覚えたのが、インターンシップに参加しようと思ったきっかけでした。

インターンシップに参加することで、アルバイトとして働くことと社会人として働くことの違いを知り、自分にはどんな職種が向いているのかを肌で感じた上で自分の目指す業界を絞る材料を得ることができたらと思い、インターンシップに応募しました。

また派遣先であるアクアクララ水戸は水の宅配というなかなかアルバイトでは経験できない業種であったので、志望先に決めました。

2. 派遣先の概要

株式会社アクアクララ水戸はウォーターサーバーレンタルの会社です。水戸市にある人形専門店、祐月のグループ会社という位置づけにあります。東京に本社があるアクアクララ株式会社とフランチャイズ契約をして水戸市を中心に茨城県全域に宅配水を提供しています。

宅配する水は製造から配送まですべて自社のプラントで行っています。

水戸市を中心に茨城全域で約4,500世帯のユーザーを抱えており、遠いところは代理店に委託しますが、アクアクララ水戸はそのうち3,700世帯程に直で配達しています。

3. 活動内容

1週目はプラントで宅配水製造の補助やサーバーの洗浄をし、2週目は社員の方に付いて既存の顧客回りで水の配送やサーバーのメンテナンス、お試しサーバーの設置及び回収、事務所での事務業務の補助をしました。

4. エピソード

2週目の既存の顧客回りでウォーターサーバーのメンテナンスを行うため、お宅にうかがった時のことです。メンテナンスは会社で行うため、同じ型の洗浄済みのサーバーと交換するだけですが、私は触らないことになっていたのですが、社員さんがサーバーの設置をしている間、必然的にお客様と雑談をする役回りになりました。その日は顧客回りも3日目になっていたのですが、その日までは水の配送が主だったためお客様が不在ということが多く、ご在宅でも玄関先で必要最低限のやり取りだけだったため、お客様とお話することに慣れておらず緊張していました。そんな私を見兼ねてか社員の方がお客様にお孫さんの話題を振って自然と会話が弾むようにしてくださりました。

そのような助け船をいただいた中で気づいたことは、単なる顧客回りではお客さんの心を掴むことはできないということです。お客様のお孫さんのお名前や何歳なのかは自分の業務には全く関係のないことです。しかしお客様の生活を知ることによってそのお客様にとって最高のサービスが提案できたり、配達員の印象が良くなり、そのお客様から口コミが広がったりなどプラスの連鎖が起きます。人を相手にする仕事は人を相手にしている以上、人付き合いを大事にしなければならないのだということを知りました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップでは実際に自分が働くことを想像しながら自宅から車で通ったり、職場の方に積極的に話しかけたりを心がけました。

特に社員の方に仕事についてたくさん質問をしていたのですが、その中でインターンシップの担当の方の「いままでずっと仕事をしてきたけれど未だに自分にはどんな仕事に向いているのかわからない。だから若いうちにいっぱい失敗していっぱい泣いていっぱい笑いなさい。」というひとことが特に印象的でした。その他の社員の方も「その仕事が少しくらい自分に合わなくても我慢してしまう。」と仰っていました。

大学に入ってから今まで将来は絶対に自分に向いている仕事をしたいと思っていました。しかし、お子さんやお孫さんを持つ社会人の方が「未だに何が自分に向いている仕事かわからない」と仰っているのを見て、あまり頑なにならなくてもいいのではないかと感じ始めました。また同時に営業や事務、製造業を一気に体験して、どんな業種、職種においても人と仕事をする事に変わりはなく、仕事をする人同士、相手を思いやることが社会人になる上で大切なことなのだとということがわかりました。

それから自分に足りないものは対話力であるということもわかりました。積極的に社員の方に話しかけてはいましたが、いきなり自分が知らない話題が出てくるとうまく相槌を返せなかったりし

て話が途切れてしまうことが何度かありました。知識の量がまだまだ足りていないことを痛感すると共に、知らないのであれば相手から話を引き出せるようになりたいと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップはただ参加すれば良いというものではありませんが、社会人と自分とのギャップの大きさに気づかせてくれる大きな機会だと思います。自分が志望する業界を探ることであったり、自分にはどんな一面があるのかを知ることであったり、自分と仕事ということに対してテーマを設定して臨むことがインターンシップをより良いものにしてくれると思います。

興味を持ったらまずは参加してみたいと思います。いままで就職に関して何も考えていなかったとしても、考えなくてはならない環境に身を置くことで今後の進路選択や学生生活の間に何をすべきかが見えてくると思います。



プラントでの作業の様子



サーバーの中のパーツ洗浄の様子

働く楽しさを味わった インターンシップ

株式会社ケーズホールディングス

西尾 考広（2年）



1. 参加の動機

私がこれからの就活や今の自分に足りない部分は何なのかを考えていた時、ケーズホールディングス会長の加藤修一 著（2011年）『すべては社員のために「がんばらない経営」』かんき出版、またケーズデンキを取り上げた立石康則 著（2010年）『がんばらない経営 不況下でも増収増益を続けるケーズデンキの秘密』草思社という本を読む機会がありました。私はこれらの本を読み、たいへんな衝撃を受けました。

「お客様を大切にするならまず、第一に社員を大切にする。」「できもしないことはやらない、がんばらない経営をする。」などの印象的な言葉が残ると同時に、本当にこんなキレイごととも言える方針を掲げながらも業績を伸ばす企業が実際に存在するのかという疑問が浮かびました。

また私は自分の生活を快適に便利に、そして楽しくしてくれる家電製品のことが好きであり、自分の欲しいと思う商品の情報を得るためにインターネットで検索したり、家電量販店に足を運んで実際に手に取ってみたいします。

そんな自分の趣味とも呼べることを仕事にすることは働くうえでどのように感じられるのだろうかと思いました。

自分の読んだ本の内容が本当に現場でも浸透しているのか、趣味を仕事にすることはどんなものか、の二点を自分で実際に確認したいと思い、私はケーズホールディングスでのインターンシップ

を決意しました。

2. 派遣先の概要

ケーズホールディングスは家電電化製品並びに関連商品販売及び付帯工事・修理を行う家電量販店チェーンを展開する企業です。この茨城県水戸市に本社があり、子会社13社、関連会社2社、フランチャイズ加盟3社からなる企業集団の中核企業であり全国に426店舗（2014年3月現在）を展開しています。

ケーズは「日経ビジネス」が行っている家電量販店アフターサービスランキングにおいて2010年版より4年連続一位を獲得しており、業績も着実に成長を続け、創業以来2011年まで64年間増収を続けてきました。また人を大切にする企業でありながら業績を伸ばしている点を称えられ、2013年には第3回「日本で一番大切にしたい会社」大賞で「実行委員長賞」を受賞しています。

3. 活動内容

私はケーズデンキ水戸内原店において10日間のインターンシップをさせていただきました。私が担当させていただいたのは主にレジ周り、品出し、その他雑務の業務でした。

レジ周りではレジ担当の方の補助として商品を袋に入れる、防犯用のタグを解除する、そしてそれらをこなせるようになったら実際にレジ打ちを担当しました。

品出し業務では日々搬入される商品や、在庫にある商品をそれぞれ店頭と並べる作業を行いま

した。

それ以外にも製品カタログや伝票へのスタンプ押し、商品の価格ラベルのカット、また商品の見栄えが良くなるように商品を整頓することや、清掃なども行いました。

4. エピソード

私が様々な業務をしながら、従業員の方々のやり取りを見ていると、皆さんは本当に楽しそうに、そしてチームワークよく仕事をされていました。

全ての従業員が持っているトランシーバーで、手伝ってもらいたいことや自分の担当ではないお客様の御案内のお願いなど簡潔に丁寧にやり取りをされていました。また、よくお越しいただいている常連さんとは家族のような親しみをもって様々な相談や商品購入の検討をされていました。

そのような丁寧かつ親切さを持ちながらも商品の説明は非常に詳しく、お客様の要望に沿うような商品を提案するなど、やはり自分の仕事として責任を持っている方のレベルは違うと感じました。

お客様からも高い信頼を得ている、本当にアットホームな職場でしたので慣れない私にも丁寧な説明や、お気遣いの声を掛けてくださったので私も楽しく仕事をすることができました。

また、私も売り場で品出しなどの作業を行っているときなどに、お客様から声を掛けられることが多くありました。分からないことであればフォローをお願いするのですが、自分の拙い説明ながらもお客様の対応することができることもありました。私の持っていた知識がここでの仕事に繋がり、お客様から感謝してもらえたことも、私にとってとても感動的な体験でした。

5. わかったこと、学んだこと

私が本で読んだとおり、従業員の方はとても楽しく、そして伸び伸びと働いておられるように思えました。私の研修の担当になっていただいた水戸内原店の店長さんからのお話でもケースの方針と同じように、従業員が働きやすいような職場をつくることを心掛けておられることとお聞きし、会社全体と実際に働く職場の上司の方がそのよう

な考えを持っていて、人を大切にしているからこそ、現在のケースの業績やお客様からの高い信頼があるのだと感じました。

最近よく耳にする「ブラック企業」ばかりではなく、ケースのような企業が実際にあることを知ることができたのはとてもよかったですと思います。

今回のインターンシップで私の趣味である家電製品の知識が仕事に繋がることを実感し、もっと商品の知識を勉強しなくてはという向上心も生まれました。それも自分の好きな分野のことなので進んで身につけられると思えます。趣味を仕事にするということはこのケースにおいては非常に大きな意味を持つだろうと感じました。

私はこのインターンシップの10日間をすごく楽しかったと感じました。インターンシップによってこのような体験ができたので、私は自分のこれからの就活に対してポジティブに考えることができるだろうと思います。趣味を仕事にしていいのかという疑問も自分で体験することによって、業種によってはモチベーションを非常に高く持つことができ、楽しく働くことができるだろうと自分自身で実感することができました。

6. 後輩へのアドバイス

やはりただ本で読むだけと、実際に体験するのでは得られる情報に大きく差があると感じました。それだけでなく体験を通して、自分の知らなかった、興味関心や適性などを知ることができるかもしれません。もし、何となくでも自分のやりたいことがあるのであれば、ぜひインターンシップに参加することをお勧めします。



品出しの様子（ケースデンキ水戸内原店にて）

社会人と自分の違い

株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック

江尻 康毅（3年）



1. 参加の動機

今回水戸ホーリーホックへのインターンシップの参加を決めた理由は水戸ホーリーホックの運営、経営に興味があったからです。私はスポーツビジネスを卒論のテーマにしようと考えています。

水戸ホーリーホックは赤字に苦しむJリーグのクラブが多くある中、3期連続で黒字を達成しています。また、数々のユニークな経営戦略を打ち出しており、魅力的なチームであると私は感じていました。そのようなクラブの仕事を実際に体験することは自分の研究に非常に有意義であると思ったので志望しました。

また、就活というものを現実的に考えられていないということも理由の一つでした。大学3年生になり、もう少しで就活が始まるのにもかかわらず、私の就活に対する意識は「まだ少し先の話」といった感じで今一つ現実味がありませんでした。そのような気持ちを仕事に触れることで改めたいと思い、インターンシップに参加しました。

2. 派遣先の概要

株式会社フットボールクラブ水戸ホーリーホックはJリーグに加盟するプロサッカークラブであり、茨城県水戸市をホームタウンとして活動しています。事業内容としてはJリーグの試合運営のみならず、下部組織の運営や近隣市町村を中心にしたホームタウン事業、地域イベントへの参加など地域振興にも関わっています。また、最近では

ピッチの間近で観戦できるエキサイティングシート
の発売やクラブ創設20周年を記念した20万円
チケット、記念切手の発売など様々な企画を打ち
出しています。

3. 活動内容

試合会場の設営、片付け作業や事務所での様々な事務作業、グッズの補充などを行いました。試合会場の設営ではグッズ売場の設営、広告版やテントの設置を行いました。事務作業ではチケットの整理や案内看板の作成、パソコンでの名簿作成などを行いました。

4. エピソード

インターンシップで最も印象的だったのは従業員の方々の仕事に取り組む姿勢や集中力の高さです。特にそれが顕著に感じられたのが試合会場の設営でした。私がインターンシップでお世話になった試合の会場の設営は、台風の接近にともない、普段とは異なる準備をしなければなりません。そういった状況の中でも従業員の方々はインカム等で綿密に連絡を取りながら迅速に設営を行っていました。

私は運動部に所属していることもあり体力、気力にはそれなりに自信があったのですが、体力的にも精神的にもついていくのが精一杯といった感じで、自分がいかに様々な面で社会人の方と差があるかということを感じ知らされました。

もう一つ特に印象に残っているのが従業員の方に掛けていただいた「仕事の質を大切にしろ」という言葉です。案内看板を作っているとき、私はそれまでの仕事で疲れがたまっていたこともあり、集中が途切れてしまっていました。

そのような状態で作業をしていたため、細かい部分の仕上がりが雑で、十分な状態に仕上げられませんでした。そのときに従業員の方が掛けてくださったのが「仕事の質を大切にしろ」という言葉です。

大学では課された課題の完成度が60パーセント程度でも及第点がもらえますが、社会では100パーセントが求められるのだと改めて実感しました。無意識のうちに100パーセントでなくてもいいだろうと考えていた自分自身の甘さを実感しました。

5. わかったこと、学んだこと

私はこのインターンシップを通して自分がどれだけ学生気分でいるかということがわかりました。休憩から仕事に戻る際の気持ちの切り替えのスピード、一つ一つの仕事の正確さや丁寧さなど、あらゆる場面で精神的な部分が自分自身とは違っていたように思いました。

また、水戸ホーリーホックは私が考えていたこと以外にも様々な仕事をしていることがわかりました。

毎朝、朝礼で各々がその日に何をするのかを話してから仕事に移るのですが、営業、グッズの搬入、各種イベントの打ち合わせや選手への取材の立会いなど自分が考えていなかった内容の仕事が次々に出てきて、インターンシップに参加する前より深く仕事の内容を知ることができました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに少しでも興味があるのであれば参加してみるべきだと思います。自分の就きたい職業に近い業種の体験をすることで自分のイメージと実際の現場の違いを知ることができるかもしれませんし、そうでない職種でも、自

分が何をしたいのかを見つめ直すきっかけになるかもしれません。

また、インターンシップへの参加を考えるうえで特に考慮したほうがよいと感じたことが二つありました。

一つめは通勤時間です。私は今回下調べが不十分で毎日通勤に片道1時間かけることになってしまい苦勞しました。インターンシップの派遣先企業を選ぶときにはなかなか気が回りにくい部分ではありますが前もって調べておくと、より円滑にインターンシップに取り組むことができると感じました。

二つ目は体調管理です。今回私は途中で体調を崩してしまい、欠席してしまうことがありました。欠席してしまうと自分が損をするばかりでなく、派遣先の企業にも大変迷惑を掛けてしまいます。普段あまり風邪を引かない人もインターンシップ中は生活リズムがいつもと変わるので十分注意する必要があると感じました。

最後に水戸ホーリーホックの皆さんに御礼を申し上げます。お忙しい中、お時間を割いていただきありがとうございました。今回のインターンシップで学んだこと、感じたことを将来に活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



会場設営時のピッチの様子

内側からチームを支えるということ

株式会社フットボールクラブ
水戸ホーリーホック

渡邊 麻奈（3年）



1. 参加の動機

私がインターンシップに参加しようと考えた理由は2つあります。1つ目は、この実習をさせて頂く前に役場へのインターンシップに参加していたこともあり、この機会に別の業界も体験することでより深く進路を考えていきたいと思ったからです。私は公務員と民間企業の2つの進路で迷っている為、どちらの職種も体験することが将来のイメージ形成にとってとても重要だと考えました。

2つ目は、17年間観客として応援してきた水戸ホーリーホックを「一観客」という外側からではなく、内側から関わることのできる業務を体験させて頂きたいと考えたからです。5歳の頃からずっと見守っていたチームですが、最近は内側から支える業務に興味を抱き始めており、自分もその中に入って学びたいと思いました。

以上のような理由で、私は今回水戸ホーリーホックでのインターンを希望しました。

2. 派遣先の概要

水戸ホーリーホックは茨城県水戸市にホームを置くJリーグに加盟しているプロサッカークラブです。クラブビジョンである「水戸維新」、今年のスローガンである「そう」を掲げ、チームやユースの運営の他、地域の子供たちにスポーツの楽しさを伝える巡回指導などの地域貢献活動、地域イベントの参加などの社会貢献事業などさまざまな活動を行っています。

3. 活動内容

活動は事務所での事務作業と、ケーズデンキスタジアムでの試合前日の設営と当日の試合運営でした。事務所ではキッズパスポート会員のメールアドレス入力作業や手紙の封詰め作業、スタジアム周辺で使用する様々なブースの看板をラミネート加工し作成する作業などをしました。

試合前日にはケーズデンキスタジアムにてゴールやアドボード、人工芝やベンチなどの設置、グッズの入った箱の運搬作業など力仕事を行いました。

インターンシップ期間中に2度のホームゲームがあり、モンテディオ山形戦ではビアスタジアム2014の抽選会場の手伝いと3階にあるプラチナシートに座るお客様の対応を行い、ジュビロ磐田戦ではプラチナシートのお客様対応に加え、GAVICブースでグッズ販売の対応を行いました。

4. エピソード

今回印象に残っているのは、モンテディオ山形戦で行ったビアスタジアム2014での出来事と、磐田戦で仕事の合間に見た水戸ホーリーホックの大量得点の瞬間の出来事でした。

ビアスタジアム2014では、抽選をする為に集まったサポーターの方々の行列ができ、私はその列の整備をしていたこともあって水戸と山形の両サポーターの方々とお話をする機会が多くありました。中には目当ての景品の為に何度も挑戦しに

並んでは結果を報告してくれる水戸サポーターの方達、試合観戦の為飲食スペースを離れる際に、わざわざこちらまで戻って来て「色々ありがとうね。行ってきます。」と笑顔で挨拶してくれた山形サポーターの方達もいました。

このピアスタジアム2014は、くじを作成したり、設営を行ったりなど自分が携わってきた企画だったので、そうした企画をきっかけにして普段観客として見に来ている時にはなかなか触れ合えない方達とお話が出来たこと、そしてその方々がこの企画を喜んでくれていることが伝わって来てとても嬉しかったです。

ジュビロ磐田戦では、3階のプラチナシートのお客様対応をしている合間に3回の水戸のゴールシーンに偶然立ち会うことができました。17年間水戸の試合を観戦した中で数えきれないほどゴールシーンを見てきましたが、どんなスーパースタールを目にしたときよりも「自分たちが設営したゴールネットを揺らしたシーン」を目にしたときの言い知れぬ感動は忘れられません。

ピアスタジアム2014での出来事も磐田戦のゴールシーンも、どちらもスタッフとして内側から携わったからこそ体験することができた貴重なもので、仕事をする事の喜びの一端を感じられたように思えました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップに参加させていただいて学んだことは、働く際に社会人として見られること、責任を負わされることに対する自覚をしなければならないということでした。

実際試合運営の中でスタッフのTシャツを着て総合案内の腕章を付けた瞬間から、「インターンシップ生」ではなく「水戸ホーリーホックのスタッフ」という一人の社会人として扱われ、社会人としての対応を求められました。飲食店の方からインターンシップ生には解らない様な運営に関するクレームを頂いたり、任された仕事の内容の範囲外の質問がお客様から来たりして戸惑ってしまう場面が多くありました。幸い近くに居た他の社員

の方の元へ行き事なきを得ましたが、「インターンシップ生だから」ということを言い訳に出来ないという事態に直面して、どんな立場であっても働く以上はみな等しく一人前の責任を背負う覚悟をしなければならないということを学びました。

6. 後輩へのアドバイス

もし将来どのような職種に就こうか迷っていたならば、インターンシップという格好の機会を活用して異なる種類の職業を体験することをお勧めします。また迷っていない方でも複数種類参加してみると更に有意義になると思います。

水戸ホーリーホックは2つ目のインターンシップ先でした。1つ目の所ではミスもなく無事に終わることが出来ましたが、今回は期間の前半で荷物運搬の際に荷物の重さに体を持っていかれて転んでしまい、なかなか血が止まらず心配をかけてしまったり、試合運営の中で仕事内容の確認不足で迷惑をかけてしまったりするミスをしました。

「前はミスなく終わることができた」という自信を打ち砕かれた衝撃は凄まじいものでしたが、それをバネにして期間の後半はミスをすることなく終わることができました。悔しい思いはしましたが、きっとミスなく終えた1つ目のインターンシップの経験だけよりも「成長した」という実感を得られたと今では思っています。

複数課所のインターンシップに参加を強制したり失敗することを勧めたりしている訳ではありませんが、何度か社会人として働く環境の中で失敗をし、痛い思いや悔しい思いをして自分を見つめ直してこそ、さらに成長できるのではないかと考えています。



沼田邦郎社長と

紅茶を通じた関わり

有限会社 紅茶館

佐川奈津季（3年）



1. 参加の動機

私が今回のインターンシップに参加しようと思った理由は、社会に出て「働く」ということについて考えるきっかけが得られると思ったからです。いままでは働くことについて考えることはできて、どうしても実感が持てずにいました。そのため実際に働いてみることで、働くことをより具体的に考えることができるようになるのではないかと思います。2年生のときは、まだ早いかかとインターンシップに参加しませんでした。しかし3年生になり、就職活動が始まる前にきちんと考えなくてはいけないと思い、参加することにしました。

また、以前から飲食業に興味があったのですが、自分に本当に向いているのかという不安がありました。短い期間ですが働いてみることで、その判断をしてみようと、紅茶館でのインターンシップへの参加を決めました。

2. 派遣先の概要

紅茶館は、約70種類以上の茶葉が揃っている紅茶専門店です。本格的な紅茶を楽しむことができます。その他にもアフタヌーンティーやランチメニューなどを提供しています。

また、紅茶とその文化を広めるための活動をしており、水戸や海外で開催されるイベントに参加したり、紅茶教室を開いたりしています。

3. 活動内容

5日間のインターンシップの中で、主に店内外の清掃や洗い物などの手伝いをしました。また、茶葉を販売用に小分けにして袋詰めする作業や、イベント参加時に必要な材料を準備する作業などをさせてもらいました。

3日目には、紅茶館で開かれているティーエキスパート養成講座に参加させていただきました。講座では、紅茶ごとの特徴の説明を聞き、ダージリンやアッサムなどの主要な紅茶のテイスティングをしました。

4. エピソード

ティーエキスパート養成講座では、一般の人のなかに参加しました。私にとっては初めての講座で、他の人と一緒ということもありとても緊張していました。そのなかで、先生や周りの方が積極的に話しかけてくれたことで、その緊張が和らぎました。もともと人のなかに入ることが苦手だったのですが、社会に出たらいまより多くの人と関わる機会が増えていきます。いまのうちから、初対面の人と関わることへの苦手意識をなくしていかなければならないと実感しました。

また、いままで本格的な紅茶を飲んだことがなく、紅茶についての知識もありませんでした。しかし、講座に参加して知識を得ることができて、紅茶への興味が出てきました。いままで知らなかったことを知ることで、自分の興味の幅が広く

なったと思うので、どんなことにも挑戦してみることが大切だと思いました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップに参加して、働くことはその店を背負うことだと学びました。インターンシップをしている中で、お客様にお店のことや茶葉のことで声をかけられることが何度かありました。私は、それに対して何もできませんでした。一度店に入って制服を着たら、お客様にとっては同じ従業員です。学生ではなく、社会人としてそのことを自覚し、自分の立場やお客様のことを考えながら行動することが必要だと感じました。それは、どんな職種にも共通していることです。

また、インターンシップ中に多くの人と知り合ったことで、人との関わりを持つことの大切さに改めて気づきました。学生生活で関わることができる人は、どうしても同世代の人に限られてしまいます。インターンシップでは、働いている人だけでなく、そこに来る人たちとも関わるすることができます。さまざまな世代や立場の人と関わることで、自分の知識の幅が広がったり、新たな興味が出てきたりすることもあります。普段何気なく生活するうちに忘れがちなことに気づくことができたので、良い経験になったと思います。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップと聞くと、実際に仕事をすることは大変そう、難しそうとどうしても考えてしまいます。しかし、アルバイトとは異なり、学生であるうちに社会人として実際に仕事をしてみるという体験ができるのは、インターンシップだけだと思います。自分がどんな仕事をしたいのかわからないという人は、少しでも興味があるところが見つかったら参加してみることをお勧めします。普段なかなかできない貴重な経験ができ、自分自身の成長にもなると思います。

それだけでなく、実際に体験することで本当に自分のやりたいことができるか、その職業に向いているかについて考えるきっかけを掴むことができますと思います。短い期間で確実に向き不向きの判断をすることは難しいですが、いまのうちに気づくことができれば、これからの就職活動につなげることができるはずです。

最後になりましたが、インターンシップをしてくださった紅茶館の皆様、この場を借りてお礼を申し上げます。短い期間でしたが、貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。この経験をこれからは活かしていきたいと思います。



紅茶のテイスティングの様子

酒造の現場を体験して学んだ 「働く」ということ

木内酒造合資会社

小岩 優花（3年）



1. 参加の動機

私が今回インターンシップに参加しようと決めた理由は、「働く」ということについて理解を深めたいと思ったからです。3年生になり就職活動について意識するようになりましたが、社会に出て働くということに漠然としたイメージしか持つことができずにいました。そこで、働くということについて理解を深めるため実際に働くことを経験してみようと思いました。

また、数ある派遣先の中から私が木内酒造への派遣を希望した理由は2つあります。1つは、私はお酒が好きなので、普段飲んでいるお酒がどのように造られているのか見てみたいという気持ちがあったからです。

もう1つは自らの視野と選択肢を広げられるのではないかと思ったからです。製造業というのは日常生活で関わることの少ない業界です。しかし、普段目にしない製造の現場を自分の目で見て体験してみると、新たな発見があるのではないかと思います。派遣を希望しました。

2. 派遣先の概要

木内酒造合資会社は1823年創業の酒造メーカーです。創業以来続く酒造りにより、清酒「菊盛」を宝とし守り続けながらも、ビールやワインなどの醸造にも挑戦し次世代を視野に入れた酒造りをしています。「常陸野ネストビール」は額田醸造所というビール工場で作られており、そこで生

産されるビールの7割を海外へ輸出しています。菊盛は全国新酒鑑評会、常陸野ネストビールは国内外のコンテストで数々の受賞歴を誇り、木内梅酒は国内最大級の梅酒コンテスト「天満天神梅酒大会」で2009年に日本一に輝いたことがあります。

木内酒造では飲食店も経営しており、木内酒造の酒だけで打った蕎麦を提供する「な嘉屋」には地元の方だけではなく他県のお客様も多く来店されています。

3. 活動内容

私が今回体験させていただいた活動内容は、大きく4つに分けることができます。

1つ目は酒造に関わる仕事です。ろ過機にケイソウ土という土を投入しながら、約6時間かけて梅酒のろ過を行いました。

2つ目は瓶詰工場内での仕事です。工場内では主に洗瓶機でのビン洗浄、お酒が詰められたビンにラベルを貼るためにビンをベルトコンベヤーへ流す作業、お客様の注文通りに、日本酒やビール、梅酒のビンダンボールに詰めて送り状を貼る発送作業を行いました。これらはすべてビンを扱う作業なので、丁寧さが求められます。

3つ目はビールの品質管理に関わる仕事です。比重計を使った糖度測定の作業を体験し、ビン詰めされたビールの品質検査を行っているところを見学しました。

4つ目はケグという貯蔵や輸送、サーバーとして使用される容器を洗浄したり、ラベルを貼ったりする仕事を体験しました。

4. エピソード

1日目に梅酒のろ過を行いながら、担当してくださった方に、木内酒造がどのような会社なのか、どの商品が売上げの多くを占めているのか、どのような事業展開をしているのかなどさまざまなお話をうかがうことができました。そのお話の中で私が最も印象に残っているのは、常陸野ネストビールを醸造するための工場を韓国に建設しているというお話です。常陸野ネストビールは海外へ多く輸出されている商品です。現在は国内で生産し輸出するという形を取っていますが、韓国で販売するビールは現地生産に切り替えるということでした。木内酒造からも英語を話せる社員の方が韓国に行き、工場の建設に立ち会っているそうです。グローバル化が進む現代の社会では英語は話せた方が良いとアドバイスをいただきました。このお話をうかがい、木内酒造の日本国内にとどまることなく、世界へも目を向け挑戦する姿勢を直に感じることができました。

また、工場での仕事は体力を必要とする仕事が多く、慣れない環境で5日間働き大変だということも多くありました。しかし、最終日の勤務が終わったとき、私はもっと働きたいと感じました。私がそのように感じたのは、木内酒造の職場の雰囲気や、木内酒造で働いている方々がとても気さくで明るい方々だったことが大きく影響していると思います。働くうえで職場や従業員の雰囲気は重要だということを実感しました。

5. わかったこと、学んだこと

5日間のインターンシップを通して「働く」とは、与えられて仕事をこなすだけではなく、自分に求められていること、自分が何をすべきなのかを考えて行動することだと考えました。木内酒造の工場内で働いていて与えられた仕事が終わって手持ち無沙汰になってしまったとき、「いま手空

いているよね、これ事務所に持って行って」と指示されることがありました。私はこのとき、「自分が何をすべきなのか」を考えていなかったことを反省しました。指示を待つだけではなく周りの方に「何かすることはありますか」と聞き、自ら行動すべきだったと思いました。また、仕事には常に責任が生じるため、自分の行動に責任を持つことが大切であると学びました。

今回学んだことを無駄にしないよう、普段の生活でも常に自分がすべきことを考え、責任を持った行動を心がけたいと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに少しでも興味がある方は不安もあるかと思いますが、インターンシップに参加してみることをお勧めします。私はインターンシップ初日を迎えるまで不安や緊張を感じていました。しかし、いざ参加してみると普段の学校生活では経験することのできない新鮮な経験ばかりで充実した時間を過ごすことができ、インターンシップに参加して良かったと思いました。インターンシップを通して自らの視野が広がったと思っています。

そして、インターンシップは、社会に出て働くことを知ることができる貴重な機会です。インターンシップの期間中は学生ではなく社会人としての覚悟を持って働かなければなりません。また、実社会で働く大人の方々とお話ができる機会でもあります。自らコミュニケーションを図ることで、得られることがたくさんあると思いますので、ぜひ積極的に派遣先の方々に話しかけてみてください。



梅酒がビンに詰められる様子

社会人として働くということ

茨城県庁 知事公室 女性青少年課

佐藤 麻里（3年）



1. 参加の動機

私は将来、地方公務員になりたいと漠然と考えていました。しかし、具体的にはどのような業務を行っているのか、自分に合っているのかなど、疑問に思うことが多くありました。3年生となり、就職を意識し始め、この漠然とした考えをより明確なものにしていこうと考えました。

また実際の業務内容や職場の雰囲気、公務員として働くとはどのようなことなのかを、インターシップを通して体験できればと思い、参加を決めました。

2. 派遣先の概要

私が派遣された女性青少年課には、庶務グループ、青少年グループ、男女共同参画グループの3つのグループがあります。前半の一週間を青少年グループ、後半を男女共同参画グループの業務に携わらせていただきました。

青少年グループでは、青少年の健全育成及び若者活動の支援に関する業務が主たる業務となっています。具体的には、有害図書・優良図書の指定や青少年のインターネットの安全利用の喚起、フィルタリングの推奨など、青少年を守るための業務を行っています。

男女共同参画グループでは、男女共同参画を推進するための業務を行っています。男女がお互いを尊重し、それぞれの能力を十分に発揮することができる社会の実現を目標とし、女性の人材育成

や女性の起業・復職応援に関するセミナーの実施などの業務を行っています。

3. 活動内容

(1) 青少年グループ

青少年グループでは、青少年のインターネット安全利用に関する研修会の補助やアンケートの集計、などに携わらせていただきました。青少年のインターネット安全利用に関する研修会では、準備・受付や片づけを行い、実際に研修会を聴講させてもらいました。また、有害図書の候補となっている図書のチェックにも携わらせていただき、条例に違反する箇所はないか、条例を確認しながら確認しました。

青少年グループミーティングや青少年健全育成審議会にも立ち合わせていただきました。

(2) 男女共同参画グループ

男女共同参画グループでは、男女共同参画グループが行っている働く女性のためのセミナーや「ハーモニーフライトいばらき2014」結団式・壮行会、男女共同参画チャレンジ支援セミナーに携わりました。働く女性のためのセミナーと男女共同参画チャレンジ支援セミナーでは、セミナーの補助業務だけでなく、実際に参加させていただきました。講師や受講者の方々との交流することができ、実際に社会で働いている女性の方々から有益なお話を聞くことができました。お話を聞いていく上で、女性が働くにはいまだ多くの障害がある

と再認識しました。また、「ハーモニーフライト
いばらき2014」の結団式では、知事の挨拶を間近
で聞くという大変貴重な体験をさせていただきました。
そのほかにも、他の都道府県で行っている
女性の活躍推進事業について情報を集めることも
しました。

4. エピソード

私は、今回のインターンシップに参加するにあ
たって、不安が多くありました。そのため、最初
は、酷く緊張してしまいましたが、職員の方々が
優しく接して下さったこともあり、徐々に緊張
もほぐれ落ち着いて業務に取り組むことができま
した。しかし、インターンシップ中は自分のこと
で手一杯になってしまいました。これから社会人
として働くために、周囲への配慮は欠かすことが
できないものだと痛感しました。

また、自分の名刺を事前に用意しておけば良
かったと思います。インターンシップ中に名刺を
交換する機会があったのですが、名刺を用意して
いなかったため、相手方の名刺を受取るだけにな
ってしまいました。

5. わかったこと、学んだこと

スマートフォンや携帯音楽プレイヤー、ゲーム
機などの普及により、インターネットは誰でも気
軽に使えるものとなりました。しかし、その裏側
で、青少年がネットいじめや架空請求など従来に
はなかったトラブルに巻き込まれるケースが大変
増加しています。社会の変化に応じて、このよう
な従来は存在しなかった問題が青少年を脅かして
います。社会の変化に伴い、臨機応変な対応が求
められていると実感しました。

私は男女共同参画社会とは、女性が男性と同じ
ように平等な権利を持ち、活躍することができる
社会のことだと思っていました。しかし、男女共
同参画グループの業務に携わっていく中でその考

えは変わりました。男女共同参画とは、女性の権
利を一方的に主張するのではなく、男女それぞれ
が互いを理解し、尊重し合わなければ達成できな
いと実感しました。また、他の都道府県の女性の
活躍推進のための事業について調べているうち
に、女性の活躍推進はどの自治体においても共通
の課題であると実感しました。

6. 後輩へのアドバイス

私は、今回のインターンシップに参加して自分
のイメージと現実の違いに気づくことができました。
インターンシップに参加することで、その職
場の雰囲気や業務内容など多くのことを知ること
ができます。また、実際にその業務に携わらな
ければ知ることができないことも多くあります。も
し気になっている企業や団体があるのなら、ぜ
ひインターンシップに参加してほしいと思いま
す。

インターンシップに参加するにあたり、不安も
あると思います。しかし、その分多くの収穫があ
り、やって後悔することはないと思いますので、
ぜひ参加してみてください。

最後になりましたが、お忙しい中時間を割いて
貴重な体験をさせてくださった女性青少年課の皆
様に心より感謝申し上げます。10日間という短
い間でしたが、大変お世話になりました。本当に
ありがとうございました。



男女共同参画支援室で行われたセミナーの様子

社会を知るという経験

茨城県 生活環境部 生活文化課
県民運動推進室

石塚 裕晃（3年）



1. 参加の動機

インターンシップに参加した動機は自分の肌で社会とはどのようなものかを体験したいと思いました。また、進路として公務員として働きたいと思っているので、実際の職場を体験することでこの意思をより明確なものにすることができると思い参加しました。

茨城県庁のなかで県民運動推進室を希望したのは、まちづくり、地域づくりになどについては以前から関心があったので、それに関係している県民運動推進室を希望させていただきました。

2. 派遣先の概要

茨城県生活環境部に属する生活文化課県民運動推進室は三の丸庁舎にあり、大好きいばらき県民会議と連携し県民運動を推進しています。大好きいばらき県民会議とは県の職員の方も兼務する形をとっており、福祉社会づくり・人づくり・生活環境づくり・茨城の風土づくりを柱にさまざまな活動をしています。また、特定非営利活動法人法（NPO法）に基づくNPO法人の設立認証及び認定等に係る業務などを行っています。

3. 活動内容

私がまず携わったのは、大好きいばらき作文コンクールの仕分けです。大好きいばらき県民会議では人づくりの活動として、小中高生を対象に夏休みの宿題としてふるさとや家族といったテーマで作文コンクールを行っています。私は、その送付された作文に番号を付けていき審査しやすいよ

うに仕分けや整理をしました。そして、最終日には査読の準備もしました。

その後は、NPO法人の事業報告書のデータ整理をしました。NPOの団体というのは、1年に1度事業報告書を提出しなければならないものであり、ウェブサイトにアップして多くの人に公開する必要があります。そのために閲覧用の事業報告書から報告書、活動計算書、貸借対照表、財産目録をスキャンしパソコンに取り込んでいきました。たくさんの量がありましたが次第に慣れていき順調に行うことができました。

また、NPO基盤強化セミナーに参加しました。これはNPO団体をサポートする活動をしているNPOが会計などについて指導するセミナーで、ほかのNPO団体や自治体の方々が参加していました。県民運動推進室はNPO団体と主催しており、協働といわれる形をとっています。実際のNPO団体の方々がどういったことについて疑問をもっているのか知ることができた機会でした。

他にはいばらき教育の日の実行委員会の見学、大好きいばらき県民会議の生活環境部会の見学をさせていただきました。そこでは生活環境づくりの一つである花いっぱい運動についての話し合いが行われていました。

4. エピソード

インターンシップに参加するうえで私は、インターンシップという言葉に甘える考えはやめようと決めていました。この2週間は社会人になった

気持ちでやってみようと思いました。なぜならば受入先の方々に失礼であるのと、自分のことをインターンシップということを知らない人とも接することになると思ったからです。そのおかげもあったのでしょうか、実際にインターンシップで来ましたというと、職員の方だと思われていたこともありました。しかし、振り返ってみるとやはり言葉遣いやマナーが至らない部分が多くあったように思いました。普段使うことに慣れてない敬語や職員の方々が話しかけていただいた際の受け答えがあいまいになってしまうことや詰まってしまうことがあり、もしかしたら失礼な態度ではないかと思うこともありました。

また、データ整理などの仕事をしているときに職員の方々は、私が黙々と仕事をしているのを見て気分転換のために声をかけて下さったり、話をしたりして下さり、私に疲れないような気遣いをしてくれました。こうした小さなことでも仕事をしていくうえで重要だと思いました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップを通して学んだのは、対応力です。普段やらなければいけない仕事の合間に会議があることやお客さんが訪問すること、電話がかかって来ることなどさまざまなことが予期しないでやってきます。それぞれに頭を切り替えて対応している姿が私は印象に残っています。私は普段の生活では頭の中でこうしていこうと決めていくことが多いです。決めたことを忠実に成し遂げようとしているときに突然やらなければならないことが出て来ると、なかなかうまく対応できないことが多くあるので、要領よく進めていけるように柔軟な対応をしていこうと思いました。

また、データ整理のときには、どうやったら効率的に進められるかを考えながらやってみました。私は仕事をしていくときに最善な方法をとるということは、重要だと思います。できるだけ早くその方法を見つけだすことを考えながらデータの整理を行いました。その結果、大幅に進められることができました。

県民運動推進室には、大好きいばらき県民会議もあるといいましたが、ここでは地域づくりや地域コミュニティの活動の場として交流サークルいばらきを運営もしています。多くの人がここを使用していて自分の目でそれぞれ団体の活動を見ることができました。NPOについて、大好きいばらき県民会議について、いばらき教育の日についてなど幅広い活動を知ることができました。このことは大学での学習の役に立つことでもあったと感じました。これからのまちづくりやNPOがどう係るか、そこでの問題点など深く考えることができた機会にもなりました。

6. 後輩へのアドバイス

参加してマイナスになるようなことはないと思うので、やりたいことや興味があるなら積極的に参加すべきだと思います。そして、単純に職場の雰囲気や業務を知るだけではなく、自分自身を見つめ直すことができる機会であると思います。ただ重要なことは、この経験をしたということだけで満足せず、どのように活かすかであると思います。まだ、自分もまだいえるような立場ではありませんが、うまくこれからは活かせることができればと思います。

最後になりますが、受け入れて下さった県民運動推進室、大好きいばらき県民会議のみなさんには忙しい中、私を温かく迎えていただき、丁寧にご指導していただきお世話になりました。また、短い間でしたがこのような貴重な経験をさせていただきありがとうございます。



作文コンクールの査読での準備の様子

公務員としての在り方

茨城県庁 生活環境部 生活文化課
安全なまちづくり推進室

高橋 諒（3年）



1. 参加の動機

私は高校生の時から公務員になりたいと考えていました。「何か人の役に立ちたい」という漠然とした考えがあり、それを実現できるのは公務員しかないと思っていたからです。

しかし、大学生活で多くの課外活動に参加していくうちに、公務員でなくても何か人の役にたてるのではないかと今までの考えが変わりつつありました。本当に自分がやりたいことは何なのか、考えるだけでなく、実際に体験することで見えてくると思い、茨城県庁のインターンシップに参加しようと思いました。

また、大学の授業を通してまちづくりに興味を持ち、一つの市町村に焦点を当てるのではなく、茨城県として全体的にどのような取り組みをしているのか知りたかったのも一つの理由です。

2. 派遣先の概要

茨城県庁生活文化課は、企画室、総務、文化振興、生活、安全なまちづくり推進室の5つあり、安全なまちづくり推進室はそのうちの1つです。主な施策としては、交通安全、防犯、犯罪被害者支援など、県民に対して安心して暮らせる安全な社会の実現を目指しています。今年度は昨年度の統計より、治安改善のため交通安全、特に高齢者の交通事故防止に力を入れています。職員さんの中には元教師の方や警察の方が多くおり、県庁内でも珍しいです。

3. 活動内容

私の主な業務は、小学生から高校生が対象の交通安全ポスターコンクール応募作品の仕分け・予備審査と、秋の交通安全運動キャンペーン準備（チラシ・啓発品の準備）でした。

交通安全ポスターコンクール応募作品の仕分け・予備審査では、各市町村の教育委員会から届くポスター約3,000点の内容が正しいかどうかということを行いました。信号機の色（緑・黄・赤）が正しいかどうか、横断歩道をきちんと描いているかなどを注意しながら作業していきました。

秋の交通安全運動キャンペーン準備では、複数のチラシを1セットに、ガムや反射材、ティッシュなどの付属品もまとめて街頭キャンペーンの準備を行いました。また、啓発品を各市町村へ郵送するための包装作業や伝票の記入も行いました。

その他にも、県議会本会議の傍聴や水戸駅での街頭キャンペーン、行方市と北茨城市へ出張し反射材の啓発活動、マスコットキャラクターの「ストップ君」の名札づくりも行いました。

4. エピソード

最も楽しかったのは、お昼休みに職員の方々とバドミントンをしたことです。昼食を済ませたあとわずか15～20分程度のささやかな時間でしたが、とても楽しかったです。デスクに座って行う作業が多かっただけに、体を動かすことができ

でもリフレッシュできました。県庁に体育館があったことに驚きましたし、直接業務でお世話にならなかった方とも色々なお話をすることができて良かったです。各課対抗のイベントもあるそうで、なんだか学校みたいだなと感じました。

最も反省したことは、1日だけ少し遅刻をしてしまったことです。バスが時間通りに来なかったためなのですが、もっとゆとりを持って行動できればよかったですと思いました。

5. わかったこと、学んだこと

私はこのインターンシップを通してたくさんのことを学ぶことができましたが、特に想像していた公務員と実際の公務員の姿が異なっている部分が2つあります。

1つは、意外と出張が多いということです。公務員というのはお堅い職業で毎日デスクワークばかりだと想像していましたが、活発に出張を行っている方もいました。実際に高齢者の方へ反射材を配る際に、「自分たちの行っている活動で、どのぐらい交通事故が少なくなっていくのか具体的な数字は分からないけれども、一人でも多くの方が交通事故に遭わないように」という言葉を聞き、出張の大切さ、一人一人と向き合う事の大切さを感じました。また職場が意外と明るく、会話が弾んでいる場面や電話のクレーム対応などみんなで協力しており職員の方々の一体感を感じることができました。

もう1つは、一人一人の意識の高さです。インターンシップは2週間という短い期間でしたが、県庁で働いている人は皆忙しそうに仕事をしていました。しかし、そのなかでも心にゆとりを持ち、視野が広く、何かあればすぐに対応していました。自分のことだけに囚われるのではなく、他人への気遣いは見習いたいと思いました。また、資源の無駄遣いをなくすために封筒や包装紙を再利用しており、お昼にはほとんどのフロアの電気を消し、節電に努めている徹底ぶりでした。また、「一般企業は法に従うしかないが、公務員は必

要とあれば変更することができる」という言葉を聞き、普段から自分は公務員であるという高い意識や強い意志を持って行動されているなど感じました。

6. 後輩へのアドバイス

とりあえず、行動することです。考えてもわからないことだらけです。その代わりに、行動することによって得られるものは計り知れません。

茨城県庁の皆さんに関わらず、インターンシップの受入先の方々は私たちを優しく受け入れてくれると思います。質問をすれば丁寧に答えてくれるでしょう。しかし、それを至極当然のこととってははいけません。あくまで自分はインターンシップを「させていただいている」側だということをお忘れないようにしましょう。自分から積極的に行くことはとても大切ですが、相手の状態も考慮して行動することを心がけてください。そして、必ず感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。

最後に、この場を借りて安全なまちづくり推進室の皆様にお礼を申し上げます。お忙しい中わざわざ時間を割いていただきありがとうございます。9日間という短い期間でしたが、大変お世話になりました。このインターンシップで学んだことを将来に活かしていきたいと思えます。今回は貴重な体験をさせていただきありがとうございました。



水戸駅交通安全街頭キャンペーンにて

体験して見えた公務員像 —考えるより踏み出す一歩—

茨城県庁 商工労働部 労働政策課

立原 菜摘（3年）



1. 参加の動機

私はこれまで、将来やりたいことが見つからず、漠然と公務員を志望してきました。しかし3年になって将来と向き合うなか、なぜ自分は公務員になりたいのかを改めて考えようと思いました。そこで、実際に現場での業務を見て、納得する理由を見つけられればと思い、以前から関心のあったインターンシップに応募しました。公的機関の中でも県庁を選んだ理由は、業務の内容を実際に体験したいと思ったからです。昨年度は授業の一環で市役所の方々と接触する機会がありましたが、県庁に個人で訪れる機会は少ないので、今回は県庁のインターンシップに参加することにしました。

2. 派遣先の概要

茨城県庁商工労働部に属する労働政策課は、労働経済・福祉グループ、雇用促進対策室、そして課の所属機関であるいばらき就職生活総合支援センターの3つから構成されます。主な施策としては、若年者や障害者をはじめとした県民の就職支援や緊急経済・雇用政策などが挙げられます。また、処遇改善プロセス事業やワークライフバランスの普及推進事業なども行っています。

3. 活動内容

主な活動内容は3つ挙げられます。まず1つ目は、庁舎内での事務作業です。具体的には、新聞記事の切り抜き作業やアンケート結果の集計、書類の発送作業、定期提出書類の確認、Seed（労働

政策課の労働情報誌）の編集などがありました。新聞の切り抜きは毎朝の日課で、課に関係のある記事を集め、後で職員の方がさっと目を通せるようにしておくそうです。アンケート集計や発送作業は、量も多く、集中力を切らさないことが要されました。また定期提出書類の確認は、書類の確認項目を細かく確認していくものでした。とても地道な確認ですが、書類には漏れもあり、確認の大切さを改めて感じました。そしてSeedの編集は、例年インターンシップ生が行うということで、昨年のデータを基に自分たちで作成しました。

2つ目は、いばらき就職生活総合支援センター（ジョブカフェいばらき）での活動です。ここでは利用者の立場になり、キャリアカウンセリングや、就活スキルアップセミナーを受講しました。センターの方々も優しく、活気に溢れており、相談者が安心して相談できる施設であると感じました。そしてセンターでの課題研究として、「ジョブカフェメールマガジンの発行案」をインターン生同士で考えました。他県の発行例から長所短所をまとめ、考えた発行案を担当の方に発表しました。

3つ目は、労働局の定例記者会見への参加です。茨城労働局に実際に足を運び、8月定例記者会見に参加させていただきました。会見では終始緊迫した空気で、特に質疑応答の緊迫感が印象に残っています。仕事をする上での説明責任の重要性を身をもって感じました。

4. エピソード

今回のインターンシップでは、多くの方々からお話をうかがう機会がありました。それと同時に質問や意見を求められることも多々ありましたが、始めのうちは特に、何を質問すればいいのかわかりませんでした。話を集中して聞くのですが、それを鵜呑みにするばかりで、話を聞きながら自分で考えることをしなかったためです。せっかくの職員の方と意見が交えられる機会をもっと有効に活用しようと思い、徐々に受け身の姿勢をしないように心掛けるようにしました。インターンシップが進む中、積極的な姿勢を持つことで以前より情報をつかみやすくなり、意見を求められても発言しやすくなったように感じました。今回気付けたことは大きな収穫で、大学でも積極的な姿勢を忘れずに過ごしていこうと思います。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップに参加して、特に印象に残っていることが2つあります。まず、常に勉強する姿勢が必要であることです。私はこれまで、公務員はマニュアルに沿って業務を行うもので、勉強は学生までのものと思っていました。しかし当然のことではありますが、仕事のためには知識をつける必要があります。今回のインターンシップのなかで、新規事業について一緒に考える機会が設けられました。それに際して、知識不足は致命的であり、さらにこれまで試行錯誤されてきたことも踏まえなくてはなりません。そう考えると、事業は職員方の労苦の末に形になっていることに初めて気付きました。実際に現場を見て苦勞を知った一方で、やりがいや魅力もいっそう感じました。

次に、自分の仕事について説明できるようにしなければならぬことです。各々が担当する業務には当然責任がついて回ります。職員の方の「公務員は税金で仕事をしている以上、その説明責任について常々考えていなければならない」という言葉は印象的でした。特に普段の学生生活ではそのように責任を負うことはなく、これは学生との大きな差に感じました。自分の行動に責任を持つことは当然ですが、それを徹底し続けるためには

努力が要されると思います。そのように職員方は、日々考え続けて仕事に打ち込んでいるということを確認し、自分も今後に向けて、少しずつでも考えるようにしていこうと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

私は3年で初めてインターンシップに参加しましたが、驚くほど自分の気持ちに変化がありました。職場の雰囲気や実際の業務を体験することで、漠然と考えていた将来を、現実的に捉え直す転機になりました。他のインターンシップ生からも、職場の様子からも、さまざまな刺激を受け、再スタートを切ったように感じます。またジョブカフェいばらきでのカウンセリングでも、自分の考えを話すことや、一緒に考えてもらうことで、悩みが前向きな気持ちに変わりました。

インターンシップに参加して、各々えるものは異なると思います。ただ、参加せず後悔することはあっても、参加して損はないと思います。将来を考えるにあたり、仕事の内容を知ることは非常に大きく、迷っているならなお挑戦してほしいです。正直私は、進路について2年ほどぼんやり悩んでいましたが、インターンシップの10日間でその2年間よりも確実に前に進みました。それほど、知る・体験するということが大きな効果がえられると思います。

最初こそ不安はありましたが、職場の皆様のあたたかいお気遣いのおかげで、2週間集中して取り組むことができました。お忙しいなか迎えてくださった労働政策課の方々への感謝と、今回の経験を忘れずに将来に活かしていこうと思います。



定期提出書類を確認する様子

「誰かのために」という思い

茨城県警察本部 警務部 警務課

坂場 静佳（3年）



1. 参加の動機

3年生になり、就職について考える時期になりましたが、働くことがどのようなことなのか漠然としたイメージしか持てずにいました。社会人の方と接し、実際の仕事に触れることで、社会で働くということを理解したいと考え、インターシップに参加しました。日常の生活では関わる機会が少なかったのですが、以前から警察事務の業務に興味があったため、警察本部を志望しました。

2. 派遣先の概要

茨城県警察本部は、警務部・生活安全部・地域部・刑事部・交通部・警備部の6つの部署から成り立つ組織です。各部はそれぞれいくつかの課に分かれており、今回お世話になった警務部は、総務課・警務課・厚生課・会計課・教養課・情報管理課・留置管理課・監察室・県民安心センターの9つの課で成り立っています。警務部は人事管理から広報まで幅広く関わっています。

3. 活動内容

1日目は県警各組織についての説明を受けました。県民安心センターの広報業務活動の実習、逮捕術訓練に参加させていただきました。

2日目は被害者支援活動の現状について民間団体の方との意見の交流会と小学生の警察本部施設見学案内、装備品開発改善コンクール受賞作品の紹介を受けました。

3日目はひたちなか警察施設再編整備業務の概要についての座学及び現地視察、牛久警察署現地視察に同行させていただきました。

最終日は大子警察署施設見学・署長との座談会、警察音楽隊コンサート見学、交通安全啓発キャンペーンに参加させていただき、地元の方への呼びかけ、交通安全グッズの配布を行いました。各日に現役の警察官の方々との意見交換、座談会のお時間を多く設けていただき、実際に警察業務を行っている方、民間の協力団体の方との会話を通してより理解を深めることができました。

4. エピソード

参加前は、警察官というと堅苦しい人が多いといったイメージが私のなかであったため、派遣先が決定してから当日まで不安が募っていました。大学生活では、社会人の方と接する機会があまりなく敬語やマナーにも自信が持てず、初日は大変緊張しながら臨みました。しかし、実際は想像していた職場とは異なり、優しい方ばかりで明るく接していただきました。そのため、だんだん緊張が解けてきました。座学や座談会の際には意見や質問を求められる機会が多々ありましたが、咄嗟の質問に、伝えたいことを簡潔にまとめられず、少しの時間無言となってしまうことがありました。話を伺っているときに、主に受け身となってしまった姿勢を反省するとともに、普段から考えながら話を聞くことの大切さを学びました。

逮捕術の試合見学は、実際に警察官の逮捕術を間近で見ることができ、その迫力に圧倒されました。

5. わかったこと、学んだこと

警察官が働きやすい環境を整え、組織全体が効率的で合理的に機能するように、職員の福利厚生や健康管理、パトカーの整備や信号機の整備管理、警察学校における教養の指導など、さまざまな側面から警察活動を支えているのが警務部の業務です。そのため、テレビドラマの題材となるような、刑事や機動隊などの業務とは異なった警察の一面を見ることができました。印象的だったのは警察官の方のお話にあった「警務課は花形ではないが、なくては組織が成り立たない。いわば、縁の下の力持ちの役割をしている組織の心臓である。」という言葉です。この言葉から自分の仕事にやりがいと誇りをもって働くことの素晴らしさを感じました。

また、今回のインターンシップ中は警察本部の外へ出る機会も多く、そのため警察と地域との関わりを感じるすることができました。警察施設再編事業では、より住民の皆さんの意見を取り入れた警察署を目指していることや、被害者支援は警察だけの力では成り立たず、民間の団体と密に関わり合いながら問題を解決していくことなど、想像していた以上に活動が多岐にわたることを知り、驚きました。

最終日の警察音楽隊の交通安全啓発キャンペーンでは、子供からお年寄りまで親しめる幅広いレパートリーが演奏されていました。音楽を通じて直接県民と向き合い、多発する振り込め詐欺や、飲酒運転の根絶、子供への声かけ事案などへの防犯意識を高めることで、犯罪防止を呼びかけていました。多くの警察官の方が、地域の安全は警察だけが作り上げることは出来ない、そのため県民の方の協力が何より大切ということを口にしており、今まで見えていなかった地域との関わりを実感しました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップへの不安や迷いがある方もいると思いますが、少しでも興味があるならば、まずは参加してみることをお勧めします。短い期間ではありますが、実際に働くということを肌で感じ、今まで考えなかったことを考える機会を持ったことで自分の未熟さに気付くことができたように思います。インターンを体験することでこれからの進路の選択、今後の人生で役に立つことが多く見つかるはずですよ。学生生活を離れ、社会人として働く体験を通して、将来について真剣に考えるきっかけにもなるでしょう。

最後になりましたが、お忙しい中インターンシップを受け入れて下さった職員の皆様にご心より感謝申し上げます。4日間という短い期間でしたが、貴重な経験をさせていただき、充実した時間を送ることができました。このたびのインターンシップで学んだことを将来に活かしていきたいと思っております。ありがとうございました。



交通安全コンサートの参加



交通安全啓発キャンペーンの様子

体験したことで学んだ 公務員の魅力

茨城県庁 保健福祉部 子ども家庭課
少子化対策室

中山 裕貴（3年）



1. 参加の動機

私が今回、インターンシップに参加した理由は、県庁で行われている業務を理解し、体験したかったからです。将来、私は県の職員として子供にかかわる仕事をしたいと考えています。子ども家庭課のホームページには、現在進められている事業内容が掲載されていましたが、その事業を進めていく過程についての具体的なイメージがつかめませんでした。また、この機会を逃せば県庁での仕事を知る機会はないと考えました。そこで私は県庁でのインターンシップを通じて、業務内容や職場の雰囲気を実際に感じてみたいと考え、参加することに決めました。

2. 派遣先の概要

子ども家庭課は子供を育成する家庭を社会全体で支援し、子供たちが元気に生まれ育つ社会の実現を目標とし、庶務グループ、児童育成・母子保健グループ、保育・母子福祉グループ、少子化対策室の4つに分かれて様々な業務を行っています。私がお世話になった少子化対策室では、結婚支援事業、子育て家庭優待制度に関する事業、放課後子どもプラン支援事業、児童手当に関する事業などが進められています。

3. 活動内容

活動内容は、子ども家庭課での活動と、出張先での活動の2つに分けることができます。

子ども家庭課では、事業の補助金申請書のコピーを取ったり、放課後児童クラブ研修会のアンケート結果を集計し、エクセルにまとめたりする事務作業を行いました。また、インターンシップ初日には、結婚し家庭を築くことの大切さや、出産・子育ての喜び・楽しさなどについて啓発することを目的とした「いばらき結婚・子育てポジティブキャンペーン」CM出演者のオーディション会場にて、出演者の写真撮影を行いました。

出張先での活動では、幼保連携施設やいばらき出会いサポートセンター、学童保育が行われている現場の様子を見学し、現場の職員の方々から行っている事業についてのお話をうかがいました。

4. エピソード

インターンシップに参加して最も印象に残ったことは、それぞれの事業を担当している県の職員の方に同行し、実際に事業が行われている現場を見学させていただいたことです。私は今までサービスを享受する側の視点でしか事業を見たことがありませんでしたが、今回運営側の視点から見る機会を得られたことで、それぞれの事業の進行状況や抱えている問題を知ることができました。また、担当職員の方々や現場で働いている方々から直接お話をうかがうことができたため、それぞれの事業をより深く理解することができ、現在問題となっている事柄に関して自分の考えを持つようになりました。大学の講義を受身の姿勢で受講し

てしまっていた私にとって、実際の現場に行き、多くの方々のお話を聞いて自分で解決策を考えるということは、とても貴重な体験になりました。このような体験ができたことで、今までの受動的な態度を改め、授業やゼミでの議論に積極的にかかわっていき、という今後の大学生活の指針を立てることができました。

5. わかったこと、学んだこと

私は将来公務員となるために少しでも多くのことを学ぼうと、職員の方々に積極的に質問したり、お仕事をされている様子を観察したりしていました。その中で私が発見したことは、公務員の仕事には常に「勉強・調査・熟考」が必要とされているということです。インターンシップに参加する前の私は、公務員のお仕事と聞くとあらかじめ決まっている法令やマニュアルにしたがって業務を進めていく、というイメージを持っていました。しかし、実際に職員の方々のお話をうかがい、お仕事される様子を観察したことで今まで抱いていたイメージが間違いであったことに気がきました。確かに、県で行われている事業の中には国から委託されたものや、以前から継続されているものもあり、ある程度形式が出来上がっているものもあります。しかし、県独自の新規事業を開始したり、事業の赤字問題を解決したりする際には、前例や参考にするものは少なく、職員自身が考えていかななくてはなりません。それには、事業の関連法規の解釈や要綱の知識が必要であり、その事業が県民のニーズに応えられるものであり、かつ成果が上がるものかどうかの調査も必要になります。このような膨大な作業を場合によっては一人で担当しなくてはならないこともあるとうかがい、改めて県の職員の方々の労苦と責任を感じました。

また、大学で学んだ知識が仕事で活かせるということも知ることができました。私は法律コースに所属し、法律・行政学系の科目を受講していますが、授業で学んだ法律や、公共政策を考えていく上での知識は、県の事業内容を理解し、問題の

解決方法を考えていく視点を持つ上で大変役に立ちました。その一方で、自分の知識不足も実感しました。この体験を踏まえ、今後は、幅広い教養と法律の専門知識を身につけられるように努めていきたいと思います。

6. 後輩へのアドバイス

問題意識とそれに対する自分の意見を常に持ち、相手に簡潔に説明するという訓練を日ごろから積んでいくことが必要だと思います。私は、講義形式の授業だと自分の意見を持たず、ただ講義を聞き流している、という姿勢で受講していました。しかし、社会では相手の意見に対してすぐに自分の意見を求められることが多々あります。日ごろそのような訓練をしていなかった私は、うまく返答できず、相手が納得するような説明をすることができなかった、という失敗をしてしまいました。このような失敗をしないよう、授業やゼミ、普段の生活の中で、話す能力を培っていくことが必要だと思います。ぜひ、普段から話すことを意識して、インターンシップの場でも活かしてみてください。

最後になりましたが、子ども家庭課の皆様には御礼を申し上げます。お忙しい中、大変お世話になりました。私が充実した5日間を過ごすことができたのは、皆様が丁寧にご指導くださったおかげです。今回学ばせていただいたことを、これからの生活に活かしていきたいと思いません。本当にありがとうございました。



子ども家庭課での作業の様子

挑戦すること、人との出会い

KNT KOREA

船山 真実（3年）



1. 参加の動機

今回私が KNT KOREA のインターンシップに参加させていただいた理由は大きく3つありました。1つ目は2年生の時に台湾で行われたジョブシャドウイングへの参加をきっかけに海外で働くということに興味を持ったこと、2つ目は全く知らない土地で全く知らない環境に自分自身が置かれたときに何ができるのか、自分を試してみたかったということ、3つ目は3年生となり就職活動を目前に控えたいま、働くということを実際に体験することで社会人としての自覚を持ちたいという想いがあったことでした。この3つの動機があり、インターンシップへの参加をきっかけに自身の殻をひとつ破って、成長したいという想いが強くありました。

2. 派遣先の概要

KNT KOREA は、2009年に設立された近畿日本ツーリストの韓国における直轄法人で日本をはじめとする海外から韓国への旅行の受け入れを行うインバウンド事業と、韓国から海外への旅行ビジネスを扱うアウトバウンド事業に分かれています。また日本からの修学旅行の企画、受け入れも行っています。

3. 活動内容

実習期間中の主な業務としては、アジア大会に関するVIPの空港でのお出迎えとお見送り、会場の下見、ソウル市内および郊外の観光地についての情報収集と見学などを行いました。実習期間中

に2014年アジア大会が行われており、KNT KOREA はアジア大会に関するさまざまな業務に追われていました。その中でVIPのお出迎えとお見送りには何度も立ち会わせていただきました。VIPの方が搭乗している飛行機の到着時間に合わせて余裕をもって空港に向かい、到着ゲートと到着予定時間に変更がないかなどを確認してスタンバイし、お客様がいらっしゃったら荷物を受け取り、車までご案内するという一連の流れに付き添わせていただきました。また、選手や関係者が使用する会場やホテル、飲食店などの下見にも同行させていただき、実際に現地を歩きながら当日の行動を細部まで確認していく姿を間近で見ることができました。観光地の見学の際には、休業日や開園時間、観覧制限などの情報を集め、実際にツアーで回るとしたら何曜日にどこをどのような順番で回れば、お客様の満足度を最大限に引き出せるのかということを考えながら、また韓国の歴史や文化を自分自身が学び、楽しみながら見学しました。KNT KOREA が主催する全州のツアーにも参加させていただき、ガイドさんの大変さを実感しながら、ツアーに参加するお客様の生の声をうかがうこともできました。

4. エピソード

10日間の実習の中で特に勉強になったのは、アジア大会の関係者が使用する会場やホテルなどの視察に1日を通して参加させていただけたことです。この視察の際に見ることができたのは一つ一

つの場所を自分の足で歩いて見て回り、少しでもお客様に満足してもらえるように、他社さんとの差をつけられるようにと細かなところまで現地スタッフの方々に相談、交渉している姿でした。視察をしていた近畿日本ツーリストの方が「この仕事はこのようなアナログの仕事で成り立っていて、当日まで決まらないこともたくさんある中で、いかに既存のルールを打破しながらお客様を満足させられるかが勝負なのです。」というようなことをおっしゃっていて、本当に感動しました。また、お客様を満足させるにはそのお客様のことをしっかりと知っておかなければいけないということも実感し、このような地道な行動がお客様の信頼に繋がっていくのだということがわかりました。旅行業界というとガイドさんをはじめとして、たくさんの方々の人生における楽しみのひとつである旅行に携われる「華やかな仕事」というイメージが大きいと思います。しかし視察に同行してみてそのイメージとは全く異なった旅行業の大変さと魅力を垣間見ることができたような気がしました。

5. わかったこと、学んだこと

今回こちらのインターンシップへの参加を通して学んだことの一つは、自分の行動への責任だったように思います。予想通りに進むことが少ない現場の中で、アクシデントが起きたとしてもお客様に失礼のないように、お待たせする時間が少しでも短くなるようにとさまざまなところに気を配り、その状況の中でベストな方法を見つけて行動するという姿を何度も拝見させていただきました。その時の自分の行動がお客様からの満足度と信頼に直結し、会社の評価に繋がるということを実感して働くということの怖さと責任の重さを実感したと同時に、その責任ある仕事をやらせてもらえるということのやりがいについても考えさせられました。これから社会人として働くということに真摯に向き合い、自覚を持つことが出来た貴重な時間となりました。

また、海外で働くということの大変さと魅力も学ぶことができました。自分が育ってきたところ

とは言葉も文化も異なる環境で仕事をするということは苦勞することもたくさんあるのだと実感しましたが、毎日新たな発見をしてその環境に自分を順応させながら、自分なりのコミュニケーションの取り方を見つけていくという楽しさと魅力も味わうことができました。

6. 後輩へのアドバイス

今回のインターンシップを通して私は、挑戦するということの大切さを学びました。海外でインターンシップをしてみたいという強い思いがあり参加を即決しましたが、韓国語を話すことが全くできないということ、知らない環境の中で2週間生活するという、初めて仕事をするということなどたくさんの大きな不安を抱えながらの参加でした。しかし現地に行って簡単には帰れない状況に置かれた時、自分がいま出来ることを精一杯やり、少しでも多くのことを吸収し、全力で楽しんで帰ろうという思いに変わりました。緊張したり、戸惑ったり、たくさん失敗もした2週間でしたが、挑戦できた自分に対して自信がついたこと、働くということを通して自分を見つめなおす時間がつくれたことはとても意味があったと感じています。

また、KNT KOREAの方々はもちろん、お世話になったホテルの方々、現地で出会った方々、関わってくださった先生方などたくさんの方に出会い、支えられて、楽しく有意義な時間を過ごすことができたことは、私にとって何よりの財産となりました。本当にありがとうございました。



KNT KOREAでの研修

憧れを強くした2週間

KNT KOREA

豊原 美海（2年）



1. 参加の動機

私は将来就きたい職業として、旅行業界を考えてきたのですが、旅行業界では実際にどのような仕事をしているのか、その仕事が自分に合っているのかというのが、全くの未知数だったので、自分の抱いていた旅行業界への憧れと、実際の旅行業界とのギャップを知り、就活のときの一つの指針にしようと考えたからです。

また、私は大学に入学してから就活を意識しながらの勉強や、普段の生活に取り組むことができなかったのも、無理やりにでも将来に目を向ける機会に身を置くことで、残りの学生生活がより充実し、実のあるものにできると考え、今回のインターンシップに参加することを決めました。

2. 派遣先の概要

概要に関しては、船山さんのページを参照してください。

3. 活動内容

ソウル市内の主要観光地へ見学に行ったり、KNT KOREAで企画された全州ツアーに1日参加させていただきました。そのツアーでお客様に配布する資料をまとめてファイルにいれたり、修学旅行の日程の手配リストを打ち込む作業を行いました。

また今回は、ちょうど仁川で行われたアジア大会と実習期間が重なっていたため、大会関連の

VIPの方の空港でのお出迎えや、応援団のツアーの下見に同行させていただいたり、ホテルでのお見送りに同行させていただくというたいへん貴重な体験もさせていただきました。

4. エピソード

最初、市内見学をしてくるように言われた時、その趣旨がわからず、ただ観光として楽しんでしまいましたが、ソウル主要観光地を直接目にするので、そのスポットの特徴を掴み、どんなお客様に向いているのか、時間はどのくらいかかるのかなどを考える機会を与えてくださったのだと気づき、次の見学からはそのようなことも意識しながら、かつ観光も楽しむことができました。

アジア大会応援団のツアーの下見の際には、開会前の柔道会場に行くことができました。どこでバスから降りるか、どこでお弁当を食べられるか、地図などの情報で判断するのではなく、実際に自分の足で歩き、だめだった場合、雨が降った場合などまでひとつひとつ想定して、いかにお客様が楽に過ごせるかを模索する姿にはとても感動しました。

アジア大会のために渡韓された日本馬術連盟の会長で裏千家の元家元である千様の空港でのお出迎えに同行させていただいた際に、担当の近畿日本ツーリストの京都支店の方が、千様の習慣を把握して、到着する前にいろいろと準備されていて、行き届いたサービスと、それだけの回数を利

用していただけるほど信頼を得ていることに、驚きと感動を覚えました。

5. わかったこと、学んだこと

旅行業界と一口に言っても、CAもそうですし、ツアーガイドもそれに当てはまると思います。今回は海外でのインターンシップということで、まず空港のグランドスタッフの仕事、飛行機内でのCAの仕事、全州ツアーでのガイドさんの仕事、そしてKNT KOREAという旅行会社での仕事と、旅行業界の仕事をすべて見学することが出来たのではないかと思います。

その中で、もちろん一番長い時間携わることが出来たということもありますが、旅行会社での仕事に強く憧れを抱きました。お金をいただいて満足できるものを作るためには、念入りに下見をしたり、お客様のニーズに近づけるよう利用する機関に根気強く交渉したりされていて、とても準備が大変だなと感じましたし、スポーツ関係のお客様に対しては、そのスポーツ業界や選手の情報も熟知していないと良いサービスは提供できないので、普段からいろんな情報にアンテナを張っておかなければ対応できないので、見えない部分での努力が重要な職業だなと思いました。その分お客様に満足していただけた時の達成感は大きいと思いますし、いかにお客様の信頼を得るか考えながらの仕事は難しいと思いますが、奥が深く面白仕事だなと感じました。



世界遺産 宗廟

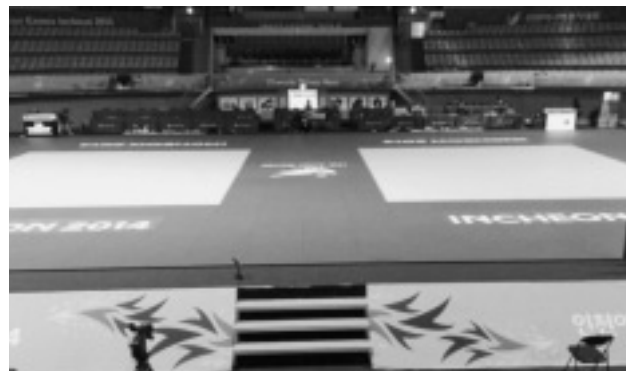
6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに参加することで就活を意識する良いきっかけとなりました。現に帰国してから新聞を読むようになりまし、大学の授業やアルバイトも就活や社会に出た時に役に立つように意識しながら取り組もうという考えを持つことが出来ました。

また、3年生になるとサークルや授業などが忙しくなると、2週間もインターンシップに参加ことは厳しいと思うので、2年の夏休みという時期に参加できた点もよかったですと思っています。就活まで1年半もあるこの時期から就活を意識しだすというのは、必ず将来の自分を助けてくれると思います。

2週間という期間を海外で過ごすというのも、たいへん大きな経験になりました。ごはんを食べるにも、ちょっと買い物するにも、いちいち一苦労だったので、勤務時間外もとてもいい勉強でした。韓国の方、韓国で働いている日本の方と接して、いろんなお話を聞くことが出来るので、ただ自分で旅行に行くよりも、いろんな経験が出来るので、旅行業界に興味がない人にもぜひ参加してほしいと思います。

最後になりますが、アジア大会開催中という本当に忙しい中、温かく受け入れてくださり、KNT KOREAの皆さまに心から感謝申し上げます。優しく仕事を教えていただいたり、一緒にソウルの街を歩いていただいたおかげで、充実した2週間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。



アジア大会 柔道会場

インターンシップ・レポート集 (第2部)

インターンシップ広域

平成26(2014)年度 人文学部主催 インターンシップ広域派遣者一覧

派遣先機関	学生氏名	学生番号	学 科	学年	派遣期間
茨 城 新 聞 社	友部咲季奈	13L1135Y	人コミ	2年	8/25 - 9/05
	比気 葵	12L1132N	人コミ	3年	8/25 - 9/06
	荒木 拓実	12L2011L	人社	3年	8/18 - 8/29
	菅谷 大河	12L2121R	人社	3年	8/18 - 8/29
茨 城 放 送	貝塚 美加	13L1047N	人コミ	2年	8/18 - 8/29
	後藤 美咲	12L1059H	人コミ	3年	8/18 - 8/29
朝日新聞社水戸総局	大山紗登美	12L1032Y	人コミ	3年	9/16 - 9/19, 9/22
	白田依里佳	12L1175G	人コミ	3年	9/16 - 9/22
産経新聞水戸支局	甲 真莉子	12L1044A	人コミ	3年	9/08 - 9/11, 9/13
	埴田 翔仁	12L1130A	人コミ	3年	9/08 - 9/11, 9/13
毎日新聞水戸支局	昆 沙織	13L1076S	人コミ	2年	8/18 - 8/22
	金子 裕佳	12L1042R	人コミ	3年	8/18 - 8/22
木 楽 舎 ヘレナ・メディア・リサーチ	越智 温子	13L2044T	人社	2年	8/25 - 9/05
	塚本 功治	12L2162X	人社	3年	8/20 - 9/02
N H K 出 版	大山紗登美	12L1032Y	人コミ	3年	8/25 - 8/29, 9/01 - 9/05
	小林 裕美	12L1062X	人コミ	3年	8/25 - 8/29, 9/01 - 9/05
J I C E	星野由季菜	12L1142F	人コミ	3年	9/09 - 9/24
J I C A 筑波	相馬すみれ	12L2138H	人社	3年	8/18 - 8/29
川 崎 市 役 所	星 梨花	13L1155G	人コミ	2年	9/03 - 9/08
水戸プラザホテル	佐藤 早紀	13L2088G	人社	2年	8/20 - 8/31
水戸市国際交流センター	佐々木美加	13L1084X	人コミ	2年	8/13 - 8/17, 8/21 - 8/24, 8/26
BS放送局 J-スポーツ	埴田 翔仁	12L1130A	人コミ	3年	8/26 - 9/02
テ レ ビ 朝 日 映 像	木幡沙綾子	13L1070H	人コミ	2年	8/08 - 8/22
	倉原 隆輔	13L2067G	人社	2年	8/08 - 8/22
	村松 栞	12L1160Y	人コミ	3年	8/04 - 8/18
	李 珏	14LM117F	大学院	1年	8/01 - 8/15
主 婦 の 友 社	今野 有香	13L1077L	人コミ	2年	8/20 - 8/26
東京サウンドプロダクション	三好由莉子	12L1157L	人コミ	3年	9/16 - 9/18
ATP タキオンジャパン	荒 大	13L2009X	人社	2年	8/18 - 8/22, 8/25 - 9/02
静岡市役所 (自主開拓)	菅 祐希菜	13L1098L	人コミ	2年	9/24 - 9/30
新朝プレス社 (自主開拓)	松本奈津美	13L2194N	人社	2年	8/25 - 9/05
福島県三春町役場(自主開拓)	山口 未来	13L2213G	人社	2年	9/08 - 9/19
テレビ岩手 (自主開拓)	若狭 茉樹	13L2230H	人社	2年	8/25 - 8/31
㈱京都放送 (自主開拓)	和田 翔太	12L1168T	人コミ	3年	7/14 - 7/18
栃木県庁 (自主開拓)	高須 瞭汰	12L2144A	人社	3年	8/18 - 8/22

※人コミ→人文コミュニケーション学科 人社→社会科学科

貴重な体験から学んだこと

茨城新聞社

友部咲季奈（2年）



1. 参加の動機

人々が生きていくためにはメディアによる確かな情報の伝達が不可欠です。新聞は、メディアにおいて長い歴史を持つ重要なものです。誰よりも先に情報を取り入れ、読者にとって分かりやすく、考えさせる文章を作るというのは、多くの困難が伴うでしょう。実際に現場を見て、新聞を製作することの大変さ、そしてそれがいかにやりがいのあることなのかを味わい、今後活かしていきたいと考え、インターンシップに参加しました。

2. 派遣先の概要

茨城新聞社は、茨城県のニュースを中心に情報を届ける地域に密着した新聞社です。明治24年7月5日に創刊され、茨城県民から愛され、親しまれています。最近では、紙の新聞のみならず、インターネットでの動画ニュースの配信や、Twitterでの情報発信にも力を入れています。

3. 活動内容

インターンシップ初日は、茨城新聞社の各局概説をいただきました。2日目からは実際に仕事を体験させていただきました。デジタル編集室の研修では、映像を撮り編集し、動画ニュースを制作しました。営業局では、県庁や企業に同行し営業の様子を見学しました。編集局研修では、学芸部と運動部の現場に同行させていただき、実際に新聞に載る写真を選んだりしました。販売局では、

新聞販売店に行き、出来上がった新聞が購読者に届けられるまでの過程や、苦労をお聞きしました。整理部研修では、記者から出稿された記事に見出しをつける作業を実際に行いました。研修の成果を生かし、最後には自分自身で取材対象を決定し、取材を行い、記事を書きました。最終日はその原稿を新聞社の方に添削していただき、新聞らしい文章に推敲していく作業を行いました。

4. エピソード

私にとってインターンシップは、初めて知ることばかりでした。新聞社というと、記者の印象が強かったのですが、実際に研修をして、多くの局が関わり、リレーで言う、たすきを渡すように、仕事の一つ一つ受け渡されて、初めて一つの新聞が出来上がることが分かりました。営業部の方が、広告を集め、集金して回っているから、広告収入を得ることができます。デジタル編集室が紙面では伝えきれない情報を映像として届けているために、購読者がより満足して情報を享受することができます。記者は、特に用がないときでも警察や企業に出向き世間話をするなどして、良い関係を築いています。そうすることで、信用を得て、より良い記事を書くことができるのだそうです。整理部では、集まった記事を格付けし、紙面上のレイアウトを決めます。そして、記事を読み、パッと見て記事の内容が把握できるような的確な見出しを付けます。そして、印刷をし、販売

店に運ばれ、広告会社が用意した折込をはさみ、早朝に購読者に配達されます。

このように、新聞が出来上がって届くまでに多くの人々が関わっていることを知り新聞の見方が大きく変わりました。それぞれの部署が自分の仕事に誇りを持っていることが分かりました。

5. わかったこと、学んだこと

私はこのインターンシップで学んだことが主に2つあります。

1つ目は、実際に目にすることの大切さです。私は今まで、様々な物事を見る前からイメージを勝手につけてしまう癖がありました。「きっとつまらないのだろう、大変なんだろう。」など、想像で決めつけてしまいます。今回の研修で、裁判所に傍聴に行きました。最終判決は記事にならないものだと聞いていたので、あまり身を構えていませんでしたが、実際に目にすると、大変重々しく恐怖すら覚えるものでした。5分程度でしたが、私にはその何倍も時間が経ったように感じられました。押し花展の取材に同行した際も、想像していたものをはるかに超える素晴らしい作品を見ることができました。作品に込めた思いを作者の方から、直に聞くことで見方も大きく変わりました。これからは、様々なことに興味を持って自分の目で確かめていこうと思いました。

2つ目は、社会人として働くことについてです。新聞社の皆さんは、警察、企業、地域住民など、多くの人と関わりを持っています。研修でも様々な職場にお邪魔しました。どこに行っても、「い

らっしゃい」と笑顔で迎入れられました。日頃の信頼関係があってこそでしょう。こういった研修で、社会の中で、生きていくというこの楽しさや、大変さを学びました。また、新聞社で、どこかの部署が足を引っ張ってしまえば、新聞を作ることはできません。1人1人が責任を持ち、確認に確認を重ねながら仕事をしている姿を見ることができました。それでもミスは起こります。そうした時は、1つの目標に向かって皆で協力し合います。自分の仕事に責任を持ち全うすると共に、協調性を持って社会を生きていかなければならないことが分かりました。

6. 後輩へのアドバイス

大学生の夏休みは8月から9月末までと、とても長いものです。何もしなければ時間はただただ流れていきます。私は2年の夏休みを遊ぶことだけで終らせたくはありませんでした。何か1つでも、人間として成長する実りある休暇にしたいと考え、インターンシップを志望しました。その結果、自分に足りないものを見つけることができました。人に聞いたり、ネットで調べれば分かることもあります。直接経験してみないと分からないことがたくさんあります。インターンに参加し、日常では得ることのできない貴重な体験をして、積極的に外に目を向けることは、大切なことであると感じました。



水戸ホーリーホックの取材をしている様子

報道を体験する

茨城新聞社

比気 葵（3年）



1. 参加の動機

私は普段、メディアについて学んでいます。所属しているゼミが時事問題を扱っていることもあり、新聞をはじめとするジャーナリズムに強い関心がありました。しかし、大学で座学を受けているだけでは、ジャーナリズムを学ぶのには限界があると感じていました。

また、近い未来に自分が社会人となることを見据えて、会社ではどのように振る舞うべきなのか、現場を見て実際に学ぶ必要があると思っていました。

2. 派遣先の概要

概要については、他の方が記述してくださっているので省略します。（133ページ参照）

3. 活動内容

インターンシップ期間は2週間の10日間でした。初日に茨城新聞社全体の概要を座学で学び、2日目から大体1日ずつ各部局を見学・体験させていただきました。

実際に動画を撮って編集してみたり、営業の現場を見せていただいたり、カメラでスポーツの試合を撮影してみたり、裁判を傍聴したりと、豊富な経験ができました。各部局を回ったのち、最後の3日間をかけて実際に掲載される記事を作成しました。自力で取材先を見つけて取材し、700字程度の記事を書きました。私が書いた記事は9月

18日の朝刊に掲載されました。

4. エピソード

取材研修の日、担当の方とスムーズに集合できなかったということがありました。前日に集合場所の確認を怠ったことが原因でした。多忙ななか担当を引き受けて下さっているのに、時間を無駄にしてしまったのが非常に申し訳なく感じました。

インターンシップの後半では、自分で記事を書く研修がありました。私は事前に準備していなかったため、取材先を探すのに苦労しました。というのも、初日にスケジュールなどを説明されていたのに、その時点では取材先を探さなかったからです。2週間あるのだから、今でなくても見つかるだろうと楽観視していました。その結果、直前になって慌てて取材先を探すことになってしまいました。あと回しにするべきではなかったと今では思います。

5. わかったこと、学んだこと

学んだことは、積極的であることと、質問をすることの大切さでした。

まず積極的であることについてです。会社で求められる人材は大人しい子ではなく、積極的に色々なことに取り組む人です。頭ではわかっているけど、それを実現するのは難しいことでした。せっかく色々なことを体験させていただけるチャンスなのだから、積極的にこんなことが知りた

い、あんなことに挑戦したいと動くことがインターンシップをよりよいものにすると思いました。

次に質問をすることについてです。わからないことは質問し、不確かなことは確認をとることは基本的なことですが、基本的だからこそ欠かしてはならないことだと痛感しました。

インターンシップ中は今まで耳にしなかったような話を聞く機会が多くあります。その際に、質問をする力が必要とされると感じました。なぜかという、話をして下さる人は、ぜひ質問してほしいと思っているからです。

エピソードの方に書いたように、集合時間について確認するのを怠ってしまったことにより、多大な迷惑をかけてしまうこともあります。

自分が思う以上に、質問というのはしなければ

ならないことなのだと学びました。

6. 後輩へのアドバイス

就職先の選択肢として新聞社を考えている学生にとってはもちろんのこと、そうでない学生にとってもためになる体験です。就職先として考えている人にとっては、実践的な体験もできるので、新聞という職種を知る上では参考になります。

就職先としては考えていない人にとっても、普段触れている新聞がどのように発行されているのかを知ることは貴重な体験になると思います。

学生のうちに社会を知る機会というのは非常に少ないものです。就職活動が始まる前の2年生、3年生の時しかチャンスはないのですから、一度はインターンシップに行ってみるべきです。



動画を編集している様子

「夢の職場」を体験する ということ

茨城新聞社

荒木 拓美（3年）



1. 参加の動機

私は中学生の頃から「伝える」という仕事に興味があり、ジャーナリストになることを夢としてきました。しかし、これまでその夢のために具体的に動いたことはありませんでした。そこで、就職活動を前にした今だからこそ、自分の夢の職場は一体どのようなものなのかを体験してみたいと感じました。特に茨城新聞社の地域密着型の報道は、幼い頃から親しんできた私の地元山形の地方紙と重なるところもあり、それらの地方紙の実態を見てみたいと強く感じ、参加を志望しました。

2. 派遣先の概要

友部咲季奈さんのページを参照してください。
(133ページ参照)

3. 活動内容

初日は茨城新聞社の概要として、各部署の担当の方から説明をいただきました。ここから2週間のあいだ、各部署を1～2日ずつ体験させていただくこととなります。2日目以降、動画撮影、営業局、編集局、販売局、整理部の順に、各局の業務の見学や体験をさせていただきました。

販売局や営業局の研修では担当の方に実際に同行させていただき、販売店やオリコミ会社、営業の現場などを見学しました。また、現場では取引先の方から直接お話をうかがうこともできました。編集局の研修では、学芸部と運動部を体験しました。記者の方に同行し、展示会の取材と水戸ホーリーホックの練習取材を見学しました。その

他、掲載する写真の撮影や写真選びなど、実際に仕事を体験させていただくこともできました。また、部署の異なる司法記者クラブや県政記者クラブにも連れて行っていただき、記者の方々からお話をうかがいました。

夕方以降の研修となった整理部では、新聞の紙面が構成される流れを細かく説明していただき、実際に見出し付けや直し作業、チェック作業を体験させていただきました。そして最後の3日間で、自分で取材テーマを決め、関係先にアポイントメントを取り、取材をし、原稿を書き、編集局の方にチェックをしていただきました。2週間という短い期間で、新聞社の業務内容や取材の仕方など多くのことを学び、最後にその成果を見せるという流れの中で、自分が大きく成長し多くのものを得ることができたと思います。

4. エピソード

2週間の中で各局、各部署の担当の方に様々なお話をうかがうことができました。茨城新聞社では数年ごとに部署の配属が変わるとのことで、営業の方の記者時代のお話や学芸部の方の司法担当時代のお話など、1人の方にいくつもの興味深いエピソードがありました。特に印象的だったのが、司法担当時代のお話です。いわゆる「サツ回り」というもので、過去の大きな事件の時にどんな仕事をしたとか、どんな苦労があったかなど、たくさんのお話をうかがうことができました。

苦労した事として、何といたっても最後の3日間

があります。テーマが決定した日が遅く、関係先へのアポイントメントが取材の前日ということになってしまいました。また、喫煙マナーという重いテーマであっただけに、取材を断られることもあって非常に苦労しました。そして、難しいテーマであればあるほどアポイントメントをとるべき関係先は増えていきます。関係各所への電話だけで半日もかかってしまいました。何とかアポイントメントをとることはできましたが、取材先にはたいへん失礼なことをしてしまったと反省しています。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップを通して大きく学んだことは2つあります。1つ目は、1枚の新聞紙がいかに多くの人々の働きのもとに成り立っているのかということです。会社の方が「新聞社は職種のデパート」、「新聞はリレー」とおっしゃっていたのが印象的です。毎日何気なく目にする新聞ですが、そこには取材をする記者はもちろん、原稿をチェックするデスクやそれらを構成していく整理部、広告の獲得に日々走り回る営業マン、広告を載せて欲しいという企業の熱意、配送の管理などを行う販売、配達をする販売店、取材してもらう人々の熱い思いなどなど、多くの人々の働きと熱意がありました。この2週間の中で、それを感じる場面が何度もありました。そういった意味でも、新聞には大きな魅力があると思いました。

2つ目は、地域密着型の地方紙の必要性です。多くの全国紙と地方紙、そしてインターネットによる情報とがひしめき合う近年ですが、改めて地方紙の重要さを感じることができたと思います。印象的だったのが、営業の方に動向した際「茨城新聞社さんなら〜」「〇〇さんなら〜」などといった言葉が何度も聞かれたことです。また、茨城新聞社を名乗ると、嬉しそうに話し始める地域の方々も目にしました。もちろんそこには、長年積み上げた信用や信頼、頻繁に足を運ぶことによって生まれた関係性もあるでしょう。しかし、確実に茨城新聞社が必要とされていることを実感しました。新聞紙の存在が薄れてきているいまだから

こそ、このことに気がつけたのは大きな成果であったと思います。

6. 後輩へのアドバイス

エピソードの中で紹介しましたが、記事を書かせていただけることが分かったら、早めにテーマを決めるべきだと思います。そして、早くからアポイントメントをとるべきです。場合によっては返答に2〜3日かかってしまう場合もありますし、確認をとるべき関係各所が増えていくことも考えられます。何より相手に失礼ですから、早めの行動をすべきです。また、取材の際には事前に徹底した準備をしていくべきです。あらかじめ記事の構造を考え、その上で聞くべき質問のリストを挙げます。相手がこう答えたら次はこれ、などとシュミレーションしておくともスムーズになると思います。記者の方には、言って欲しい答えを誘導するための質問の仕方もあると教わりました。取材の時は緊張で、そんなテクニックを考える余裕はありませんでしたが、ぜひ参考にしていただければと思います。

インターンシップは、自分の将来を考える上で大きな糧になると思います。夢の仕事はもちろんですが、少しでも興味のある分野などに積極的に挑戦してみるべきです。私は中学からの夢の職場を実際に見学して、その良い面はもちろんですが大変な面や嫌な面もたくさん見ることができました。しかし、それら全てを含めて私の夢は、より確かなものになりつつあります。今回の経験を大いに活かして、夢の実現に向かっていきたいという気持ちでいっぱいです。インターンシップを通して、どんな思いを持つのかは人それぞれだと思いますが、確実に自分の将来につながると思います。ぜひ、みなさんもインターンシップに参加して欲しいです。



水戸ホーリーホックの取材・撮影の様子

社会に触れる窓口

茨城新聞社

菅谷 大河（3年）



1. 参加の動機

3年生という時期もあり、就職を見据えて、何かしら動いておこうと思い、急遽参加を決めました。何かしなければならぬと焦っていた頃、友人がぼつりと口にしたのがきっかけだったと記憶しています。

「とりあえず」で参加したため、下準備も知識も何もないところからのスタートでしたが、なんとか乗り切れてほっとしています。

新聞社を志望したのは、文章能力は今後役立つだろうと予想した・新聞を読み解けるようになれば何かと有利だろうと思ったため、と志望動機には書きましたが、今思えば文章が好きだった、ということだろうと思います。

実際のところ、さほど活字がらみではありませんでしたが、貴重な体験となったことには変わりありません。

2. 派遣先の概要

同インターンシップ先（茨城新聞社）派遣の友部咲季奈氏が記述。（133ページ参照）

3. 活動内容

「職種のデパート」と呼ばれるほどの、新聞社の多彩な業務をひととおり体験しました。

デジタル編集室ではビデオ撮影とその編集を体験しました。

営業局ではさまざまな取引先を回り、そちらの

仕事にも触れることができました。

編集局取材部では取材に同行し、インタビューや記事作りのノウハウや心構えを聞かせていただきました。また同局整理部では紙面構成を見学しました。

販売局では新聞販売店などを回り、お話をうかがいました。

茨城新聞社ならではの地域に密着した取り組みを数多く見ることができたのも、特筆すべき点です。

ひとつの部署で学べる時間は1日～2日と短めでしたが、さまざまな仕事に触れ見識を深めるとともに、総合的な新聞社の姿を知ることができたと思います。

4. エピソード

連絡や情報共有については反省しきりです。

上司の方の電話番号を、教えていただけるまでうかがわなかったのは失敗でした。緊急時の確認ができません。

インターンシップ生同士の連絡先交換をしていなかったのも、地味ながらかなりの不利益を被りました。いわば同僚と連携がとれないのですから当然です。

皆、初対面で遠慮があったとしても、そこを押しつけて聞いておくべきだったと強く思います。

また、自ら取材先を選んで記事を書かせていただいたのですが、そこでも同じ失敗を繰り返して

います。

事前に段取りを上司の方にうかがっておけば良かったのですが、高をくくって2日前まで放置しており、結果、アポイントメント取りが取材の前日になってしまいました。

受けていただけたから無事に済んだものの、無理だった場合、どれだけの方に迷惑を掛けたか想像もつきません。

急な取材にこころよく協力して下さった茨城大学管弦楽団様には心から感謝しています。

5. わかったこと、学んだこと

新聞社の内情を知れたことは大きな収穫でした。

普段から何気なく読んでいる新聞ですが、思った以上に複雑な行程と様々な業種が絡み合って作られていました。

たとえば、新聞社というとどうしても記者のイメージが強いですが、実際は製作から販売まですべてを手掛けなければならないため、職種のデパートとまで呼ばれる多彩な業種の人々が入れ替わりつつ、新聞社自体は1日中動いているのです。

もちろん、記者としてのテクニックも教わりました。これはすなわち、話を聞き出し、整理し、文章にする技術です。今後私がどのような職に就くとしても、間違いなく役立つことでしょう。

しかしなによりの収穫は、社会そして社会人の生の姿を観察できたことです。

前述のように、ひとつの部署に長くて2日という時間配分でしたから、特別な技能を身につけられたかと言われれば否ですが、その分幅広い業務を体験することができました。新聞社内だけでなく取材先も見学しているため、触れた仕事、人の数は相当なものです。新聞社という枠を超え、幅広い職場を体験できたおかげで、一端とはいえ、社会をそれなりに知れたのではないかと思います。

6. 後輩へのアドバイス

就職への不安を抱えている方、早く社会に出たくてうずうずしている方、あるいは夏休みになんの予定もない方でもいいですが、余裕がある方はとりあえず参加してはいかがでしょうか。

アルバイトくらいしか仕事を知らないほとんどの大学生にとって、インターンシップは新鮮な体験のはずです。新鮮なもの、知らないものに触れるほど楽しいことはそうありませんし、楽しい体験からこそ学べることも多いのではないのでしょうか。

怖いものではありませんし、あまり気負わず、気楽に参加することをお勧めします。



インターンシップ2日目、動画編集ソフトを体験する

音声だけで「伝える」仕事

茨城放送

貝塚 美加（2年）



1. 参加の動機

私がインターンシップに参加した動機は、実際に現場で働くことを通して今の自分に何が足りないのかを知りたいと思ったためです。就職活動への不安を解消するために何から始めればいいのか迷っていたとき、起爆剤として思いついたのがこのインターンシップでした。

また、派遣先は県域テレビ局を持たない茨城にとって、地域に根差した重要なメディアの一つである茨城放送を希望しました。茨城放送は私自身もよく聴いているため、受け手から送り手になってみたいと思いました。

2. 派遣先の概要

茨城放送は、茨城県を放送対象地域とするAMラジオ放送局です。50年以上の間、茨城県民の間で親しまれてきた茨城放送ですが、「radiko（ラジオ）」というアプリケーションを使うことで、全国から聴くことができるようになりました。

また、ネットTVとのコラボレーション企画や、ユーストリームでの動画配信なども行っています。

3. 活動内容

私は主に編成局と報道局でお世話になりましたが、その活動内容は1～2日ごとに変わり、時には会社の外に出て取材やレポートに同行させていただくこともありました。

まず、編成局では番組で使用する運行表や資料

の準備から、番組で流す曲選び、放送前の打ち合わせへの参加、リスナーからのメールのチェックなど生放送の運行に関わる作業、告知CMの収録など本当に様々なことを体験させていただきました。実際に2つの番組の生放送に立ち合わせていただき、どのように番組が放送されているのか、送り手側からラジオを知ることができました。また、CDやレコードを保管している資料室でもCDの登録や整理、放送開始前のテストミュージックの選曲などの作業を教えていただきました。

さらに、報道局では新聞記事のスクラップ作成や1分間のニュース原稿作成、茨城県と水戸市の定例記者会見の取材への同行をさせていただきました。取材をして情報を集め作成された原稿が、取材の数時間後にニュースコーナーで読まれているのを聞いたときには感動しました。

この他にも、最終日にはスクーパーレポートという外から生中継でのレポートに参加させていただき、機材のチェックやマイクテストなどのお手伝いをしました。

それぞれの研修を通して多くの方にご指導いただき、多角的な面からラジオ番組の制作に関わることができたと思います。

4. エピソード

研修中、具体的に話すように指摘を受けたことがきっかけで、さまざまな方からラジオならではの話の伝え方の工夫を教えていただきました。そ

の中でも、ディレクターの方にかがった「ラジオは音声だけで情報を伝えるメディアであるため、リスナーの心の中に景色を描き、色を付けていくように伝えることが大切だ」という話が印象に残りました。例えば、夕日の様子を伝えるのにも赤・朱・紅など表現の仕方によって印象は変わってきます。より鮮やかに伝えるには語彙の豊富さがとても大切だと感じました。リスナーによって心に描かれる景色は完璧に一緒ではありませんが、その違いがラジオの味わい深さの理由なのではないかと思いました。

また、記者の方から「ニュースを伝える際には、読み手がどのくらいの予備知識を持っている話題なのかを意識し、原稿の内容だけでなく読むスピードも変えている」と教えていただき、重要なことを分かりやすく伝えるための工夫がされていると感じました。

この出来事から、放送時だけに限らず、相手に物事を伝えるときには「何を一番に伝えたいのか？」を意識した上で、場合に応じて必要な情報を付け加えていくことが大切だと学びました。

5. わかったこと、学んだこと

研修中は毎日発見の連続で、インターンシップに行かなければ分からなかったことが沢山ありました。仕事の1つ1つはもちろん、仕事の合間に社員の方になぜこの仕事についての理由や話す際に意識していることなど大変貴重なお話をうかがうこともできました。この経験を通して、やはり実際に自分の目で見て体験してみることは大切であると感じ、これからはもっと自分の目で様々なことを見て勉強していきたいと思いました。

さらに、さまざまな場所で研修させていただきましたが、どこへ行っても他の人が気持ちよく仕事ができるようにする気遣いがありました。例えば、読み手が分かりやすいように資料にマーカーを付けたり、レポーターが使いやすいように機材を準備することなどです。1つの番組が出来上がるまで沢山の人が関わっているため、よりスムーズに作業できるよう、このような気遣いがされて

いるのだと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

2週間のインターンシップというと、長くて大変だと感じるかもしれませんが、実際に始めてみれば本当にあっという間で、毎日新しい学びの連続です。元気よく挨拶をすること、積極的に動くこと、しっかりと自分なりのテーマを持って取り組むこと、周りをよく見ること、色々なことに関心を持つこと。社会人になる上で大切な姿勢も教えていただきました。今回の学びを1つ1つしっかりと自分のものにしていければ、以前の私より確実に成長できると思いました。

また、私は2年生でインターンシップに参加しましたが、この時期に参加して本当に良かったと思っています。なぜなら、この時期から興味のある業界の現場を知っておくことで、早い段階から将来への意識を高めることができるからです。私は茨城放送でインターンシップをさせていただき、よりいっそうこの業界の面白さ、奥深さに興味を持ちました。そのため、「まだ2年生だから早い」とは思わず、ぜひ参加してみたいです。



県庁にある記者クラブの様子



スクーパーレポートで使用した中継車

「伝える」ということ

茨城放送

後藤 美咲（3年）



1. 参加の動機

私がインターンシップへの参加を希望したのは、働くということはどういうことなのか、興味のある職業はどんなことをしているのかということ人を人から聞いたり自分で調べたりして知ることが簡単ですが、それは誰かの言葉・体験でしかありません。就職活動を始める前に他の人から聞くのではなく実際に自分で体験してそれらを知ることのできる機会があるのであれば自分で体験し、感じる事が良いと考えたからです。

また、東日本大震災の時にラジオにお世話になりラジオというメディアに興味を持っており、ラジオがどのように作られているのかを具体的に知りたい、音声のみで情報を伝えるためにどのような工夫をこらしているのかということに興味を持ったため茨城放送へのインターンシップを希望いたしました。

2. 派遣先の概要

貝塚さんの派遣先概要を参照してください。
(139ページ参照)

3. 活動内容

私は主に編成局で番組制作に携わらせていただきました。毎日違う仕事内容をさせていただくことで、番組がどのようにできているのか、ということを知ることができました。

番組ではADの補佐というかたちで仕事をしま

した。内容は、番組で使う資料の準備や打ち合わせ、番組で流す曲の選曲やリスナーの方からのメールのチェック、合図だしや電話での対話の際の事前の電話準備などです。また、ADの仕事とは関係ありませんが、番組に出演という貴重な体験もさせていただきました。

「スクーパーレポート」という生中継でのレポートに同行させていただいた時は、機材の準備やマイクテスト、録音物のインタビューをさせていただきました。外出先からの生中継での機材の選び方やどのようなことに注意を払うべきかなどスクーパーレポートでしか学べないこともたくさん教えていただきました。

この他にも、番組で紹介するイベント・企画選びやお昼に読むニュース選び、新聞記事のスクラップ、運行表のチェック、同録用CDに文字の印刷など幅広いお仕事を体験させていただきました。

4. エピソード

10日間、毎日違う仕事内容をさせていただくにあたり、担当者の方も異なりました。お世話になった担当者の方とお話をしている際に、私は時々無意識のうちに「〇〇系」など明確な答えではなく、大枠のみの曖昧な答えをしていると指摘を受けました。そして、相手にものごとを伝える時には、自分の考えを明確な言葉で示す必要がある。自分の考えを明確な言葉で示すためには、

日々の生活において目にしたものごとに対して、自分なりの仮説を立てることが大切である。ということをお教えいただきました。今まで気にしたことはありませんでしたが、相手に伝えるということはどういうことなのか、そのためにはどうすべきなのかということをお考えさせられました。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップで様々な事を体験させていただいて、どの現場においても感じたことは、どのようにしたら相手はやりやすいのかということをお常に考えることが重要であるということです。番組の進行では、パーソナリティがやりやすいような資料準備やリスナーの方からのメールに要点を書く。スクーピーレポートでは、インタビューをする相手の人が話しやすい雰囲気づくりや言葉選びをする。報道の仕事では、ニュース原稿を読む人が読みやすいように印をつける。ということをしていました。複数の人が関わって作られているものだからこそ、このような少しの気遣いが番組をお円滑に進めるためにはとても重要な事であるということをお学びました。

ラジオ局において誰もが気を付け、気にかけているのは時間です。番組の運行表は細かい時間まで正確に計算され作られており、何度もいろんな人にチェックされます。なので、しっかり運行表通りに進めば何の問題もありませんが突然のアクシデントもあります。私が体験したのは、番組の放送中に地震が起きたということです。時報や

CM、スポンサーの番組企画など必ず時間内に入れなければいけない情報が多々ある中で、放送時間を考慮して地震の情報を伝えなくてはならないというとても大変な状況でした。しかし、慌ただしい雰囲気ではありましたが、スタッフ全員が自分の仕事をこなしつつ冷静な話し合いをする事によって無事に放送を終えました。この出来事から、ラジオ局における時間の重要性を実感しました。また、生の放送では冷静な対処をすることが大事であるということをお学びました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは自分の興味ある仕事について体験ができるだけでなく、自分自身を見つめなおし今後どうしていくべきか考えるきっかけになるとも良い機会です。インターンシップに参加するだけで貴重な体験になりますが、ただ教わったことをこなすだけでなく、なぜこうしているのか自分なりに考えたり、質問をすることによってインターンシップの充実度が異なると思います。また、その体験をどのように活かすかは自分次第だと思うので、貴重な体験をお無駄にしないように積極的に取り組めれば良いのではないかと思います。

また、大事な仕事の一端をしているという自覚を持つ事と、忙しいにもかかわらず受け入れてくれているという事をしっかりと心に留めてインターンシップに臨んでほしいと思います。



選曲リスト作成の様子



番組OAの様子

届ける相手の目線に立って

朝日新聞社水戸総局

大山紗登美（3年）



1. 参加の動機

自分は昨年度のインターンシップに参加し、その時の受け入れ先企業で紙媒体のメディアの仕事について学びました。それを機に、将来、紙を使用したメディアの企業に就職し、働きたいと考えようになりました。インターンシップに参加することで、より深くその仕事について学びたいと考えました。学生である今からその職業についての知識を増やし、就職活動に役立てていきたいと考え、インターンシップに参加しました。

2. 派遣先の概要

朝日新聞水戸総局は、全国にある朝日新聞社地方局のひとつです。朝日新聞社の主な営業内容は日刊新聞の発行です。日本国内には東京、大阪、西部（北九州）、名古屋の4本社、北海道支社、福岡本部、44総局、約250支局からなる取材ネットワークがあり、水戸総局は44ある総局の中のひとつです。また、茨城県内にはつくば支局や土浦支局など、6つの支局もあります。

地方総局は、主に県の拠点として茨城県で発行される新聞の茨城県版を担当しています。茨城県にいる記者19名のうち、11名が水戸総局に所属し、それぞれで県庁や県警などの担当をもっています。

3. 活動内容

派遣期間は1週間でした。午前中は、朝新聞各

社の朝刊を読みどのような記事が書かれているのか確認し、午後には取材に同行させていただきました。同行した取材先は、茨城県陶芸美術館、水戸芸術館などの芸術に関する場所、つくば支局に訪問した際には発達障害の支援をしている施設に同行させていただきました。

取材先に行く前には、まず取材先からいただいた資料や、過去の記事などを調べ取材先について下調べを行います。ここで、まず疑問に思うことや気になることをある程度まとめておきます。そして、取材先では担当の方に質問し、メモに書き留めます。その後総局にもどり、資料やメモを基に記事を書きます。

また、見学した展覧会については自分で書いたメモなどを使用しながら実際に記事を書きました。5W1Hに沿って、字数に制限がある中でどのようにまとめるかを福島総局長にアドバイスをいただきながら書きました。

4. エピソード

3日目に記者の方々の打ち合わせ同席させていただきました。記者の方々は、活発に意見交換しており、どなたかが言った内容に対して、誰かが意見を返していました。自分は打ち合わせ聞いたときに会議形式のようなものと想像していたため、一方的なやり取りではなく、双方向的なやり取りが行われていたことに驚きました。

さらに、あるテーマについてどなたに取材を行

うべきかという話題になったとき、たくさんの候補があがっていたところも驚きました。記者の方々は、知識が本当に豊富な方々ばかりだと感じました。

また、朝日新聞水戸総局でのインターン最終日、朝新聞を読んでいるときに、記者の方々に新聞記事を書くときのコツを教えてくださいました。それは、記者は、読者の方々が聞きたいことを取材している方にお聞きし、それを分かりやすく読み手に伝えなければならないということです。そのため、分かりづらい記事は聞いたまま難しい専門用語をまるまる引用したり、漢字の多い記事になると学びました。一瞬紙面を見たときに、黒っぽく見える記事は漢字が多い記事であるため、黒く見える記事は分かりづらい傾向があるそうです。なるべくわかりやすい記事を書くコツは、専門用語を自分の言葉でかみくだき、それが合っているか専門家の方に聞く作業をすることだと学びました。合っていなければ何度も専門家の方々とやりとりを繰り返すとお聞きしました。総局にいる方の中には、何度も電話をして確認をしている方も見受けられ、記者の方々の日々の努力があつてこそ、分かりやすい記事が作られるのだと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップを通して学んだことは「見ている相手のことを考える大切さ」です。朝日新聞水戸総局では、普段目にするのでできない新聞記者の方々のお仕事を間近で見学することができました。毎日目にする記事は、その1つ1つが実際に記者の方々が自分で勉強をしたり、専門家の方々とやりとりをしたうえで分かりやすい記事として読者の手元に届くのだと知りました。読んでいる人にとって、この表現で伝わるか、間違っている表現はないかといった細かな確認作業

などの仕事は、記者の方々が常に読者のことを考えているからこそできることなのではないかと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに行くべきか、と迷っている人は、ぜひ参加してみることをお勧めします。なぜなら、行って初めてわかることがとても多いからです。インターンシップを終えると実際に現場で見たことをふまえて物事を見ることができません。これは、行った人しか得られない視点であり、就職活動を行うとき武器になることはもちろんですが、この知識はそれ以外に役立つこともあります。

また、興味がある分野ならより強くお勧めします。インターンシップに行けば、実際に働いている人から話を聞くことができます。普段気になっていることもお聞きすることができます。時折その人たちの仕事に対する思いなども聞くことができます。そのような話を聞くことで、より仕事に対する思いを深めることができると思います。

限られた学生生活の中で、様々なことにチャレンジしてみてください。挑戦した分だけ、得られるものも多いと私は考えます。

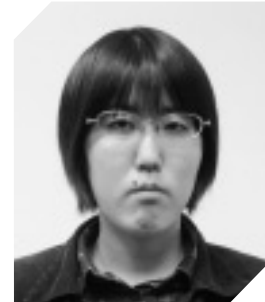


記事を書いている様子

情報の発信者として学んだこと

産経新聞水戸支局

甲 真莉子（3年）



1. 参加の動機

私の実家では産経新聞を購読しており、記事を見ることはごく普通なことでした。それまでは新聞から情報を得る読者としての視点しかもっていませんでしたので、「記者はどのようにして記事を書くのか」「1つの記事を作るのにどれだけの情報が必要となるのだろうか」といった疑問はあまり浮かばなかったのも事実です。

私がこのインターンシップで学び取ろうとしたことは主に2つです。1つは報道関係の仕事を体験し職業として情報を発信する意味をとらえなおすこと、もう1つは自分が職場の一員として働き「就業する」意識を持つということでした。

2. 派遣先の概要

産経新聞社は全国紙である「産経新聞」のほかに「サンケイスポーツ」や「SANKEI EXPRESS」などを発行しており、「月刊正論」や「終活専門誌ソナエ」といった専門誌の分野も大きいのが特徴です。また強みである情報のネット配信という視野から「msn産経ニュース」のようなデジタル媒体をいち早く取り入れた新聞社でもあります。その中でも水戸支局は茨城県全体の情報を一手に引き受ける発信地と位置付けられています。

3. 活動内容

私が体験させて頂いた仕事は大きく分けて「記事の元となる情報を集めること」と「集めた情報

を再構成して記事の原型を作ること」となります。記事の中核を担う情報を集める手段として想定されるであろう取材ももちろん大切ですが、電話をかけて詳しく聞き取りを行ったり、大量に集めた情報から何を取捨選択して読者に伝えるべきか判断するのも記者の見せ所です。

産経新聞水戸支局には8名の方が在籍しており、私は期間中3名の記者の方々に指導を受けながら取材から記事の原型づくりまでの流れを学ばせていただきました。またそれ以外でも県内でのイベントを紹介する欄の原稿作成や、水戸支局へ情報を送るための場である茨城県警や茨城県庁にある記者クラブを訪問させていただいたりもしました。

取材を行うと一口に言ってもその方法は多様で、指定の報道関係者向けに開かれた傍聴サイドからメモと写真を駆使し出席者へのインタビューを必要とするものから、記者クラブや水戸支局宛てに届いた情報から記者自身が判断して出向くものまであります。私の場合インターンシップの期間が5日間という限られた時間であったため、自分の興味のある対象を取材させていただく所まで行き着くことはできませんでしたが、それだけ記者の仕事に密に感じる事ができたのではないかと思います。

4. エピソード

インターンシップ3日目の午後は、茨城町長岡

の消防学校で行われた原子力関連の機関による合同消防訓練の取材という内容でした。

県警担当の記者の方に連れられて向かった消防学校の敷地には、すでにそのような消防隊員や報道関係者の方々がいっぱいでした。そのため放水やけが人を模した人形の救助の瞬間を写真に収めるのは、かなり困難なことだと思い知らされることとなりました。つまりどの角度からシャッターを切れば消防隊員の顔をきれいに写すことができるかは、いかに近くまで接近することができるかにかかっていたのです。またインタビューにも同じことが言えます。話を聞いて必要なコメントを得るためには、明確な質問内容をてきぱきと相手に伝えなければなりません。しかし残念ながら私はその分野であまり活躍することができなかったので、次にこのような機会があったら後悔しないようにしたいと考えています。

5. わかったこと、学んだこと

これはどの報道機関にも言えることだと思いますが、新聞でもテレビでもただ情報を伝えることだけが仕事ではなく、歴史の継承者として重要な役目を背負っています。記事媒体として発信された情報は形を変えることはあっても、消えることはまずありません。そのように蓄積された情報がのちのデータベース、すなわち歴史として機能してゆくわけですから、記者という仕事は想像以上に責任のある職業なのです。

でも責任ばかりではありません。記者は名刺1つあればどんな世界でも入ることができます。いわば名刺が通行手形のように、様々な業界の門戸をくぐりやすくしてくれるのです。そのため記者でしか行けない場所、例えば国会中継中の議会ですとか国際機関の内部などにも「報道機関として」出向くことができます。

6. 後輩へのアドバイス

記事は決して自分1人だけでは作ることはできません。情報提供者に記者、印刷業者に専売店など、読者の手元にできあがった新聞が届くまでに数えきれないほどの人同士のつながりが作用しているのです。

もしも自分がそのつながりの中に入りたい、情報を伝える楽しみを肌で感じたいと考えている人には、新聞社へのインターンシップを体験することをお勧めします。失敗したらどうすればいいと心配しているひまはありません。とにかく実際に行ってみないことには、何も始まらないからです。私自身も初めてのことばかりで緊張しましたが、水戸支局の皆様のあたたかいご指導に支えられながら一通りの業務を体験することができました。その中で教えていただいた取材でも電話応対でも、もう1歩前に出て相手の話を聞くことは私にとって重要なスキルとなったように、インターンシップでは何らかの自己の成長が期待できます。

普段なかなか覗くことができない職場に一員として入ることができるのは、インターンシップしかありません。ぜひともこの機会を見逃さず、就業意識の形成に役立ててください。



Wordソフトを使って記事原稿を作る様子

記者に求める「図太い精神」と「繊細な人間関係」

産経新聞社水戸支局

埴田 翔仁（3年）



1. 参加の動機

私はこれまで放送メディアを中心に学んできたため、新聞社、新聞記者という仕事に、正直なところあまり興味を持ったことがありませんでした。

しかしある時、所属するゼミでお話いただいた現役新聞記者やフリージャーナリストの方から、「事実と真実は違う」こと、「出来事の裏側にある本質を伝える」ことが記者の仕事だと学ぶ機会がありました。これをきっかけに、記者の仕事には全てのメディアに通ずる大切な視点がある、記者の物事の本質に迫る質問力や心構えに触れてみたい、と思ったのが産経新聞社へのインターンシップを志望した動機です。

2. 派遣先の概要

産経新聞社は本業ともいえる「産経新聞」、「サンケイスポーツ」、「夕刊フジ」などの各種新聞から、オピニオン誌「正論」をはじめとする雑誌、また「産経Net view」、「産経ニュース」といったデジタルサービスまであらゆる媒体を駆使して、様々な情報と独自の論を発信しています。

水戸支局では主に、「産経新聞」の茨城県版を作っています。

3. 活動内容

活動内容は大きく分けて、「記者が働く現場見学」と「先輩記者に同行しての取材および記事執筆」でした。

仕事現場の見学では、普段は入ることのできない県庁や県警の記者クラブを案内していただきました。初めて踏み入れる場所への新鮮さに加え、記者同士、会社同士の関係性を知識だけではなく、肌で実感できたことは貴重な体験になりました。

取材では水戸地裁での刑事裁判や、水戸市議会の定例会などに同行しました。重要な点を漏らさずメモしようと慌てる私たちを尻目に、記事になる一言をえるため、軽いフットワークで文字通り「飛び回る」先輩記者がとても印象的でした。

またそれ以外にも、青果市況のデータ入力や内原にある産経新聞専売店を訪問するなど、新聞に関わる様々な仕事を見せていただきました。

4. エピソード

活動のなかで最も忘れられない経験になったのが、原子力事業所が行った自衛消防隊研修会の取材です。

ここでは1人1台ずつカメラを渡され、実際に記事に使う写真を自分で撮影したり、研修に参加している人にインタビューをしたりするのが目標でした。しかし、その現場には他の記者の方もたくさん来ており、いざ撮影しようにも好アングルの場所取り争奪戦になかなか絡んでいくことができず、とても苦労しました。これは写真を撮る際にどのくらい訓練に近づいて良いものか、邪魔にならないところはどこかとグズグズしていたことが原因でした。



私が撮影し実際の記事に載った写真

またインタビューに関しても、自分より一回り近く年上の方、さらに忙しそうにしている状況に対してどうしても遠慮してしまい、なかなか初めの一步を踏み出すことができませんでした。現場では新人もベテランも関係なく、積極的にいかなければならないし、記者には良い意味で「ずうずうしさ、図太さ」が必要だということ、またそれが出来なければ価値のある記事は書けないと考えさせられた瞬間でした。

5. わかったこと、学んだこと

「記者はたくさんの人と会う仕事」。これは初日に、北村豊支局長がおっしゃっていた言葉です。「名刺があれば会えない人は居ない」といわれるほど、記者は様々な人に取材などを通して接触する機会がある、と教えていただきました。

しかし、のちにこの言葉には、単に人と会う機会が多いという意味だけではなく、「人とどれだけ信頼関係を築くことができるか」という意味も隠されていることにだんだんと気付くこととなります。それというのも、価値ある取材というのは相手との信頼関係の上に成立することを、イン

ターンシップを進めるなかで実感したからです。

例えば、県庁のクラブで教えていただいたパブリシティを絡めた記者と県庁の関係性です。速さ・拡散性・客観性に優れるメディアに取り上げてもらうことでコストをかけずに有効なPR活動をしたい県庁と、一方で読者に有益だと判断した情報しか取り上げず、むしろ県が公式には発表しないようなスクープを求める記者。もちろん、目的が異なる双方が、頑なに自分の要求を突き付けるだけでは何も進みません。そこで県庁は記者に取材協力をし、その見返りとして記者は県庁が発信する情報を取り上げ、記事にします。

これも実際には、県庁の広報担当者と記者間に生じる信頼関係から生じるやり取りであり、こうした地道な記者の関係作りが、時に世間を揺るがすほどのスクープを掘り出すのだと学びました。

6. 後輩へのアドバイス

新聞は新聞社内での仕事だけで発行できるわけではありません。たった1日分の新聞でも、その裏には何日もかけて取材のために人間関係を築いてきた記者の存在や、できあがった新聞を読者のもとへ何としてでも時間通り届けようと働く販売所の方々がいます。もしも皆さんが新聞社に興味があり、働くことを考えるのであれば、志望する部署の仕事内容以外にもぜひ目を向けてみてください。自分になろうとしているのは、新聞というメディアを生み出すにあたってどんな役割があるのか。また新聞が持つ情報の深さや正確さ、信頼性はどんな人たちが支えているのかということを知れば、それが改めて皆さんのモチベーションに変わっていくのではないかと思います。

このインターンシップはそれらを知るために最適な場です。それぞれの目標に向けて頑張ってください。

新聞社の仕事を体験して

毎日新聞水戸支局

昆 沙織（2年）



1. 参加の動機

高校3年生の時に大学入試に向けた小論文指導を受けて、自分が持つ知識を活かして文章を書くことに楽しさを感じました。それから将来文章を書く仕事に就きたいと考え、新聞記者の仕事に興味を持つようになりました。そして今回実際に記者の仕事を体験することで自分の将来に活かそうと考え、インターンシップに参加しました。

2. 派遣先の概要

私は今回毎日新聞水戸支局にお世話になりました。毎日新聞は全国紙の一つで、水戸支局では毎日新聞の中の茨城県版の記事を担当しています。県内の出来事を外勤記者が取材して記事にし、東京本社とやり取りしながら紙面を作成します。

3. 活動内容

初日は水戸支局が主催するゴルフのアマチュア大会でスタッフとして活動しました。取材をしていたので、スタッフの仕事の合間に記者の方の大会取材を見学し、レポートにまとめました。支局に戻ってからはデスクと東京本社との紙面調整の相談を見学しました。

2日目は1日職場体験に来た中学生と一緒にいばらき総文祭実行委員会の取材を見学し、職場体験の様子をレポートにしました。

3日目は茨城県開発公社ビルで開催された潤沼ラムサール条約登録推進協議会の取材をし、記事

にまとめました。また広島で起きた土砂災害の記事を毎日、朝日、日経、読売新聞の夕刊で読み比べ、レポートにまとめました。

4日目は茨城毎日新聞広告社を訪問し、新聞広告についてお話をうかがい、レポートにまとめました。さらに茨城県開発公社ビルで開催されたNIEセミナーを取材し記事にまとめました。

最終日は午前中に支局長から改めて新聞作成の行程についてお話をうかがいました。午後は支局近くにある水戸阿部新聞舗という新聞販売店を訪問しお話をうかがい、レポートにまとめました。

4. エピソード

4日目に茨城毎日新聞広告社で広告社についてお話をうかがったとき、自分から少ししか質問をすることができませんでした。広告社の方々には気さくな方が多く、たくさんお話を聞くことが出来ました。話が途切れることがなかったので質問をどのタイミングで切り出せばいいかわからなくなりました。結局最後まで質問できずに疑問が残った点がありました。その日の日誌の支局長からのコメントにも「もっと積極的に質問すべき」と書かれていました。相手の話を聞きながら、話の流れを読んで質問するタイミングを見極めることも、記者に必要とされる技能の一つだということが分かりました。そして疑問に思ったことはそのままにせず、その場できちんと解決すべきだということが分かりました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップで新聞にはさまざまな人間が関わっていることを知りました。これまで新聞というとイメージするのは新聞社だけでした。しかし実際は記者の他に新聞広告を作る広告会社、新聞を印刷する印刷工場、新聞を配達する販売所など、様々な関連企業のおかげで1つの新聞が完成し読者に届けられます。

また新聞社の中だけでも多様な仕事が存在します。取材をして記事を書く記者はもちろんのこと、その記事を編集する編集部、本社とのやり取りで記事を調整するデスク、撮影の専門的な技能を持つ写真記者、おくやみ欄に掲載される故人の情報を1人1人電話で確認する仕事、新聞社が主催・後援するイベントでスタッフとして仕事する事業部などさまざまです。当然ながらどの仕事も大きな責任を抱えて仕事しています。新聞は多くの読者に信用されて読まれているわけですから、たった1つのミスで多くの信頼を失くす危険があります。新聞社はそういう読者の信用で成り立っています。今回この「信用」という新聞記者が最も大切にすべきことを知ることができました。

6. 後輩へのアドバイス

どの派遣先に行っても大切にすべきことはあいさつとお礼と質問だと思います。

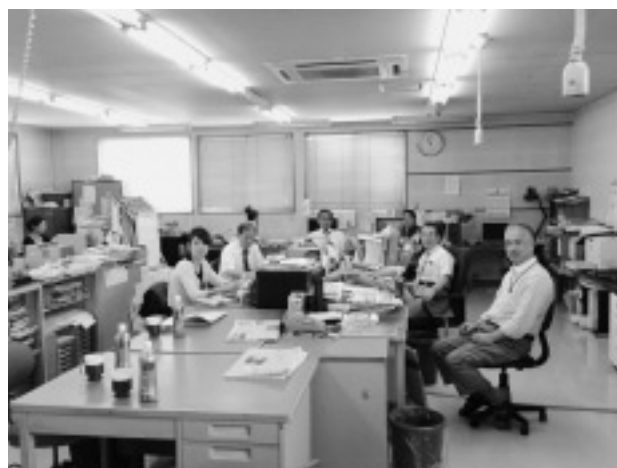
あいさつで第一印象が決まります。小さな声だったり、きちんと目を合わせなかったり、顔つきがこわばっていたりすると良い印象は与えられません。また第一印象が悪いと「あまりこの人とは一緒に仕事したくないな」と思われてしまい、その後の人間関係にも響きます。人脈も広がりにくくなるでしょう。大きな声で相手の目を見て笑顔であいさつすることが職場で良い人間関係を築く第一歩だと思います。

きちんとしたお礼もまた職場では大切なことです。お世話になった人にきちんとお礼しないと「この人はお礼もいえないのか」と相手に思われ、信用もなくなります。何かしてもらったらその都度きちんとお礼をいうべきです。

そして私が最もインターンシップで大切にすべきなのは質問だと思います。前述のエピソードのとおり、私はインターンシップ中に上手く質問できなくて苦い思い出となりました。本来、興味ある仕事を体験し学ぶためにインターンシップに参加しているわけですから、疑問に思ったことはきちんと質問してそこから学ぶべきです。わからないままにしておいてはインターンシップに来た意味がありません。インターンシップに参加したからには貪欲に探究心を持って臨むべきだと思います。



記事を作成中



茨城毎日新聞広告社の方々

新聞社を通して経験したこと

毎日新聞水戸支局

金子 裕佳（3年）



1. 参加の動機

今後に控えている就職活動において、どんな心構えでいれはいいのか、どんな準備をしておくべきなのか。そう考え始めたときにインターンシップについて知り、是非参加したいと考えました。

私は時間がある時にできるだけ大学の図書館で新聞を読むようにしており、その際によく読むのが毎日新聞でした。そこで実際に水戸支局ではどのような活動がされているのか、新聞社の現場を生で体験して、新聞への理解をより深めていければと考え、毎日新聞水戸支局のインターンシップ参加を志望しました。

2. 派遣先の概要

1872年、東京で初めて発刊された東京日日新聞と、1876年、大阪で生まれた大阪毎日新聞が合併し、1943年に題字が毎日新聞となった、現存する日本の日刊紙では最も伝統のある新聞社です。さまざまな文化事業やスポーツ事業を主催しています。東京、大阪、西部、中部、北海道に本社を持ち、全国各地に支局や取材拠点があります。今回私がお世話になったのが水戸支局で、主に茨城県版の紙面を制作しています。

3. 活動内容

記者の体験としては、涸沼ラムサール条約登録推進協議会設立総会、茨城県NIEセミナーの2つを取材させていただき、実際に記事を書くことを

体験させていただきました。そのほかにも、毎日新聞水戸支局が主催するアマチュアゴルフ大会の運営の手伝い、広告社や新聞販売店の見学と、新聞社に関わっているさまざまな事柄について学びました。また、記者の方の取材の様子を見学させていただいたり、お時間をいただいております。2日目には職場体験として中学生がやってきて、中学生が「いばらき総文2014」の実行委員解散式を取材している様子を見て、書いた記事を読ませていただきました。

これらの1日にあった出来事や、新聞を読み比べしてわかったことなどをレポートにまとめて提出し、それらを支局長さんに評価していただきました。

4. エピソード

私はもともと文章を書くことが好きでしたが、毎回作成したレポートを書くうえで、支局長さんに評価をいただき、相手に物事をわかりやすく伝える文章を書くことの難しさを改めて実感しました。また、実際に記事を書いてみることはいつも書いているレポートとは勝手が異なっており、冒頭のあらすじ部分で読者の興味を引くような文章を書かなければならず、その構成を考えるのに苦労しました。取材はメモをとりながら行いましたが、人が話した言葉でどの部分が一番重要だったのか、何の情報を押さえておくべきなのか、など

を考える必要があります、なかなかうまくメモをとることができませんでした。支局長さんはお忙しい中、丁寧に文章の良い点や改善すべき点を指摘して評価して下さい、とても勉強になりました。

また、さまざまな場所を見学しお話をうかがう機会をいただいたのにもかかわらず、初めのうちは緊張して積極的に質問をすることができませんでした。しかし日を重ねるにつれ自分から質問し受け身の体勢にならないよう努力しました。

そのほかには、アマチュアゴルフ大会の運営での手伝いをしているとき、選手の方々から運営にかかわる事柄について何度か質問をうけましたが、うまく答えることができませんでした。すぐに誰かに聞きに行くなどの対応をとるべきだったと思いました。

5. わかったこと、学んだこと

1日目には茨城県版の紙面が完成する締め切りの遅い時間まで見学をさせていただきました。本社と連絡をとりながら、支局の中で忙しくやりとりをしているのを見て、新聞は毎回緊迫した状況で作られていることを知りました。

また、これまで新聞社と言えば、取材をして記事を書く記者という存在しか思い浮かびませんでした。広告社や新聞販売店などの見学に行くことによって、新聞とはさまざまな要因を持って私たちの手に渡っているのだということがわかりました。まず記者が記事を書き、新聞のレイアウトなどを決める編集を行い新聞は作られていきます。広告欄には、広告社の営業によって契約したクライアントの広告が載せられ、紙面が埋められていきます。広告を載せるには想像以上に費用が高く、載せるためには審査が必要であると聞いて、新聞の広告が持つ独自の価値があるのだということがわかりました。そしてその新聞を販売するために販売店で各家やコンビニなどの店舗に配達し、購読者を増やそうと努力しているなど、ただ単純に新聞を売るだけではなく読者とより密に関係する仕事としての色々な心配りがあることがわかりました。このように、新聞社に関わるさま

ざまな会社を訪問したことにより、新聞社という1つの枠を超えてインターンシップに参加することで、視野を広く持って学ぶことができました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップ参加を志望している人には、自分に本当にできるのかどうか不安を感じていたり、参加しようか迷っていたりする人もいます。私自身も、実際にインターンシップが始まるまで不安でいっぱいでした。しかし、普段では味わえない社会人の雰囲気を知ることができるインターンシップは、とても貴重な経験です。インターネットなどを使って独自で情報収集するだけではわからない、その仕事の内情を知ることができます。特に自分が興味のある職種があるのならば、是非ともインターンシップに参加することをおすすめします。まだどんな職業に就きたいかわからない人も、インターンシップで社会人経験をすることで自分を見つめなおす良い機会になると思います。

また、インターンシップ期間中は長いようで時間があっという間に過ぎてしまいます。緊張して受け身になってしまいがちかもしれませんが、あとから後悔しないよう、知りたいことや疑問に思ったことはどんどん質問し、せっかくの機会を十分に活用しましょう。皆さんのご活躍を心から応援しています。

最後になりましたが、インターンシップでお世話になった関係者の皆様に、この場を借りて心からの感謝を申し上げます。



本を届ける熱意と努力

木楽舎

越智 温子（2年）



1. 参加の動機

私は本が好きで、将来本に関わる職業に就きたいと考えています。また旅行も好きで、飛行機をよく利用しており、機内でよく見ている機内誌を発行している企業が今回のインターンシップの中にあると知ったので志望しました。

2. 派遣先の概要

木楽舎はロハスピープルのための快適生活マガジンである『ソトコト』やANAの機内誌である『翼の王国』を発行している会社です。また様々なイベントやプロジェクトの企画・運営を行っています。

お世話になった企画・販促部は書籍を書店に宣伝するために献本の郵送やパネル・POPを製作しています。また絵本の読み聞かせ会なども実施しています。

3. 活動内容

2週間、企画・販売部でお世話になりました。デスクワークとして、新刊の献本やPOPの郵送、書店に新刊を案内する注文書の考案・作成、文章の校正を行いました。外回りとして、新刊のディスプレイの確認のための書店周りや新刊のデザインの打ち合わせ、紙の見本帖のお店へ同行させていただきました。

4. エピソード

初日から関わらせていただいた書籍のディスプレイを考えさせていただいたことです。書店さんが一つの棚を使って書籍の展開をしてくださり、

パネルなども製作してくださいました。しかし、より良くするためにアイデアを練りました。路面電車の書籍なので、書籍に出てくるプラレールを企画・販促部の方が用意してくださいました。それだけでは寂しいので書籍の絵を使用して、プラレールの周りを飾ることにしました。しかし、拡大の大きさは棚の大きさを考慮しなければなりません。また私は大雑把に電車と電車の名前を1枚の紙に切り抜いてしまったのですが、見栄え的に名前と電車を分けて切り抜いた方がいいというアドバイスをいただきました。「めんどくさがってはいけない。手間はかけた方がいい。」という言葉に自分のプロ意識のなさを痛感しました。その後作ったものを書店に置かせていただきました。自分の作成したディスプレイによって1人でも多くのお客さんの目にとまり、1冊でも本が売ればこれ以上の喜びはないと思いました。

また、大きなパネルなどをカッターで切り抜くときも定規は不安定ではあるが切り落とす面積の少ない方に当てるということを聞きました。人に見せる部分は少しでも定規の跡などがあってはいけないという言葉にもプロ意識を感じました。

そして昼食の時に編集の皆様ともお話させていただきました。築地のおいしい食事と共に編集という仕事のやりがいや大変なこと、大学生のうちにやっておくべきこと、皆様のさまざまな経験談など貴重なお話をたくさん聞かせていただくことができました。



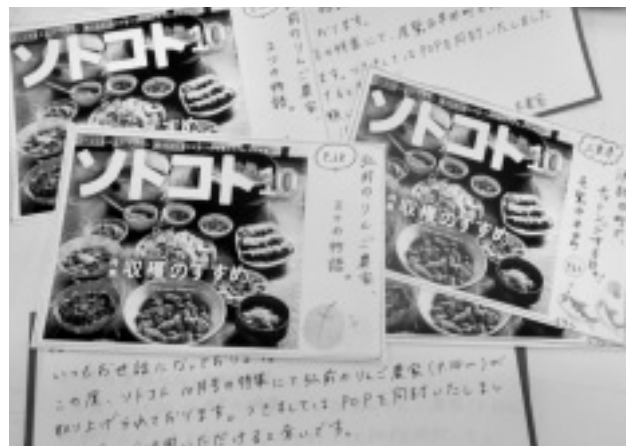
書店のディスプレイ

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップで多くのことを学ばせていただきました。その中で強く印象に残っていることは2つあります。まず1つ目は本を売る熱意です。私はこのインターンシップに参加するまで書店にあるPOPはすべて書店員の方が作成しているのだと思っていました。しかし、出版社が印刷し更に手書きのイラストやメッセージを加えることで、より強調するなどの工夫をしていました。またいろんな書店周りに同行させていただきました。書店に行くときまず自社の本がどのように置かれているのか確認し、書店員の方々の邪魔にならないタイミングで声をかけ、新刊の話や棚替えなどの提案などを行っていました。書店によってコンセプトなどが異なるので、宣伝したい書籍を考慮して書店に行かなければなりません。また、書店に書籍を注文してもらった注文書も製作させていただきましたが、様々な工夫があることを知りました。時間のない書店員の方々が目に留めてくれ、かつ注文したいと思わせる内容をA4の紙に詰め込まなければなりません。加えて値段表記にも配慮が必要でした。自社の本を多くの人に届ける熱意を学びました。

2つ目は本ができる難しさです。雑誌や書籍の校正をさせていただきました。一度修正が入っており、それがきちんと訂正されているかの確認

だったのですが、数字の表記や送り仮名の有無など訂正がとても細かかったのが印象的でした。人の名前や注意書きの小さい文字の1字1句まで文脈を考え、訂正していく作業はとても大変な作業だと改めて感じました。また、新刊のデザインの打ち合わせと紙の見本帖のお店に同行させていただきました。表紙のデザインはもちろん、本文に使用される紙の触り心地や書籍の厚さまで考えていました。そして紙と一言で言っても本当に沢山の種類があることを知りました。同じ白い紙でも、インクの出方が違うため、書籍のイメージ、本体価格も考慮した上で選んでしました。このような大変な作業を苦痛ではなく、いいものを作るために必要なことだと笑顔で言えることがプロであり、本ができるためには膨大な時間と熱意と努力が必要なことが改めて実感しました。



雑誌の新刊のPOPと同封する手紙

6. 後輩へのアドバイス

大変なことももちろんありますが、必ず自分にとってプラスになることが経験できると思います。是非参加して、自分の良い経験を増やしてください。いつでもメモできるようにペンとメモ帳は持っておくと便利が多いです。

最後になりましたが、木楽舎の皆様にお世話になりました。本当にありがとうございました。

広告メディアの舞台裏

ヘレナメディアリサーチ

塚本 功治（3年）



1. 参加の動機

まずインターンシップに参加した理由としては、就職活動への不安があります。大学3年生となり本格的な就職活動の開始まで1年を切るなか、自分のなかでの企業や社会へのイメージはいまだに漠然としたままでいたため、インターンシップに参加することで少しでも現場の実際の雰囲気やあり方などを実感し今後の学生生活や就職活動に生かしたいと思い参加しました。

インターンシップ先にヘレナメディアリサーチを選んだ理由は大きく2つあります。まず1つが元々メディアに関連する仕事に興味があったということです。特に映像や印刷関連、広告代理店などに興味があり、ヘレナメディアリサーチではそれらに加えWEBに関することも取り扱っていると知り興味を持ちました。2つ目が身近な場所にあったということです。地元に興味があるメディア業界の企業があるとは全く思っていなかったためとても驚くと同時にどのような仕事をしているのか知りたくなりました。

2. 派遣先の概要

ヘレナメディアリサーチでは主に広告制作の業務を行っています。取り扱っている媒体は様々で、WEBページの作成、映像制作、ポスターや情報誌といった紙媒体の制作などを行っています。またそれらの媒体を組み合わせたクロスメディアマーケティングという手法を提案しています。部

署は主にWEB関連を取り扱うシステム部、コーディング部、映像制作を行う映像部、デザイン全般を担当するデザイン部、その他営業企画部があります。

私は今回主にデザイン部の方にお世話になりました。デザイン部では、名刺やポスター、情報誌など主に紙媒体のデザインを扱っています。デザインにはPhotoshopやIllustratorといったソフトを使用しています。

3. 活動内容

2週間のインターンシップ期間中を通しての課題としていただいたのが自分の名刺を作成することでした。この名刺はAdobe社製のIllustratorというソフトを使って作成しましたが、このソフトは難易度が高く、使い方を1から覚える必要がありました。

名刺作成以外では校正作業やサイトマップ作成を体験させていただきました。校正作業とは情報誌やポスターといった印刷物を原稿やWEBページと照らし合わせながら文章や掲載されている情報に誤りがないかをチェックする作業です。

また映像部の方には映像のチェック作業と編集作業をさせていただきました。編集作業に使用したソフトもIllustratorと同じように普段使う機会がない専門的なものだったのではじめのうちは操作に苦労しましたが、使い方を指導していただき短い映像でしたが自分の力で編集をすることがで

きました。

4. エピソード

インターンシップの期間を通して名刺作成を行いました。それに使用したIllustratorはこれまで使ったことがなかったのでまず基本的な機能を知ることからのスタートでした。このソフトは自由度が高くさまざまなデザインを作成すること可能ですが、その分難易度も高いのではじめはかなり苦戦しました。

Illustratorもある程度使えるようになり、名刺のデザインに取り掛かりましたが、ありきたりなデザインしか思いつかず、なかなか良いものができませんでした。そこで担当者の方から型にはまったものでない、自分らしさを押し出したプライベート用の名刺に挑戦してみてもどうか、というアドバイスをいただき、そこからは自分の個性とは何か、名刺を受け取った人に何を伝えたいかを考えつつ、楽しくデザインを考えることができるようになりました。

他に苦労した点としてシステム部の方からお話を伺う機会がありましたが、サーバーやプロバイダなどWEB関連の知識があまり自分になかったためかなり基礎的なことから説明していただき、自分から仕事内容などについて掘り下げるような質問があまりできませんでした。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップで常に伝える対象である「エンドユーザー」のことを考えメディアを作り上げていくということを学びました。伝えたい情報の中でも何が一番重要な情報なのか、それをどのように見せたいのか、他に載せたい情報は何なのか、それをメインの情報とどのように差をつけデザインするのか、それをエンドユーザーはどのような状況で目にするのか等、これらのことを今回は名刺というメディアの作成を通じて学びましたが、他の媒体にも共通の事柄であると感じま

した。

また、普段から私たちが目にしているWEBサイトの管理や運営などに実際に携わっている方たちから直接その構造や仕事内容をうかがうこともでき、メディアの舞台裏を知ることができました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップはぜひ参加してみるべきだと思います。大学に通っているだけでは実際に社会や企業の現場を体験できる機会はあまりなく、また現場働いている方たちからお話を伺う機会も少ないと思います。インターンシップではそれらのことを毎日経験することができます。

また私は映像の編集や名刺のデザインを体験させていただきましたが、それらに使用したソフトや機材は日常生活では触れることのないようなものばかりでした。このように各業界や企業の専門的なものを実際に触ったり、使用しているところを見たりできるのもインターンシップならではの経験だと思います。

仕事内容が自分のイメージとは違った、自分に合わないのではないかと、などマイナスな印象を持つこともあるかもしれませんが、それをインターンシップで知ることができるという事は就職活動に向けては必ずプラスになると思います。



作業の様子

読者の興味を引く タイトルをつけること

NHK 出版

大山紗登美（3年）



1. 参加の動機

自分は昨年度のインターンシップに参加し、その時の受け入れ先企業で紙媒体のメディアの仕事について学びました。それを機に、将来出版関係の仕事で働きたいと考えるようになりました。今年度もインターンシップに参加することで、より深くその仕事について学びたいと思いました。また、学生である今からその職業についての知識を増やし、就職活動に役立てていきたいと考え、インターンシップに参加しました。

2. 派遣先の概要

NHK 出版はNHKの番組テキストや番組に関連した書籍や雑誌の発行をしています。テキストの種類はテレビとラジオを合わせて年間100種類を発行しています。また、読者サービスのための関連商品の開発・販売や、電子書籍の販売も行っています。

今回は編集局の家庭編集部と営業局の特販部という部署にお世話になりました。家庭編集部では『きょうの料理』『きょうの料理ビギナーズ』『きょうの健康』『すてきにハンドメイド』などの番組に関連したテキストを担当している部署です。特販部は営業局の中でも書店以外の販売場所と取引をする部署です。スーパーマーケットや生協などとの取引を行っており、全体の売上げの10%ほどを扱っています。

3. 活動内容

インターンシップは2週間の期間があり、前半の1週間は編集局家庭編集部のお仕事を、後半1週間は営業局特販部のお仕事を体験させていただきました。

1週目の家庭編集部では、『きょうの健康』の編集を行っている部署に主にお世話になりました。そのほかにも、『すてきにハンドメイド』の11月号に掲載される写真の撮影に同行させていただいたり、『きょうの料理』の12月号企画の取材に同行させていただいたりしました。

2週目の特販部では、直販と通販という2つの部の方々にお世話になりました。直販は、主に書店以外の取引先とのやりとりをする部署です。生協などの取引先への訪問に同行させていただきました。通販はグッズの販売を請け負っている部署です。『すてきにハンドメイド』で取り上げた作品の材料を販売したり、雑誌で実際に使用しているグッズなどを販売しています。今回はインターンシップ中に東京ビックサイトでギフトショーが開催されていたため、担当の方に同行し、実際に交渉の様子を見せていただきました。

4. エピソード

家庭編集部の担当の方に同行し、『きょうの料理』の撮影を見学させていただきました。撮影では、先生のコメントを編集者の方が絵コンテにメモを取っていました。どのようなことをメモしている

のかお聞きしたところ、料理の手順などは事前に打ち合わせをしてあらかじめ把握しているようですが、包丁の使い方や、ワンポイントアドバイスのようなことを料理の先生が言ってくださるので、それをメモしているとのことでした。撮影だから、ただ写真を撮ればいいというだけでなく、たとえ打ち合わせをしても、得られる情報があれば書き残しておく必要があるのだと知りました。

特販部では商品開発の打ち合わせに同席させていただきました。特販部では、年にひとつ以上のNHK出版オリジナル商品を開発することを目標にしています。今回は料理研究家の小堀さんがプロデュースするジャム鍋に関する打ち合わせでした。小堀さんは他の鍋にはないかわいさをもつと同時に、使いやすさも重視した鍋を作ってほしいとおっしゃっていました。小堀さんが雑誌で連載を持っているのは通販のページで、紹介した商品はとても人気が出ると特販部の方からお聞きしました。雑誌の売り上げが伸び悩む部分を、通販が支えていくことで、全体としての売り上げを保っていただけることをお聞きし、編集にいたるだけでは学べない通販の重要性を学ぶことができました。

5. わかったこと、学んだこと

私が体験した校正の作業を始め、編集者の方は黙々と作業をしている印象でした。雑誌の編集者の仕事は華やかなのではないか、というイメージがあったため、デスクにつき淡々と作業をしている姿は意外に思いました。しかし、それらは読者の方が理解しやすいよう、余念なく確認作業をしているからなのだと編集部での1週間を通して学びました。この、読者のためという思いは特販部の方々も同じように感じました。特販部では、テキストがご家庭から1冊だけの注文を受けることもあります。これは、近くに書店がないお客様もいるため、たとえ1冊の注文であっても各家庭に届けるのだと特販部の担当の方はおっしゃっていました。必要とする読者のために仕事をしてい

る姿は、部署は違っても共通する点だと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

私は出版業界に元々興味があったため、この派遣先を希望しました。ですが、事前の下調べをもっとよくしておくべきだったと今では思いません。下調べをしておけば、その段階で気になったことを直接編集局の方や営業局の方にお聞きすることができます。このような機会はめったにないと思います。時間が限られているため、もし派遣先が決定したなら、しっかりと事前の準備をしておくことをお勧めします。

また、今回はNHK出版本社に毎日決まった時間に出社するのではなく、現場集合というときも多くありました。さらには、編集局ではスーツではなくても大丈夫でしたが、営業局では基本的にスーツでの出社でした。担当の方はもちろん親切に伝えてくれますが、それに頼るだけでなく次の日の集合時間、集合場所、当日の服装の確認などは毎日自分から行う方が良いと思います。

学生である今だからこそ、どんなことに自分の時間を使うか自由に決めることができます。もしインターンシップに行くかどうか迷っているのなら、ぜひ勇気をもってチャレンジしてみてください。



家庭編集部の様子

本が手に取られるまで

NHK 出版

小林 裕美（3年生）



1. 参加の動機

学年が3年に上がり就職活動が間近に迫る中で私は、自分が社会に出て働くということを本当に理解できているのか、という疑問をずっと抱えていました。アルバイトの経験はありますが、企業に勤め働くことは、責任の重さはもちろん、社会貢献という面でも非常に大きな意味を持ちます。自分が働くことでどのように人々の役に立っているのか、そのビジョンを持っていないままで、就職活動に臨むわけにはいかないと考えていました。そこで興味を抱いている出版社へのインターンシップに参加し、出版業界の理解を深めるとともに、社会人の方と接することで、社会で働くということについても何か掴むことができればと思い、参加を希望しました。

2. 派遣先の概要

NHK 出版は、主にNHKの番組テキストやその関連書籍、雑誌を発行する出版社です。また電子書籍やアプリなどのデジタルコンテンツの制作・販売も行っています。

私は今回、編集局の趣味実用編集部と営業局の販売部にお世話になりました。編集局は番組の内容に沿って企画、取材、編集、校生を行う部署です。趣味実用編集部では、『趣味の園芸』『まる得マガジン』『趣味Do楽』など趣味に関する雑誌、書籍を担当しています。営業局は、出版物の販売、販売促進事業などを担う部署です。主な業務

として、出版物の発行部数決定や、書店等からの受注の取り扱い、また実際に書店をまわり書店員に新刊の案内などを行います。

3. 活動内容

インターンシップ期間は2週間で、前半1週間と後半1週間でそれぞれ違う部署を経験させていただきました。1週目は編集局の趣味実用編集部の『まる得マガジン』『趣味Do楽』編集部にお世話になり、主に校正作業を担当させていただきました。NHKの番組テキストは放送の内容に沿って制作するので、放送の録画を観て、校正紙と放送内容に齟齬がないか、誤字や誤植がないかをチェックしました。また、編集長や部長の方のお話を聞く機会も作っていただき、編集の業務についてのレクチャーをしていただきました。校正作業は想像していたよりも集中力を要する、非常に細かい作業でした。地道に修正を重ねる努力なくして、雑誌は出来上がらないと身を持って学ぶことができたと思います。

後半の1週間では営業局の販売部にお世話になりました。こちらでは、会議や打ち合わせに同席させていただいたり、出版流通について詳しくお話を伺ったり、書店周りに同行させていただいたりしました。同席した打ち合わせでは新刊の書籍をどのように売り出していくのか、それぞれの書店の性格まで細かく把握し、その他様々な要素も勘案しながら決定されていて、鋭い分析力が販売

という部署で要求されることを学びました。出版流通に関して詳しくお話を伺えたことも、業界を深く知る上で非常に参考になりました。インターンシップの前に出版業界についての資料を読んでいたのですが、実際に普段の業務として携わっている方から聞くお話はやはりリアリティがありました。書店まわりへの同行では、書店にはそれぞれ個性があり本の売り出し方にも違いがあること、書店の方との情報交換の大切さなどを教えていただきました。書店の方から仕入れた有用な情報を、他書店にも伝えたり、社内に持ち帰り会議や打ち合わせで活用したりと、読者に一番近い書店と密接な関係を築いていくことの重要性を学びました。

4. エピソード

期間中、たくさんの経験をさせていただき印象に残っていることは多々あります。その中でも、実際にその場で働く社員の方々と接し、仕事に対する姿勢を学べたことがとても有難かったと思います。社員の方々の仕事の捉え方は様々でしたが、どの方もしっかりとご自分の哲学を持たれていて、感銘を受けました。自分を見つめ直し、仕事への考え方を自分なりにもっと発展させていきたいと感じることができました。

5. わかったこと、学んだこと

編集局と営業局に1週間ずつにお世話になったことで、出版業界をより深く理解することができたと思います。まず編集局で学んだことは、雑誌が出来上がるまでに多くの工程があり、それぞれに地道な作業が必要とされるということでした。納得のいく誌面を作り上げるため、文章はもちろん、レイアウトや色の細かな出方までこだわっている社員の方々の姿が印象的でした。こだわりと情熱を持って、読者に満足してもらえるような雑誌をつくること。そのために地道にひとつひとつの工程をこなしてゆくことが雑誌編集をする上で何よりも大切であることを学びました。

営業局も多くのことを学ばせていただきました

た。出版社というと、つい編集業務ばかりを思い浮かべがちです。私もインターンシップまではその印象を弱からず抱いていました。しかし実際に営業の現場での仕事を肌で感じ、作られた雑誌を売ることの大切さを学ぶことができました。書籍を必要としている読者に確実に届けるために、様々に考えを巡らし数々の工程を踏み、書籍を送り出す営業という業務がいかに重要であることを深く理解できたことは、出版業界を志す身として大きな収穫でした。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップへの参加は時間、金銭面、メンタル面それぞれ、それなりに負担が掛かります。私もそれで尻込みしていましたが、2週間で終えた今では思い切って参加してみて良かったと心から思えます。夏期休業でちょっと頑張っ、やりきった感と、ハッと目を覚ますような感覚をぜひ、手に入れてください。

そして行くとなったら、事前の準備は入念にしてください。インターンシップ先の企業について、その業界の概要や現状などをしっかりと頭に入れておくの良いと思います。

最後になりましたが、お世話になりましたNHK出版の皆様はこの場を借りて心から感謝申し上げます。お忙しい中、インターンシップを受け入れてくださり本当にありがとうございました。必ずこの経験を今後活かしていきます。



校正作業の様子

国際交流の現場で働くということ

一般財団法人日本国際協力センター（JICE）

星野由季菜（3年）



1. 参加の動機

最大の動機は「国際交流に仕事として関わるとはどのようなことか知りたい。」というものでした。国際交流が好き、しかし国際交流を仕事にするとはどのようなことなのか、毎日何をしているのか想像ができませんでした。今回、インターンシップを通して国際交流の職場の雰囲気を感じ、国際交流を仕事としている方々の生の声をうかがいたいと考えました。

今年の2月に、JICEからご依頼を受け開催した茨城大学とパキスタン学生との交流事業に実行委員として携わらせていただいたこともあり、JICEに興味をもちインターンシップを志望しました。

2. 派遣先の概要

国際社会の発展に寄与することを目的とし、JICA や関係省庁などから国際協力事業を受託し実施している一般財団法人。主に国際交流、留学生受け入れ支援、多文化共生推進等に取り組んでいる。

3. 活動内容

私は国際交流部青少年交流課に所属し、主に外務省から受託した「JENESYS2.0」のASEAN地域の青少年受け入れ事業に携わらせていただきました。具体的には交流事業で使用する資料等の準備、事業関係者との打ち合わせ視察、マラソン陣の同行です。マラソン陣はフィリピンから25名の青少年を受入れ、マラソンというテーマのもと、スポーツを通して日本を知ってもらうという

ものです。その他にも日本語教育の現場も視察させていただきました。

4. エピソード

資料印刷の際、ページの順番をミスしてしまい、関係者との打ち合わせを少々混乱させてしまいました。その場にいた方々は非常に優しく、気にしないでと声をかけて下さいましたがいたたまれない気持ちでした。せっかく任せていただいた仕事をきちんとこなせなかったのが悔しかったです。注意力の欠如と、確認作業をしっかりと行わなかったことが原因でした。注意力に関しては、日ごろの生活態度が影響してしまったのではと感じ、今後の生活態度の見直しをしよう、と考えるようになりました。

マラソン陣への同行ではフィリピンの方々たくさん話すことができ、とても楽しい時間を過ごすことができました。視察の際には、フィリピンの学生からさまざまなことを質問されました。自分の知識不足と英語力の低さに歯がゆい思いをしました。日本について自然に身に付く知識もあるものの、自発的に学ばなければえられない知識の方が多いとわかりました。日本についてもっと学ばなければならない、そしてその知識を十分に伝えられるよう、英語の語学力も重要であると痛感しました。

5. わかったこと、学んだこと

仕事内容に関しては、参加者からは見えない「裏」の部分が交流事業の成功において非常に重要

な役割を果たしていることに気付きました。企画運営に多くの時間と労力が必要であると感じました。スムーズにスケジュールを消化できるのはそれを支える側の多大なる努力と苦労があつてのことだとわかりました。

また、コミュニケーション能力の重要性も学びました。一つの事業にも本当に多くの人がかかわっているということがよくわかりました。インターンシップを通して JICE のみならず通訳や旅行会社の方とも交流する機会をえられました。社会人が、さまざまな立場からいかに外部と連携を取りつつ企画を運営しているのかを間近でみることでできたのは、インターンシップの成果の一つであると思います。そして、異なる様々な意見の擦り合わせを行うことも重要であると学びました。相手の考えをしっかりと聞き理解し、そのうえで自分の考えを伝えなければならないという点で、コミュニケーション能力はやはり職場において求められる力だと思いました。

そしてこれらの国際交流事業の良し悪しはその国の印象に関わるということを感じさせられました。職員の方々が「無事にみんなを帰したい、日本を好きになってほしい」という思いで取り組んでいる姿はとてもすてきでした。責任は重いが、そこにやりがいがあるのではないかと思います。

また、楽しいことも大切であるが、毎回の企画に目的をもたせ、いかに有意義な時間を過ごさせるかという点が重要だということも学びました。

異文化交流ということで日本人のみの事業とはまた違った問題点や考慮すべき点が多々浮上し、異文化についての知識と経験がいかに重要であるかも学びました。特に文化や宗教の問題は繊細に扱わなければならないということを改めて学びました。

自分が何を考えているのか伝えることの重要性も学びました。このインターンシップ中、周囲を観察し、話をしっかりと聞くということを意識していたため、自分の状況や考えを周囲の方々に伝える、というのは私にはない視点でした。今後他の場面でも、この視点を意識したいと思います。

以上報告してきたようにインターンシップを通して多くのことを学び、国際交流を仕事にするとはどのようなことか、肌で感じることができました。JICE で働くにはかなり覚悟があると学びました。初めの印象は、毎日多くの外国人と交流しているというものでした。しかし、実際に現地で交流するのは数日で、その数日のために相当量の地道な作業を積み重ねなければならないということを知りました。正直、JICE の仕事内容は想像以上にハードでした。その一方、日本を好きになって頂くきっかけを提供できる、日本の魅力をアピールする手助けができる、さまざまな方と交流ができるという点でやりがいを感じました。今回インターンシップの立場からではありますが、JICE で働くことのおもしろさとそれにとまなう大変さややりがいを学ぶことができました。JICE で働くということが将来の選択肢の1つになりました。

6. 後輩へのアドバイス

学生時代の貴重さというのも職員の方々とお話しする中で知りました。インターンシップも学生時代にしかできないものの1つだと思います。是非この機会を活かして下さい。

メモ帳を常に携帯し学んだことや感じたことをすぐ書き留めるクセをつけるとインターンシップを振り返る際非常に役に立ちます。また、さまざまな方に積極的に話しかけましょう。多くの方と出会い、交流したことが自分の将来を考えるにあたって非常に参考になりました。



フィリピンのみんなと

新しい人たち、 そして自分との出会い

JICA 筑波

相馬すみれ（3年）



1. 参加の動機

来年から本格的に始まる就職活動を目前にして、自分が将来何をしたいのか・どのような職業に就きたいのかということについてのヒントをえることができればと思い、インターンシップへの参加を決めました。それと同時に、社会人として自分に足りないものを、インターンシップを通して見つけたいという思いもありました。また、途上国の支援や国際協力に興味があったため、JICA 筑波へのインターンシップを希望しました。このインターンシップを通して日本の途上国支援や国際協力のあり方について学び考え、将来の就職活動の糧にしたいということもこのインターンシップの目標でした。

2. 派遣先の概要

JICAは、日本の国際貢献の重要な柱である政府開発援助（ODA）を行う機関です。開発途上国の経済や社会の発展に寄与し、「人間の安全保障」の実現を図ることを目指しています。具体的には、資金での協力と技術協力の2つに分けることができます。特に技術協力の面では、研修員受入事業を行っています。開発途上国の幅広い問題に対応するため様々なコースが設けられており、開発途上国の行政官や研究者などを研修員としてJICAへ招いています。とりわけJICA 筑波では、農業と農村開発の研修が中心となっています。

3. 活動内容

インターンシップの10日間は、幅広くたくさん

の業務を経験させていただきました。具体的には、JICA 筑波で行われた大学生・大学院生向け国際協力理解講座の準備及び聴講、研修員の研修旅行スケジュールを組む現場班の業務体験、事業を運営していくうえで重要となる経理調達班の業務体験、来日直後の研修員のブリーフィング（ガイダンス）に同行、レストランのレジ業務や研修員が宿泊する棟でのフロント業務体験、図書館業務の体験、研修員の研修への同行などが挙げられます。様々な業務を幅広く体験させていただくことでJICAの事業について知ることができました。

4. エピソード

大学生・大学院生向け交際協力理解講座の準備として、その講座で用いられるレジュメのコピーをさせていただいていたのですが、両面印刷すべきものが片面しか印刷されておらず、職員の方々に大変な迷惑をかけてしまいました。コピーを行う際は、両面・片面、部数、ホチキスでとめる、などの設定をしっかりと確認することが本当に大切だということを学びました。資料の印刷という仕事はどの職場についてもでてくる仕事だと思うので、今後活かしていきたいと思います。

また、研修員の来日ブリーフィングへの同行では、研修員の方との英語での意思疎通がうまくいかず、研修員の方々の質問にうまく答えることができなかったという場面もありました。自分の英会話能力がまだまだだということに気づききっかけになりました。

5. わかったこと、学んだこと

JICAでは様々な面で外部委託が行われているということを学びました。例えば、研修員の利用するレストランや宿泊施設の管理、研修内容のプログラム、図書館の管理などです。多くの人たちがJICAの事業に関わっていて、その人たちが同じ情報を共有し役割分担をしているからこそ、JICAの事業が成り立っているということを学びました。また、国の税金が原資となっているために、様々な面で発生する金額には多くの規定があり、予算について電卓をはじいて確認していくというような事務的な仕事も想像していた以上に多かったというのも学びです。「JICAは開発途上国の支援を行っているところ」というイメージとは異なった事務仕事も多く存在することを知り、実際の仕事はイメージとはかけ離れている、ということもあるということがわかりました。就職活動をする際は、企業の漠然としたイメージからそこを選ぶのではなく、よく業界内部を研究し、自分がやりたい仕事と目的意識をもったうえで進路を決めていかないと後々後悔することになるということもわかりました。

また今回のインターンシップを通して、人との出会いの大切さを学びました。インターンシップ期間中は、職員の方々をはじめ、研修員の方たちや大学生・大学院生向け国際協力理解講座に出席していた他大学の学生など、本当に多くの人たちと出会いました。私はあまり外向的な性格ではないのですが、こうした新しい人たちと出会い、その人たちとお話をしていくなかで、たくさんの刺激を受け、自分の弱さや今後に向けての課題に気づくことができました。これからは内向的な性格の殻を破ってたくさんの人と夢を語ったり議論をしたりして、自分自身を知り高めていきたいと思えます。このことは社会人になる前の自分にとっての大きな課題だと思いました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップにはたくさんの人との出会いと刺激があります。もし参加を迷っているのであれば、勇気をもって参加してみることをお勧めし

ます。慣れない生活や緊張など、大変なことも少しはありますが、それよりもたくさんのことをえることができると思います。

また、せっかく社会人の方たちと触れ合うことができる貴重な機会なので、積極的にお話を伺うと良いと思います。職員の方たちが学生時代に行っていたことや就職活動の話など、どのようなことでも良いのでお話を伺うと良いと思います。私はあまりこのことを実践することができず少し後悔が残ってしまったので、これからインターンシップへ行く方たちには是非実践して様々なものを学んでほしいと思います。加えて、インターンシップでは、わからないことや疑問に思うことは在って当たり前だと思うので、小さなことでも恥ずかしがらずに質問して学んでいく姿勢が大事だと思います。

また、JICA筑波には様々な開発途上国から来た研修員の方々が宿泊しています。ご飯を食べるときや、廊下や道端ですれ違ったときなど、積極的に話を伺って開発途上国の現状やその研修員の気持ちなど知ることができると思います。私はこのような貴重な機会をあまり上手に使うことができなかったため、今後JICA筑波へインターンシップへ行く方には是非この機会を大切にしてください。

最後になりましたが、インターンシップ期間中お世話になりました関係者の方々に心から感謝申し上げます。



フロント業務体験の様子

市民のちから 行政のちから

川崎市役所 市民・子ども局
人権・男女共同参画室

星 梨花（2年）



1. 参加の動機

2年生になり私は自分の将来を考えることが多くなりましたが、働くとはどういうことか、というイメージを持つことができずにいました。そして、公務員という仕事には興味はあったものの、どのような仕事をしているのか見える部分しか知りませんでした。そのためこのインターンシップでは、働くということと公務員の仕事ということについて実際に経験しながら学びたいと思い、参加を決めました。

2. 派遣先の概要

私が派遣された市民・子ども局内の人権・男女共同参画室は、川崎市民や子どもが当然に持つ権利を守っていくために、施策の推進、広報、関連施設との連携などを担当しています。人権・男女共同参画室は事業の内容によって4つの班に分かれています。人権全般、拉致問題、平和について取り扱う「人権班」、男女平等の推進を取り扱う「男女班」、外国人市民施策についての施策を進める「外国人班」、そして子どもの権利について扱う「子ども班」です。

市民の人権を守っていくためには、すべての市民への広報・啓発が重要な役割を果たします。そのためイベント運営などが多いところが特徴です。他にも、人権侵害を受けた人への救済や、内部の職員へ向けた人権研修なども担当しています。

3. 活動内容

インターンシップの5日間の日程の中で1日ず

つそれぞれの班の業務について学びました。

1日目は「人権班」で川崎市の取り組む人権、平和、同和の問題について

学びました。川崎市では北朝鮮による拉致被害者である横田めぐみさんのご両親が川崎市在住であることから、拉致問題にも力を入れて取り組んでおり、この日は横田めぐみさんの写真展を見学し、展示をより良くするための意見を考え述べました。また、市の施設である平和館を訪れ市の平和への取り組みを学ばせていただきました。

2日目は「男女班」での活動でした。この日は「川崎市男女共同参画センターすくらむ21」へ移動してインターンを行わせていただきました。男女共同参画と言っても、子育て支援から高齢者向けの講演など、市民の社会活動を支援する様々な活動がすくらむ21で行われています。その日は、10月に行われる働く女性へ向けたワークショップの講師の方との打ち合わせに同席させていただきました。講師の方と名刺交換をさせていただいたり、女性が働き続けることについてお話を聞いたりすることができました。

3日目は「外国人班」で、4日目に行われる「外国人市民代表者会議」の準備を手伝いました。予



折込み作業の様子

算の使い方など事業の運営にかかわる事務について、実際に経験しながら教えていただきました。午後にはこの会議が行われる「国際交流センター」を訪問し、そこでも実際の外国人施策について学ぶことができました。4日目は会議の運営に、案内やマイク回し、写真記録といった役割で参加させていただきました。外国人市民の市政への提言を決める重要な会議なので、代表者の方々から出る意見はとても貴重です。マイク回しや写真記録にも責任を感じました。

最終日は「子ども班」で事務作業をしました。市民アンケートの集計作業や、10月に控えた子供の権利の啓発イベントの準備作業をしました。子どもたちが子どもの権利に親しみやすいような企画やグッズが用意されており、それらの準備作業をしました。最後に5日間のまとめとして、自分の人権意識についてのお話を室長の方からいただきました。日常で無意識にしている差別はないか、どのように人権意識を作っていくかということをととても考えさせられる5日間でした。

4. エピソード

インターンシップで特に感じたことは話を聞くことは難しいということです。今まではあまり感じたことはありませんでしたが、インターン中、話をうかがう機会が多く、忘れないようメモを取っても、後から見直すと要点が分からなくなってしまうことなどが多々ありました。また業務中の必要な情報などはメモを取ることができないことも多かったので、しっかり話を聞くということの重要性を改めて実感しました。話を聞く能力をつけていくことが自分の今後の課題だと思います。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップでは公務員という仕事の多様さを知ることができました。公務員の仕事は市民の生活を支える仕事とよく言いますが、目に付きやすい窓口での業務からインフラ整備や教育、さらに市民な権利を守る仕事など、実に広範で多様な仕事内容だということを知りました。インターンシップでも会議の運営やイベントの準備、集計作業など普段は知ることのできないよう

な仕事を体験させていただきました。また行政という組織の中で働くことがどういうことなのか、事業と予算との兼ね合いなどとても現実的な部分もうかがうことができ、公務員という職業をさらに深く理解することができました。

また、民間と行政の違いや、違うからこそ連携して事業を行っているということも学びました。2日目にうかがったすくらむ21は民間の会社が運営しており、少し違った雰囲気の中でインターンシップをさせていただきました。公務員であっても民間であっても目の前の仕事にベストを尽くすということに変わりはありませんが、事業の自由度など違いが大きいと感じました。しかし、民間の経験の後に公務員となった職員の方の話をきいたり、民間と行政が連携して事業を行っていることを知ったりして、民間や公務員というくくりだけで職業を見ることはもったいないと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

現在、インターンシップに参加しようか迷っている方には参加をおすすめします。私は就職について民間か、公務員かもまだ決めかねていますが、今回のインターンシップで実際に仕事を体験し、働いている方に話を聞いて、公務員という仕事像がより具体化されました。就職してから想像と現実のギャップに悩まされることも多くあると思います。進路に迷っていたり、もっと知りたいと思っている方には強く参加を進めたいと思います。また今回は他大学の方と一緒に就業体験をしましたので、情報や意見の交換をすることができ、さらに有意義なものになりました。

また、インターンシップ期間中、私は近くのホテルに宿泊しました。宿泊費用に加えて食事代や交通費などもかかるので、金銭面も計画的に考えておく必要があります。

インターンシップでの経験から、今もっと勉強すべきことや、これから必要になるであろう技能など、自分のどんなところを高めていけばいいのかを知ることができたのもよかったと思います。これからの大学生活にこの貴重な経験を活かしていきたいと思います。

接客ではなく接客

水戸プラザホテル

佐藤 早紀（2年）



1. 参加の動機

昔から将来は法律関係の仕事に就きたいと考えている。そのため自分で職業について調べるときは興味関心のある分野ばかりになってしまう。就職活動までにまだ時間があるこの時期にインターンシップという大学の制度を利用することで新たな職種を知り、就職の際の職業選択の幅を広げたいと思った。また、アルバイトではなく社員の一員としての立場を経験することで働くということの意味を改めて考えてみたいと思ったから。

2. 派遣先の概要

水戸プラザホテルは水戸を中心にホテル事業やブライダル事業に力を入れている伊勢甚グループに所属しており「森の中の迎賓館」というコンセプトの通り、多くの自然に囲まれた施設である。

3. 活動内容

多くの職種が存在するホテルという場所で、私が今回のインターンシップ期間中に体験させていただいた職種は4つです。ハウスキーパー、バンケットサービス、ベル・ドアパーソンを3日間ずつ、和食と洋食のレストランサービスの仕事を1日体験させていただきました。

ハウスキーパーではお客様がチェックアウトした後の部屋に忘れ物がないか確認し、使用済みのアメニティグッズやタオルをまとめました。また、メイドさんの清掃が終わった後の部屋に入り髪の毛が布団についていないか、鏡やグラスに汚れがついていないか、ほこりはたまっていないかな

ど一度ピカピカに清掃された部屋を隅々までチェックしました。

バンケットサービスでは宴会のお手伝い、アテンド業務、サービス研修、介添えさん体験をしました。また、水戸プラザホテルにはチャペル、長榮殿、アトリウムガーデンパークの3か所挙式をあげることができる場所があります。その中でも水戸東照宮より御霊分けした長榮殿では神前式を行うことができます。年に数回行うという長榮殿の清掃のお手伝いをしました。

ベル・ドアパーソンではお客様のお出迎えとお見送り、カトラリーの準備、デリバリーを行いました。また、よくお客さんに尋ねられる場所である喫煙所、シャトルバスのバス停、トイレの案内もしました。

レストランではお茶出し、料理提供、中下げ、グラス拭き、ナフキン折りをしました。水戸プラザホテルのレストランは和食・洋食両店舗ともコース料理なのでお料理をだす順番、タイミングなども学びました。

4. エピソード

3日間私は、ハウスキーパーさんの後ろについてお仕事を拝見させていただきました。そこでハウスキーパーさんの集中力と手際の良さに驚きました。約30室ある1フロアを1人ですべて見て回り、時には事前にお客様が注文された空気清浄機やDVDプレイヤー、お子様のベッドなども部屋に運びいれます。想像以上にハウスキーパーさん

のお仕事は大変で、直接お客様に会う機会は少ないけど誰よりもお客様のことを考える仕事だと感じました。

私はレストランでアルバイトをしており、宴会のお手伝いをするとき、アルバイトと同じように動けば大丈夫だろうと思っていました。しかし、いざ宴会が始まると自分1人で受け持つお客様の多さ、提供する品数の多さに驚き、動くことができませんでした。しかし、社員の方や同じホールを担当していたサービス員の方にアドバイスをいただき何とかお客様に料理を提供することができました。何百人規模の宴会はよくあることで、多い時には何千人という方をお迎えすることもあるバンケットサービスでは、常に周りの人と情報を共有してどんな状況になっても動けるように事前に考えておくことが大切だと学びました。

ベル・ドアサービスではとにかく覚えることが多いと感じました。初日に見せていただいたマニュアルにはお部屋への案内の仕方から忘れ物の管理、タクシーの呼びかた、宅配業務についてまでベルのお仕事として覚えなければいけないことが沢山ありました。館内だけではなく館外のことも聞かれるのでその知識も必要でした。しかも、マニュアルを暗記するだけではなく場合に応じて臨機応変に対応していく必要があります。そのため、2人のベルの方のアテンドに同行しましたが、その内容は異なりました。何回もアテンド業務を行い自分にあった方法を探していくのだとおっしゃっていました。また、北関東のホテルで唯一ベルという職業があるのが水戸プラザホテルです。ベルの皆さんがベルという職業にやりがいを持ち、楽しいとおっしゃっていたのが印象的でした。

5. わかったこと、学んだこと

10日間水戸プラザホテルで働いて社員間での連絡が頻繁だと感じました。様々な職種が混在しているホテルではどんなささいな情報でも、その情報が伝わらなかつただけで大きな問題が起きる部署があるかもしれない、情報は常にすぐ共有されていました。また、お客様に対してだけでなく社員間でもあいさつがしっかり行われているのが

印象的でした。

インターンシップを行っている中で、水戸プラザホテルという名前に期待を抱いて訪れるお客様が多くいらっしゃるように思えました。そのためホテルで働く人はみなお客様を感動・満足させる為に何が出来るのかなどを常に考えています。お客様が水戸プラザホテルにもっている期待以上のことができ初めておもてなしでそれ以外のことは普通のこと、そのため何事においても妥協は許されない。お客様の期待に応えるため自信をもって行動しているという言葉がホテル社員の方とお話しするたびに聞こえてきました。

バンケットサービスの市毛支配人が接客というのは常に対人である。そのため、その状況を楽しみ、笑顔を忘れないこと。何事にも興味をもつこと。仕事に対して前向きに積極的にしていれば仕事が楽しくてしょうがない、とおっしゃっていました。この言葉はこれからの人生様々な場面に当てはめることができると思いました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは3年生からというイメージが強いと思いますが、都合が合えば早いうちから参加するべきだと思います。私はインターンシップに参加して法学関係の職業以外に接客中心の職業にも興味を持ち、職業選択の幅を広げることができました。インターンシップは何よりも簡単に社会というものを体験できる手段です。アルバイト



介添えさんの制服を着て長榮殿の前で

トでは味わえない働くことの大変さ、働くことで感じられる喜びを短期間ではありますが経験することができます。もし少しでも興味のある分野があれば積極的に参加してみてください。

国際交流に携わる 仕事での発見

水戸市国際交流センター

佐々木美加（2年）



1. 参加の動機

私が参加しようと思った理由は、インターンシップという学生の時にしかできない貴重な経験を通して、自分に足りないものや必要とされる能力を知ったうえで、これからの大学生活を送る際に、自分の目標をしっかりと見据えておきたかったからです。私は将来国際交流に携わる仕事に就きたいと考えています。しかし、この夢はとても漠然としていて、仕事内容などについて具体的なイメージを持つことができませんでした。そこで、社会人と同じように働くということを実際に経験して、将来就きたい職業を見つけることができると考え、インターンシップへの参加を決めました。

2. 派遣先の概要

水戸市国際交流センターは、市民、関係団体、行政などと連携しながら、市民レベルの国際交流活動や地域の多文化共生推進のための様々な事業を展開しています。

具体的には、国際親善姉妹都市アナハイム市や友好交流都市重慶市をはじめとする海外諸都市との友好交流の推進や、国際交流に関する講座等の開催、外国人市民に対する支援、国際交流に関する情報の収集及び提供といった事業が挙げられます。

3. 活動内容

3日間にわたって開催される小学校低・中学年を対象とした、外国人講師による英語教室を手伝わせていただきました。準備段階では子供たちに渡す修了証のようなものの作成や会場設営をし、本番では受付や記録用の写真を撮影しました。

毎週の土曜日に、外国人と市民が自由に交流できる「どようサロン」というイベントがありますが、実際に参加者に混ざって会話をしたり、報告書を作成したりしました。さらに特別企画のティーパーティーにも参加することができました。

アメリカ出身の方にインタビューをし、その内容をまとめて、実際にホームページに掲載する記事として編集しました。読みやすい文章になるように何度も書き直しました。さらに、水戸市に住む外国人のための生活情報紙（Culture Pot MITO）の10・11月号の特集の部分を担当させていただきました。他にも、水戸市学生親善大使の事後研修会のアシスタントや、水戸市国際交流センターのPRカード作りといった様々な仕事を体験することができました。

4. エピソード

私が今回のインターンシップでの一番の反省点は、初日に出勤時間を守ることができなかったことです。諸事情により遅れてしまいましたが、職員の方々は大変優しく受け入れてくださり、社会人として自己管理がいかに重要であるかを痛感し

ました。「本当に社会に出てから失敗するよりも、早いうちに失敗を経験した方がいい」というお言葉が心に響きました。

また、いくつかのイベントで実際に外国人と接する機会がありましたが、英語をうまく話せず、挨拶程度のことしかできませんでした。もっと英語力があれば、より交流を深めたのではないかと思ひ、英語への勉強意欲がさらに上がりました。

5. わかったこと、学んだこと

私がインターンシップを通して学んだことは、国際交流に携わる仕事において、相手のことを最優先に考えるということです。もちろん語学力も求められますが、それはあくまで単なるコミュニケーションをとるためのツールに過ぎないということに気づきました。外国人にとって分かりやすい文章を作るには、簡単な日本語で書くほかに、振り仮名と分かち書きといった工夫を加えるように、些細な気配りが必要とされます。自分が作成したものが実際に採用された時や、イベントの参加者の満足した様子が見られた時にはやりがいを感じ、嬉しく思いました。

私がお世話になった水戸市国際交流センターでは、少人数であるため、職員の方々は企画から報告まで様々なことをこなしていました。仕事を与えられるのを待つのではなく、自分で考えて行動することも大切だと学びました。

職員の方々から様々なお話を伺い、就職活動におけるアドバイスや、社会人になっても学ぶ姿勢の大切さなど、学生の私にとって勉強になるものばかりでした。自分がどんなことに関心があるのかを再認識し、残りの大学生活での目標や課題を見つけ、将来像が見えるようになりました。また、社会人として働くうえで、挨拶や周囲への気遣いといった、実際に経験してみても初めて分かることもたくさんありました。お忙しい中でも、分からないことがあればいつも丁寧に教えてくださった職員の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

6. 後輩へのアドバイス

将来就きたい職業が決まっていなくても、決まっていなくても、実際に社会人として働くという経験しておくことをお勧めします。自分がこれまで抱いていたイメージと異なる可能性がありますし、その仕事に果たして合っているのかも実際行ってみないと分かりません。少しでも興味のある分野があれば、それに関連した職業を体験することで、目標や課題を明確にし、大学生活をより有意義に過ごすことができると思います。

私はインターンシップに参加して、国際交流に携わる仕事を実際に経験して、益々この仕事に就きたいと感じるようになりました。インターンシップは素敵な出会いに溢れていて、自分を見つめ直す良い機会にもなりますので、迷っている人は、ぜひチャレンジしてみてください。終えたあとは成長した自分の姿を見て、参加してよかったと心から思えるはずです。



英語教室の様子



作成した修了証

仕事を学び、 競う相手を知る

ジェイ・スポーツ

埴田 翔仁（3年）



1. 参加の動機

昨年もテレビ番組製作会社にインターンシップに行き、これまで放送業界に対して漠然とした憧れを持っていましたが、具体的に何をしたいのかと言われると正直まだ迷いがありました。

そこで今回、ジェイ・スポーツというスポーツに特化した職場を見ることで、特定分野のプロが集まる現場はどのようなものか、自分の本当にやりたいことは何なのかということを一見見つけたいと考えたのがきっかけです。

また茨城大学だけでなく他大学もこのインターンシップに参加するため、自分が就職で競う相手はどのような準備をしているのかということも確認したいと思っていました。

2. 派遣先の概要

ジェイ・スポーツは、日本で唯一の4チャンネルマルチ編成のスポーツテレビ局です。国内外のスポーツ番組を製作・編成し、スポーツ専門チャンネル「J SPORT1」から「J SPORT4」をスカパー！、ケーブルテレビなどを通じて放送しています。これらのチャンネルでは野球、サッカー、ラグビー、格闘技、モータースポーツ、サイクルロードレースなど、世界中の様々なスポーツを多彩なプログラムで見ることができます。

3. 活動内容

8日間（うち1日が休日のため実務7日）のインターンシップ期間のうち、主に前半がジェイ・スポーツの仕事や放送についての座学、後半は収録

の現場の見学や、初日にあらかじめ出された3つの課題「ジェイ・スポーツの弱点を指摘する個人プレゼン」、「ジェイ・スポーツのCM制作」、「2020年までにジェイ・スポーツがすべきことのディスカッション」の準備などに充てられました。

座学ではジェイ・スポーツがどのような組織かということをはじめ、プロモーションや編成、マーケティング、営業など、それぞれの分野に対してそれぞれの部署の方にお越しいただき、細かく仕事を説明していただきました。

一方、後半の現場研修では局内のスタジオだけでなく、ラグビートップリーグの中継現場を実際に秩父宮まで行って見学するなど、「生のクオリティ」を追及するスポーツ専門局ならではの慌ただしさを間近で感じることができました。

4. エピソード

今回のインターンシップには、私以外に立教大学から3人、上智から2人の学生が参加していました。

まず驚いたのは、彼らは皆、テレビ業界への就職を目指し、普段から積極的に関連セミナーやテレビ局のバイトを受けるなど、水戸の学生とは次元の違う高い目標と意識を持っていたことです。そのため最初の頃は、豊富な知識と明確なキャリアビジョンに圧倒され、「就職活動時はこんな学生たちを相手にしなければならないのか…」と弱気になる場面もありました。

しかしその後、様々なプログラムをこなしながら

ら課題に取り組むなかで、彼らに決して劣らない「自分の持ち味や強み」にふと気が付く瞬間も出てきました。

例えば、「ジェイ・スポーツのCM制作」の課題では、ジェイ・スポーツがスポーツ専門局として持っている「生放送へのこだわり」をどのように端的かつ分かりやすく伝えるか、ということが私たちのグループの悩み所でした。30秒という短い尺のなかでは「自分たちが何を伝えたいか」だけではなく、「相手に共感してもらえるか」、「違う意味にとられかねない表現は無いかなど」など入念な吟味と無駄の削ぎ落としが必要になります。その点、私は普段から授業やゼミなどで映像制作論を学んだり、実際に制作したりしていたので、率先してグループのCM制作に貢献できました。

またCMの方向性を決めるアイデア出しの際にも、他の学生たちと差を感じることは無かったし、むしろ「自分の方が面白いものを作れる」と自信を持って発言できたと思います。これもゼミで慣れてきたからかもしれませんが、それ以上に、これまで水戸で過ごしながらかつてきた経験してきた全ての出来事が、東京で様々な機会に恵まれながら過ごしてきた学生の経験にも引けをとらないものだったと実感できたからです。メディアという業界を目指すにあたって、地方大学という立場は大きなハンデになると思っていた部分もありましたが、このインターンシップを通して「場所は関係ない。目の前のチャンスとどれだけ向き合える



CM制作…アフレコ作業の様子

か」ということこそ、大切なのだと気付かされました。

5. わかったこと、学んだこと

これまでテレビの仕事として第一にイメージしていた番組製作の部分だけでなく、番組の予算やジェイ・スポーツが放送する番組方針の全てを決める編成、マーチャンダイジングといった1つの企業として運営するために欠かせない収入源の確保を戦略的に練るマーケティングなど、あらゆる仕事のプロが自分の役割をこなしてこそ放送局は成り立っているのだ、という最も根本的な部分を改めて実感することができた1週間でした。

また、自分と同じ目標を持つ学生たちと共に学び、切磋琢磨することで「いまの自分には何が足りないのか」、逆に「自信を持って伸ばしていける部分は何か」ということを客観的に見ることができました。今回でいえば、目標に向けた貪欲さと業界研究不足は私の弱点であり、一方で、経験をもとにした発想力は磨き続けることで武器になりうることに気付くことができました。これは今回のインターンシップのなかでも大きな収穫であったと思います。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは目標となる職場とその仕事を学ぶだけではありません。自分と同じ目標を持つ仲間であり、最終的なライバルでもある学生との差を肌で感じることも大切な目的だと思います。

特にメディアへの就職を目指しているならば、最大のライバルになるのはやはり東京の一流大学に通う学生です。彼らはメディア関連セミナーなど豊富なチャンスに囲まれ、たくさんのOBや就活ノウハウを活用して準備しています。それだけが評価の対象だとは思いませんが、少なくともチャンスをものにしようとする行動力や実績データに裏付けられた自信は、水戸で過ごす私たちには想像を絶しているでしょう。

早い時期からインターンシップを利用して、戦うべき相手を知ることは、彼らへの対策を練る時間を確保できると共に、自分のモチベーション維持にも役立ちます。頑張ってください。

普段意識することのない テレビの裏側を見て

テレビ朝日映像

木幡沙綾子（2年）



1. 参加の動機

私がインターンシップの参加を希望した大きな理由は、社会で働くということについて知りたいと思ったためです。私は現在2年生で、就職というものがどのようなものかぼんやりとしたイメージしか持っていません。アルバイトはしていますが、周りが学生ばかりであるのと社会人しかいないという状況では得られるものの大きさが全く違うと考えました。

また、数ある派遣先の中からテレビ朝日映像を希望した理由としては、将来テレビ業界で働きたいと考えているためです。実際に制作会社の仕事を経験でき、現場の方の声を聴けるといった貴重な体験はインターンシップでないと得られないと思いました。そしてそれによってテレビ業界で働きたいという自分の意志が本当に正しいのかどうかをはっきりしたいと思って希望しました。

2. 派遣先の概要

李珏さんの報告書を参照（181ページ参照）

3. 活動内容

インターンシップ期間中、テレビ朝日では初の試みである「テレビ朝日夏祭り SUMMER STATION」が開催されていました。そこで私は、その夏祭りの宣伝のためのミニ番組を制作するチームに加わり、取材や編集作業に同行させていただきました。

主に最初の1週間は取材につかせていただきました。実際に私も会場内のお客様にインタビューを依頼して、話を聞くという仕事をやらせていただきました。後半の1週間は編集作業の見学でした。撮ってきた資料の良いところを探し、1分に収めるという作業は見ていてとても刺激がありました。また、ナレーション録りの見学もさせていただきました。

4. エピソード

インターンシップ初日から、お客さんへのインタビューを撮るよう指示され、とても戸惑いました。私より数日前にインターンシップ期間が始まっていた村松さんがいらっしゃったので、最初は村松さんについていくことで精一杯でした。また、いざインタビューをしても、カメラマンの方に、「自分がいま何を撮って欲しいのかを伝えないとカメラに映っているものと喋っている人が合わないということが起こってしまう」と注意を受けたりもしました。物を食べているところや、楽しそうにしているところを撮るだけでも様々なことを考える必要があるのだと、インタビューの難しさを知りました。しかし何日か経つにつれて段取りがわかっていき、積極的にお客様に話しかけに行ったり、カメラマンの方に意思を伝えながらインタビューを撮ったりすることができるようになりました。

その後、編集作業を見学している最中、自分の

撮ってきた映像が使われているのに気づいたときはとても嬉しかったです。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップを通して、普段意識したことのないテレビの裏側を見ることができました。私が同行させていただいた番組は1分程度のミニ枠でしたが、その短さの番組を作るためには、1日中取材を行い、何時間もかけ編集作業を行う必要があるのだと知ってとても驚きました。さらに、テロップやナレーション原稿などのちょっとした言い回しにNGが出たりと、短い番組とは言え多くの配慮が必要なのだと知りました。1つの番組を作り上げることがこんなにも大変なのだ実感しましたが、スタッフの方たちはいつも楽しそうに、仕事に誇りを持っているように感じました。

さらに、気遣いの大切さも学びました。人ごみの中でインタビューをするためには周りのお客さんの邪魔にならないようにしなければなりません。しかし同時にカメラマンの方が撮りやすいように場所を確保する必要もあります。そのためにはその条件に合った場所と人を探す必要があるのです。ただ自分がある人を撮りたいからと、周囲のことを考えずに行ってしまうのはだめなのだ学びました。このように、周囲の状況をしっかりと把握することはテレビの世界だけではなく、どんな職種であっても同様のことだと思うので、大きな学びであったと思います。



ディレクターさんと記念撮影

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは社会を学ぶためのとても良い機会だと思います。さらに、茨城大学では色々な職種のインターンシップが用意されており、自分の興味のある分野のインターンシップを経験することで自分の意思をはっきりできると思います。また、どんな仕事に就きたいのか定まっていなくても、インターンシップに参加することは自分にとってとても良い経験になることでしょう。1、2週間という短い期間ではありますがそこで得られるものはとても大きいと思います。派遣先の方に叱られたりすることもあると思いますが、それは当然のことです。自分がさらに成長できる機会だと思って積極的に行動することが大事だと思います。逆に言うと、積極的に行動しなければ得られることは少なくなってしまいます。毎日、少しでも気になることがあれば質問して、それを次に生かすことが大切です。

社会人の方たちの中に入って仕事をするという経験はなかなかできることではありません。インターンシップに参加することに多少の不安やためらいがあっても、興味があるのならばぜひ参加すべきです。終わったあとはとても楽しかったと言えるはずです。



カメラマンさんの手伝いをしている様子

一步踏み出すことの大切さ

テレビ朝日映像 (ViViA)

倉原 隆輔 (2年)



1. 参加の動機

昔からテレビを見るのが好きで、高校のときぐらいからテレビ関係の仕事に興味を持っていました。しかし、具体的にどんな仕事をしているのかというイメージなどはまったく持っておらず、ただぼんやり興味を抱いているだけでした。そこで今回のインターンシップを通して少しでもテレビ業界の仕事を知ることができればと思い、インターンシップに参加することを決意しました。

2. 派遣先の概要

李珪さんの報告書を参照 (181 ページ参照)

3. 活動内容

7月の中旬から8月の下旬までテレビ朝日では「テレ朝夏祭り」というイベントを毎日開催していました。私は今回夏祭り班として、夏祭りに来ているお客さんに取材をしたり、夏祭りのPR特番の制作現場で編集作業の見学をさせていただきました。

4. エピソード

インターンシップ期間の2週間、主に取材と編集作業の見学、ナレーション録の見学をさせていただきました。どれも今までにない体験で、本当に1日1日が刺激的でした。

取材では、実際の夏祭りのPR特番を制作するための素材としてお客様の撮影、取材を行いました。

た。取材の際、事前にお客様に撮影の許可を取ったり、どのような画を撮りたいかをあらかじめ伝えたりしている上司の方の姿が印象的でした。取材一つをとってもよりよいものを作り上げるためのさまざまな工夫が垣間見え、もうこの時点から番組制作は始まっているのだと感じました。

編集作業の見学では、お客様への取材など撮ってきたものを編集するところを見させていただきました。多くの機械が並んだ薄暗い編集部屋でディレクターの指示の下、編集が行われていました。数多くある素材の中からどのカットを選ぶか、どんなテロップ、どんな効果音をつけるかなど視聴者を引き付けるために沢山の工夫が凝らされていました。今回見学させてもらったのは夏祭りPR特番の編集作業で、この番組の実際の放送時間は1分くらいのものでした。しかし、それを作り上げるために何十倍、何百倍といった時間が費やされており、非常に驚かされました。そして、よりよいものを視聴者に届けるため、妥協を許さないプロの方の姿勢にもとても感銘を受けました。

ナレーション録の見学では、編集を終えた映像にアナウンサーや声優の方がナレーションを入れていく作業を見させていただきました。どのタイミングで声を入れるかといったことや声の強弱、発音にわたる細かいところまでプロデューサーやディレクターの指示の下余念なく行われていました。またその指示に瞬時に適応するアナウンサー

や声優さんの姿も目の当たりにし、すごく驚かされました。皆さんが自分の仕事に対して誇りをもって1つ1つの作業に妥協せず望む姿が強く強く印象に残りました。

5. わかったこと、学んだこと

私は今回のインターンシップを通して、一つの番組が本当に多くの人の力によって作り上げられているのだということを強く感じました。今まで自分自身テレビはよく見る方でしたが、表に出ている芸能人やアナウンサーに注目しており、裏で番組を作り上げている多くのスタッフが存在していることを考えることがありませんでした。しかし、今回取材や編集といった番組制作の現場を見させていただき、プロデューサー、ディレクター、アシスタントディレクター、技術の方など本当に多くの人たちによって番組が作られていることを実感しました。私たち視聴者に多くのものを届けてくれるテレビの陰に本当に多くの方の努力が隠されていることを学びました。

そして、もう1つ現場の厳しさというものも知ることができました。テレビの制作現場というと芸能人がいるなど何となく華やかなイメージを抱いていました。しかし、上司の方の話の中で、何日も家に帰れない日もあるという話を聞きました。

実際に、このインターンシップ期間も上司の方が家に帰れていなかったり、色んなところに動き回っていたりと現場の過酷さや仕事に対する執念のようなものを間近で見させていただきました。このような現場の厳しさを見ることができたのもすごく貴重な体験でした。

6. 後輩へのアドバイス

このインターンシップに参加しようかどうか最初はすごく迷っていました。場所が東京ということもあり、宿代など金銭面での不安も多くありました。しかし、行ってみたら新しい何かが掴めるかもしれないと勇気をもって一步踏み出すことにしました。最初は不安だらけでしたが、本当に知らない世界が目の前に広がっており1日1日がと

ても新鮮でした。お金には代えられないとても濃い2週間を過ごすことができましたと思います。また今回インターンシップに参加したことで、この業界への興味がより一層強くなりました。

もし興味のある職業があれば、インターンシップに参加することでさまざまな気づきが生まれると思います。迷っているなら是非勇気をもって一步踏み出して欲しいと思います。きっとかけがえない経験をすることができるはずです。



テレ朝夏祭りの様子



テレビ制作現場の 酸い、甘い

テレビ朝日映像 (ViViA)

村松 栞 (3年)



1. 参加の動機

私は3年でありながら、就職するという事について、真剣に考えたことはありませんでした。漠然とテレビ番組を作る仕事に就きたいという思いはあったものの、就職について正面から向き合うことに億劫さを感じていたのです。しかし、仕事をするということについて考えることの無いまま就職活動を始めてしまうことに、危機感もありました。テレビ制作の仕事に夢だけを持ち、実情も知らずに職についてしまえば、仕事も長続きしないことは明白です。

そこで、今回のインターンシップで仕事をするということの現実を知り、厳しさややりがいを少しでも感じる事ができればと思い、参加に至りました。

2. 派遣先の概要

李珏さんの報告書を参照 (181ページ参照)

3. 活動内容

この夏、テレビ朝日では六本木ヒルズ全域を舞台とした初の大型イベント「テレビ朝日・六本木ヒルズ 夏祭り SUMMER STATION」が開催されていました。今回のインターンシップの前半では、夏祭りの模様を撮影し、来場客へのインタビューや限定商品の物撮りなどを行う取材班に同行させていただきました。私はお客様の導線を確認したり、実際にインタビューを行ったりしまし



照明を手伝っている様子

た。

そして後半には、前半で撮影した映像やCSテレ朝チャンネルのPR映像などが編集されていく様子を見学させていただきました。ナレーションを録音する現場を見せていただいたり、実際に簡単な編集作業を体験したりしました。

4. エピソード

夏祭りの取材では、来場客にインタビューをする場面が何度もありました。まずは撮影許可を取るところから始まるのですが、これが意外と難しく、断られることの連続でした。初めは断られるごとに落胆し、心が折れそうになっていました。しかし、ディレクターの方のやり方を見たりアドバイスをいただいたりすることで、徐々に上手く交渉できるようになっていきました。そして気が付けば、断られても何も感じない心を持ち合わせ

るまでに至っていました。

交渉が成立するとインタビューに移れるのですが、どうすれば撮りたいコメントを引き出せるのか、ということを考えながら質問をすることの難しさに直面しました。相手の反応を予想して、声色や表情にも気を遣いながら質問をするというのは、相当なエネルギーが必要なのだと身を持って感じることができました。

また編集作業の体験では、30秒のPR映像の15秒バージョンを作るため、映像をつなぎ直したり、新たにナレーションを考えたりしました。ナレーションを考える作業は、15秒で必要事項を伝えつつ人を惹きつけなくてはならないので、映像の長さに反して多くの時間を要しました。自分の中では上手くできたと思うものも、言い回しの1つ1つについて指摘をされてしまうのです。細かい指摘に思わず驚いてしまいましたが、不特定多数の人に情報を発信する立場の重さを実感することにもなりました。

そして最も辛い思いをしたのは、かき氷の物撮りをした時のことです。十数種類ものかき氷を連続で撮影したのですが、次々とかき氷が運ばれてくるため、撮影が済んだかき氷を速やかに食べなくてはなりません。今年、知覚過敏デビューを果たした私にとっては、かき氷を素早く食べるという作業はまさに苦行でした。撮影をスムーズに行うために全力で動くADの方の気持ちを少しでも体験することができたので、今となっては良い思い出です。

5. わかったこと、学んだこと

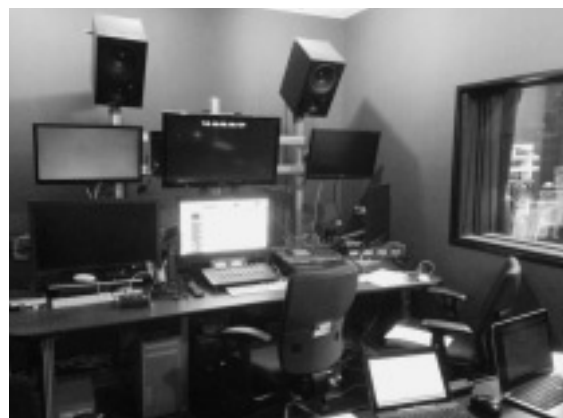
今回のインターンシップでは、さまざまなプロフェッショナルの方の仕事の間近で見ることができました。プロデューサー、ディレクター、カメラマン、編集マン、ミキサー、アナウンサー…。たった1分間の番組であっても、これだけ多くの方が多くの時間を費やして、身を削って作り上げているのだということを目の当たりにしました。1人でも手をあげれば、他のすべての人に迷惑をかけてしまいます。逆に1人でも良い仕事をす

れば、他のすべての人のモチベーションを上げることになるのです。このように番組制作はまさにチームプレーのため、良いものを作りたければ、プロ同士で確かな信頼関係を築き意思疎通をおこなう必要が有ります。今回は特に、ディレクターの方が技術さんとの雰囲気づくりにも気を配っている場面を何度も見受けました。

また、プロというのは、ずば抜けた技術を持ち合わせているというだけではありません。周到に準備をおこない、細部にまで気を遣い、良いものを作り上げるために一切妥協をしない…。私が今回見てきた方々は、皆当たり前のようにこれらのことを行っていました。これらのことは私たちでも意識すれば出来ないことではありません。学生のうちから留意して、意識だけでも備えておくべきだと感じました。

6. 後輩へのアドバイス

私が最も後悔していることは、質問することを遠慮していたことです。企業の方が忙しそうだからといって質問を自粛してしまうと、分からないことが分からないまま、浮かんだ質問さえも忘れてしまいます。インターンシップはとても貴重で贅沢な機会ですので、「今は忙しいからやめてくれ」と言われるまで、恐れずに質問してみてください。少なくともテレビ朝日映像の皆さんは「分からないことを放置されるよりは質問してくれた方がずっと良い」と仰っていたので、きっと大丈夫です！



MA室の様子

刺激を受けた2週間

テレビ朝日映像 (ViViA)

リ 李 カク 瑠 (3年)



1. 参加の動機

今回、私はインターンシップに参加した理由は2つあります。

1つ目は、そもそも、卒業後日本のメディア業界に就職するつもりだからです。でも、今までの身分はずっと学生で、仕事場及び社会人に対するイメージはあくまでも表面的で、あまり参考になりませんでした。これから就職活動の事前準備及び参考として、是非今回のインターンシップに参加したいと思いました。

2つ目はメディア界でも新聞、出版、広告、映像など、さまざまなジャンルがあります。映像会社は第一志望ですが、映像会社について全然わからないので不安でした。それゆえ、実際に番組制作現場で2週間働けることが私にとって、非常に貴重な体験だと思い、参加を決めました。

以上が、私がインターンシップに希望した動機です。

2. 派遣先の概要

テレビ朝日映像株式会社の通称はViViAです。テレビ朝日の関連会社で、主にテレビ朝日テレビ朝日系列で放送されるドキュメント、報道番組などの制作を手掛けていますが、近年は他局の案件も含めたドラマ、バラエティ制作にも事業を拡大しています。また、テレビ朝日系列で平日に放送されている長寿トーク番組である『徹子の部屋』もViViAで制作されています。

3. 活動内容

今回、私がお世話になったのはテレビ朝日系列で毎週の月～金曜の12:00～12:30に放送されている『徹子の部屋』というトーク番組です。主にADの仕事をお手伝いしました。また、プロデューサー、ディレクター、ADなどのスタッフ全員が出席する毎週金曜に行う収録前の事前会議にも参加させていただきました。そして、2週間計12本の収録を現場で見学し、編集作業にも付きあわせていただきました。

4. エピソード

今回のインターンシップはなんとといっても計12本の『徹子の部屋』の現場収録を見学させていただけたことが一番魅力だと思います。テレビで見た番組はカメラマン、美術さん、照明、音声、道具、ディレクター、プロデューサー、ADがどのようにお互いに協力し、完成するか、現場で見ないと分かりません。

8月5日、つまり私のインターンシップの3日目



スタジオ



公開収録の様子

に『徹子の部屋』の公開収録を迎えました。今回の公開収録は初めてテレ朝のアトリウムで行い、しかも前回の公開収録からもう6年経ったそうです。非常に緊張感にあふれる日でした。公開収録の日に、ちょうどテレビ朝日の夏祭りに当たり、アトリウムにも一般観覧客がたくさんいて、とても混んでいる状態でした。一般観覧客の混乱、申し込んでいただいた観覧客の出席状況などの不安を抱いて、スタッフ全員が緊張していました。

その日、観客誘導の仕事を任せていただきました。初めての観客誘導、しかも日本のこんな重要な収録現場でやるのはとても不安でした。「『徹子の部屋』公開収録はこちら」という看板を掲げてアトリウムおよび外で回るとき、申し込んでいる観覧客を受付に連れていってあげたり、一般観客に尋ねられることも何回もありました。自分も最初の緊張から、だんだん対応できるようになりました。60名の観客も収録が始まる前に全員揃いました。その時、自分もスタッフの一員として役に立ったと実感しました。公開収録も予定通りに完璧に終わりました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップを通し、番組制作の裏側のことが実際に体験できただけでなく、社会人として欠かせない仕事に対する態度も学びました。

2週間、殆どの時間はADの方の仕事をお手伝いしました。ADの仕事と言えば、基本的にはディレクターのアシスタントですが、それは何も考えず、ただ指示に従うわけではなく、番組全体のケ

ア、目配せが必要になります。頼まれたことをただするわけではなく、自分のやり方によって何が変わるかを常に考えなければなりません。また、今回のインターンシップを通して、ADの方の細かいところに常に注目している言動は私に改めて「勝負の神様は細部に宿る」という言葉の意味を味わわせてくれました。

プロデューサーとディレクターはみんなADの時期を経験してから、今の地位にたどり着いています。会議で自分の企画を述べるときの自信もADの方の仕事をすべてやってきて、最も根本的なことをすべて把握できていることの表れでしょう。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップの短い期間で、仕事のスキルを身につけるのは難しいかもしれませんが、実際に現場に行き、この目で見、この身で感じたことは嘘をつきません。それもこれからの目標になり、そしてその目標を目指して頑張る原動力になると思います。

インターンシップへの参加は決して簡単に決められることではありません。事前に申請書の提出、研修会の出席、そしてインターンシップ期間の住まいの探しなど様々なことをやらなければなりません。しかし、インターンシップに参加した人はみんな「参加できて、良かった！」という感想をお持ちです。だから、皆さんぜひインターンシップに参加してください。



スタジオの飾り物



技打ちの様子

「本」を売ること、働くこと

株式会社 主婦の友社

今野 有香（2年）



1. 参加の動機

インターンシップという制度があるのは大学入学時から知っていたものの、実際に参加してみようと思ったのは大学2年になってからでした。

インターンシップへの参加は、実際に仕事の現場を肌で感じることで「働く」ということがどのようなものであるかを感じたいと思ったからです。この経験から、自分に足りない能力や適性などを感じればと思ったのも参加動機の1つです。

また、主婦の友社へのインターンシップを希望したのは、主に2つの理由があります。1つ目に出版社での仕事に興味があったということ、2つ目に情報の流れに興味があったということです。

主婦の友社でのインターンシップは販売部広報宣伝課への配属になるということで、出版社での業務を間近で見ること、そして出版社から書店、読者へと流れていく情報の流れを理解したいと思いました。

2. 派遣先の概要

主婦の友社は、ファッション・美容・健康のほか育児・料理など、幅広い層の女性をターゲットにした書籍を中心に発売している出版社です。

私が派遣されたのは販売部広報宣伝課という部署です。広報宣伝課とは、広報と宣伝という2つの異なる業務を行う部署です。「広報」では、他メディアとの関係を作りながら、取材を受ける機会を作っていくもの。「宣伝」では、メディアの広告

枠を扱う広告代理店や制作会社などと、様々な広告物を実際に作っていくのが基本的な仕事です。他部署、他会社との関わりも多いというのも広報宣伝課の特徴の1つです。

3. 活動内容

毎日の業務としては、デスクワークが中心で、電話対応やパソコンを使用するものが多かったです。また、朝日新聞・読売新聞に掲載されている書籍広告を調査したのち、その後効果検証を行いました。効果検証とは、広告が掲載された前後の売上変化を調べるというものです。

インターンシップ期間中には、女性雑誌「Ray」の握手会が催されました。そのため、イベント前には資料配送作業や打ち合わせへの立ち会いなどをさせていただく機会がありました。イベント当日は、マスコミ受付を担当し、普段知ることのないイベントの裏側をみることができました。



（雑誌「Ray」の握手会、囲み取材の様子）

また、他社の編集部へ電話がけを行い、必要な情報を教えてもらうという作業も行いました。

4. エピソード

インターンシップ初日から、電話対応を任されたのですが、言葉遣い一つをとっても満足に行うことができませんでした。普段電話をかけることはありましたが、受けることはほとんどなかったからです。緊張の影響から、会社名を聞き間違えることもありましたが、周りの方から指導していただき、また、周りの方の電話対応の様子を見て学ぶことで、最終日には問題なく電話対応を行うことができたように感じます。最終日には、他会社の編集部へ電話がけをする仕事を任されたのですが、1週間の電話対応のおかげで問題なく必要な情報をえることができました。

また、期間中に販売部の数人の方との飲み会へ参加させていただいたのですが、他部署の方とお話をするのできる機会をいただき、様々なお話をうかがうことができました。会社の方の一人のお話では、技能や知識は働いてから学ぶことができるので、大学生のうちにコミュニケーション能力や飲み会の席での気遣い、普段の態度などを意識しておくことが必要だということでした。私は大学生のうちに知識や能力を高める必要があると思っていたので、そういった生活面を重視するというのは意外でした。

5. わかったこと、学んだこと

インターンシップ参加の前は、出版社という編集のイメージが強く、広報宣伝課が具体的にどのようなものを扱い、どのようにアプローチしているかということがわかりませんでした。しかし、インターンシップに参加したことで広報宣伝課での業務はメディア対応や宣伝活動、またポスターやポップ制作などの業務も行っており、多岐に渡ることを知ることができました。関わらせて

いただいた業務は、広報宣伝課の業務のほんの一部でありましたが、すべて「本を売る」ために必要な業務であったように感じます。

また、働いている会社の方々の姿を間近で見たことで、「働く」ということがどのようなものであるかを理解することができました。広報宣伝課だけでなく、会社全体が「本を多く売る」ということを意識して仕事を行っており、各部署が「個」として働きながらも1本の信念で繋がっているのだということを感じることができました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに参加することで、本当に多くのことを学ぶことができました。そのため、もし迷っているのであればやるべきだと思います。

私はインターンシップをすることで視野も広がり、また自分を理解することができるようになりました。社会には様々な人がいて、自分はどうな人間で、どういうことができ、できないのか。短い期間ではありますが、多くのことを学ぶことができると思います。予想外に大変なこともあります。そこから得られることは大きいです。

また、自分の興味のある職場を選ぶことで、その実態を見ることができ、今後の進路選択に良い影響をもたらすと思います。

学校やサークル、バイトなど限られた範囲での活動だけでなく、インターンシップという機会を活用し、今まで知ることのなかった社会に出ることで、見えてくるものがたくさんあるはずです。

広域のインターンシップは自宅外から通うことがあるので、その際は宿泊先を派遣先からなるべく近いところを選ぶべきです。慣れない環境で慣れない仕事をするので思っている以上に疲れを感じるからです。また、通勤・帰宅もラッシュにかかるので電車を利用する場合は覚悟しておいた方が良いでしょう。

当たり前を作る仕事

東京サウンドプロダクション

三好由莉子（3年）



1. 参加の動機

平成26年3月、ゼミで行われたメディア見学会に参加したのがきっかけです。それまで音響効果という仕事について、あまりイメージも沸かず興味もなかったのですが、番組に次々と効果音やBGMを付けていくその姿を見て、「映像だけで番組が作られているわけではない。音があってこそ1つの作品が完成するのだ。」と感動を覚えました。また、その見学会では音のプロの仕事がどんなものかも簡単に教えていただきました。作業用のパソコンには街中の音や人の足音、花火や川の音など、数え切れないほどの音が収録してあり、その音は自ら足を運んで撮ってきているのだといいます。中には電車の音を聞くだけでその型番がわかるという人もいて驚きました。

家に帰って何気なくテレビ番組を見てみると、BGMや効果音がない時間がほとんどなく、「これがあの人たちの仕事なのか。」と改めて実感しました。と同時に、どんな風に音を選び、編集を行っていくのかが気になり、自分の手でやってみたいと感じるようになったため志望しました。

2. 派遣先の概要

東京サウンドプロダクションは主にテレビ番組の企画・制作やVP企画・制作、ビデオ撮影・編集・MA、音響効果・選曲、音楽制作などを行っています。社員数は216名で、その約78%が男性です。主要取引先にはNHK、民放各局、電通テッ

クなどがあります。

3. 活動内容

今回は3日間の実施でした。

1日目は音付けの作業を体験させていただきました。選曲から、どの部分をカットして繋げるか、といった音の編集作業もやりました。

2日目は実際にMA室に入り、立ち上げからナレ撮り、MIX作業までを見学させていただきました。ナレーターには近藤サトさんが起用されており、ナレーターという仕事も間近で見ることができました。夜10時までの長丁場でしたが、大変貴重な経験をさせていただきました。

3日目は著作権について座学で勉強したあと、J-WIDのホームページを利用し、会社にある音源の著作権情報の確認作業をやらせていただきました。この作業を通して、現場で働く人を支える立場の仕事も体験することができました。

4. エピソード

今回インターンシップをするのが初めてで、1人ということもあって慣れるまでに時間がかかりました。担当の方々が1つ1つ丁寧に教えてくださったのですが、自分から積極的に質問をすることがあまりできませんでした。もっと貪欲になればよかった、というのが正直なところです。

また、1回ゼミで行ったことがあるとはいえ場所が曖昧だったので、今回は前日に下見に行きま

した。しかし、同じ会社でもいくつかビルを持っていたので、下見の段階で間違った場所へ行ってしまいました。「ここであってるのかな？」という疑問を残していましたが、夜も遅かったので宿泊先へ帰りました。すると当日、正確な場所がわからないまま、下見後に電話して聞いた道順を頼りにビルを探しながら受入先まで向かうことになってしまいました。そもそも辿り着けるか不安で、初日という緊張感もあり、まったく気が休まりませんでした。下見をするのであれば、不安要素を確実に消せるものにすべきだと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

テレビ番組や映画は決して映像だけで成り立っているのではない、ということを確認しました。これは当たり前のように、大概の人はあまり意識していないことだろうと思います。特にテレビ番組には“音”は必要不可欠なものなのだと感じました。例えばニュース番組。あまり音が流れていないようなイメージかと思いますが、意識してみると、ずっとバックには音楽が流れています。こういった発見は、私もインターンシップを通して気づくようになりました。あって当たり前の存在だからこそ、聴く人に違和感を与えてはいけません。音響効果とはそんな繊細な仕事なのだと思います。

また、2日目のMA作業の見学を通して、1つの番組に音を付けるのには大勢の人間が関わっていることを知りました。MA室内だけでも、音効、ミキサー、テレビ局関係者、ナレーターと、違う



MA室で立ち上げ作業を見学

立場の人間がみんなで1つの番組を作り上げていく姿を間近で見ることができました。ナレ撮りをした後も、「ここはああした方がいい」「ここは数秒早くナレが入った方がいい」などとみんなで意見を出し合い、1つの作品を作り上げていました。だんだんと様々な音が付き、番組を完成していく一連の工程を見て、図々しくも一緒に番組を作っている気分になりました。しかし、1日を共に過ごし、一緒に出前の蕎麦を食べられたことは、私にとって非常に有意義な時間になりました。

インターンシップ期間中で最も感動したのは、最終日の帰る直前に見させていただいたその場で音を作って付ける姿です。ある再現VTRを作っていた人が、登場人物が免許を取り出す音にうまく当てはまるものがないと、その場で映像を見つつ自分の免許証を取り出す動作を行い、その音を収録していました。収録した音を映像に当てはめると、驚くほど映像と一致しており、思わず「おー！」と声が出てしまいました。これがプロの仕事なのだと、最後の最後まで肌で感じさせられました。

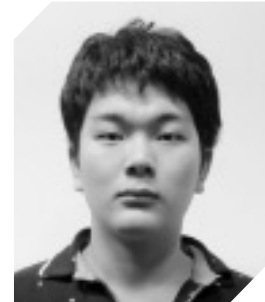
6. 後輩へのアドバイス

まず、今回の受入先は例年受け入れていただいている会社ではなく、自分から村上先生にお願いして先方と交渉をしていただき、承諾して下さったところでした。これからインターンシップを考える人で、「この場所行きたいんだけど受入先に入っていない」と思ったら、まずは先生に相談してみてください。そうすれば、結果はどうかあれ、先生方は協力してくれます。せっかくの機会なので、そこは積極的に自分の行きたいところをアピールしていくべきだと思います。また、せっかくの機会なのでたくさんのことを吸収してほしいと思います。実際に行ってみると、良くも悪くも今まで思っていたこととは違う面を見ることができます。やっぱりこの仕事に就きたいと思えば最高ですし、なんか違うと思えたなら、それはそれで行った価値があります。まずは自分の肌で感じてみるのが第一歩です。

「百聞は一見に如かず」 がわかる

ATP タキオンジャパン

荒 大（2年）



1. 参加の動機

様々なメディアが発達してなお、テレビはメディアの主役に位置しており、そのテレビの現場において、最前線に位置していて、同時に最も基礎の部分にも位置するとも言える制作会社の業務に対して、ほんの一瞬でも実際に一員としてその現場や、その空気に触れたり感じたりすることができたらと、私は考えました。

決して長くはない、限られた大学生活の中で、まだ2年生でありながらも、制作会社へのインターンシップのチャンスが得られるのであるならば、是非とも参加したいとも、考えるようになったのです。そんな中で今回のインターンシップ参加への機会が舞い込んだことで、私は参加を強く志望するに至ったのです。

2. 派遣先の概要

ATP・全日本テレビ番組製作者連盟に所属する制作会社のなかから、タキオンジャパンでのインターンシップを志望しました。タキオンジャパンは、2001年に、元はタキシーズと言う社名で創立されたテレビ番組や映画の制作会社で、これまでに、プロ野球で当時、阪神タイガースや北京オリンピック日本代表の監督を勤めていた星野仙一さんや、俳優の仲代達矢さん、シンガーソングライターの加藤登紀子さんに密着したドキュメンタリー番組や、原爆被爆者やチェルノブイリ原発事故の被災者の方への取材を元にした記録映画な



スクリプト作業の様子

ど、ドキュメンタリー性の強い作品を多く制作しています。今回の派遣期間では、加藤さんのデビュー50周年を記念するDVDの制作が行われていた他、東日本大震災、そして東京電力福島第一原発事故発生後の福島県の姿を追う記録映画、「フクシマ2011」の続編に当たる、「フクシマ2014」を始めとして、いくつかの映画の制作に向けた準備などが行われていました。

3. 活動内容

私が派遣されていた期間の中での業務は、加藤登紀子さんの50周年DVDのなかで流されるコンサート映像で挿入されることになっていた歌詞テロップの校閲作業や、長崎への原爆投下後、アメリカで余生を過ごす在外被爆者の方々へのインタビュービデオのスクリプト（書き起こし）作業、

また、ルポライターの故・山際淳司さんが、本名の犬塚進名義として担当した、週刊サンケイのコラム、「現代人劇場」の全211本分のリサーチやその資料収集などを担当しました。この他に、来年、2015年が終戦70年を迎えるにあたり、同時にデビュー50年を迎える加藤さんと共に題材とする記念番組の企画書を、フジテレビ「ザ・ノンフィクション」へと提出するに当たり、その構成を担当させていただきました。

4. エピソード

本来であれば、派遣期間の最終盤には福島へ泊まり込みでのロケがスケジュールリングされていたのですが、同行していただくことになっていた写真家の方が体調を崩されたために、中止になってしまいました。しかし、その代替の日程のなかで、俳優・仲代達矢さんが主宰する劇団、無名塾の新作舞台の稽古初日の模様を見学させていただいたことが、何よりも心に残りました。初日と言うこともあり、台本の読み合わせだけで終わってしまうのではと思われていた所、かつて演じてきた役柄とクロスオーバーする部分が多かったという仲代さんが、次々と声色を操りながら演技をして見せ、それに呼応するかのようになり、他の俳優さんも力強い演技を見せるようになり、プロの俳優さんたちによる真剣な台本読みは、このままの形で朗読劇にできてしまうのではないかとすら思われる、迫真の光景でした。

5. わかったこと、学んだこと

何よりも、制作会社という1つの業種のなかで業務を経験できたことがプラスになったと考えています。大学のなかで同じサークルに所属していた諸先輩方のなかには、放送業界や制作会社への就職を果たした人も数多くいらっしゃったのですが、そういった人たちから見聞きするような情報だけでは、完全にその業界のことを理解するということは到底できないですし、ならば実際に経験

してみようという気持ちから、志望し、経験させていただいたインターンシップでしたが、まさに、百聞は一見にしかずとはこのことを言うのではないかとすら感じられました。

また、制作会社での業務はイメージに抱いていた仕事よりも、ずっと草の根的な業務もそのなかには含まれていることを、実際に自分の業務として経験できたことも、とても大きな経験であったと思えました。リサーチの過程で新たに入手が必要となった資料を、自分の足で探しに出たり、時にはそれでも資料を見つけることができなかつたりしたこともありました。そうして入手した資料を今度は自分が読み込んで、自分なりの解釈を持ったり、時にはまとめのレポートを書いたり、その繰り返しで綿密なリサーチを行った後に、企画書を実際に作り上げていく業務にも参加させていただき、実際に企画書を仕上げ、私が作った形でそのまま局側に企画の受け渡しを行う旨を告げられた時には、それが局へ実際の企画として通るのか否かという部分ではまだなかったのですが、感無量でした。

6. 後輩へのアドバイス

まずは経験してみることが何よりも重要であると言いたいです。学生の身で社会経験をするには、アルバイトとインターンシップと、2つの手段があると思いますが、アルバイトとして会社の業務に関われる範囲には、あくまで制限がある業種が多い中で、インターンシップにおいては、その会社の持つ多くの業務を一通り経験できるという側面があります。これは短い期間ながらも何にも代えがたい経験であるし、それによって手に入れられる経験値は、何よりもの代価になり得るからです。自分自身とのマッチングを試す意味でも、インターンシップをやってみたいと考えた時点で、まずは挑戦してみる。それぐらいの気概でインターンシップを行うことが重要なのではないかと思います。

市の「顔」として働くということ

静岡市役所 市民文化局 市民生活部
男女参画・市民協働推進課

菅 祐希菜（2年）



1. 参加の動機

私の一番目標としている夢は、大学卒業後、地元の静岡に帰り、静岡市の公務員として働くことです。そのため、公務員の仕事内容を知りたいということはもちろん、2年後、自分が4年生になった際に受験する、公務員試験に挑むにあたり、市役所の内部で職員の一員として働き、自分の目で生の現場を見て、実際に感じることで、「自分は将来ここで働きたい。」というモチベーションにつなげたいと思ったからです。

また、男女参画・市民協働推進課を希望したのは、自分が女性であり、だからこそ女性の立場として分かることや、力になれることがあるのではないかと考えたからです。

2. 派遣先の概要

静岡市役所男女参画・市民協働推進課には三つのグループがあり、それぞれ異なった業務を行っています。

私が今回派遣されたのは男女共同参画係で、男女共同参画に関する講座・講演・教室を開催し、市民に呼びかけたり、男性・女性の双方を対象として男女共同参画に関する苦情や相談を受け付けたり、また静岡市女性会館の運営を行ったりしています。

その他にもNPOやボランティア団体の支援・応援また取り締まりを行う市民協働推進係と、日本に住む外国の方々の生活を助けるための活動を

行う多文化共生係があります。

3. 活動内容

市役所内では他企業に送る書類の封筒の準備、課に届いた書類を係や、担当の方に手渡す仕事、送る書類を地域ごとに分別する仕事、パソコンを使っての簡単なExcel入力を行ったりしました。また、職員の方に役所の内部を案内していただいたりもしました。

また今回のインターンシップでの主な活動場所として市役所のほかに、静岡市女性会館があります。女性会館では、Wordを用いてアンケートの集計を行ったり、図書コーナーでの書架整理を行ったり、キャリアカウンセラーの方に「働く」ということや仕事選びについてのお話をうかがったりしました。

その他一番大きな活動としては、自分の届けたい人に、届けたい内容を伝える企画として、ブックリストの作成を行いました。私は、自分でもまだ公務員という夢は選択肢の1つとしか考えていません。やりたいこと・就きたい仕事もまだ模索中の段階なので、自分と同じ境遇の女子大生に向けて、まずはさまざまな仕事を「知る」ため、そしてやりたい仕事を「見つける」ために読んでほしい本を紹介する本のリストを作りました。

4. エピソード

反省点としては、「なにかできることはありま

すか?」、その一言がもっと積極的に自分の口から言えればよかったなあと思います。自分のやる事が終わってしまったときに、職員の方がそれを悟ってくださり、周りの職員の方に「他に頼みたいことがありますか?」と声をかけてくださることが非常に多かったです。職員の方もお仕事だったのが遠慮してしまっていたのですが、めったにない機会に仕事の体験に行っていたので、もっと積極的に自分から行動していればさらに良かったと振り返ってそう思います。

5. わかったこと、学んだこと

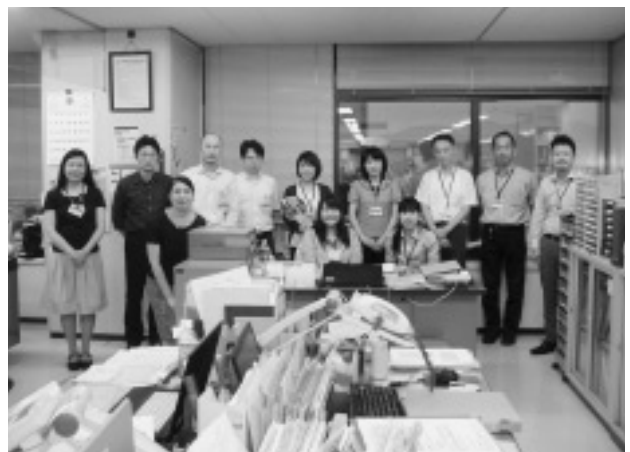
私が最も印象に残ったことは、市の「顔」として、お客様の対応をする職員のみなさんの姿です。インターンシップを体験するにあたって最初に役所の方がおっしゃったことは、お客様を悪い気分させないということだけでなく、良い気持ちで帰っていただけるように、「今日対応してくれた人とても良くやってくれたなあ」、「また頼みたいなあ」と思っていたらいいように仕事をしましょうということでした。実際に職員の方の仕事姿を見ても、一人ひとりの方を丁寧に、また笑顔で接し、お客様に対しての配慮を忘れずに対応していました。市の「顔」として働くみなさんの自分の仕事に対する誇りと、おもてなしの心を学びました。

またインターンシップを通して、広い視野・考え方を持つことの重要性を学びました。静岡市女性会館で働く、キャリアカウンセラーの方は、「仕事はただやりたいというだけでは不十分、なっ何がしたいかこそが大事」だとおっしゃっていました。その話をうかがって、ただ漠然と公務員になりたいというだけでは頑張っていけない、公務員になって自分は何をしたいのか、自分はどう社会に貢献できるかについて考えていかなければならないことに気付かされました。また、公務員にこだわり、自分の将来進む道を狭めてしまうのではなく、自分の将来についてもう一度よく考え、「自分が本当に何をしたいのか」という気持ちを大切に、色々な職業に目を向けていきたいと思うよ

うになりました。

6. 後輩へのアドバイス

「インターンシップって普通は3年生が行くんじゃないの?」と思っている方も多いのではないのでしょうか。いやいや、早ければ早いほどいいと思います。時間やチャンスがあるなら、ぜひ2年生のうちからインターンシップに挑戦してみたいです! 2年生の夏休みというと、学校にも慣れた頃で、ただぼーっと、やることもなく家にいる毎日…時間になったらアルバイトに行く、サークルや遊びに出かけるという刺激のない生活を送り、あっという間に夏休みが終わってしまっていた、という感じになりがちだと思います。せっかく時間があるのに何かしなければもったいないですよ。また3年生の夏休みは卒業論文や就職活動に向けての準備などもあり、気持ち的にも時間的にも、2年生より余裕がないと考えられます。もし3年生でも余裕があったら、再度インターンシップに挑戦すればいいですよ。早め早めから行けば、より多くの企業・団体について知ることができますし、実際に行って仕事を体験したり、雰囲気や味を味わったりしてみれば、実際に就職してしまったあとに、自分が思っていたのと何か違うな…そんなことも少なくなるのではないのでしょうか。就職活動の第一歩として、仕事選びの手段として、ぜひ早めからトライしてみてください!



静岡市役所 男女参画・市民協働推進課のみなさんと

編集の現場を学ぶ

新朝プレス

松本奈津美（2年）



1. 参加の動機

私は以前から出版社に就職を考えています。そこで、インターンシップに参加することにより、なかなか知ることのできない出版社の現場を知り、就職へのビジョンをしっかりと持ってこれからの大学生活、就職活動に取り組みたいと考え、インターンシップに参加しました。また、実家から仕事場に通うとなるとどのくらい時間やコストがかかるのかを体験したいと思い、地元の企業にアプローチしました。

2. 派遣先の概要

新朝プレス社は、地域密着型の情報誌を発行しており、栃木県内のレジャーや食、ブライダルなどのさまざまな情報を発信している会社です。栃木県内の約900チャンネルで栃木県内の旬な情報を提供しています。近年では、雑誌だけではなく、携帯のアプリを活用した情報発信や雑誌などで紹介された商品をインターネット通販で販売するなど時代に合わせた情報発信を行っています。

私がお世話になったのは、編集部でした。編集部では、新朝プレス社で発行される『monmiya』『Re:raku』『oishi』といった雑誌の取材・編集・校正を行っています。

3. 活動内容

私は、新朝プレス社の中の編集部の業務に関わらせて頂きました。私が主に行わせて頂いた業務

は、10月末に発刊される飲食店ガイドブック『oishi』の編集作業でした。飲食店に予め記事の内容を確認する用紙を送らせて頂き、会社に戻ってきた書類を内容変更が必要なものかを確認し、管理表に用紙が戻ってきているかと変更の有無を記載します。管理表に情報を入力した書類は、洋食や和食等の各ジャンルに分けて整理します。返ってきた内容変更有りの書類の中で変更が比較的簡単なもの、例えば、値段や営業時間、定休日の変更などの記事内容の変更をWeb上で行い、変更が終わったら返信書類を記事修正済の書類フォルダの方へ移し、変更した内容に誤りが無いかを確認してもらいます。また、郵送した書類が宛先不明などの理由で帰ってきてしまったところや電話をかけた際に書類が届いていないと言われたところには、住所をもう一度確認し、再送しました。期



日までに、会社に返信がないところには返信をお願いする電話をかける業務をしました。

4. エピソード

インターンシップでは、栃木県内の大学からもインターンシップに来ていた方が4人いて、その方たちとも仲良くなれました。他のインターンシップ生は、私より3, 4日早くインターンシップに入られたようで、飲食店に一度目の確認原稿を送る作業や原稿についての返信がない飲食店への電話かけ作業を既に行っていました。私の場合は、最初は電話がけの作業ではなく、比較的簡単な書類整理の仕事だったので、作業の合間に他のインターンシップ生の作業方法を見たり、聞いたりして予め話掛け作業の効率を良くする方法を学んだり、考えたりすることが出来ました。また、少しわからないことがあった時に他のインターンシップ生に聞いて解決することもできました。1人でインターンシップを行うと考えていたのでとても不安でしたが、同じようにインターンシップを行っている方がいたというのはとても心強いことでした。

飲食店に電話をかけるとき、焦ってしまっていたことが出てこなくなったり、丁寧ない回しで話せなかったりしたことがありました。電話かけを始めた最初は特に作っていただいたマニュアルから少しでも相手の返答が外れてしまうと慌ててしまいました。徐々に慌てておかしな返答をしてしまうことは減りましたが、気を抜くと口癖になってしまっていた「ええと」や「分かりました」が出てしまっていました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップで、単純な作業ほど少しの工夫でより早く効率的に仕事を進められるということを学びました。手間だなと思ったことでも、作業の初めから工夫を取り入れておけば後の作業が格段に効率的に行えるということも学びました。

編集部と言うとデスクワークが中心だというイ

メージありましたが、部署関係なく外に取材等で職員の方が出かけていることが多く、とても活動的な仕事だと言うことを知ることができました。また、外出が多い中でも情報の共有に関しては、朝礼や日報、会話などさまざまな手段でしっかりと行われており、情報の伝達がいかに雑誌を出版するうえで大切であるのかということを知ることができました。同時に何冊もの雑誌の編集に追われている中で、どの仕事を一番優先して行わなければならないのかを常に把握しつつも、その仕事にかかりきりになるのではなく、同時に進められる仕事は進めてしまうことで迅速で効率的に仕事を進めることができるということが印象に残りました。こうした同時に複数の仕事を進めていける能力も社会人には求められるのだということが分かりました。このインターンシップを通じて編集者という仕事により、興味や関心を持ってました。

6. 後輩へのアドバイス

学校指定の派遣先へインターンシップに行く時も同じだと思いますが、自主開拓の場合は特に自分から企業に積極的にアプローチすることが必要です。企業の方は忙しいので、メールなどの返信ができない場合や早くからお願いをしないと受入が難しいこともあります。連絡は電話で取ったほうが確実です。電話をかける場合は、その業種によって時間は変わってくると思いますが、なるべく企業の担当の方が比較的忙しくないと思われる時間に向け、もし忙しそうな場合は自身が確実に出られる時間を伝え、電話がかかってきたら3コール以内に出られるようにすると良いです。

派遣先で少しでも疑問に思ったことは、業務に関係あるなしに関係なく聞くことを勧めします。質問をすることでその企業や仕事のことをより深く知ることにつながりますし、何よりその企業の職員の方とお話する機会につながります。話をすることで分かってくることは多いので、積極的に質問することをおすすめします。

たくさんの人と 触れ合えた2週間

三春町役場 保健福祉課・住民課・総務課
三春町社会福祉協議会

山口 未来（2年）



1. 参加の動機

わたしは将来公務員として働くことに興味を持っています。しかし実際にどのような仕事先でどんな仕事をしているのかについて詳しく知りませんでした。そこで今回インターンシップの存在を知り、実際に体験すればより深い理解が得られるだろうと思い、参加を決心しました。

また、普段のバイトだけでは見ることのできない実際の社会というものを長い夏休みのなかで経験してみたいと思ったのも動機の1つです。

2. 派遣先の概要

三春町は福島県郡山市の北部にある人口1万7,000人ほどの町です。わたしはその三春町の役場にて2週間のインターンシップを体験させていただきました。今回わたしが主にお世話になった保健福祉課は3つのグループに分かれており、1つ目の福祉グループは高齢者支援や障害者支援など、2つ目の健康づくりグループは健診や病気の予防・対策事業など、3つ目の国保医療グループは国民保険や後期高齢者医療制度などを行っています。もちろんこの他にも様々な業務があり、そのなかではグループ以外の人と協力しながら業務にあたることもありました。

また、保健福祉課以外にも各1日ずつですが戸籍業務や窓口業務を行っている住民課住民グループと、三春町役場内の機関ではなく、民間の法人団体ですが高齢者・障害者を包括的に支援してい

る三春町社会福祉協議会にもお世話になりました。自主開拓での参加だったため、連絡や初日の案内などは議会関連の調整や職員研修も行っている総務課庶務グループの方にお世話になりました。

3. 活動内容

10日間のインターンシップでは初日の午前中に町の概要や観光地、施設などの案内をしていただき、それからは主に保健福祉課で活動を行いました。また1日ずつ住民課住民グループと三春町社会福祉協議会でも業務を体験させていただきました。保健福祉課では3つのグループでそれぞれの業務を体験させていただき、子育て支援や高齢者支援の事業・相談会、介護認定の調査、審査会にも同行させていただきました。健診や敬老会にも参加させていただいたので様々な年齢、職業の方とお話することができました。また、敬老会や国民保険の更新の時期だったので、それに関係したデスクワークということで、パンフレットの作成や書類の郵送手続きなどの業務を行いました。

住民課住民グループでは主に窓口業務を体験させていただきました。後ろに職員の方がついてくださっているとはいえ、実際に住民票や戸籍を発行するのはとても緊張しました。

三春町社会福祉協議会では行っている事業の説明や、多機能型支援事務所の見学、高齢者体験などを行いました。特に多機能型支援事務所の見学では2つの事務所をまわり、実情を聞くことがで

きたのが参考になりました。

4. エピソード

敬老会を3日後に控え、多くの方がそのための業務に追われるなか、わたしは配布するパンフレットのホチキス止めをしていたのですが、ついゆっくりと作業をしてしまい、職員の方に「まだまだあるんだからもっとはやくやらないと」と言われました。そのあとには素早く進めるためのアドバイスをいただけたのですが、わたしの勝手な思い込みで業務が遅れるようなことがあってはならないし、もっとまわりを見て、不安なことがあったらきちんとその都度質問することが大切だと思いました。また常に先を見通しながら業務にあたることも必要だと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップを終えて、わたしが今まで抱えていた役場業務のイメージというのは現実とは違うものであったということに気付かされました。それまでは窓口以外はデスクワークのような仕事为主なものかと思っていましたが、実習が始まってみると、保健福祉課内だけでもすべてのメンバーが席に揃っているということはほぼなく、毎日誰かしらは役場外に出て対応にあたっていました。わたしも保健福祉課で実習させていただいた7日間のうち半分以上は外に出る業務を体験させていただきました。業務の内容も実際に住民の方と会って活動するようなものが多く、たくさんの人と触れ合うことができたのはとてもよかったです。幅広い年齢の方とお話させていただく機会があり、その場や相手に応じた言葉遣いをするのは難しく、最初は上手く言葉が出てこないこともありました。緊張しなくていいよ、と優しく声をかけていただき次第に自分から話しかけることができるようになりました。普段はなかなか関わりのないような年齢、職業の方とのコミュニケーションの取り方を学べたのもとてもいい勉強になりました。

6. 後輩へのアドバイス

わたしは2年生でインターンシップに参加しましたが、この時期にやってよかったと思っています。長い夏休みのなかの2週間を実際の社会人の方と過ごせたのは、まだ就職に対して具体的なイメージを持っていないわたしにとってとても貴重な体験となりました。インターンシップは大変で疲れるという印象を持っている人もいるかもしれませんが、それ以上にいい経験を得ることができます。私の場合はただ1日中業務に追われるだけでなく、職員の方と一緒にご飯を食べたり冗談を言ったりして楽しい思い出もできました。

また、候補先のなかに自分の希望する行き先がなかったとしても自主開拓という方法でインターンシップに参加することができます。自分で連絡を取ったり日程を調整したりするのは大変ですが、だからこそ学べることもたくさんあります。もし迷っている人がいるならば思い切って参加してみることをおすすめします。

最後になりましたが保健福祉課、住民課、総務課、社会福祉協議会の皆様、2週間本当にありがとうございました。とても新鮮な経験をさせていただき、あっという間に終わってしまったインターンシップでした。今回の経験をこれからの生活や就職活動などで活かしていけるよう頑張りたいと思います。



いきいき元気塾での実習の様子

テレビの現場の面白さと厳しさ

テレビ岩手

若狭 茉樹（2年）



1. 参加の動機

大学2年生になり、就職を意識する場面も増えてきました。しかし、私は未だに社会に出て働くことに対するイメージがよく掴めずにいました。百聞は一見に如かず。1日でも早い段階で社会に出るとはどういうことかを経験したいと考え、インターンシップに参加しました。

また、私は大学入学当初から、将来はマスコミ企業で働きたいと考えていました。せっかくインターンシップに参加するなら自分が目指す現場をこの目で確かめたい。そう考え、自主開拓の制度を利用して、地元である岩手県のテレビ局にインターンシップをお願いしました。

2. 派遣先の概要

テレビ岩手は、岩手県を対象地域としてテレビ放送を行っている日本テレビ系列のテレビ局です。今年45周年を迎えました。アニメから情報番組に至るまで自社制作の番組を多く持つのも特徴の1つです。社内は様々な部署に分かれていますが、今回私は報道制作局制作部に派遣していただきました。

3. 活動内容

7日間のインターンシップのうち、最初の5日間は主に制作部のディレクターの方に付かせていただき、仕事を見学・体験させていただきました。残り2日間は日本テレビ系列で放送された「24時

間テレビ」と重なり、それに合わせて行われるイベントのお手伝いをさせていただきました。合間にはテレビ岩手が制作する情報番組の収録を見学させていただいたり、報道制作局の他の部署の方にもお話を伺わせていただいたりしました。

編集作業では、テロップやナレーションが加わることでどんどん映像に表情が加わっていきました。自分の考えを映像に反映させることが出来るのは非常に魅力的ですが、その分責任も生まれ、難しさもあるのだろうと感じました。

生放送番組内で、VTRを流すボタンを押す作業を担当させていただくこともありました。たった1つの作業で、しかも周りの方に助けられながらでしたが、直接番組に携われた嬉しさがこみあげてきました。

24時間テレビ関連イベントは社員総出で運営するテレビ岩手最大のイベントということもあり、当日は地元の方が多く訪れていました。地方局ならではの地域密着の魅力を肌で感じられたように思います。

4. エピソード

キー局と地方局の違いとして皆さんが口を揃えて話してくださったのは、経験のスピードです。

制作部には5人のディレクターが在籍し、その下にいくつかの外部企業があります。平均週4本ペースで番組制作に関わり、時には急遽制作を依頼されることもあるので非常に忙しいそうです。

私がインターンシップをさせていただいた期間にも、数週間前にホッケーの大会で優勝した岩手県のとある高校の関連番組の編集作業を行っていました。優勝した日から放送日までは1ヶ月もありませんでした。

また、キー局では役割ごとに担当者が細かく分かれていることが多いのですが、人数に余裕があるわけではない地方局ではそういう訳にもいきません。そこでディレクターが取材依頼から編集に至るまで多くの作業を掛け持ちするのです。私がロケに同行させていただいた時も、ディレクターの方はインタビュアーから照明・カメラの補助まで様々なところに気を配って自ら動き、技術の方とも積極的に意見交換をされている姿が印象的でした。

人数が少なく、担当する役割が多い分、個人にかかる責任も大きくなります。しかしそれをプラスに捉えれば、早いうちからたくさんを経験して自分自身を成長させることが出来るということです。経験のスピードの速さは地方局のディレクターならではの大変さであると同時に、魅力でもあったと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

今回のインターンシップを通して、番組制作の大変さと誇りを持って仕事に取り組むという社会人として大切な姿勢を学ぶことが出来ました。まず、番組制作に関しては、例えば30分の番組でも取材開始から完成に至るまで放送時間の何倍もの時間がかかります。その過程にはディレクターを始めとして多くの人に関わっています。番組は素材となる映像はもちろん、テロップ、BGM、そしてナレーションと言ったいくつもの要素が集まる、つまり多くの人力が集結することによって完成へと繋がることを実際に番組制作の過程を見させていただく中で何度も実感しました。将来、自分がどのような形でも番組制作に関わることが出来たなら、自分の能力を最大限に活かし、より良い番組にする為に必要な人材となれるように精一杯努力したいと考えました。

次に、誇りを持って仕事に取り組む姿勢についてです。何人かの方にどんな人と仕事をしたいかと尋ねた時、皆さん共通していたのが自分の仕事に誇りを持っている人という回答でした。先程も述べた通り、番組は1人では作れません。人と人との協力が必要不可欠だからこそ、その仕事に関わる全ての人が真剣に仕事に取り組まないと良い結果は生まれません。これは職種に関わらず、社会人として働く上で非常に大切なことだと感じました。

24時間テレビ直前の忙しい期間にも関わらず、インターンシップを受け入れてくださったことに本当に感謝しています。色んなお話を聞かせてくださったったり、少しでも多くの仕事を見てもらおうとスケジュールを組んでくださったたり、テレビ岩手で働く皆さんの優しさとそれぞれの仕事に対する誇りを強く感じた7日間でした。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップは社会に出て働くというイメージを掴むこと、更には自分の興味ある業界について学ぶことが出来る良い機会だと思います。実際に現場に入ってみるからこそ分かる厳しさや面白さがあります。それらを知るだけでもインターンシップに参加する意味は十分あると思います。

大学生活は長いように思えて実はあっという間です。インターンシップでの経験はきっと今後の学生生活に活かされてくるので、皆さんにもぜひ参加してもらいたいです。



ロケの様子

憧れから志望先へと 変わる機会

株式会社京都放送

和田 翔太（3年）



1. 参加の動機

就職を考えたとき、多くの人は何を思って企業を選定するのでしょうか。職種か、あるいは賃金かもしれません。他にもさまざまな要因があるだろうと思います。私が最も重要視したことは、「土地」という要素です。どの土地で仕事がしたいのか、そこで何をしたいのか。私にとって、京都という土地は自身が働くための環境がもっとも整った土地だと感じました。町並みや歴史、そこに暮らす人々など、私もその土地を構成する一部となれたらと、強く感じました。現在大学で学ぶメディアの世界は、人に何かを伝えるというとても魅力的な業界だと感じています。私が好きな土地で、好きな仕事に就き、そこに住む人々に好きなことを伝えることができるという仕事をしたいと思い、今回のインターンシップに応募しました。

2. 派遣先の概要

株式会社京都放送は、京都府と滋賀県を放送対象地域としてAM放送を、京都府を放送対象地域としてテレビジョン放送をする特定地上基幹放送事業者です。独立放送局であるため、いわゆるキー局が扱うような全国的な番組ではなく、地元地域に根付いた番組を放送しています。京都という土地柄、伝統や地域性を重んじ、住民との繋がりを意識しており、とても特徴的なテレビ局です。

私が実習した部署は、テレビ制作局制作部という部署で、スポーツ以外の番組を主に制作してい

る部署です。制作番組は多岐に渡り、私が見学させていただいた番組では、京都の老舗料亭を紹介するものや、朝の生放送番組などがありました。その他にも、世界遺産を紹介する番組など、京都らしさを感じる番組が制作されていました。

3. 活動内容

実習中に行った内容は、生放送番組の見学・アシスタント、ロケの見学、スタジオのセッティング補佐等が挙げられます。これらの実習を通し、テレビの仕事というものは、時間との勝負だということ強く感じました。生放送番組やロケの見学では、実際に何かをお手伝いする機会はほとんどなく、担当の方に帯同し、淡々と見学をするということが主でした。その中でも、如何にして番組が作り上げられていくのか、その一端を垣間見ることができたのは、テレビ局を志望する私にとって貴重な財産となりました。

スタジオのセッティングでは、局外に臨時の野外スタジオを作るということで、社員の方々の補佐をさせていただきました。画面に映る映像には、裏で行われている苦労までは反映されません。しかし、こういった仕事が、テレビを楽しむ人々のためになるということを感じました。

4. エピソード

実習先を選定するとき、そして決まったとき、株式会社京都放送というインターンシップ先に不

満は全くありませんでした。それどころか、遠く茨城県で学ぶ私を受け入れていただいたことは、とてもありがたいことだと思っています。しかし、実習期間やその事前学習等、日程の確認をしっかりとしなかったために、前期の半年間はとても大変な生活を送ることになってしまいました。6月と7月の2ヶ月間で、金銭的には10万を超える額をかけ、ほぼ毎週末を京都との往復による移動時間に充てることとなりました。本来であれば、大学での学びを第一に考え、その上でインターンシップに臨まなければならないはずですが。結果として、先生方や両親には、多大な迷惑をかけることになってしまったことが、今回のインターンシップで一番の失敗です。事前のスケジュール管理、金銭的な見積もりをすることで、このような事態を防ぐことはできると思いますので、今後インターンシップを考えている人は、実習期間のことだけを考えるのではなく、事前・事後のことまでしっかり念頭に置くことを意識しておくべきでしょう。

5. わかったこと、学んだこと

私が所属するゼミでは、さまざまな場面で台本を作成します。その際、先生には多くの助言をいただき、プロの仕事というものを教えていただいています。しかし、社会に出たら全く違う形式になり、いま行っている学びは、それほど役に立たないのではないかと感じていました。今回のテレビ局での実習では、ほとんどとっていい程、多くの場面で台本をいただきました。そのどれもが、いつもゼミで作成している台本と同じ形式だったことには驚きました。私が普段学んでいることは、決して大学生向けに作られたものではなく、社会で活躍する方々と同じものだとわかった途端、遠くの世界に思えたテレビ業界が、とても身近なこととして捉えることができました。自分から距離を作り、どうせ高望みだと諦めてしまっていた憧れの仕事は、インターンシップに参加することで手が届く世界に思うことができました。

また、実習を行う前、事前学習というものがあ

りました。大学コンソーシアム京都という団体が一括でインターンシップ受講生を受け持っているため、学生のマナー講座や、社会のルールに関する手解きを行っています。そこで学んだことは、ロジカルにものごとを考えることから、名刺交換の仕方まで、普段の講義では教わることのないようなものばかりでした。私は、敬語や目上の人に対する態度など、自分のマナーに関してそれほど不安を感じることはありませんでした。しかし、この講義を受けた後、いままでの自分が如何に相手に対して失礼な態度であったか痛感しました。書店などにはマナーに関する本が数多く並んでいます。インターンシップを希望する人は、これらのマナーを事前に学習しておくことを強く勧めます。

6. 後輩へのアドバイス

自分が行きたい企業が明確になっている人は、早い段階でその企業がインターンシップを受け入れているのか確認することが重要ではないかと思っています。例えば、テレビ業界を志望しているとしても、A社とB社ではさまざまなことが違うはずですが、労を惜しまず、必ず自分自身の手で調べるところから頑張ることができれば、充実したインターンシップとなるでしょう。

ゼミの先生か、あるいは信用している先生でも構いませんが、迷っていることはすぐに相談するべきだと思います。自分の考えでは、導き出せる答えに限度があります。また、固まった物の見方は、人のアドバイスで案外簡単に変わるものです。今回私は、所属するゼミの先生にさまざまなアドバイスをいただき、インターンシップに参加することを後押ししていただきました。新しいことを行うときは、誰しも不安になります。そんなときに、背中を押してくれる人がいれば、少し気持ちが楽になると思いませんか。迷っているくらいなら行動する。ありふれた言葉ですが、行動しないで後悔するよりは、行動して後悔した方が何倍も良いものです。これからインターンシップを志望する人は、ぜひ積極的に行動して、自身の将来に役立ててください。

産業からより良い県へ

栃木県庁 産業労働観光部 産業政策課

高須 瞭汰（3年）



1. 参加の動機

私の現在の希望進路は地元の栃木県での公務員の仕事につくことです。そのなかでも県庁の職員になることは現在目標にしている職であり、そこでインターンシップという機会を通じて、なかなか経験することのできない実際の職場というものを自分の目で見て体験することで、その経験を自分自身の現実の課題解決の力の成長に生かしたいと思ったため、志望させていただきました。実際に仕事をさせていただく中で、仕事や課題を解決して、その経験を大切に、実際に自分が採用試験を受ける時までの努力の糧にしたいと考えています。

2. 派遣先の概要

私がお世話になった栃木県庁の産業労働観光部の産業政策課は県の将来像として、「ものづくり産業、観光産業の発展による県経済の牽引、また、その波及効果により第一次産業から第三次産業まで幅広く活性化し、厚みがあり、相互に関連の強い産業構造の実現、雇用の安定化」といったことを掲げています。そしてその実現のために栃木の産業を取り巻く社会経済情勢の変化に柔軟に対応して、栃木の強みである、優位な立地、インフラ、ものづくりを支える産業集積、豊かな自然豊富な地域資源といったものを武器に産業の面から栃木県を盛り上げていくといった活動をしています。

3. 活動内容

1日目は県庁の内部構造のお話や栃木県のような特色について説明を受けた後、部長との面談、部署内での挨拶を経て、産業労働観光部の取組についての説明をうけ、文書作成の実務についてのレクチャーを受けて終了しました。2日目は、産業政策課企業立地班に同行させていただき、午前中はサントリー様の森工場への訪問をして、グローバルな視野をもつサントリーという大企業の事務長から、生産状況や栃木県に工場をおくメリット、栃木県へ望むこと等の貴重なお話をお伺いしました。そしてそのまま午後は小山市役所へ訪問、経済部工業振興課の方々に、栃木の空いている産業団地への企業誘致にむけての具体的な取り組みなどのお話をお伺いして終了しました。3日目は産業政策課「フードバレー栃木チーム」に同行させていただき、午前中は食品産業に関わるフードバレー栃木という計画について栃木の食のつよみという観点から詳しい説明を受けたあとに、フードバレー栃木協議会会員名簿連絡先の照合という事務的な仕事を行わせていただきました。そして午後は関連する講習会の会場設営、受付を行ってから、先輩方との交流会として一対一に近い形で、様々な課の方にお話をお伺いしたり、質問したりといった充実した時間をいただくことができました。4日目は栃木県に本社を置きながら、海外でも活躍している中小企業のアークテック株式会社を訪問し、事業の概要や景況、要

望といったお話を伺いました。残った時間は実習日誌、報告書を作成し、最終日にそれらを使って5分程度の報告会に出席し、実習が終了しました。

4. エピソード

私が最も反省したことは、4日目の企業訪問の際、向かっている車の中でうとうととしてしまったことです。慣れない早起きと環境のせいで疲れていたとはいえ、職員の方々に大変失礼だったと思います。実習期間中は十分な睡眠を取り、常に緊張感を持って臨むことが必要だと感じました。

また、私は実習3日目が終わった後に歓迎会を開いていただきました。非常に楽しく、また職員の方々に気軽に様々なことを質問できるよい機会だったのですが、そういった中でも礼儀と節度を心がけることは大切だと感じました。

5. わかったこと、学んだこと

私がまず感じたことは現代での良い県づくりは難しいということです。今回は産業政策課ということで、栃木県に企業を誘致してそこから発展を図ったり、今ある企業をできるだけ長く留めたりといった活動を主に見てきたのですが、様々な他の県も同じような活動をしているため、激しい競争の中、いかに企業を呼びこむかといったことを常に考えさせられました。また企業を呼び込んでも、それが県の雇用等に繋がらなければならないので、新規採用に対して補助金を出す等の対策をとっているようでした。栃木の良い点をいかに広め、いかに栃木県を良くするかという広い視点を持つことが大切だと意識させられました。

私は公務員になりたいという気持ちはあったのですが、一方で行政職の仕事に関して曖昧な知識しか持っていませんでした。しかし、5日間の実習の中で様々な所に行きまわってもらいながら色々な方のお話を伺ったり、実際に書類や資料を作成させていただいたりして、具体的な県庁の仕事の

内容や仕事のやりがい、喜び、苦勞といった現場の様子を見聞きさせていただくことが出来ました。毎日の実習のそれぞれの内容がインターンシップという機会ならではの貴重な経験で、改めて私にとっての目標である県庁職をみることで、そこに向かって努力する意欲を高めてくれました。

短い期間ではありましたが、現実としての「働く」イメージが以前より明確にできるようになりました。

6. 後輩へのアドバイス

インターンシップに興味がある方や気になっている仕事がある方にはぜひとも参加をお勧めします。インターンシップでは普段の生活では味わえない緊張感や経験を得ることが出来ます。将来が漠然としている時に良い道標になってくれるかもしれません。夏休みは約2ヶ月と長いので、そのうちの少しを使って実習経験を得ることはより夏休みを充実させてくれるはずです。

また実習中は前もって関連する様々な知識を調べておいて、自分の考えを積極的に発言していくべきと考えます。それによって理解が深まったり、新しい発見をしたりすることができるかもしれません。

最後になりますが、産業政策課の皆様、本当に世話になりました。他にも仕事がある中、声をかけてくださり、質問にも快く答えてくださったこととても嬉しかったです。本当に貴重な経験をさせていただくことが出来ました。改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。



**平成 26 年度インターンシップ
アンケート結果について**

今年度のインターンシップでは、インターンシップ（水戸近郊）が57名、インターンシップ（広域）が35名参加しました。参加者の内、水戸近郊48名、広域32名から得られたアンケート結果をまとめ、掲載しました。なお、同じような回答はまとめ、（ ）内にその件数を示しました。また「特になし」といった回答や、一項目につき複数の回答が見られたため、7)～13)については人数と回答数が一致していない場合があります。

近郊

1) 人文学部のインターンシップ制度について初めて知ったのはいつ頃ですか。

- ・入学する前 (3)
- ・1年生のとき (10)
- ・2年生のとき (27)
- ・3年生のとき (1)
- ・不明 (7)

2) インターンシップに応募しようと思ったのはいつ頃ですか。

- ・1年生のとき (6)
- ・2年生のとき (12)
- ・3年生のとき (19)
- ・希望の職場の募集が始まったとき (3)
- ・昨年希望が叶わなかったとき (1)
- ・不明 (7)

3) インターンシップの募集の時期について。

- ・適当である (42)
(そのうち、掲示が目につきにくい、募集期間が短い、発表までの期間が長い、広域と近郊のガイダンスは同じぐらいの方がいいなどの意見があった)
- ・もう少し早いといい (3)
- ・募集締め切りが早い。採用からインターンシップ開始までの期間が短い (1)
- ・新年度が始まって少し時間があつたのでよかったと思う。水戸市役所の募集が後から出てきて

少し驚いた。(1)

- ・募集先の掲示が遅いと、自分でインターンシップ先を探すかどうかの決定や相手方へのアポイントメントも遅れてしまい、受け入れてくれるところが少なくなってしまうと思うので、可能ならば、本年度中に来年度にインターンシップ生を受け入れ可能な企業及び官庁名を掲示していただきたいです。(1)

4) インターンシップが実施される時期並びに期間について。

- ・適当である (38)
(そのうち、可能であれば冬休みや春休みも実施してほしい、2週間の方がいい、募集要項に受け入れ先の希望時期等がある場合は詳しく載せてほしい、などの意見があつた)
- ・時期は適当だが、期間が短い。(4)
- ・派遣先による (2)
- ・春休み中にも実施されると良い (1)
- ・もっと長いほうがいい (1)
- ・受け入れ先からいくつか候補をあげられてそこから自分の都合の良い時期を選ぶことができたのでよかった (1)
- ・1週間程度がちょうどいい (1)

5) 受け入れ先機関・企業の種類や数について

- ・豊富である、十分である (26)
(そのうち、資格を有する職業の事務所へのインターンシップも可能なら派遣させてほしい、観光業界の企業がもっとたくさんあれば嬉しい、可能であれば受け入れ企業が決定する前に学生に希望する企業についてアンケートをとるといいなどの意見があつた)
- ・民間企業を増やしてほしい (6)
- ・市役所や行政機関を増やしてほしい (2)
- ・金融関係を増やしてほしい (2)
- ・種類が多様であると良い (1)
- ・もう少し多いほうがよい (1)
- ・NPO系を入れてもいいかもしれない (1)
- ・茨城県庁の場合、70以上と思った以上あつた

- が、数の割には募集人数が少ないと感じた (1)
- ・ 県南方面にある官公庁の数をもっと増やしてほしい (1)
 - ・ 公的機関に関しては豊富だと思う (1)
 - ・ 一般企業に関しては、職種が幅広いので自分の行きたいところ、興味のあるところが選べるのでいいと思う (1)
 - ・ 希望していた社会福祉協議会の受け入れがなかった (1)
 - ・ 企業の種類は少し小売りやサービス業の割合が多かった気がするのでBtoBの企業の割合が増えるといいかと思えます。(1)
 - ・ 茨城の官公庁・企業が多いので、県内での就職を考えている人にとっては良いと思う (1)
 - ・ 不明 (2)

6) 1つの機関・企業が受け入れる人数について

- ・ 適切である (29)
- (一つの学校の枠は少なくとも、他大学の学生とインターンシップを行うこともあると刺激にもなる。)
- ・ 1, 2人が良い (3)
 - ・ 2人以上 (1)
 - ・ 多くても3人までが良い (1)
 - ・ もっと少人数の方が良い (1)
 - ・ もっと増やしてほしい (4)
 - ・ 人気企業は増やした方が良い、場所による (3)
 - ・ もちろん多いほうがより良いと思うが、機関・企業は最大限の数を受け入れてくれていたように感じた。(1)
 - ・ 受け入れ先が次の仕事を捻出するのに苦労されているようだった。一人でもこの状態が起こってしまうことがあるのであれば、受け入れ人数が多すぎても機関・企業側の負担になってしまうように思う。(1)
 - ・ 日立市役所に関しては10課所17名と、とても多いと感じた (1)
 - ・ 先方の都合もあると思うので、それは先方の指定人数に合わせざるを得ないと思う (1)
 - ・ 不明 (2)

7) インターンシップの内容について

【予想どおりだった点】

- ・ 具体的な活動内容 (15)
- ・ 貴重な体験ができ勉強になった、良い刺激を受けた (9)
- ・ 内職や事務作業が多かった (5)
- ・ 職場の雰囲気を知ることができた (4)
- ・ 任せられる仕事に限られていた (3)
- ・ 業界について詳しい話が聞けた (2)
- ・ デスクワークが多かった
- ・ 社会人としての実感が持てた、自分に足りないものがわかった
- ・ 活動内容が見学中心だった
- ・ 職員がいい人ばかりだった
- ・ 2週間休まず遅刻せず気を張って行くのは大変だった
- ・ 少しだが、デスクワークがあった
- ・ 体験するうえでの苦労の度合い
- ・ 部署によって内容が全く違っていった
- ・ 仕事については難しいことも担当の方が手取り足取り教えてくださった
- ・ ずっと立ち作業だった
- ・ 仕事を分けていただき、それに組み込んだ
- ・ 普段いけないようなところに行き、同行させてもらった
- ・ 「職場体験」というよりも、本当に「社会人」として仕事をするというスタンスであった
- ・ 受け入れ先の日常にお邪魔して、作業を一緒に行った
- ・ あまり深いことはできなかった
- ・ 非常に働きやすい労働環境であると感じた
- ・ 機関の外部へ出ることが多かった
- ・ 窓口業務を行っていた
- ・ 残業が全くなかった点

【予想とは違った点】

- ・ 職場の雰囲気が明るかった、職員がフレンドリーだった (11)
- ・ 事業内容が予想より幅広かった (9)
- ・ 出張など、社外での活動があった (5)

- ・屋外での業務が多かった (5)
- ・電話対応や窓口対応が多かった (2)
- ・服装が思ったよりラブだった (2)
- ・思ったより計画がなされておらず、仕事が早く終わってしまうと次の仕事内容が決まるまで空き時間が出来てしまった (2)
- ・職員の方から様々な話を聞くことができた (2)
- ・活動内容のうち見学が多かった
- ・事務やデスクワークが多かった
- ・業務を手伝うというよりは、学習することのほうが多かった
- ・時間通りに帰る人が少かった
- ・国民の税金を使っているという意識 (節電・リサイクルの徹底)
- ・客層がお年寄り中心であった
- ・インターンシップ生が主体的に作り上げていく業務 (パンフレット作成) があった
- ・パソコンを使った業務が多いため、パソコンがない場合、できることが少ない
- ・議会の前であったため、議会に関係する職員は忙しそうであったが、手伝えることがなかった
- ・予想以上に働いている人の人数が多かった
- ・関連機関との接触の機会があった
- ・課外での勤務ができた
- ・その課でやることとは少し異なる内容があった
- ・下請けの公社で一日お世話になった
- ・思ったよりも、文章作成や、間違いを探すスキルが求められる仕事であった
- ・昨年度の活動内容と異なる活動が多かった
- ・商品知識において圧倒的にまだまだ未熟であると感じた
- ・何もさせてもらえない時間が多かった
- ・業務内容が自分の思っていた市役所業務と違っていた
- ・5日間で3つの課を転々とした
- ・やっていることがアルバイトと変わらない力作業があった
- ・職員の方からの指示が思っていたよりも少なかった
- ・思った以上に体力がいる

その他

- ・貴重な体験ができた (4)
- ・公務員試験について積極的に話をしてくれた (2)
- ・歓迎会を開いてくださった (2)
- ・暇な時間ができてしまうため自分からやることを積極的に見つける必要があった
- ・若い職員が多かった
- ・公文書の書式は条例や訓令、規則などによって定められていて、その定められている内容も意外に細かく指定されていた
- ・派遣先に茨城大学出身の方がいて、とても話し易く、親近感を抱いた
- ・希望が通らなかった第2, 3希望の課の方に話を聞く機会を設けてくださった
- ・もっと自分がやりたいことについて絞り込んでおくべきだった
- ・質問する機会を見つけるのが大変だったが、職員の方が話しかけてくださった時などに思い切って質問した。業務内容の説明だけではなく、制度や法律なども説明してくださったので、職業についてだけではなく、大学で学んでいることについても勉強になった。
- ・他大学の学生と一緒にだった
- ・勤務先が雇用・労働関係であったこともあり、話の折々で来年の就活に向けた話をしていただき、とてもためになった
- ・講演会に参加して、他の団体様との交流が図れた
- ・今回体験したインターンシップの内容はアルバイトでも経験できるものがほとんどであったと感じる。「考えて何かをつくる、実践する」といった体験もさせてほしかった
- ・企業の方のお話を伺えてありがたかった
- ・イベントにスタッフとして参加したりなど観光政策以外の活動も多かった

8) インターンシップを受けてプラスだった点、 マイナスだった点について

【プラスだった点】

- ・職場や社会の雰囲気に触れられた (20)
- ・働く実感が持てた (9)
- ・業界について理解することができた (7)
- ・職員の生の声を聴いて勉強になった (7)
- ・自分に足りないものが理解できた (7)
- ・就職へのモチベーションがあがった (6)
- ・貴重な体験ができた (5)
- ・コミュニケーションの大切さを理解できた (3)
- ・社会に出てから必要となるスキル・常識・心構えなど様々なことを学ぶことができた (3)
- ・自分自身を見つめ直す良い機会だった (3)
- ・仕事に対する責任の重さを実感できた (3)
- ・就職活動や公務員試験についてアドバイスが得られた (2)
- ・幅広い年齢層の方と接するいい機会になった (2)
- ・今後の進路選択に役に立つような話が聞けた
- ・接客等を通しマナーが身についた
- ・人脈が広がった
- ・人として成長できた
- ・幅広く仕事を体験できた
- ・視野が広がった
- ・自分の中での意識改革につながった
- ・幅広い知識を得ることの大切さを学べた
- ・職業選択の幅が広がった

【マイナスだった点】

- ・交通費などの出費が多い (7)
- ・期間中、勉強など他のことをする時間がない (2)
- ・アクセスが不便だった
- ・精神的、身体的疲労がたまってしまった
- ・もっと多くの経験がしたかった
- ・単純作業が多かった
- ・時期によってはインターンシップ生に任せられる仕事が少なくなってしまう

- ・言われたことをやっただけになってしまった
- ・業務内容にはアナログな事が多かった
- ・期間中は時間的な制約があり、他のことをする余裕がなかった
- ・事前準備が大変である点
- ・自分がやりたいと思っていた仕事と、向いている仕事というのは違うということを実感したので、将来への不安が大きくなった
- ・今まで公共交通機関での通学を経験したことがなかったので、辛かった
- ・体調を崩してしまった

9) 事前に準備しておけばよかったと思う点

- ・受け入れ先および受け入れ先が属する業界に関する情報収集 (16)
- ・パソコンの使い方 (7)
- ・言葉遣いなど一般常識の確認 (5)
- ・聞きたいことをまとめておく (4)
- ・仕事で使う知識・技術を身につける (5)
- ・受け入れ先までのアクセスを調べるべきだった (3)
- ・生活リズムを正しておく (2)
- ・服装の確認
- ・お礼状の書き方を学んでおく
- ・用意できるものは早めに用意する
- ・名刺を交換する機会があったので、名刺を用意しておけばよかった
- ・もっと時事問題に目を通しておくとよかった
- ・電子辞書
- ・学芸員等の資格取得

10) その他の反省点

- ・積極的に質問・行動すべきだった (17)
- ・周囲の人ともっとコミュニケーションを図るべきだった (2)
- ・体調面での管理や対策をもっとしておけばよかった (2)
- ・言葉遣いやマナーを学んでおくべきだった
- ・パソコンの知識を身に付けておくべきだった
- ・自分から仕事を見つけ行動したり視野を広く

持ったりして行動するべきだった

- ・睡眠不足だった
- ・忘れ物の確認を十分にするべきであった
- ・希望した日程ではない場合もあるので、なるべく予定を空けておくべきだった
- ・人前で話す時に声が小さくなってしまった
- ・言いたい事をメモ帳にまとめておくべきだった
- ・自己紹介をする場面が何度かあったので、準備しておくべきだった
- ・疲れが溜まっているせいか、前日早く寝ても眠かった
- ・職員の方とすれ違ったときに積極的に明るく挨拶すればよかった
- ・敬語を使い忘れる時があった
- ・インターンシップ前に生活のリズムを見直しておけばよかった
- ・前半の1週間は緊張しすぎてしまった
- ・なかなか人の名前を覚えられなかった
- ・時事問題や最近のニュースを理解していなかったため、それらの点について意見を求められても答えられないことがあった
- ・一つ一つの業務を、早く正確にこなしていくことに関して自分の能力不足を感じた
- ・現場に作業に行くのに、革靴で行ってしまったので靴をお借りすることになった
- ・やる事が無い時に、何も手伝えず申し訳ない気持ちになることがあったが、そうではなく、そういう瞬間にも周りの観察を怠らず、自分のいる職場のことや社会で必要になることなどを学ぶ時間だったのだなと思った。
- ・校正の仕事を体験したが、仕事上でミスを見過ごしていた点が多かった
- ・企業に関する下調べが不十分だった。
- ・失礼かなとか気にせずに、気になる話を聞いたときは、即メモをとるべきだった。
- ・震災関係の話聞くことをためらってしまい、あまり聞くことができなかった
- ・自分の作業でいっぱいいっぱいになってしまった

11) 来年度のインターンシップ履修生へのアドバイスがあれば書いてください。

- ・興味があるなら参加すべき (9)
- ・挨拶などのコミュニケーションをとったり、自らできる仕事を探したりと積極的に行動すべき (8)
- ・事業内容やアクセスなど、事前に受け入れ先の情報をしっかり確認すること (6)
- ・自分の将来を見据え、目標・目的をもってインターンシップに臨んでほしい (6)
- ・今後の役に立つので参加すべき (5)
- ・疑問点は事前にまとめておき、自分で調べたり先輩や職員の方に聞いたり積極的に行動すべき (4)
- ・敬語などの最低限のマナーを身に付けておくこと (4)
- ・自分の考えで行動せず、まずは職場の先輩方に相談・確認をする。(4)
- ・短期間に多くのことを学べる (3)
- ・メモ帳 (ノート)、ペンの準備をし、言われたこと、気になったこと、率直な感想などを記録する (2)
- ・興味のある職種 of インターンシップには参加した方がいい (2)
- ・社会のことを知るためにも、インターンシップには積極的に参加すべき (2)
- ・参加してマイナスになることはない (2)
- ・昨年のインターンシップ報告書を読んで、先輩方の反省を生かすべき
- ・挨拶・返事をしっかりやること。はっきり言わないと相手に伝わらない。
- ・大学では経験できない雰囲気や充実感を味わえる
- ・単純な作業を任せられることがあると思うが、その作業の中でも、いかに迅速かつ丁寧にこなせるかなど作業方法を工夫することが求められる
- ・体調管理の徹底
- ・講義などで集中力を養う
- ・謙虚な姿勢で臨むこと

- ・相手の状況を見て行動するべき
- ・配属先に関係しそうな時事問題に少し関心を向けておくとよい
- ・会話力を身につけること
- ・事前に受け入れ先に電話をする際、分からないことは詳しく聞いておくべき
- ・映画に興味のある方、人コミのメディア文化コース所属の方に非常にお勧めなインターンシップ先です。(日立市教育委員会 教育視聴覚センターの参加者より)
- ・大学2年のうちからインターンシップに参加することはハードルと感じるかもしれないが、時間とお金を費やす価値は十分にあると思います。
- ・自分の興味のある募集先がなければ、まずは担当の先生・学務の方に相談してみることをおすすめします。

12) インターンシップについて、その他の提案や要望があれば何でも書いてください。

- ・交通費などの費用を援助してほしい (4)
- ・派遣先や実施時期の決定が遅かった (3)
- ・各企業の仕事内容は、もう少し細かく掲載してほしい (3)
(インターンシップ受け入れ一覧にイガラシ綜業さんの活動内容が書かれていなかったのので、選ぶ際の参考として何か書いていただければと思った。)
- ・企業側のインターンシップ担当者と大学がきちんと打ち合わせしておいてほしい (2)
- ・インターンシップに派遣する学生同士で、事前に意見交換する時間などがあるとより良いのではないと思った。マナーについて、その他事務的な内容についてなど、パートナーだけでなく複数の学生で共有できれば良かったと感じた。(2)
- ・グループを組ませるときは、業種が同じか、似ている人同士が組んだ方がよい
- ・昨年度参加者との交流がもっとあるとよい
- ・二次募集以降でインターンシップが決定した場合、次に何をすればよいのかが少々わかりにく

いと感じた

- ・派遣先決定の連絡は掲示板だけでなく、メールでも知らせてほしい
- ・社会科学科の学生が興味を持つ職種の受け入れ先があればと思う
- ・一番最初の事前説明会の手際が悪く、プリントがもらえなかった。学期始まりのガイダンス時に行えば、人数も分散でき、もっと効率的に実施できると思う
- ・民間企業の種類を増やしてほしい
- ・単位にはならなくても3日間という期間のインターンシップは比較的気軽に参加できていいと思う
- ・日誌などは書類での提出も受け付けてほしいと感じた
- ・受け入れてもらうに当たって自己PRのようなもの、履歴書以外での自分の得意分野や強みを知ってもらう機会があればと思った
- ・1年生にもインターンシップの機会があってもいいのではないかと思う
- ・私がインターンシップに入る前に同じ茨城大学の理学部の人が入っていたのですが、理学部の方は日誌がなく最終日だけまとめのレポートを書くようになっていたとのことで、学部によってインターンシップのやり方が違うことに派遣先の社員の方は少し戸惑っていました。学部ごとに違ってしまうのは仕方のないことだとは思いますが、統一してほしいとのお声が聞かれましたので報告させていただきます。

13) 説明会や事前研修会で取り上げて欲しかった事柄や説明して欲しかった事柄があれば書いて下さい。

- ・お礼状の有無、書き方について (5)
- ・言葉遣いやマナーについて (4)
(説明に合わせて、それをまとめたものがあるとよい、という意見あり)
- ・服装について (3)
- ・自分が行く派遣先に前年行った先輩から体験談

- や服装、持ち物などアドバイスが聞けると良い
- ・ 県庁の各課の事業内容が詳しく知ることができればよかった
- ・ 日誌の書き方
- ・ 化粧の仕方
- ・ 企業との兼ね合いで難しいと思いますが、募集要項をもっと早い時期から配っていただきたいかったです。
- ・ 「自分の興味のある募集先がなければ、まずは担当の先生・学務の方に相談してみる」といったことをより強調してご説明いただけると私のように興味のある募集先を見つけられる人が増えるかと思います。(先生方や学務の方のお手数をさらに増やすことにはなってしまいそうなのですが…)

広域

- 1) 人文学部のインターンシップ制度について初めて知ったのはいつ頃ですか。
 - ・ 1年生のとき (8)
 - ・ 2年生のとき (19)
 - ・ 大学院1年生のとき (1)
 - ・ 不明 (4)
- 2) インターンシップに応募しようと思ったのはいつ頃ですか。
 - ・ 1年生のとき (2)
 - ・ 2年生のとき (15)
 - ・ 3年生のとき (7)
 - ・ 不明 (8)
- 3) インターンシップの募集の時期について
 - ・ 適切である (26)
 - ・ 派遣候補者の決定から事前研修が始まるまでの期間が長く不安
 - ・ 募集期間が短い
 - ・ 自主開拓のため関係なし
 - ・ 不明 (3)
- 4) インターンシップが実施される時期並びに期間について
 - ・ 適切である (27)
 - ・ 期間は2週間にしてほしい (4)
 - ・ 実施時期をもう少し早めてほしい
 - ・ 不明 (2)
- 5) 受け入れ先機関・企業の種類や数について
 - ・ 適切である (19)
 - ・ 増やしてほしい (10)
(メディア系、マスコミ系、民間企業、県外の企業など)
 - ・ 業種によって偏りがあるので均等にしてほしい
 - ・ 不明 (2)

6) 1つの機関・企業が受け入れる人数について

- ・ 適当である (24)
- ・ もう少し増やしても良い (5)
- ・ 不明 (3)

7) インターンシップの内容について

【予想どおりだった点】

- ・ 業務内容 (18)
- ・ 様々な知識が得られた (4)
- ・ 仕事の大変さ (3)
- ・ 様々な仕事を一通り体験させもらった (2)
- ・ 職場の雰囲気が良かった (2)
- ・ 外国人と交流する場があった
- ・ 東京へ毎日通うことの大変さ
- ・ 不規則な出勤時間
- ・ 複数人が同一企業へ行っている、行動は1人の事が多かった
- ・ コミュニケーションの重要性
- ・ 服装がラフだった

【予想とは違った点】

- ・ 職場の雰囲気が良かった (6)
- ・ 短い期間の中で大きな業務を経験できた (3)
- ・ 社外での活動や交流が多かった (3)
- ・ 実際仕事を行うことよりも見学することの方が多かった (3)
- ・ 通勤の大変さ (2)
- ・ 実際の業務の多寡 (2)
- ・ 服装がラフだった (2)
- ・ 昼食を摂れない日があった (2)
- ・ 幅広く仕事を体験できた
- ・ オフィスワークが多かった
- ・ 会社全体を見ることができた
- ・ 他大学との意識差
- ・ 先方のスケジュールの都合で、例年では経験できていたことが経験できなかった
- ・ 仕事にかかる時間がたっぷりあった
- ・ 研修時間が短い日があった
- ・ 朝が意外と遅かった
- ・ 度々放置されることがあった

- ・ インターンシップ生が茨大生しかいなかった

その他

- ・ ラッシュアワーの通勤電車に乗れた
- ・ 企業側は受け入れに多大な労力を費やしている
- ・ 様々な社員の方と交流できた
- ・ とっても貴重な経験になった
- ・ 希望部門以外の見学ができず残念だった
- ・ 昼休みが決まっておらず、その日その日と一緒に食べる職員の方とたくさん話げできた

8) インターンシップを受けてプラスだった点、マイナスだった点について

【プラスだった点】

- ・ 業務内容について深く知ることができた (9)
- ・ 実際に行われている仕事の現場を知ることができた (7)
- ・ 将来に対しての参考になった (6)
- ・ その企業で働くことのイメージがつかめた (5)
- ・ 自分自身を見直すきっかけになった (4)
- ・ 普通体験できないような体験をすることが出来た (4)
- ・ 新しい人間関係のつながりができた (3)
- ・ 就職活動に向けて大きな活力を得た (3)
- ・ 自分の公的な一面を磨くことができた (3)
- ・ 社会に出て働くことへの責任の重さ、難しさを感じた (3)
- ・ 実際の仕事場の雰囲気について知ることができた (2)
- ・ 多くのことを学ぶ事が出来た
- ・ 実りある夏休みにすることができた
- ・ 様々な年齢層の方と会話できるようになった
- ・ 英語の学習意欲が上がった
- ・ ゼミで行っていることが、実際の仕事と似ている点が多く、自信に繋がった

【マイナスだった点】

- ・金銭面の負担が大きかった (7)
- ・社員の方との交流をあまり持てなかった (2)
- ・インターンシップで働いている間アルバイト等ができず収入がなかった
- ・「インターンシップに行った」という事実で安心してしまった
- ・実際に仕事が行われている現場の裏側を見てしまった

9) 事前に準備しておけばよかったと思う点

- ・業界、企業についての知識をつけておく (17)
- ・質問リストを作っておく (3)
- ・服装や必要物、およびその問い合わせ (2)
- ・名刺 (2)
- ・会社の正確な場所を確認しておく
- ・新聞やニュースを見るようにする
- ・生活リズムを改善しておく
- ・メモ帳
- ・宿泊先のインターネット設備を調べておく
- ・受け入れ先で何を学びたいのかを明確にしておく
- ・ビジネスマナー

10) その他の反省点

- ・わからないことを積極的に質問すればよかった (12)
- ・体調管理 (3)
- ・職場の方々及び他インターンシップ生ともっとコミュニケーションをとればよかった (3)
- ・言葉遣いや態度 (2)
- ・途上国の人たちと触れ合える良い機会だったが、その機会をあまりうまく利用することができなかった
- ・インターンシップといえど職員の一員として働いているという自覚をもって取り組むべきだった
- ・1日ごとの目標を定めればよかった
- ・茨城大学からの参加が初めての企業だったため、事前の情報が少なく準備不足だった

- ・自己管理ができておらず遅刻してしまった
- ・ビジネスカジュアルな服を用意しておけばよかった

11) 来年度のインターンシップ履修生へのアドバイスがあれば書いてください。

- ・参加すべき (10)
- ・積極的に質問、行動する (6)
- ・常にメモ帳を持ち歩き、学んだことや頼まれた仕事内容をすぐに書き留める (2)
- ・積極的に自主開拓もしていくべき (2)
- ・一般公募しているインターンシップのほうが良い
- ・何を学んで帰るのか目標を持って仕事に臨むこと
- ・堅くならず、分け隔てなく友好的にあたること
- ・体調管理
- ・最低限のマナーを身に付けておくこと
- ・学生気分で臨まないこと
- ・斡旋されるものを見て決めるのではなく自身が行きたいと思える場所を決めるべき
- ・遠方のインターンシップに参加する場合は、なるべく受入先から近い所を滞在先とするべき
- ・ラッシュ時の電車の辛さを覚悟しておいた方がよい
- ・自主開拓の場合、事前に企業についてよく下調べをして、早い段階から積極的にアプローチすること

12) インターンシップについて、その他の提案や要望があれば何でも書いてください。

- ・交通費や食費などの金銭的援助があると良い (4)
- ・インターンシップ先の茨城大学出身者と直接会える機会がほしい (2)
- ・インターンシップ期間の告知を早めてほしい
- ・第1回目と第2回目の事前研修の間隔を狭めるか、第2回目の研修の日程を早めに掲示してほしい
- ・掲示がわかりにくい

- ・大学からのサポートが少ない
- ・可能性があれば遠方の企業でも情報がほしい
- ・担当教員とのインターンシップ日誌交換が円滑に進むようにしてほしい
- ・期間は2週間、取得単位は2単位に統一してほしい
- ・前年度の日程を早い段階で知りたい
- ・自主開拓した企業と大学からの候補企業との手続きの違いをわかりやすくしてほしい

13) 説明会や事前研修会で取り上げて欲しかった事柄や説明して欲しかった事柄があれば書いて下さい。

- ・お礼状の書き方 (4)
- ・ビジネスマナー講習 (2)
- ・前年度の体験談を聞く機会がほしい
- ・過去に研修に行った人が、どのような服装で行っていたのか教えてほしい
- ・前年度の各インターンシップ先の日程の公表
- ・名刺作成
- ・事前訪問について
- ・レポートや報告会についての周知を早めてほしい

インターンシップを通じた 人材育成の成果について

インターンシップを通じた人材育成の成果

平成23年度は64名、平成24年度は69名、平成25年度は75名、そして平成26年度は過去最高の延べ122名がインターンシップを履修した。以下は、過去4年間（平成23年度～平成26年度）、インターンシップ終了後に主としてインターンシップ（広域）の派遣先から提出していただいた「インターンシップ評価表」における「特記事項」などに記載されたものから一部を引用したものである。留学生に対しては一部日本語能力の不十分さの指摘はあるものの、インターンシップ派遣学生は、派遣先から概ね肯定的評価を得ていると判断できる。多くの場合、「組織内コミュニケーション」及び「プレゼンテーション能力」に関して向上が見られる。またインターンシップ中の誠実な勤務態度もポジティブに評価されている。なお、「インターンシップ評価表」に関しては報告書の資料5（230ページ）を参照されたい。

	特記事項	対応する評価項目
	平成26年度	
26-01	日々の実習の主担当とのコミュニケーションはもちろんのこと、2週間後には、センター内の多くの方々、或いは関わっていただいた大学生向け講座の受講学生などとの交流、意見交換、プレゼンなど積極的な姿勢になった（自己評価ならびにセンター内職員の所感とも）ことは成長した大きな成果と思料。（平成26年度、JICA 筑波）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度 ・プレゼンテーション能力
26-02	出版社における制作と販売の仕組みを理解し、状況に応じて適切な行動をとっていただけた。（平成26年度、木楽舎）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度
26-03	人柄も良く、誠意ある態度で業務を行っていただいた。（平成26年度、NHK出版）	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務態度
26-04	一言一句、講師の言葉をメモに取るなど熱心さが伝わってきた。（平成26年度、NHK出版）	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務態度
26-05	積極性があり前向きなのは良い点と思う。「自分は何がしたい」というアピール力を養ってほしい。（平成26年度、産経新聞社水戸支局）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度
26-06	中国から留学して約1年という短期間で日本語の習得は大したものである。（平成26年度、テレビ朝日映像）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション
26-07	疑問を持ったことについて、随時確認している姿勢が良かったと思う。（平成26年度、テレビ朝日映像）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度
26-08	自分が感じた疑問に対して積極的に興味を持って行動していたのが印象的であった。（平成26年度、テレビ朝日映像）	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度

	特記事項	対応する評価項目
	平成26年度	
26-09	(茨城大学から参加していた)3人の中でも特に積極的な行動を起こしていたため一番吸収してもらえたのではないかとと思われる。(平成26年度、テレビ朝日映像)	・組織内コミュニケーション
26-10	他大学からは複数名参加に対し、茨城大からの参加は1名だったにもかかわらず、積極的に参画し、模範的行動を取った。(平成26年度、株式会社ジェイ・スポーツ)	・組織内コミュニケーション ・勤務態度
26-11	当社でインターンシップを体験してみて、働く楽しさと大変さを感じて頂けたようです。期間中は、しっかりと責任感を持ち、仕事をこなしていました。人間関係を築く為に必要な能力(挨拶や笑顔)は、この10日間でさらに向上されたと感じます。(平成26年度、株式会社伊勢基本社：水戸プラザホテル)	・組織内コミュニケーション ・勤務態度
26-12	短期間でアプリケーションをゼロから覚え、自分のイメージを形に表現することが出来た。(平成26年度、株式会社ヘレナメディアリサーチ)	・プレゼンテーション能力
	平成25年度	
25-01	他大学は複数の参加者に対し、茨城大からの参加は1名であったにもかかわらず積極的に参画し、模範的行動をおこなった。(平成25年度、株式会社ジェイ・スポーツ)	・組織内コミュニケーション ・勤務態度
25-02	プレゼン能力は日本語習得中のため(注：評価項目「プレゼンテーション能力」の評価点が低いことに対しての理由)であり、母国語なら極めて高いと思われる。(韓国からの留学生)(平成25年度、朝日新聞水戸総局)	・組織内コミュニケーション
25-03	率先した行動も見られ、課内の人員とも良好な関係を作れた。単純作業などでも、効率的なアイデアを出していた。イベントなどでも、状況を把握し、率先した行動が見られた。(平成25年度、株式会社主婦の友社)	・組織内コミュニケーション ・企画力 ・洞察力
25-04	わからないこと、知らないことに対する探求心があり、物事を建設的に考える能力を感じました。初めてのアプリケーションにも短期間で使えるようになり、楽しんで課題に取り組んでいました。(平成25年度、株式会社ヘレナメディアリサーチ)	・情報処理能力
25-05	自分の意見を持ち、それを相手に伝える能力に長けています。ディスカッションではメモを取り、自分の考えをまとめ、積極的にコミュニケーションを取って円滑に課題に取り組んでいました。(平成25年度、株式会社ヘレナメディアリサーチ)	・組織内コミュニケーション ・プレゼンテーション能力
25-06	分からない事は積極的に尋ね、自ら進んで行動して下さいました。責任感もあり、今回実際にお客様と接客対応されたことによって、自覚と責任感が強まったように感じました。(平成25年度、株式会社伊勢基本社：水戸プラザホテル)	・組織内コミュニケーション ・勤務態度

特記事項		対応する評価項目
平成25年度		
25-07	目的意識が明確で、発言に説得力があったが、他の学生の意見を踏まえながら自分の考えを整理して発言するようになり、その内容に深みや幅が加わるようになった。(平成25年度、川崎市役所 市民・こども局)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・プレゼンテーション能力
25-08	成果は、市民団体への支援活動を展開している当財団の事業を体験することにより、市民活動の重要性を再認識されたこと。また当財団の事業内容が今後の本人の活動の参考になったこと。(平成25年度、公益財団法人 かわさき市民活動センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・洞察力 ・プレゼンテーション能力
25-09	日々の課題に対して真摯に取り組み、進捗状況の把握と臨機応変に対応する能力が開始当初と比べて、確実に向上しました。(平成25年度、株式会社木楽舎)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度
25-10	学内のサークル取材では、地域との連携を視点を据えた記事を仕上げた。(平成25年度、茨城新聞社)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力
25-11	被災地で活動するボランティアの思いを冷静に表現した記事を仕上げた。(平成25年度、茨城新聞社)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力
25-12	人形劇サークルの夢を届けたいという思いが読者に素直に伝わる記事を完成させた。(平成25年度、茨城新聞社)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力
25-13	精力的に行った学生へのアンケート調査からは、強い意志が伝わってきた。(平成25年度、茨城新聞社)	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション能力
25-14	常にメモを片手に、真剣に業務に取り組んでいた。拡販のPOP制作では売側の目線に立ってすばらしい作品を作り上げた。業務内容とその意味をよく理解し、正確に行おうという姿勢が見られる。特に構成能力は優れている。(平成25年度、NHK出版)	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務態度 ・企画力
25-15	非常に緻密な作業を行う。優秀な学生であると感じました。出版業への関心を持ち、積極的に取り組んだ。(平成25年度、NHK出版)	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務態度 ・情報処理能力
平成24年度		
24-01	本人のやる気と能力は高いと感じましたが、日本語能力が不可欠な新聞社では思う通り働いてもらえなかったのが残念です。(オーストラリアからの交換留学生)(平成24年度、朝日新聞水戸総局)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度
24-02	初めての経験の思われる業務に対しても積極的に取り組んでおり、各関係者とも適切なコミュニケーションをとれていた点は十分の評価できる。(平成24年度、JICE：日本国際協力センター)	<ul style="list-style-type: none"> ・組織内コミュニケーション ・勤務態度
平成23年度		
23-01	通常業務に加え、オリジナルな映像制作を一本課題とした。与えられた仕事に対する熱意を感じた。作りたい物が明確だった。制作意図がしっかりと人に伝えることが出来ていた。(平成23年度、株式会社ヘレナメディアリサーチ)	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務態度 ・プレゼンテーション能力

	特記事項	対応する評価項目
	平成23年度	
23-02	テキストの内容に関し、的確な改善点を挙げてくれた。着眼点の鋭さに感心した。(平成23年度、NHK出版)	・洞察力
23-03	書店訪問ではよく観察、メモをとっていた。人の話をよく聞く態度に好感が持てた。(平成23年度、NHK出版)	・組織内コミュニケーション
23-04	総合的に業務に意欲を持って取り組み、事務的側面、クリエイティブ側面において能力を発揮していた。理解力に優れ、アピール力を高めれば、更に飛躍すると思います。(平成23年度、NHK出版)	・企画力 ・プレゼンテーション能力
23-05	全期間を通して、積極的な姿勢で迅速かつ真摯に取り組みました。逐一指示しなくても要点を伝えただけで、骨格の部分は指示者の意向を理解するとともに、細部は自分で考えてオリジナルなものにすることができていました。(平成23年度、水戸市国際交流センター)	・組織内コミュニケーション ・企画力
23-06	業務遂行への意欲にあふれていた。(平成23年度、茨城新聞社)	・組織内コミュニケーション ・勤務態度
23-07	中国への理解を深めたいという姿勢が印象的だった。(中国からの留学生)(平成23年度、茨城新聞社)	・組織内コミュニケーション ・勤務態度
23-08	与えられた課題には真摯に取り組んでおり、問題はなかった。特にJDS留学生オリエンテーションでの適切な現場対応は評価できる。(平成23年度、JICE:日本国際協力センター)	・組織内コミュニケーション ・勤務態度
23-09	世の中に擦れていなくて、純粋な若者の印象。今後、卒業に向けて、もう少し外向きにアンテナを張り巡らせると色々な入手でき、世の中で自分から取捨選択できるようになると、世界が広がると思われる。(平成23年度、KSA:株式会社国際サービスエージェンシー)	・勤務態度

注) 上記一覧表中、例えば「26-01」では、「26」は「平成26年度」を、「01」は通し番号を表す。

2014年度 派遣先一覧

1. インターンシップ水戸近郊

1.1. 茨城県庁関係

茨城県庁 (http://www.pref.ibaraki.jp/) 関係		
No.	部 署 名	住 所
1	知事公室 女性青少年課	水戸市笠原町978-6 (029-301-2171)
2	生活環境部 生活文化課 (県民運動推進室)	水戸市三の丸1-5-38 三の丸庁舎2階 (029-224-8120)
3	生活環境部 生活文化課 (安全なまちづくり推進室)	水戸市笠原町978-6 (029-301-2842)
4	商工労働部 労働政策課	水戸市笠原町978-6 (029-301-3645)
5	県警本部 警務部 警務課	水戸市笠原町978-6 (029-301-6414)
6	保健福祉部 子ども家庭課 (少子化対策室)	水戸市笠原町978-6 (029-301-3263)

1.2. 市役所関係、私企業 (県内)

1	水戸市役所	〒310-8610 水戸市中央1-4-1 TEL : 029-232-9210 FAX : 029-228-2825 http://www.city.mito.lg.jp/
2	日立市役所	〒317-8601 日立市助川町1-1-1 TEL : 0294-22-3111 FAX : 0294-24-5301 http://www.city.hitachi.ibaraki.jp/
3	高萩市役所	〒318-8511 高萩市本町1-100-1 TEL : 0293-23-2111 http://www.city.takahagi.ibaraki.jp/index.php
4	常陸太田市役所	〒313-8611 常陸太田市金井町3690 TEL : 0294-72-3111 http://www.city.hitachiota.ibaraki.jp/

5	ひたちなか市役所	〒312 - 8501 ひたちなか市東石川2丁目10番1号 TEL : 029 - 273 - 0111 FAX : 029 - 273 - 0039 http://www.city.hitachinaka.lg.jp/
6	那珂市役所	〒311 - 0192 那珂市福田1819番地5 TEL : 029 - 298 - 1111 http://www.city.naka.lg.jp/
7	東海村役場	〒319 - 1192 那珂郡東海村東海三丁目7番1号 TEL : 029 - 282 - 1711 https://www.vill.tokai.ibaraki.jp/
8	笠間市役所	〒309 - 1792 笠間市中央三丁目2番1号 TEL : 0296 - 77 - 1101 FAX : 0296 - 78 - 0612 http://www.city.kasama.lg.jp/index.html
9	石岡市役所	〒315 - 8640 石岡市石岡一丁目1番地1 TEL : 0299 - 23 - 1111 http://www.city.ishioka.lg.jp/
10	鉾田市役所	〒311 - 1592 鉾田市鉾田1444 - 1 TEL : 0291 - 33 - 2111 FAX : 0291 - 32 - 4443 http://www.city.hokota.lg.jp/
11	鹿嶋市役所	〒314 - 8655 鹿嶋市大字平井1187番地1 TEL : 0299 - 82 - 2911 http://www.city.kashima.ibaraki.jp/
12	かすみがうら市役所千代田庁舎	〒315 - 8512 かすみがうら市上土田461 TEL : 0299 - 59 - 2111 代表FAX : 0299 - 59 - 2130 http://www.city.kasumigaura.ibaraki.jp/
13	桜川市役所岩瀬庁舎	〒309 - 1292 桜川市岩瀬64番地2 TEL : 0296 - 75 - 3111 FAX : 0296 - 75 - 5672 http://www.city.sakuragawa.lg.jp/index.html
14	筑西市役所	〒308 - 8616 筑西市下中山732番地1 TEL : 0296 - 24 - 2111 http://www.city.chikusei.lg.jp/
15	小美玉市役所	〒319 - 0192 小美玉市堅倉835 TEL : 0299 - 48 - 1111 FAX : 0299 - 48 - 1199 http://www.city.omitama.lg.jp/
16	土浦市役所	〒300 - 0812 土浦市下高津一丁目20番35号 TEL : 029 - 826 - 1111 FAX : 029 - 822 - 9252 http://www.city.tsuchiura.lg.jp/
17	牛久市役所	〒300 - 1292 牛久市中央3丁目15番地1 TEL : 029 - 873 - 2111 FAX : 029 - 873 - 7510 http://www.city.ushiku.lg.jp/

18	小山市役所	〒323 - 8686 栃木県小山市中央町1丁目1番1号 TEL : 0285 - 23 - 1111 https://www.city.oyama.tochigi.jp/
19	常陽藝文センター	〒310 - 0011 水戸市三の丸1 - 5 - 18 TEL : 029 - 231 - 6611 http://www.joyogeibun.or.jp/
20	茨城町社会福祉協議会	〒311 - 3131 東茨城郡茨城町小堤1037 - 1 TEL : 029 - 292 - 7141 http://www.ibarakitown-shakyo.or.jp/
21	アクアワールド茨城県大洗水族館	〒311 - 1301 東茨城郡大洗町磯浜町8252 - 3 TEL : 029 - 267 - 5151 http://www.aquaworld-oarai.com/
22	阿さ川製菓	〒310 - 0843 水戸市元石川町富士山325-19 TEL : 029 - 247 - 8080 FAX : 029 - 247 - 8999 http://www.kashi.co.jp/
23	(株) アクアクララ水戸	〒310 - 0044 水戸市西原1 - 10 - 6 TEL : 029 - 252 - 4132 FAX : 029 - 251 - 4132 http://www.aquaclara-mito.jp/
24	イガラシ綜業	〒317 - 0073 日立市幸町2 - 9 - 2 TEL : 0294 - 21 - 0830 FAX : 0294 - 21 - 0838 http://www.igarashisougyo.co.jp/
25	木内酒造 合資会社	〒311 - 0133 那珂市鴻巣1257 TEL : 029 - 298 - 0105 FAX : 029 - 295 - 4580 http://www.kodawari.cc/?jp_home.html
26	(有) 紅茶館	〒310 - 0021 水戸市南町3丁目3 - 37 TEL : 029 - 224 - 5078 FAX : 029 - 212 - 5082
27	(株) ケーズホールディングス	〒310 - 8282 水戸市桜川1 - 1 - 1 TEL : 029 - 231 - 5161 FAX : 029 - 227 - 5311 http://www.ksdenki.com/
28	株式会社フットボールクラブ 水戸ホーリーホック	〒310 - 0852 水戸市笠原町136 - 1 TEL : 029 - 212 - 7700 FAX : 029 - 212 - 7705 http://www.mito-hollyhock.net/

1.3. 私企業（海外）

29	KNT KOREA, INC.	Room501,Jaeneung Bldg.,6 Eulji-ro,Jung-gu, Seoul, Korea TEL : 82 - 2 - 771 - 8083 FAX : 82 - 2 - 757 - 5175 http://www.kntkorea.co.kr/
----	-----------------	---

2. インターンシップ広域

No.	受 け 入 れ 機 関
1	株式会社 茨城新聞社 〒310 - 8686 茨城県水戸市笠原町978 - 25 茨城県開発公社ビル ☎029 - 239 - 3001(代) http://www.ibaraki-np.co.jp
2	株式会社 茨城放送 〒151 - 0053 茨城県水戸市千波町2084 ☎029 - 244 - 2121(代) http://www.ibs-radio.com
3	朝日新聞社水戸総局 〒310 - 0013 茨城県水戸市大町1 - 2 - 38 ☎029 - 226 - 0131(代) http://asahi-np.co.jp/
4	産経新聞水戸支局 〒310 - 0021 茨城県水戸市南町3 - 4 - 57 ☎029 - 221 - 7158 (代) http://sankei.jp/
5	毎日新聞水戸支局 〒310 - 0011 茨城県水戸市三の丸1 - 5 - 18 ☎029 - 221 - 3161(代) http://www.mainichi.co.jp/
6	株式会社 木楽舎 〒104 - 0045 東京都中央区築地7 - 12 - 7 FTSビル5F ☎03 - 3524 - 9572(代) http://sotokoto.net/top.html (参考)
7	株式会社 ヘレナメディアリサーチ 〒300 - 0051 茨城県土浦市真鍋3 - 2 - 5 ☎0298 - 22 - 9601(代) http://www.helena.jp
8	日本放送出版協会 (NHK 出版) 〒150 - 8081 東京都渋谷区宇田川町41 - 1 ☎03 - 3464 - 7311(代) http://www.nhk-book.co.jp
9	JICE : 日本国際協力センター 〒163 - 0716 東京都新宿区西新宿2 - 7 - 1 小田急第一生命16F ☎03 - 6838 - 2702(総務課) http://www.jice.org/

No.	受 け 入 れ 機 関
10	J I C A 筑波 〒 305 - 0074 茨城県つくば市高野台 3 - 6 ☎ 029 - 838 - 1111 (代) http://www.jica.go.jp/tsukuba/
11	川崎市役所 (市民・こども局 人権・男女共同参画室) 〒 210 - 8577 川崎市川崎区宮本町 1 番地 ☎ 044 - 245 - 1501 (代) http://www.city.kawasaki.jp
12	水戸プラザホテル 〒 310 - 0851 茨城県水戸市千波町 2078 - 1 ☎ 029 - 305 - 8111 (代) http://www.mito-plaza.co.jp
13	水戸市国際交流センター 〒 310 - 0024 茨城県水戸市備前町 6 - 59 ☎ 029 - 221 - 1800 http://www.mitoic.or.jp/top/top.html
14	株式会社 BS 放送局 J SPORTS 〒 135 - 8668 東京都江東区青梅 2 - 4 - 24 ☎ 03 - 5500 - 3488 http://www.jsports.co.jp
15	株式会社 テレビ朝日映像 (ViViA) 〒 106 - 0032 東京都港区六本木 1 - 1 - 1 ☎ 03 - 3587 - 8111 (代) http://www.tv-asahipro.co.jp/
16	株式会社 主婦の友社 〒 112 - 8675 東京都文京区関口 1 - 44 - 10 ☎ 03 - 5280 - 7500 (代) http://shufunotomo.co.jp/
17	株式会社 東京サウンドプロダクション 〒 106 - 0032 東京都港区六本木 4 - 1 - 8 六本木 kotobuki ビル ☎ 03 - 3584 - 7888 (総務部) http://tsp.co.jp/
18	A T P (一般社団法人 全日本テレビ番組製作社連盟) 〒 105 - 0001 東京都港区虎ノ門 2 - 9 - 8 あまかすビル 6 F ☎ 03 - 6205 - 7858 http://atp.or.jp/

No.	受 け 入 れ 機 関
19	株式会社 タキオンジャパン 〒150 - 0046 東京都渋谷区松濤1 - 4 - 9 - 406 ☎03 - 3485 - 2481 http://takionjapan.com/
20	静岡市役所 〒420 - 8602 静岡県静岡市葵区追手町5番1号 ☎054 - 254 - 2111(代) http://city-shizuoka.jp/
21	株式会社 新朝プレス 〒320 - 0818 栃木県宇都宮市旭1 - 4 - 30 ☎028 - 610 - 1313(代) http://monmiya.co.jp/
22	福島県三春町役場 〒263 - 7796 福島県田村郡三春町字大町1 - 2 ☎0247 - 62 - 2111(代) http://www.town.miharu.fukushima.jp/
23	テレビ岩手 〒020 - 0023 岩手県盛岡市内丸2 - 10 ☎019 - 624 - 1166(代) http://www.tvi.jp/
24	株式会社 京都放送 〒602 - 8588 京都府京都市上京区烏丸通一条下ル龍前町600 - 1 ☎075 - 431 - 2160(代) http://www.kbs-kyoto.co.jp/
25	栃木県庁 〒324 - 8641 栃木県宇都宮市塙田1 - 1 - 20 ☎028 - 623 - 2323(代) http://www.pref.tochigi.lg.jp/

關係書類

資料1

インターンシップのガイドライン

《趣 旨》

実際の職場体験に基づいて現実的課題についての認識を深め、課題解決の能力を育成する。社会人と共に働くことを通して、自分を見つめ直し、将来の進路や就職活動について真剣に考え、大学で何をなぜ学ばなければならないのかを認識する。

《内 容》

受け入れ先の業務内容に即して個別に対応する。受入れ機関の研修指導者の指導の下で実習する。

1. 夏季休業期間中に行ない、期間は2週間（実質10日間程度）とする。
2. 成績は下記の諸点等に基づき、総合的に評価する。
 - ①事前のオリエンテーションの出席状況
 - ②参加学生のレポート
 - ③口頭報告会での発表
 - ④受け入れ機関からの「インターンシップ評価表」

《留意事項》

1. 5月から6月にかけて参加学生を募集する。
2. 事前オリエンテーションにおいて下記の条件等について説明する。
 - ①報酬は得られない。
 - ②守秘義務が課される（業務上知り得た事柄を業務離脱後も人に漏らしてはならない）。
 - ③「インターンシップ・教職資格活動等賠償保険」等への加入を義務づける。

（平成18年11月15日、人文学部教育会議承認）

資料2

インターンシップ受け入れ実施要領

茨城大学人文学部
学部長 _____ 殿

平成26年8月1日
(株)××センター
代表取締役 ×× ××

インターンシップ受け入れ実施について
標記の件について、以下のように受け入れを致します。

1. 受け入れ対象者人数
(×)人
2. 受け入れ期間
平成26年×月×日 (月) ～×月×日 (金)
土・日・祭日を除く実質10日
3. 勤務時間
午前9時30分～午後5時30分
実働8時間、昼休み午前12時～午後1時まで
4. 実習内容
 - 1) 担当窓口：××
 - 2) 指導者：××
 - 3) 指導事項：市場調査の企画、実施、集計、分析に付随する業務
5. 費用負担
インターンシップ制の趣旨に則り、手当など報酬は一切支給しない。
食費は、自己負担とする。
6. 事故・災害の取扱について
実習生に係わる通勤途上及び職場における災害については、貴大学において「インターンシップ・介護等体験活動・ボランティア活動賠償責任保険」等の保険制度の加入による対処をお願いいたします。
7. 業務上の守秘義務
業務上知り得た秘密に関する漏洩行為等は、弊社の就業規則では禁止されています。この点は、実習生にも十分に徹底されますようお願いいたします。
8. 連絡先
株式会社 ××センター
〒310-0000
水戸市××1-3-1 水戸駅前ビル10階
電話：029-000-0000

資料3
履修志望届け

平成26年度インターンシップ履修志望届け 平成26年 5月 日提出

- ・ 学生番号： _____ (男・女)
- ・ 氏名 (フリガナ)： _____ (_____)
- ・ 学 年： 大学院 1年次・2年次
学 科 2年次・3年次 (いずれかに○印をつける)
- ・ 指導教官： _____ (学科2年次生を除く)
- ・ 住 所： _____
- ・ 電話番号： _____ (_____)
- ・ E-mail： _____
- ・ 学生教育研究災害傷害保険加入の有無：加入済・未加入 (いずれかに○印をつける)
- ・ 学研災付帯賠償責任保険加入の有無：加入済・未加入 (いずれかに○印をつける)

志望順位	受 け 入 れ 先 機 関
第一志望	
第二志望	
第三志望	

参考までに履修希望時期があれば記入してください。但し、受け入れ先の都合で必ずしも希望通りになるとは限りませんので注意して下さい。(集中講義等の理由の場合だけで、アルバイトによる都合の場合は記入しないこと)

[注意事項]

1. 履修希望者は平成26年度インターンシップ履修志望届けを ×月×日(月)までに担当教員に提出すること。(提出期間厳守)
2. 志望動機はワープロで記入するのが望ましい。
3. 調整の為に面接を行う可能性がある。
4. インターンシップ派遣候補に選ばれても、受け入れ先機関と日程等の調整がつかない場合は派遣出来ないこともありうる。
5. 派遣先によっては誓約書の提出が必要になる。
6. 派遣先決定後の派遣先変更は認めない。
7. 派遣先決定後、インターンシップ開始前に、調整の為に派遣先を訪れる必要が生じる場合もある。

資料4
志望動機書

志望の動機
(ワープロで記入するのが望ましい)

学生番号
学 年
氏 名

1. 「インターンシップ」履修希望の動機 (200字程度)

2. 第一志望の動機 (200字程度)

3. 第二志望の動機 (200字程度)

4. 第三志望の動機 (100字程度)

資料5
インターンシップ評価表

インターンシップ評価表

インターンシップ履修学生所属氏名	指導教員氏名
茨城大学人文科学研究科〇〇〇学専攻 人文学部〇〇〇学科 年 (氏 名)	

評価項目	評価事項	評価点 ¹⁾ (5点評価)	備考
1. 組織内コミュニケーション	・円滑な人間関係を築く能力 ・職場の活動への参加・協力	点	
2. 勤務態度	・勤務時間及び就業規則の厳守 ・勤務への熱意 ・責任感 ・積極性	点	
3. 情報処理能力	・情報収集能力 ・調整分析能力	点	
4. 企画力	・アイデアを生み出す能力 ・調整を企画する能力	点	
5. 洞察力	・調査目的の把握能力 ・調査結果の解読能力	点	
6. プレゼンテーション能力	・他人への説得力 ・自分自身のアピール力 ・書類への表現能力	点	
合 計 ²⁾			点

評価 ³⁾	特記事項 (必要に応じて記載)	出勤日数	勤務状況
		日	欠勤： 日 遅刻： 日 早退： 日

備考：1. 評価項目の1～5までは5点評価法で評価。(5：非常に優れている，4：優れている，3：普通，2：やや劣る，1：劣る)
2. 合計は，6項目の評価点の総得点。
3. 評価欄は，最終評定をA，B，C，Dの4段階で評定。Dを不合格とし，その理由を記載する。A：24点以上，B：18点以上，C：12点以上とする。

平成 年 月 日

上記の通り相違ありません。

株式会社 ××××
代表取締役 ×× ××

資料 6
インターンシップ日誌から（抜粋）

氏名・ 学生番号	松本紗生子
派遣先	那珂市農政課
研修日	8月29日（水） 第12日目／全12日中
時間	13:00～17:15
<p>【内容】</p> <p>13:00～15:00 那珂市の観光に関する DVD 15:00～16:30 まとめ 16:30～16:50 総務課あいさつ 16:50～17:15 まとめ</p>	
<p>【感想・その他】</p> <p>観光 DVD を見て、那珂にこんな美しい景色があったのかと驚いた。2週間でさまざまな問題について考えてきたが、那珂のいい点についてあまり深く考えてなかったことに気付いた。ないものねだりよりもあるもの探しという言葉のように、これからも魅力を再発見できたらと思う。</p>	
<p>【コメント欄】</p> <p>景色＝時代・季節・時刻・天候により顔は変化させ、見る側の感性により受け方は色々だと思います。心に残る何かを届けられるように努力を続けます。</p> <p>商工観光課では「地域資源創造事業」（発見・原石磨き・創造的発展・人づくり）や「いいまち魅力発信事業」（情報収集→情報発信の充実→魅力発信・交流人口の拡大・地域産業の発展）に取り組んでおります。</p> <p>那珂市民のアイデンティティーと市外の方への那珂市の知名度アップがまちづくり特に人口定着に重要と考えております。</p> <p>松本さんが今回の研修を通して感じたことを身近な方に那珂市の紹介をして案内人役を担っていただけると情報発信の一つになり材料提供した側としては助かります。</p> <p style="text-align: center;">インターンシップ指導責任者 那珂市産業部農政課長 佐々木 恒行</p>	

資料 7

旧コミュニケーション学科主催インターンシップ及び
インターンシップ（広域）派遣先及び派遣人数

派遣先企業・機関	平成12年		平成13年		平成14年		平成15年		平成16年		平成17年		平成18年		平成19年		平成20年		平成21年		平成22年		平成23年		平成24年		平成25年		平成26年	
	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部	院	学部
株式会社 茨城新聞社		2		1		2		1		2		1		2		1		1		1		2		1		1		1		4
株式会社 茨城放送	1			2		2		1		1		1		1		1		1		1		1		2		2		2		2
社団法人 共同通信社		1		2		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
株式会社 読売新聞社（本社）				1		1		1		1		1		1		1		2		2		2		2		2		2		2
株式会社 朝日新聞社（本社）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		2
株式会社 朝日新聞社（水戸総局）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		2
株式会社 産経新聞社（本社）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		2
株式会社 産経新聞社（水戸支局）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		2
株式会社 毎日新聞社（水戸支局）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		2
株式会社 農村報知新聞社				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		2
株式会社 日本リサーチシステム	1	2	2	1	3	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
株式会社 デルフイス		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
読売インフォメーションサービス				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
株式会社 木葉舎				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
シャバ・アサヒ・マカティグ（JAMU）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
株式会社 千代田ラフト		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
ヘレナ・メディア・リサーチ				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
日本放送出版協会（NHK出版）				3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3
JICA（国際協力機構）（筑波）		1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
JICA（国際協力機構）（横浜）				2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2
APIC（国際協力推進協会）		1	5	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
JICE（日本国際協力センター）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
KSA（国際・CA・E-アジア）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
JICS（日本国際協力システム）				2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン				2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2
JTB関東（土浦支店）				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
日立電線観光→日立電線交通サービス				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
川崎市役所				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
財団法人 かわさき市民活動センター				2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2
水戸アラザホテル				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
水戸市国際交流センター				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
虎の門バスホテル				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
BS放送局 J-スポーツ				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
テレビ朝日映像				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
株式会社 小学館				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
株式会社 主婦の友社				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
ATP（全日本テレビ番組製作社連盟）				4		4		4		4		4		4		4		4		4		4		4		4		4		4
県経営者協会・県庁関係				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
JICA（地球ひろば 広尾センター）				2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2		2
ホテルフォアレ那須				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
館林市立図書館				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
新潟市役所				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
日光市役所				1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1		1
平成25年度自主開拓先（3カ所各1名）				3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3		3
平成26年度自主開拓先（7カ所各1名）				7		7		7		7		7		7		7		7		7		7		7		7		7		7

（太線以下は追加の派遣先（学生の自主開拓先を含む）を示す。また共同信信社は平成22年度から公募制へ移行）（平成24年のKSAは怪我のため辞退）

- 1）平成25年度自主開拓先（3カ所）：①株式会社 G. B. ②大田原市役所 ③郡山市中央図書館 ④テレビ岩手 ⑤京都放送 ⑥栃木県庁 ⑦東京サウンドプロダクション
2）平成26年度自主開拓先（7カ所）：①静岡市役所 ②新朝プレス社 ③福島県三春町役場 ④テレビ岩手 ⑤京都放送 ⑥栃木県庁 ⑦東京サウンドプロダクション

編集後記

本年度も、インターンシップを終了することができました。あらためて、本学部の学生を受け入れてくださいました自治体、民間企業、団体などの皆様に厚く御礼申し上げます。また学内では、熱心にご指導いただきましたご担当の先生方、煩雑な事務手続きなどを瑕疵無く遂行して下さった学務係の大曾根氏、そして新規受入先の開拓にご尽力いただきました就職支援センターの広瀬事務室長と菊池氏に感謝いたします。

インターンシップについては、政府の日本経済再生本部の報告書「日本再興戦略（改訂2014）」でも、大学が知（地）の拠点となり地域課題の解決や人材育成に当たり、その重要性を明記している。またある調査では、インターンシップを実施する企業は増加傾向にあり、4割以上に上るといふ。本学部は既に平成12年よりインターンシップを開始しており、その参加者は年々、増加しており、本年度は過去最高の人数となっている。社会はもとより学生の要請に応えるべく、本年度は受け入れ先を大幅に増やしたところである。とりわけ近年、多くの学生が公務員を志望している実情を鑑み、本年度は自治体の受け入れ先を新規に大幅に増やしている。

本学部は、「現代社会において積極的な役割を果たしうる人材」の育成を教育理念の一つと位置づけており、受け入れ先からのインターンシップ評価表を積極的に公開しているところである。これは本学部の学生が社会からどのように評価されているかを示すエビデンスの一つでもあり、本報告書も含め、その意味するものは重いもの認識している。

ところで、インターンシップの派遣にあたっては、年度明け早々に説明会と事前研修会をそれぞれ2度ずつ実施し、派遣直前の事前研修会では、インターンシップを受けるに際しての注意事項はもとより、最低限のマナーについても指導している。就職支援センターの職員が講師となり、挨拶から服装まで細部に至るまでレクチャーが及ぶ。担当教員も挨拶の作法あたりまでは、ウンウンとうなずきながら聞いているのだが、「男性の靴下は白ではなく黒を基本にすること、これは働く人間の社会常識である」との指摘あたりから、バツが悪そうに下をうつむくようになり、教える立場の者であっても日々是勉強也を身を以て再認識した次第である。

ともあれ本学部インターンシップは来年度もさらなる進化・発展を遂げられるよう、担当教員一同頑張ってまいりたいと心を新たにしているところです。関係各位におかれましてはご協力、ご支援をお願い申し上げますとともに、本報告書を読んでおられる学生諸君のより多くの参加を心待ちにしております。

（人文学部 准教授 馬渡 剛）

茨城大学人文学部